

**富士宮市 男女共同参画に関するアンケート
調査結果報告書**

令和6年12月

富士宮市

目 次

I 調査概要	5
1. 調査の目的.....	3
2. 実施概要.....	3
3. 調査項目.....	3
4. 報告書を読む際の留意点.....	4
5. 経年比較及び国・県との比較について	4
II 調査結果【市民意識調査】	5
1. 回答者の属性	7
2. 社会における制度・慣行について.....	16
3. 男女共同参画に関する教育・学習について	30
4. 意思決定過程への女性の参画について	34
5. 防災対策における男女参画について.....	40
6. 地域社会とのつながりについて.....	43
7. 用語などについて	46
8. 男女がともに働きやすい就業環境について	57
9. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について.....	65
10. 性的マイノリティについて.....	86
11. 自由回答.....	95
III 調査結果【事業所調査】	99
1. 現在の事業所の状況について.....	101
2. 女性の活躍推進・管理職登用について	112
3. 各種ハラスメント対策について.....	120
4. 育児・介護休業制度について.....	121
5. 仕事と家庭の両立支援について.....	128
6. 性的マイノリティについて.....	130
7. 自由回答.....	131
IV 調査結果【市民意識調査（中学生）】	133
1. 回答者の属性	135
2. 学校生活での平等感について.....	137
3. 友達との関係について	142
4. 親との関係について	146
5. 家庭生活について	148
6. 「女らしさ」「男らしさ」などについて	161

7. 性的マイノリティについて	170
8. DV・デートDVについて	173
9. 悩みや不安について	177
10. 将来のことについて	181
11. 自由回答	191
V 調査票	195
1. 市民意識調査 調査票	197
2. 事業所調査 調査票	205
3. 市民意識調査（中学生） 調査票	209

I 調査概要

1. 調査の目的

第4次富士宮市男女共同参画プランの策定にあたり、市民、市内事業所及び中学生の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の男女共同参画に関する取組の重要な基礎資料とすることを目的とします。

2. 実施概要

項目	①市民意識調査	②事業所調査	③市民意識調査 (中学生)
①調査対象	市内在住の18歳以上 2,500人	市内に所在の事業所 350社	市内公立中学校(13校)・私立中学校(1校) の中学2年生1,164人
②抽出方法	住民基本台帳より 無作為抽出	市内事業所より 無作為抽出	全員に対し実施
③調査方法	郵送配付・郵送回収 (インターネットによる回答を併用) ※8月中旬に督促状兼お礼状ハガキを発送		インターネットによる 配布・回収
④調査期間	令和6年7月22日(月)～8月23日(金)		令和6年7月上旬 ～7月25日(木)
⑤回収結果	郵送 845件 WEB 290件 計 1,135件(45.4%)	郵送 113件 WEB 47件 計 160件(45.7%)	833件(71.6%)

3. 調査項目

①市民意識調査	②事業所調査	③市民意識調査(中学生)
▶ 社会における制度・慣行について ▶ 男女共同参画に関する教育・学習について ▶ 意思決定過程への女性の参画について ▶ 防災対策における男女参画について ▶ 地域社会とのつながりについて ▶ 用語などについて ▶ 男女がともに働きやすい就業環境について ▶ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について ▶ 性的マイノリティについて	▶ 事業所の状況について ▶ 女性の活躍推進・管理職登用について ▶ 各種ハラスメント対策について ▶ 育児・介護休業制度について ▶ 仕事と家庭の両立支援について ▶ 性的マイノリティについて	▶ 学校生活での平等感について ▶ 友達との関係について ▶ 親との関係について ▶ 男女家庭生活について ▶ 「女らしさ」「男らしさ」などについて ▶ 性的マイノリティについて ▶ DV・デートDVについて ▶ 悩みや不安について ▶ 将来のことについて ▶ 性的マイノリティについて

4. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- 表・グラフ中の「n=」とは、回答者数を表します。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いることがあります。

5. 経年比較及び国・県との比較について

「Ⅱ 調査結果【市民意識調査】」～「Ⅳ 調査結果【市民意識調査（中学生）】」については、比較が可能な設問に限り富士宮市で令和元年に実施した前回調査との比較、また、国・県調査との掲載しています。各調査の概要については、次のとおりです。

調査名	実施時期	対象者と調査方法	有効回収数 (有効回収率)
経年比較			
①市民意識調査	令和元年 7月～8月	市内在住の満20歳以上の 男女1,300人 郵送による配布・回収	751件 (57.8%)
②事業所調査	令和元年 7月～8月	市内事業書 200事業所	97件 (48.5%)
③市民意識調査 (中学生)	令和元年 7月	公立中学校13校、私立中 学校1校に通学する中学 2年生全数1,194人 施設を通じた配布・回収	947件 (84.4%)
国・県との比較			
【国】 男女共同参画社会に 関する世論調査	令和4年11月 ～令和5年1月	全国18歳以上の日本国籍 を有する者5,000人 郵送による配布・回収	2,847件 (56.9%)
【静岡県】 男女共同参画に関する 県民意識調査	令和6年7月	県内在住の18歳以上の 県民2,000人 郵送による配布・回収、 (インターネットによる 回答を併用)	732件 (36.6%)

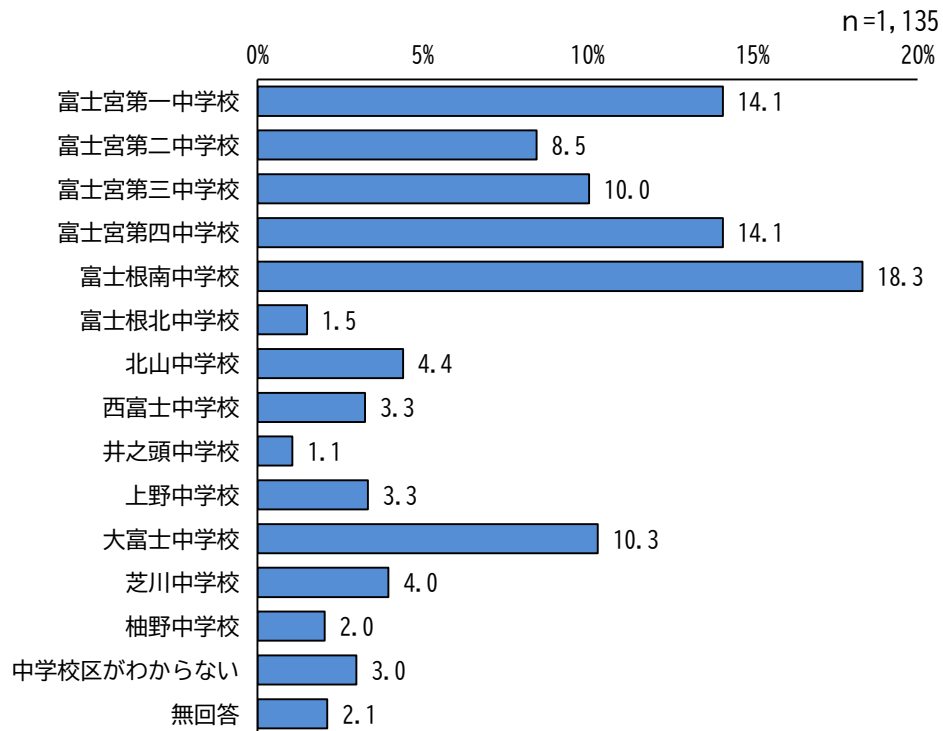
Ⅱ 調査結果【市民意識調査】

1. 回答者の属性

(1) 中学校区

問1 あなたのお住まいの中学校区はどこですか。(1つに○)

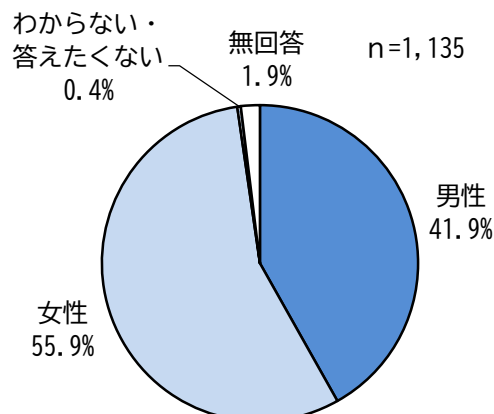
「富士根南中学校」が18.3%で最も高く、次いで「富士宮第一中学校」が14.1%、「富士宮第四中学校」が14.1%、「大富士中学校」が10.3%、「富士宮第三中学校」が10.0%、「富士宮第二中学校」が8.5%となっています。



(2) 性別

問2 あなたの性別（自認する性別）をお答えください。(1つに○)

「男性」が41.9%、「女性」が55.9%、「わからない・答えたくない」が0.4%（4人）となっています。

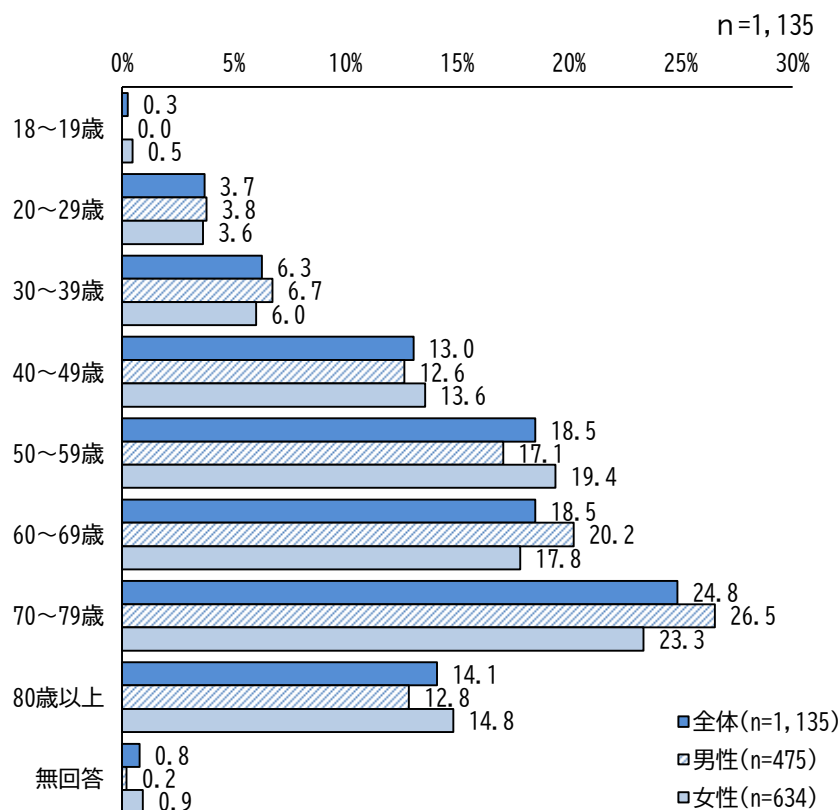


(3) 年齢

問3 あなたの年齢（令和6年7月1日現在）はどれにあてはまりますか。（1つに○）

「70～79 歳」が 24.8%で最も高く、次いで「50～59 歳」が 18.5%、「60～69 歳」が 18.5%、「80 歳以上」が 14.1%、「40～49 歳」が 13.0%、「30～39 歳」が 6.3%となっています。

性別で比較すると、男性では「60～69 歳」と「70～79 歳」、女性では「50～59 歳」がそれぞれ上回ります。



※以降の年齢別のクロス集計では、割合の少ない18～19 歳を 20～29 歳と統合し、「18～29 歳」と表記します。

(4) 職業

問4 あなたの職業はどれにあてはまりますか。(1つに○)

「勤め人（フルタイム）」が32.1%で最も高く、次いで「無職」が30.7%、「勤め人（パートタイム）」が14.9%、「家事専業」が12.3%、「自営業（農林水産業以外）」が4.6%、「自営業（農林水産業）」が1.9%となっています。

性別で比較すると、男性は「勤め人（フルタイム）」や「無職」、女性は「勤め人（パートタイム）」や「家事専業」などの回答が多くなっています。

年齢別にみると、18～29歳から50～59歳までは「勤め人（フルタイム）」、70歳以上では「無職」が最も高くなっています。

問4 職業

単位：％

	勤め人（フルタイム）	勤め人（パートタイム）	自営業（農林水産業）	自営業（農林水産業以外）	家事専業	無職	その他	無回答
全体(n=1,135)	32.1	14.9	1.9	4.6	12.3	30.7	3.0	0.5
性別 男性(n=475)	44.0	7.2	2.7	6.3	0.8	36.2	2.3	0.4
性別 女性(n=634)	23.2	21.0	1.3	3.3	21.1	26.2	3.6	0.3
年齢別 18～29歳(n=45)	57.8	8.9	0.0	0.0	6.7	8.9	17.8	0.0
30～39歳(n=71)	74.6	11.3	0.0	1.4	7.0	5.6	0.0	0.0
40～49歳(n=148)	60.8	19.6	1.4	6.8	4.1	4.1	3.4	0.0
50～59歳(n=210)	59.0	18.6	2.4	5.2	8.1	3.8	1.9	1.0
60～69歳(n=210)	28.6	24.3	1.4	5.7	15.7	20.0	3.8	0.5
70～79歳(n=282)	3.2	12.4	2.1	4.6	19.5	55.7	2.1	0.4
80歳以上(n=160)	0.6	0.6	3.1	2.5	12.5	78.8	1.9	0.0

(5) 家族構成

問5 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか。(1つに○)

「両親と子の二世代世帯」が32.9%で最も高く、次いで「夫婦（又はパートナー同士）のみの世帯」が30.5%、「親・子・孫の三世代世帯」が13.4%、「一人世帯」が12.4%、「母子・父子のみの二世代世帯」が6.9%となっています。

性別で比較すると、男性で「夫婦（又はパートナー同士）のみの世帯」、女性で「一人世帯」の割合がやや高くなっています。

年齢別にみると、18～59歳では「両親と子の二世代世帯」、60歳以上では「夫婦（又はパートナー同士）のみの世帯」が最も高くなっています。

問5 家族構成

単位：％

		一人世帯	夫婦（又は パートナー 同士）のみ の世帯	両親と子の 二世代世帯	親・子・孫 の三世代世 帯	母子・父子 のみの二世 代世帯	その他	無回答
全体(n=1,135)		12.4	30.5	32.9	13.4	6.9	3.3	0.6
性別	男性(n=475)	10.1	35.4	33.9	12.4	4.8	3.2	0.2
	女性(n=634)	13.9	27.3	32.3	14.4	8.0	3.6	0.5
年齢別	18～29歳(n=45)	6.7	24.4	46.7	17.8	2.2	2.2	0.0
	30～39歳(n=71)	4.2	21.1	62.0	5.6	4.2	2.8	0.0
	40～49歳(n=148)	4.1	11.5	57.4	16.2	8.1	2.7	0.0
	50～59歳(n=210)	9.5	19.5	42.9	14.3	10.5	2.9	0.5
	60～69歳(n=210)	11.9	41.4	26.2	10.0	5.7	3.8	1.0
	70～79歳(n=282)	16.7	46.1	15.6	13.1	5.0	3.2	0.4
	80歳以上(n=160)	22.5	26.9	19.4	16.9	8.8	5.0	0.6

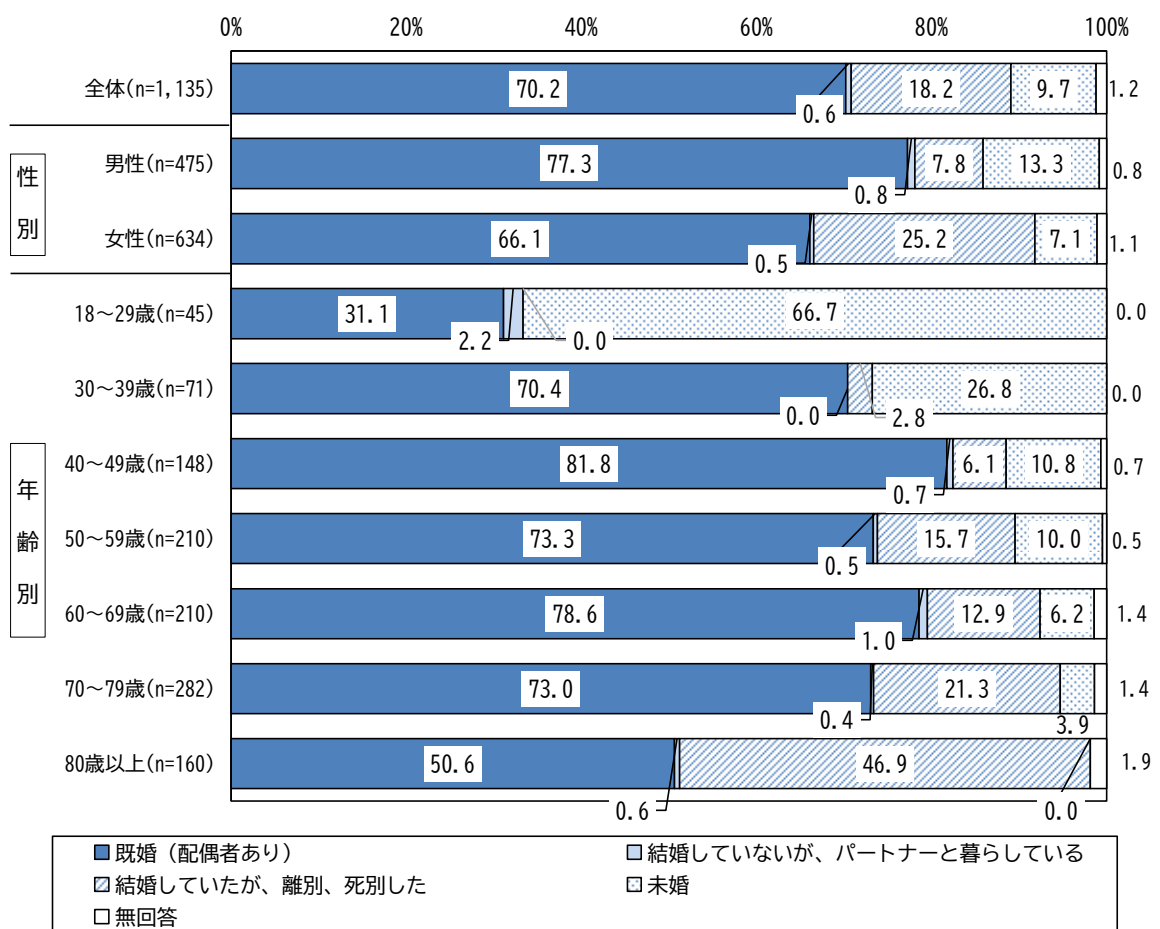
(6) 婚姻状況

問6 あなたは結婚されていますか。(1つに○)

「既婚（配偶者あり）」が70.2%で最も高く、「結婚していないが、パートナーと暮らしている」が0.6%、「結婚していたが、離別、死別した」が18.2%となっています。

性別で比較すると、男性で「未婚」、女性で「結婚していたが、離別、死別した」の割合がやや高くなっています。

年齢別にみると、18～29歳では「未婚」、30～79歳では「既婚（配偶者あり）」が最も高く、80歳以上では「既婚（配偶者あり）」と「結婚していたが、離別、死別した」が同程度となっています。



(7) 共働きの状況

問7 あなたの家庭は夫婦とも職業をお持ちの家庭ですか。それとも、どちらか一方が働いている家庭ですか。(1つに○)

「共働き(パートタイム・内職などを含む)」が49.6%で最も高く、次いで「ともに無職」が29.4%、「夫のみ就業」が15.2%、「妻のみ就業」が4.8%となっています。

性別で比較すると、男性で「ともに無職」、女性で「共働き(パートタイム・内職などを含む)」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、18～69歳では「共働き(パートタイム・内職などを含む)」、70歳以上では、「ともに無職」が最も高くなっています。

問7 夫婦とも職業を持っているか

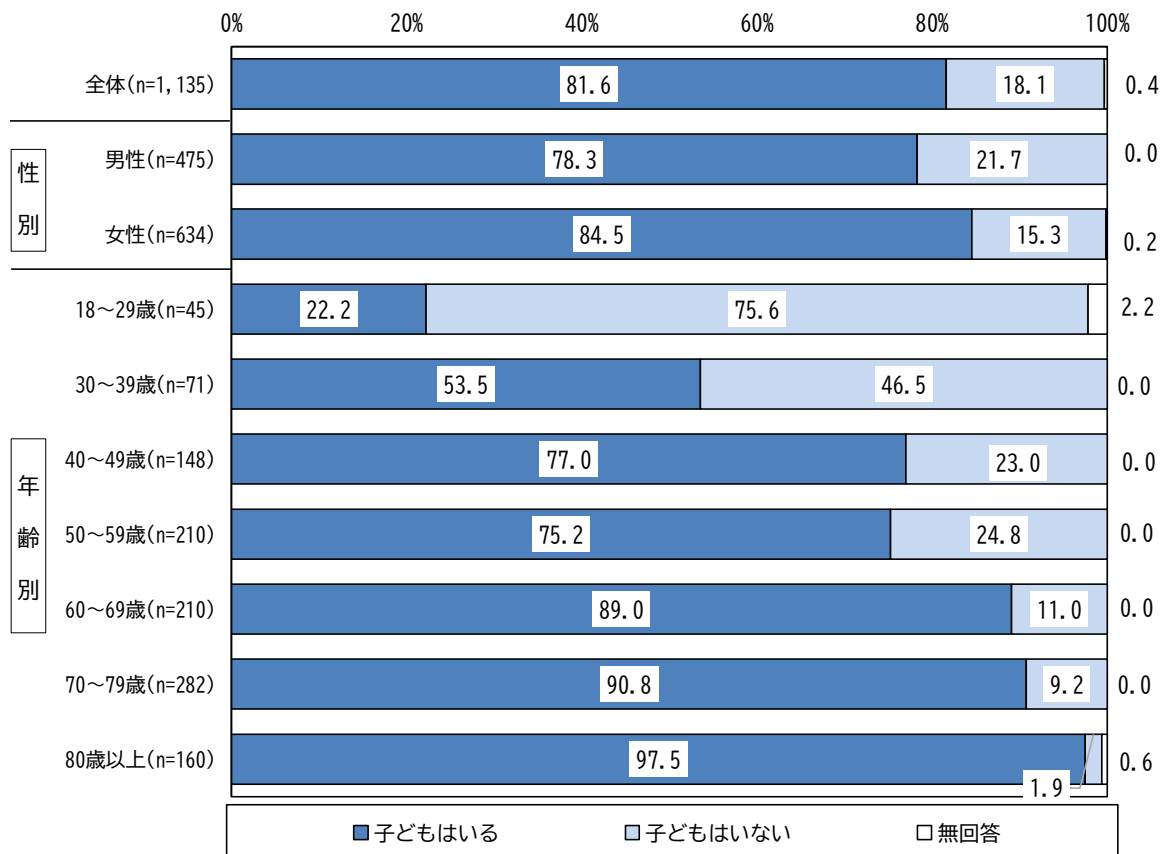
単位：％

	共働き (パートタイム・内職 などを含む)	夫のみ就業	妻のみ就業	ともに無職	その他	無回答
全体(n=757)	49.6	15.2	4.8	29.4	0.6	0.5
性別						
男性(n=240)	45.8	13.4	4.9	34.6	1.1	0.3
女性(n=504)	52.7	16.7	4.8	24.8	0.2	0.7
年齢別						
18～29歳(n=15)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳(n=43)	86.0	12.0	0.0	0.0	2.0	0.0
40～49歳(n=121)	88.4	10.7	0.8	0.0	0.0	0.0
50～59歳(n=156)	79.2	17.5	1.9	0.6	0.0	0.6
60～69歳(n=158)	45.5	21.2	8.5	24.8	0.0	0.0
70～79歳(n=174)	13.1	16.5	8.7	59.2	1.9	0.5
80歳以上(n=86)	9.9	2.5	2.5	82.7	0.0	2.5

(8) 子どもの有無

問8 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(別居を含む)(1つに○)

「子どもはいる」が81.6%、「子どもはいない」が18.1%となっています。
性別で比較すると、「子どもはいる」は女性が男性を上回ります。
年齢別にみると、年代が上がるほど「子どもはいる」割合が高くなっています。



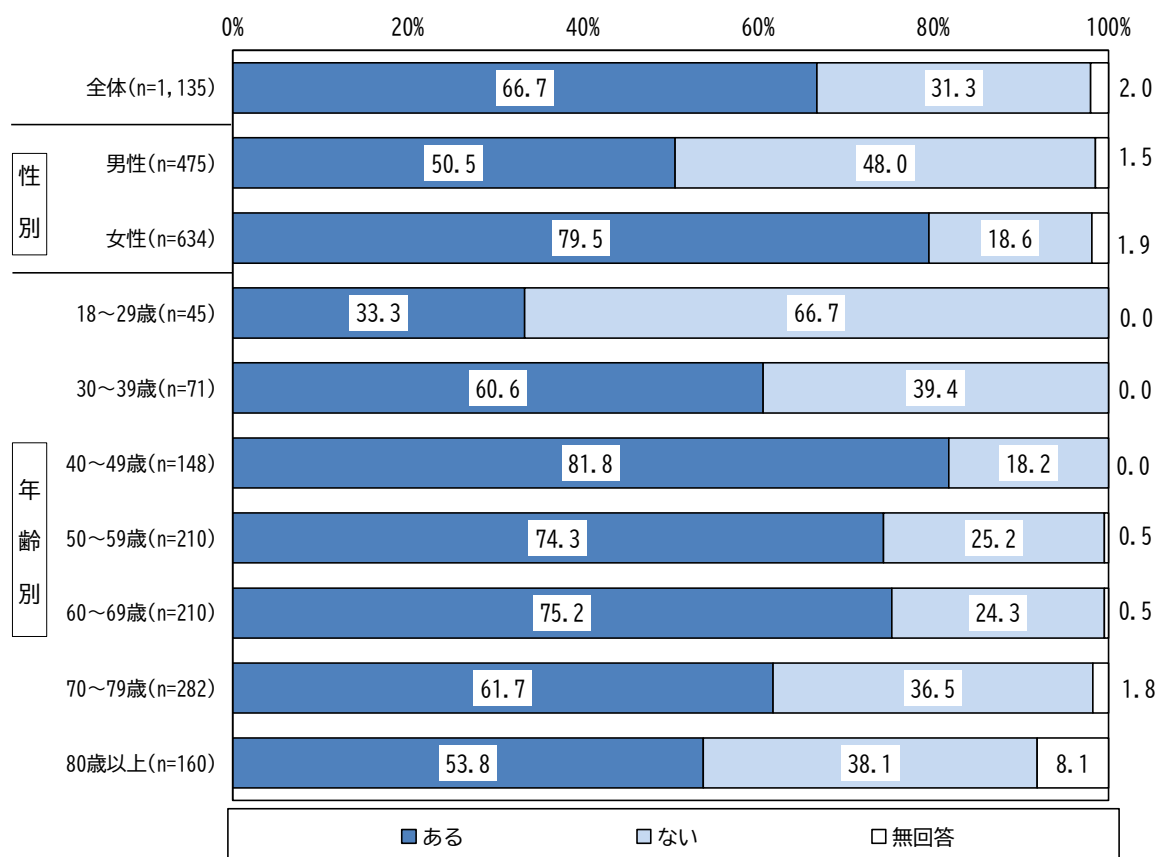
(9) 仕事の中断・転職等の経験

問9 あなたは今までに、仕事を辞めたり、中断したり、転職したことがありますか。
(定年退職は含まない)(1つに○)

「ある」が66.7%、「ない」が31.3%となっています。

性別で比較すると、「ある」は女性が男性を大きく上回ります。

年齢別にみると、「ある」は40～49歳の81.8%が最も高く、以降年代が上がるほど、その割合は低くなる傾向にあります。



(10) 仕事の中断・転職等の理由

問10 仕事を辞めたり、中断したり、転職した理由を選んでください。(3つまでに○)

「結婚・出産・育児のため」が40.4%で最も高く、次いで「労働条件がよくなかったため」が28.0%、「自分の健康上の問題のため」が18.9%、「勤務先の都合で」が14.8%、「仕事がおもしろくなかったため」が10.4%、「病気等の家族の世話のため」が7.0%となっています。

性別で比較すると、男性は「労働条件がよくなかったため」、女性は「結婚・出産・育児のため」が最も高くなっています。

年齢別でみると、「労働条件がよくなかったため」は若い年代ほど高く、「結婚・出産・育児のため」は18～29歳や40～69歳でも4割を超えています。

問10 仕事を辞めたり中断したり転職した理由

単位：％

		自分の健康上の問題のため	結婚・出産・育児のため	病気等の家族の世話のため	配偶者（又はパートナー）の転職のため	配偶者（又はパートナー）の収入で生活できるため	仕事がおもしろくなかったため	労働条件がよくなかったため
全体(n=757)		18.9	40.4	7.0	2.6	2.2	10.4	28.0
性別	男性(n=240)	15.8	3.8	4.6	0.0	0.0	20.0	42.9
	女性(n=504)	20.2	57.7	8.3	4.0	3.2	6.0	21.0
年齢別	18～29歳(n=15)	6.7	40.0	0.0	0.0	6.7	26.7	53.3
	30～39歳(n=43)	32.6	34.9	4.7	7.0	2.3	18.6	51.2
	40～49歳(n=121)	19.0	45.5	4.1	5.8	1.7	13.2	41.3
	50～59歳(n=156)	17.9	40.4	7.7	1.9	0.6	13.5	37.2
	60～69歳(n=158)	24.7	42.4	9.5	1.3	1.9	8.9	22.8
	70～79歳(n=174)	16.1	37.9	9.2	1.7	1.7	5.7	14.9
	80歳以上(n=86)	10.5	34.9	3.5	2.3	7.0	7.0	14.0

		勤務先の都合で	家族の反対で	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で	その他	特に理由はない	無回答
全体(n=757)		14.8	0.7	0.4	14.8	4.9	0.1
性別	男性(n=240)	23.8	0.8	0.4	20.8	5.4	0.4
	女性(n=504)	10.3	0.6	0.4	11.3	4.4	0.0
年代別	18～29歳(n=15)	13.3	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0
	30～39歳(n=43)	4.7	0.0	0.0	16.3	0.0	0.0
	40～49歳(n=121)	10.7	0.8	0.0	10.7	3.3	0.0
	50～59歳(n=156)	12.8	1.3	1.9	13.5	2.6	0.0
	60～69歳(n=158)	19.6	0.0	0.0	12.0	3.8	0.0
	70～79歳(n=174)	18.4	0.6	0.0	21.8	5.7	0.0
	80歳以上(n=86)	14.0	0.0	0.0	14.0	15.1	1.2

2. 社会における制度・慣行について

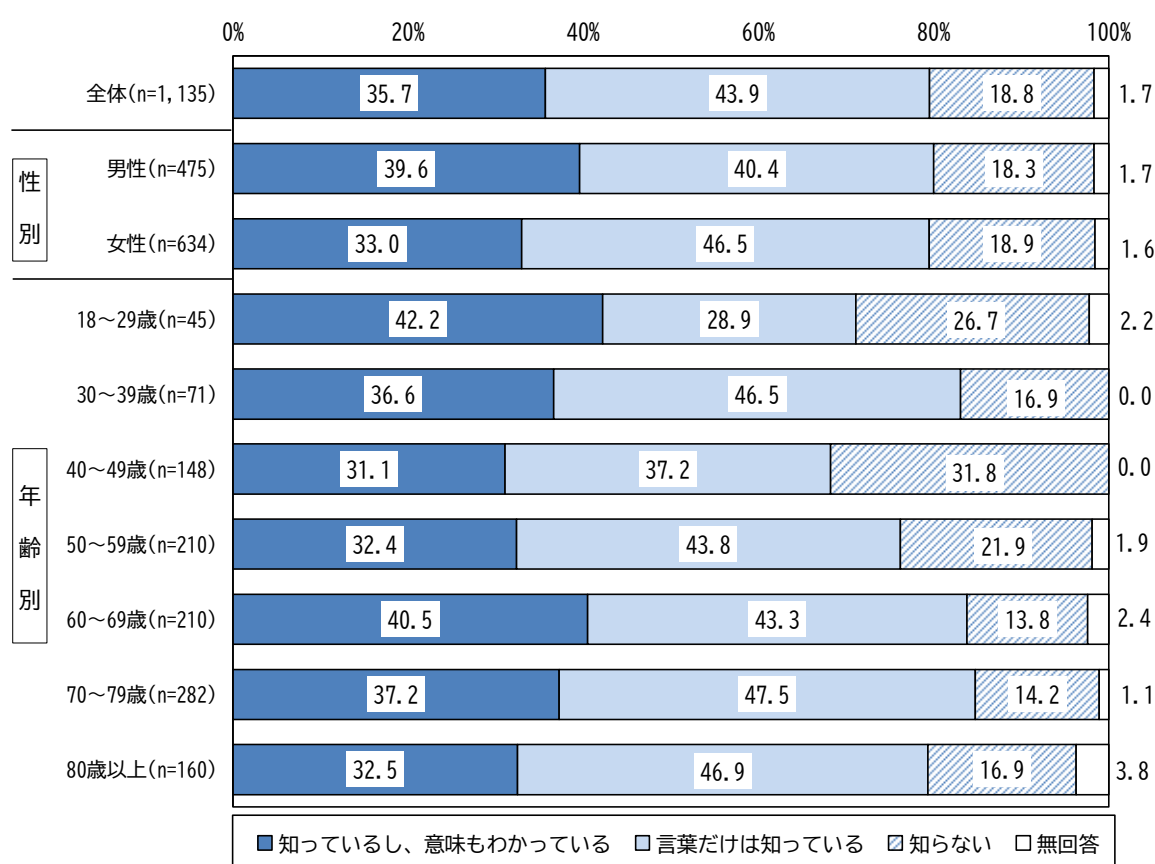
(1) 「男女共同参画」の認知

問 11 「男女共同参画」という言葉と意味について知っていますか。(1つに○)

「言葉だけは知っている」が43.9%で最も高く、次いで「知っているし、意味もわかっている」が35.7%、「知らない」が18.8%となっています。

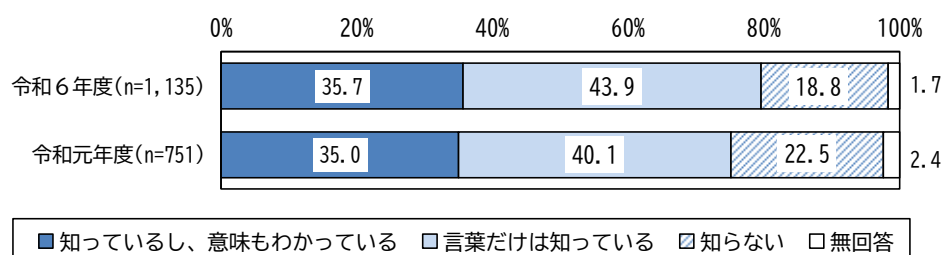
性別で比較すると、男性で「知っているし、意味もわかっている」、女性で「言葉だけは知っている」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、18～29歳を除き「言葉だけは知っている」が最も高くなっています。「知っているし、意味もわかっている」は、18～29歳と60～69歳で4割台と他の年代をやや上回ります。



〈経年比較〉

経年比較でみると、「知らない」が3.7ポイント低下し、「言葉だけは知っている」が3.8ポイント上昇しています。



(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

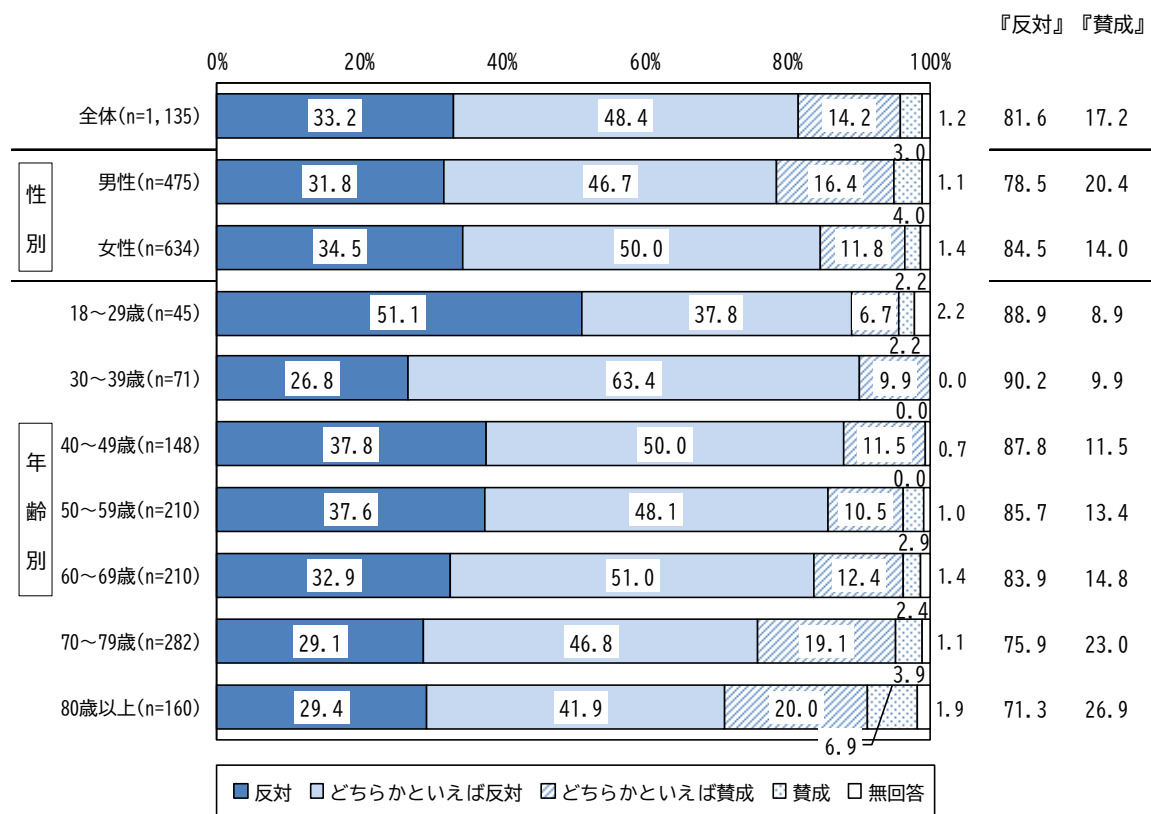
問 12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「どちらかといえば反対」が 48.4%と最も高く、「反対」33.2%を合わせた、『反対』は 81.6%となっています。

これに対し、「賛成」3.0%と「どちらかといえば賛成」14.2%を合わせた『賛成』は 17.2%となっています。

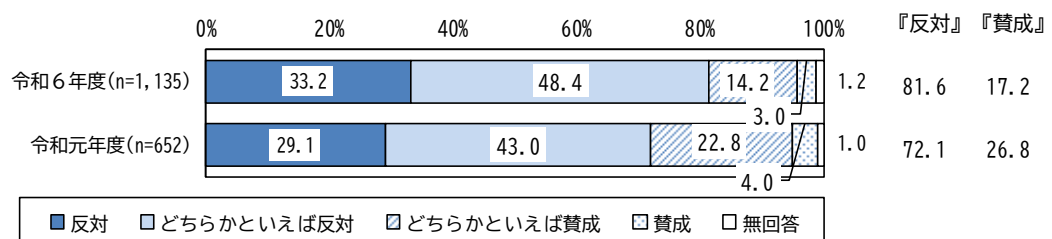
性別で比較すると、『賛成』は男性 20.4%、女性 14.0%であり、男性が女性を上回ります(6.4 ポイント差)。

年齢別でみると、『賛成』は年齢が上がるほど高い割合となっており、70 歳以上では2割台となっています。



〈経年比較〉

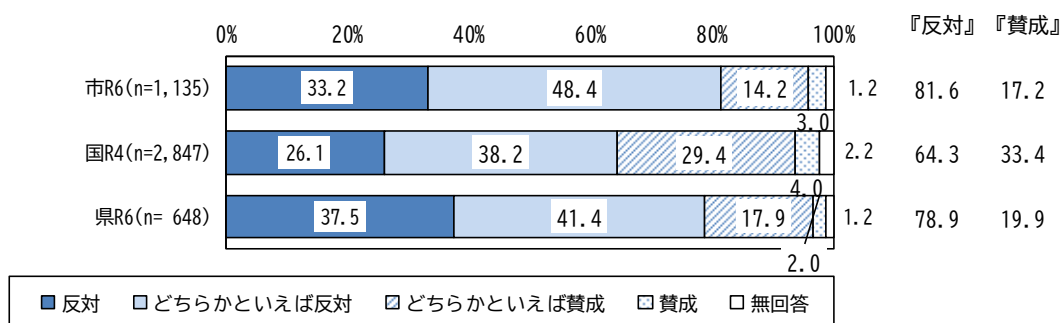
前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、前回調査より『反対』が 9.5 ポイント上昇しています。



※令和元年度(前回調査)の「わからない」を除き再集計。

〈国・県調査との比較〉

国の調査結果（令和４年１１月実施）・県の調査結果（令和６年７月実施）との比較では、『反対』の割合は、県と同程度であり、国を大きく上回ります。



※県・令和６年度調査の「わからない」を除き再集計。

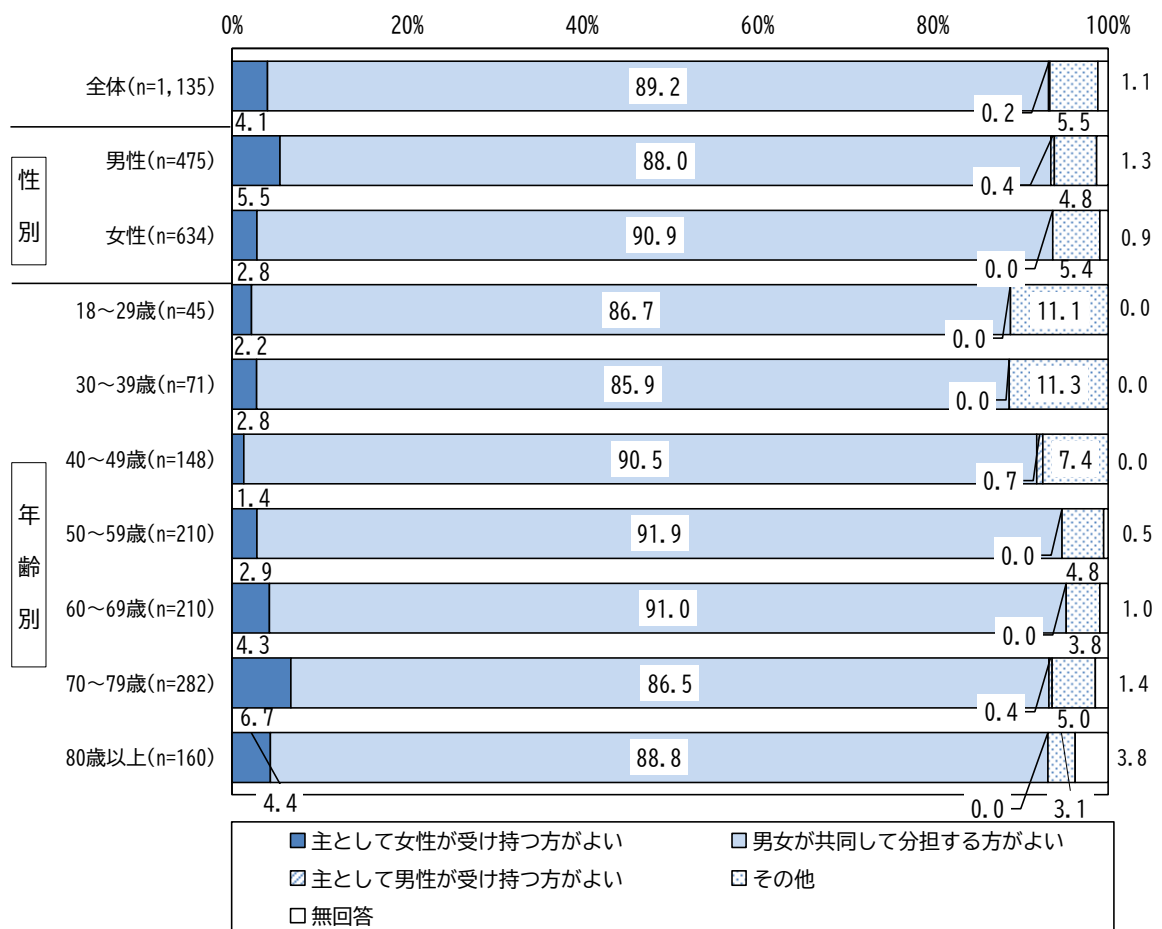
（３）介護の家庭内での分担について

問 13 あなたは、高齢者の介護に対する家庭内での分担についてどのようにお考えですか。
（１つに○）

「男女が共同して分担する方がよい」が 89.2% で最も高く、次いで「主として女性が受け持つ方がよい」が 4.1%、「主として男性が受け持つ方がよい」が 0.2% となっています。

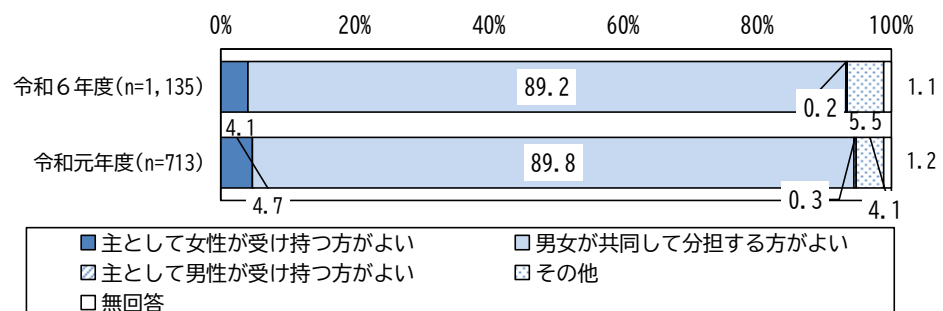
性別で比較すると、男女ともに「男女が共同して分担する方がよい」が最も高く、差はみられません。

年齢別でみると、いずれの年齢も「男女が共同して分担する方がよい」が最も高くなっています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、大きな変化はみられませんでした。



※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

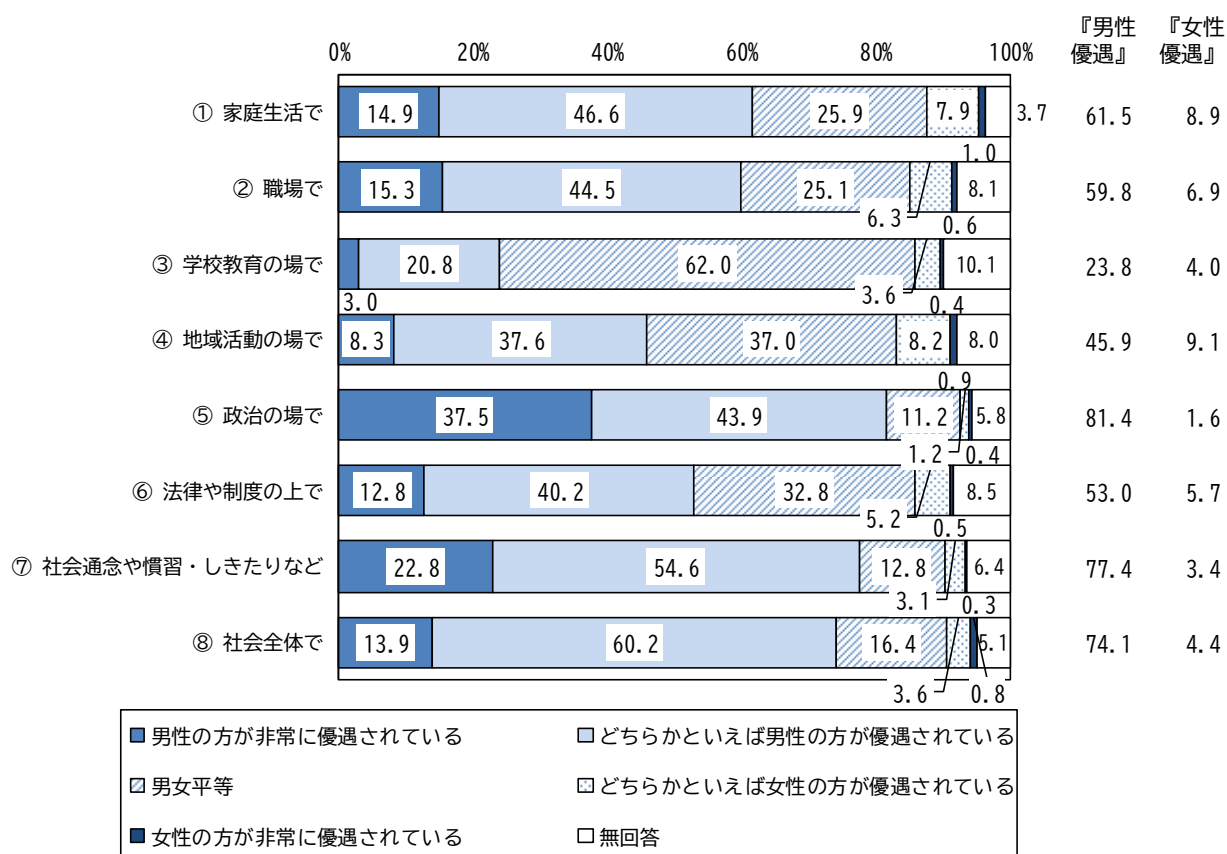
(4) 各分野における男女の平等感

問 14 あなたは、次の分野で男女が平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)

各分野における男女の地位の平等については、「男女平等」との回答は、＜③学校教育の場で＞が 62.0%と最も多く、次いで＜④地域活動の場で＞が 37.0%、＜⑥法律や制度の上で＞が 32.8%となっています。

一方で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は、＜⑤政治の場で＞で8割、＜⑦社会通念や慣習・しきたりなど＞や＜⑧社会全体で＞で7割、＜①家庭生活で＞において6割を超えています。

ア. 全体の結果



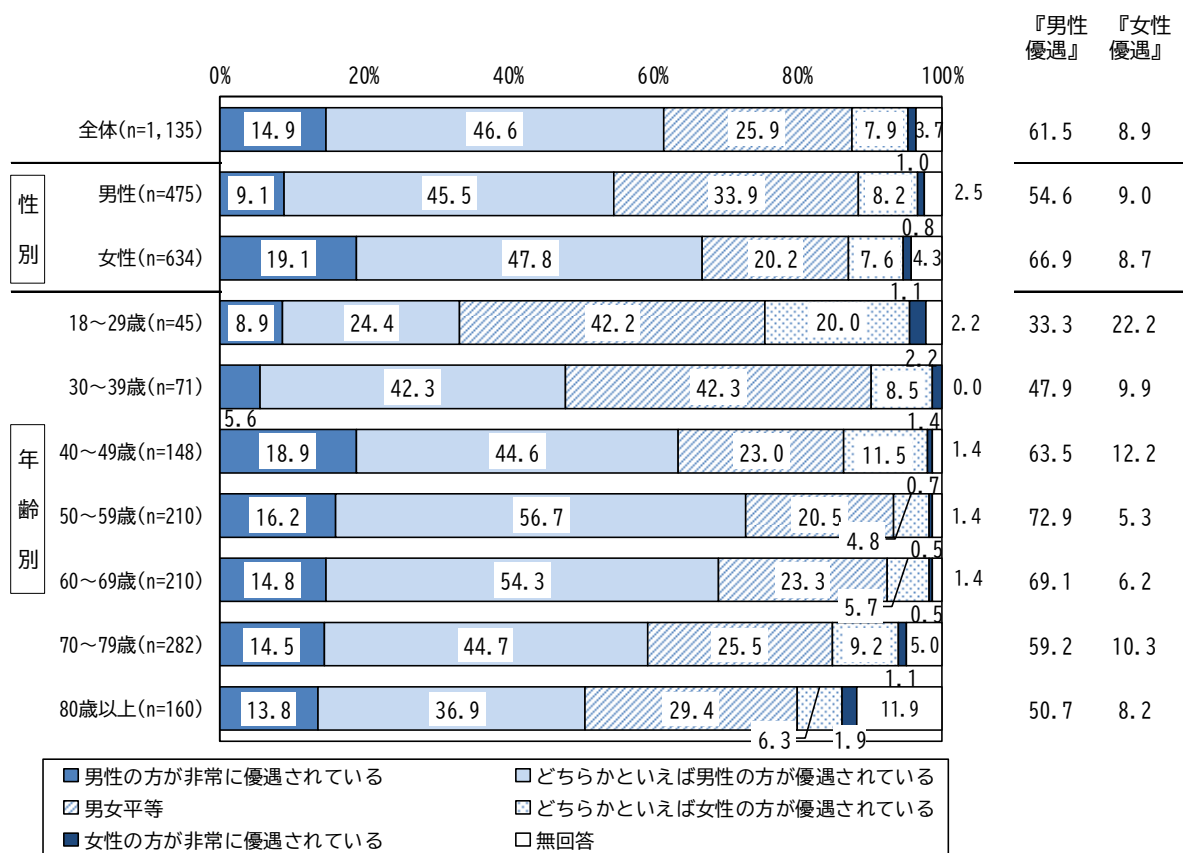
イ. 性・年齢別の結果

① 家庭生活で

家庭生活における男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.6%で最も高く、次いで「男女平等」が25.9%、「男性の方が非常に優遇されている」が14.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が7.9%となっています。

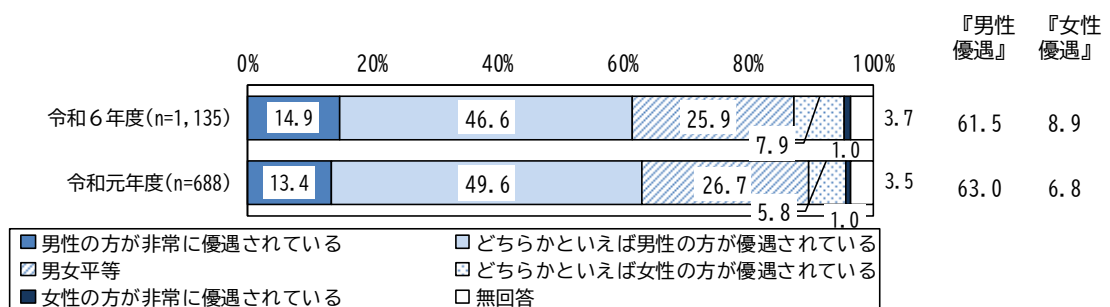
性別で比較すると、「男女平等」は男性が女性を上回り（13.7ポイント差）、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（12.3ポイント差）。

年齢別でみると、18～39歳の若い世代では「男女平等」の割合が高く、40歳以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』は50～59歳で7割、40～49歳と60～69歳で6割を超えています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、大きな変化はみられませんでした。



※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

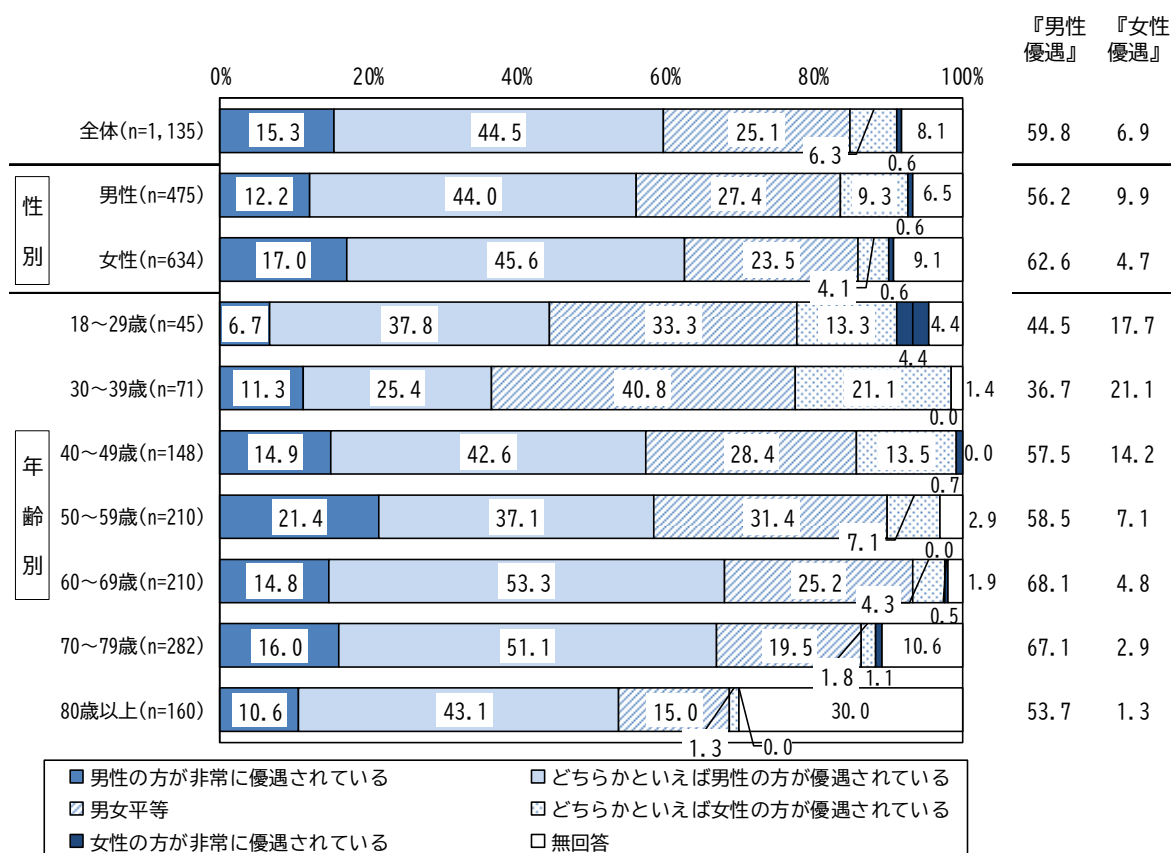
② 職場で

職場における男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.5%で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が15.3%、「男女平等」が25.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が6.3%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（6.4ポイント差）。

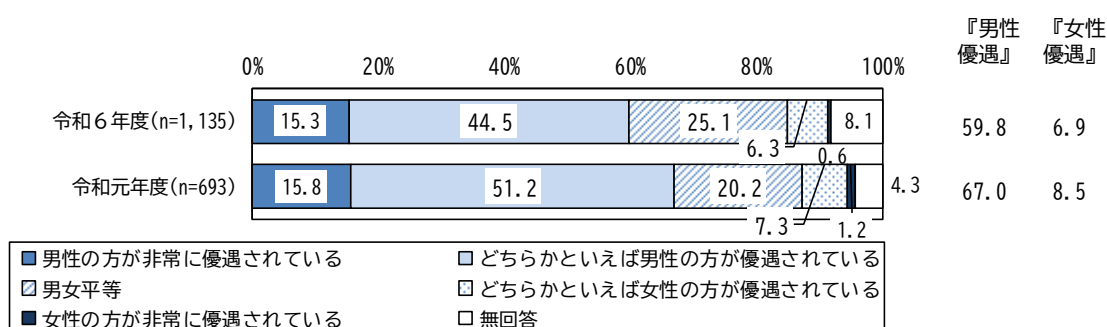
年齢別でみると、30～39歳を除き「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』は60～79歳で6割を超えています。

30～39歳では「男女平等」が最も高く、『男性優遇』についても、3割台と他の年齢に比べ低くなっています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「男女平等」は5.1ポイント上昇、『男性優遇』は7.2ポイント低下しています。



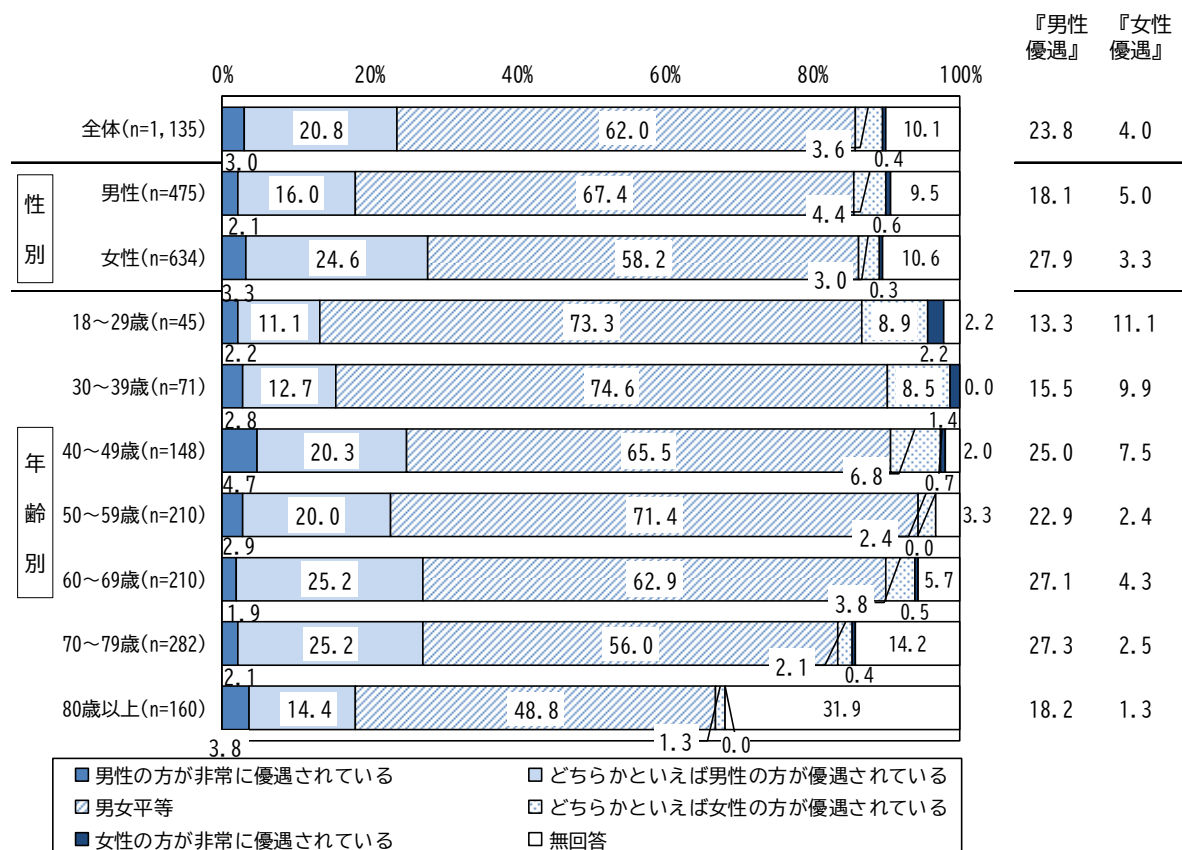
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

③ 学校教育の場で

学校教育の場における男女の地位の平等については、「男女平等」が62.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が20.8%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が3.6%、「男性の方が非常に優遇されている」が3.0%となっています。

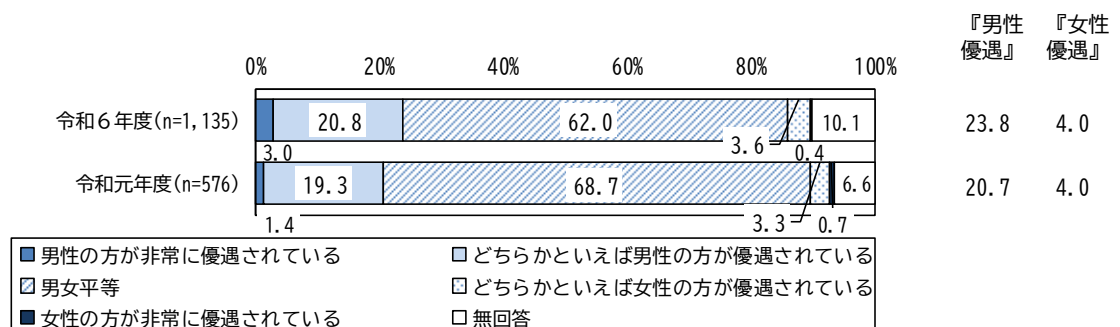
性別で比較すると、「男女平等」は男性が女性を上回り（9.2ポイント差）、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（9.8ポイント差）。

年齢別でみると、いずれに年代も「男女平等」が最も高く、18～39歳の若い世代と50～59歳で7割を超えています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「男女平等」は6.7ポイント低下、『男性優遇』は3.1ポイント上昇しています。



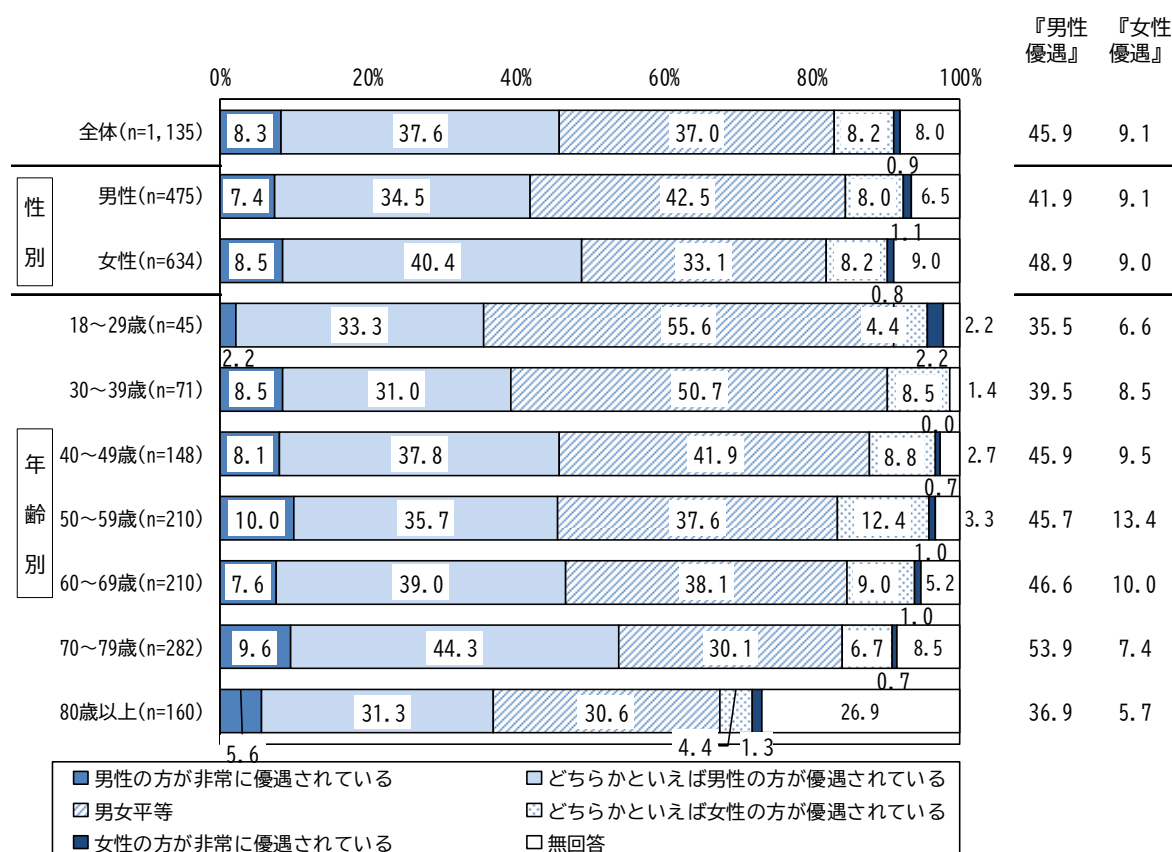
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

④ 地域活動の場で

地域活動の場における男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.6%で最も高く、次いで「男女平等」が37.0%、「男性の方が非常に優遇されている」が8.3%「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.2%となっています。

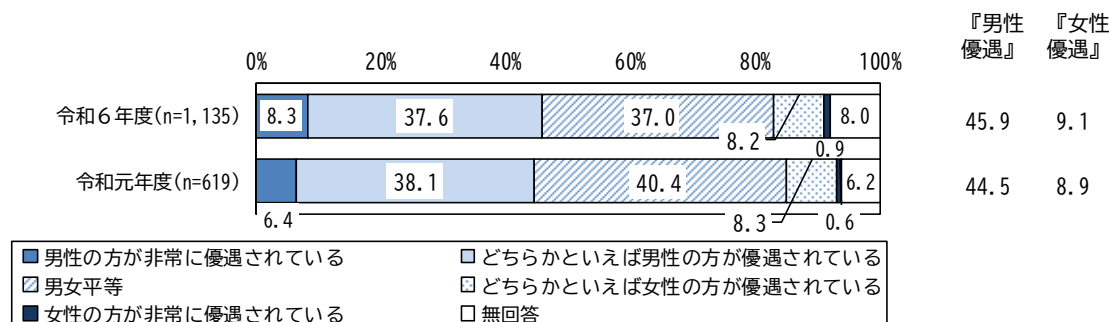
性別で比較すると、男性は「男女平等」、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年齢別でみると、若い世代ほど「男女平等」が高い傾向にあり、『男性優遇』は70～79歳の53.9%が最も高くなっています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、再集計を行い比較をしたところ、大きな変化はみられませんでした。



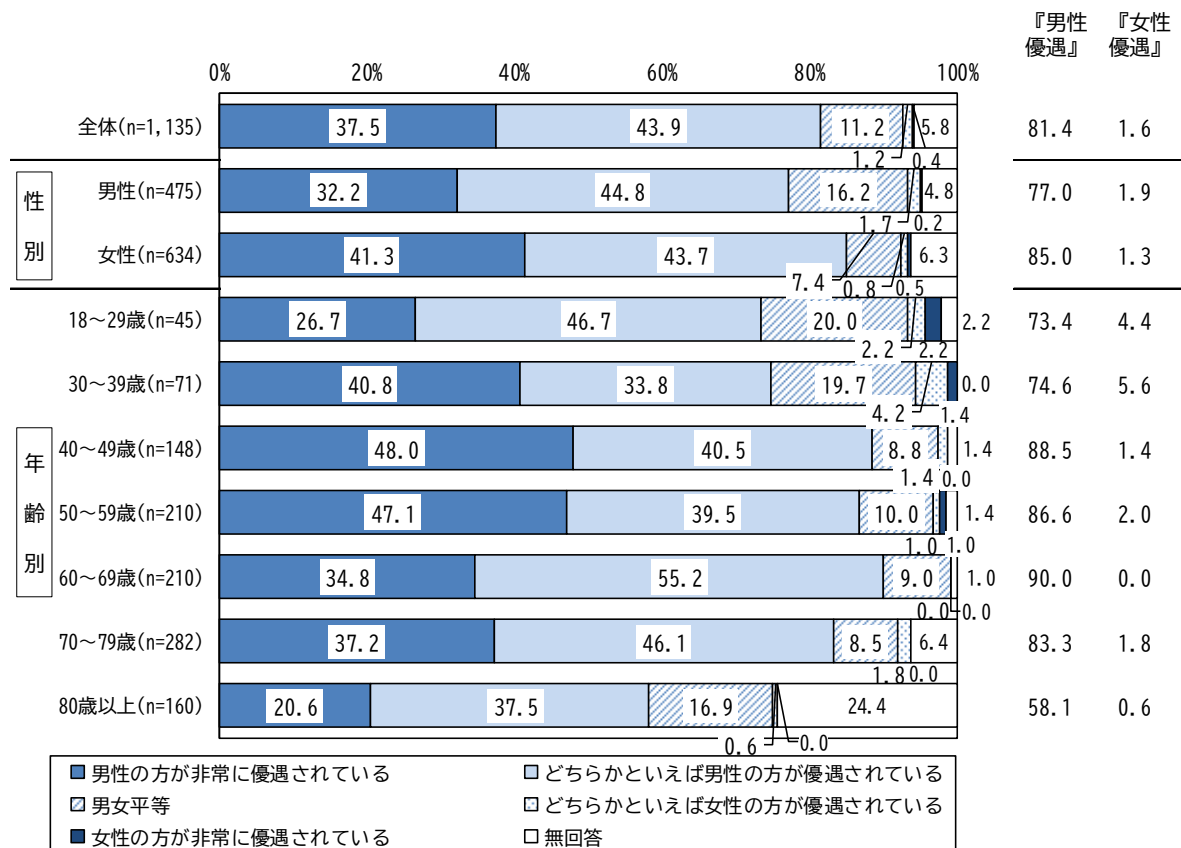
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

⑤ 政治の場で

政治の場における男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.9%で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が37.5%、「男女平等」が11.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が1.2%となっています。

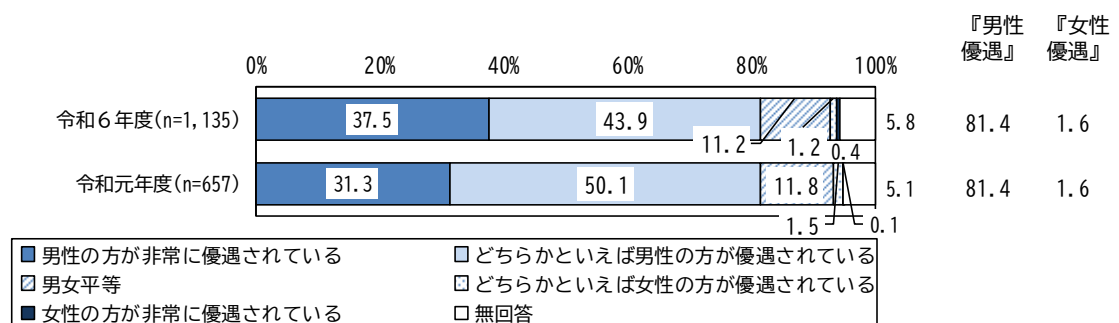
性別で比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高いものの、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（8.0ポイント差）。

年齢別でみると、18～29歳と60歳以上は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、30～59歳は「男性の方が非常に優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は40～59歳で8割、70～79歳で9割を超えています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「男性が優遇されている」が6.2ポイント上昇しています。



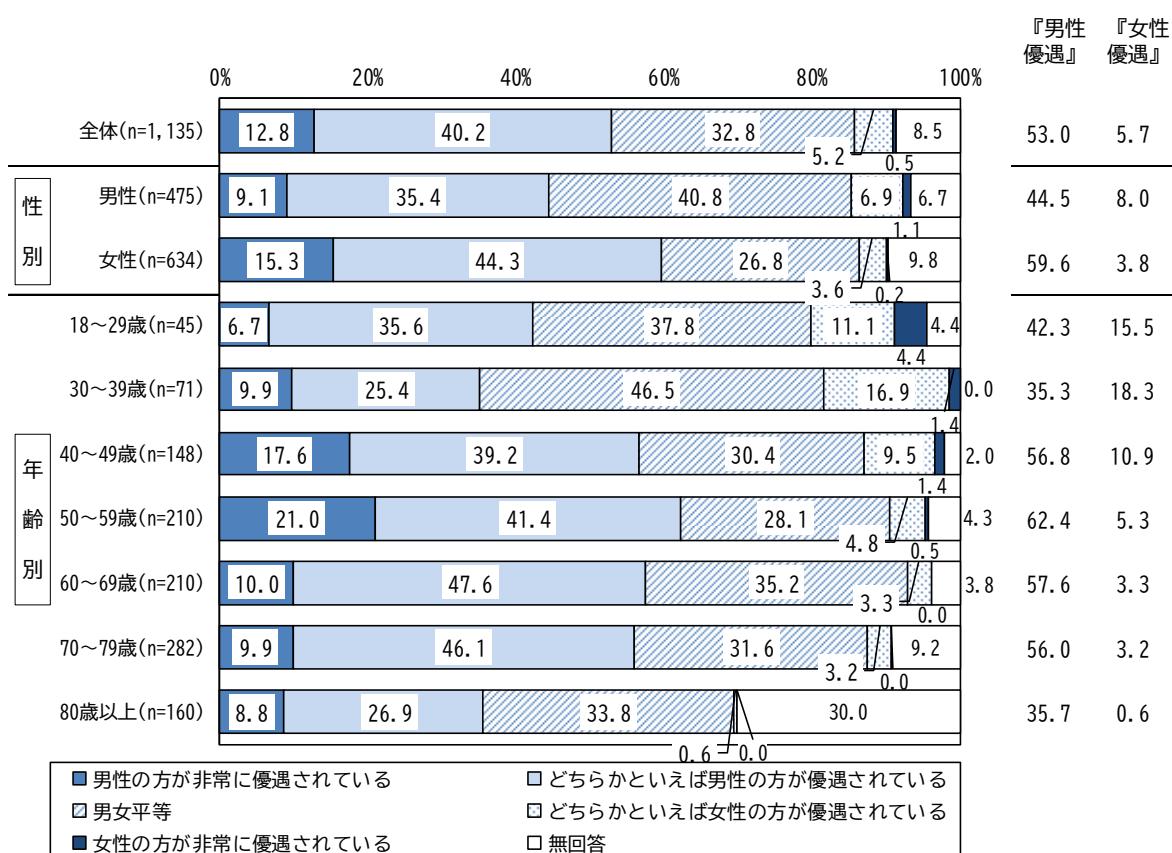
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

⑥ 法律や制度の上で

法律や制度の上における男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.2%で最も高く、次いで「男女平等」が32.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が12.8%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が5.2%、となっています。

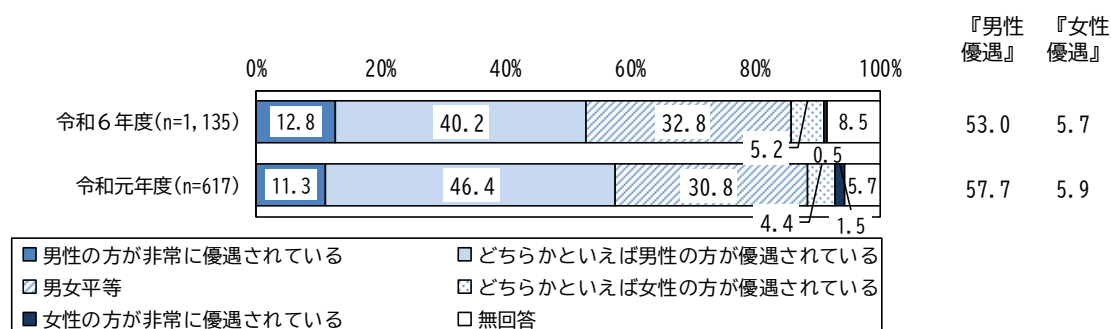
性別で比較すると、男性は「男女平等」、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（15.1 ポイント差）。

年齢別でみると、18～39 歳と 80 歳以上は「男女平等」、40～79 歳は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は 50～59 歳で6割を超えています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が6.2 ポイント低下しています。



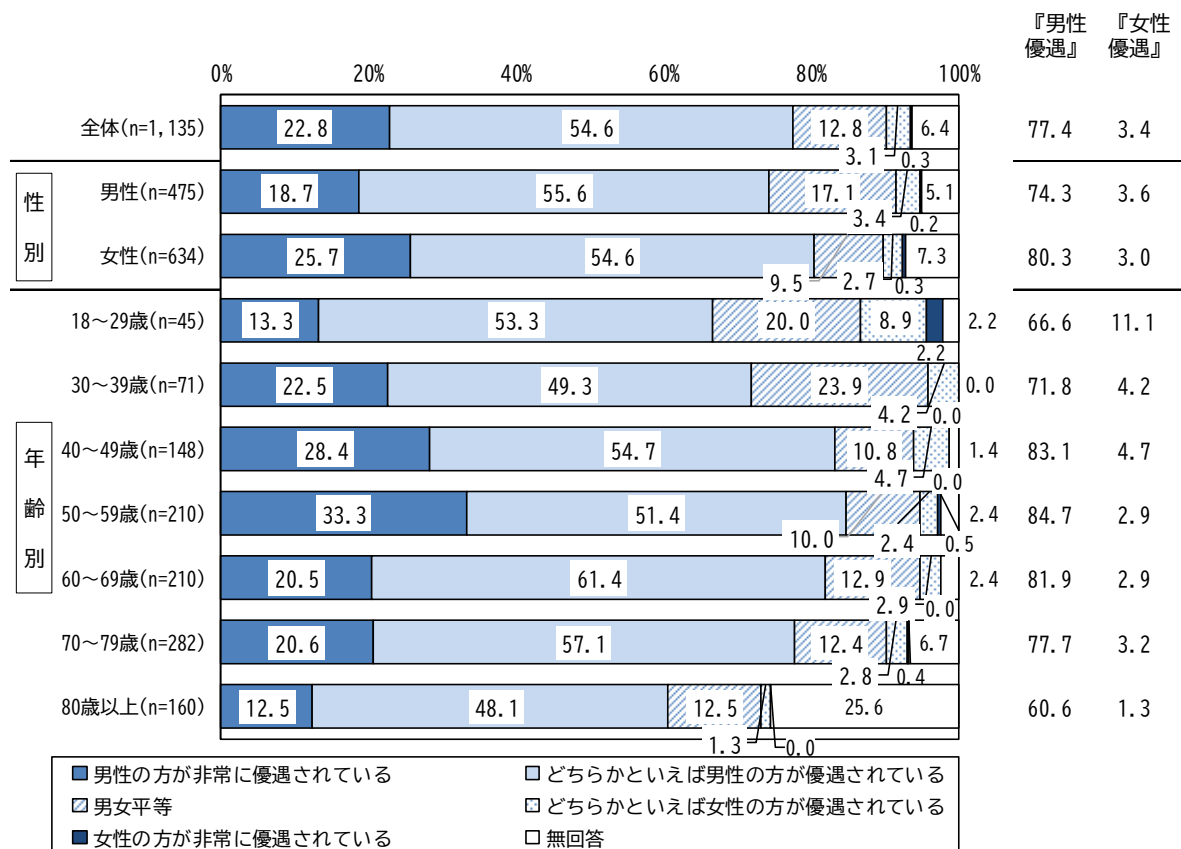
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

⑦ 社会通念や慣習・しきたりなど

社会通念や慣習・しきたりにおける男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が54.6%で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が22.8%「男女平等」が12.8%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が3.1%となっています。

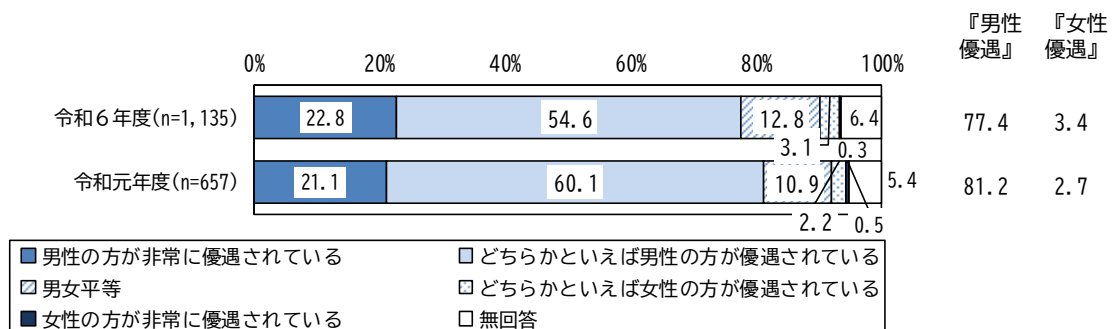
性別で比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（6.0ポイント差）。

年齢別でみると、いずれの年齢も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は40～69歳で8割を超えています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5.5ポイント低下しています。



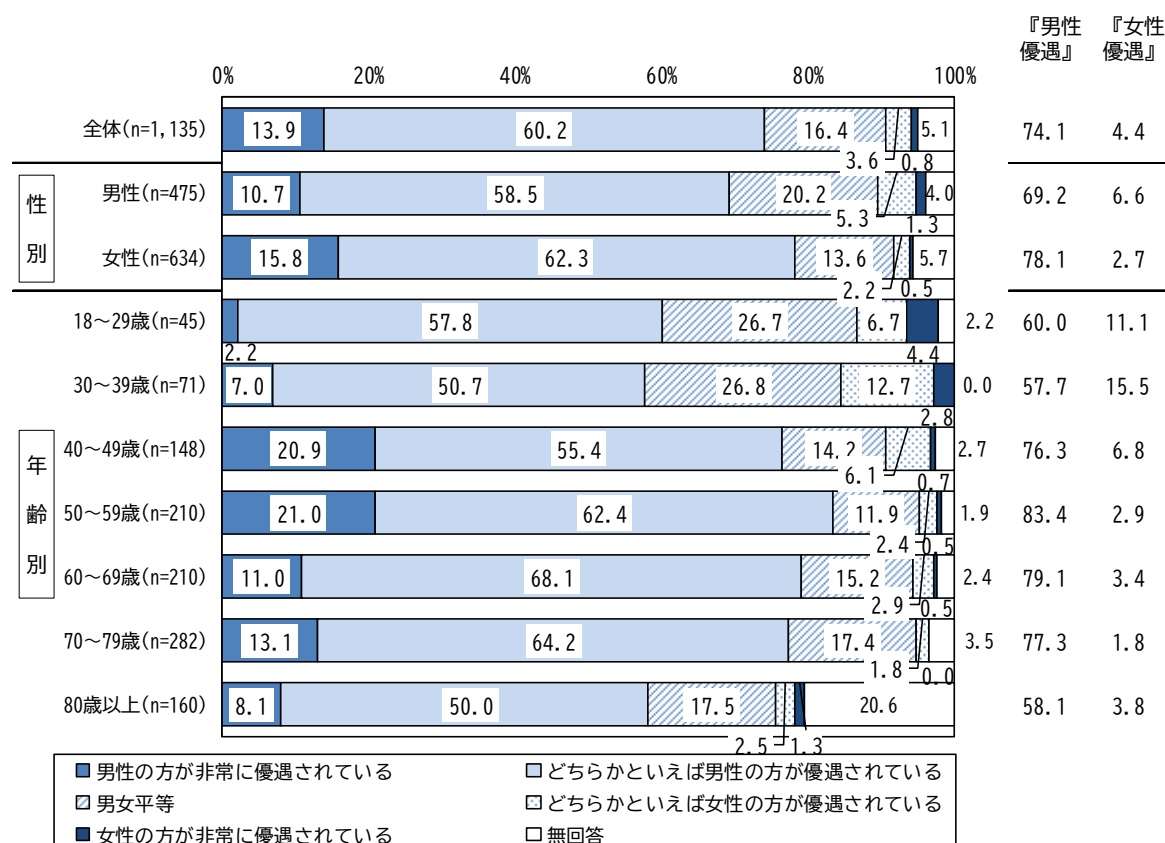
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

⑧ 社会全体で

社会全体における男女の地位の平等については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が60.2%で最も高く、次いで「男女平等」が16.4%、「男性の方が非常に優遇されている」が13.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が3.6%となっています。

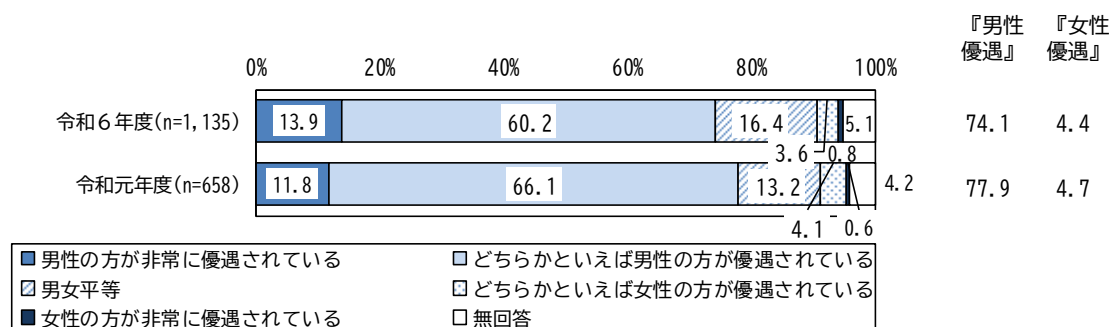
性別で比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（8.9ポイント差）。

年齢別でみると、いずれの年齢も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は50～59歳で8割を超えています。



〈経年比較〉

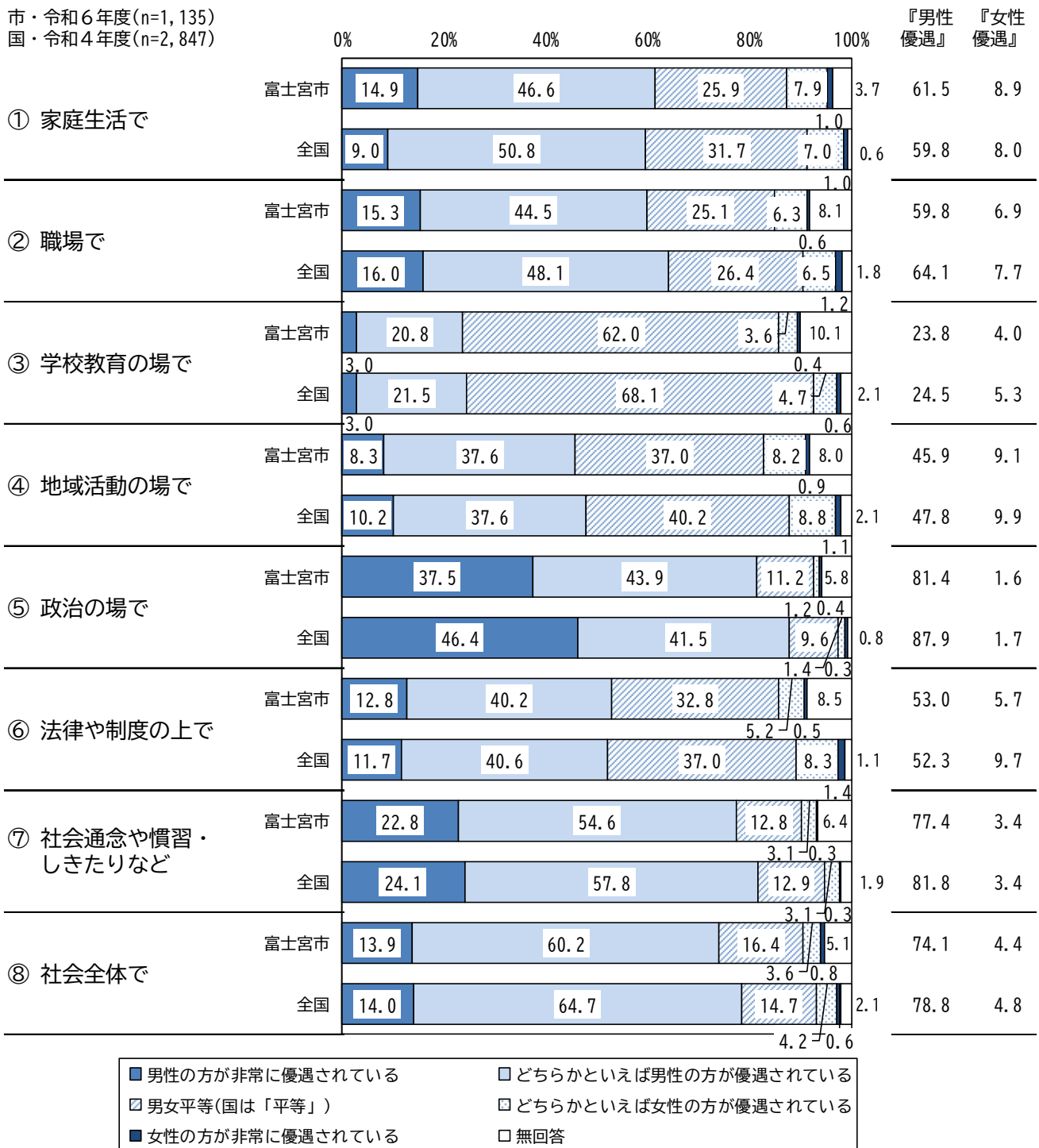
前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5.9ポイント低下しています。



※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

ウ. 国調査との比較

国の調査結果（令和4年11月実施）と比較すると、「男女平等（国は「平等」）」の割合は、＜①家庭生活で＞や＜③学校教育の場で＞、＜⑥法律や制度の上で＞において、市が国の値をやや下回っています。一方で、『男性優遇』の割合は、＜⑤政治の場で＞や＜⑧社会全体で＞、＜⑦社会通念や慣習・しきたりなど＞、＜②職場で＞において、市が国の値を下回ります。



3. 男女共同参画に関する教育・学習について

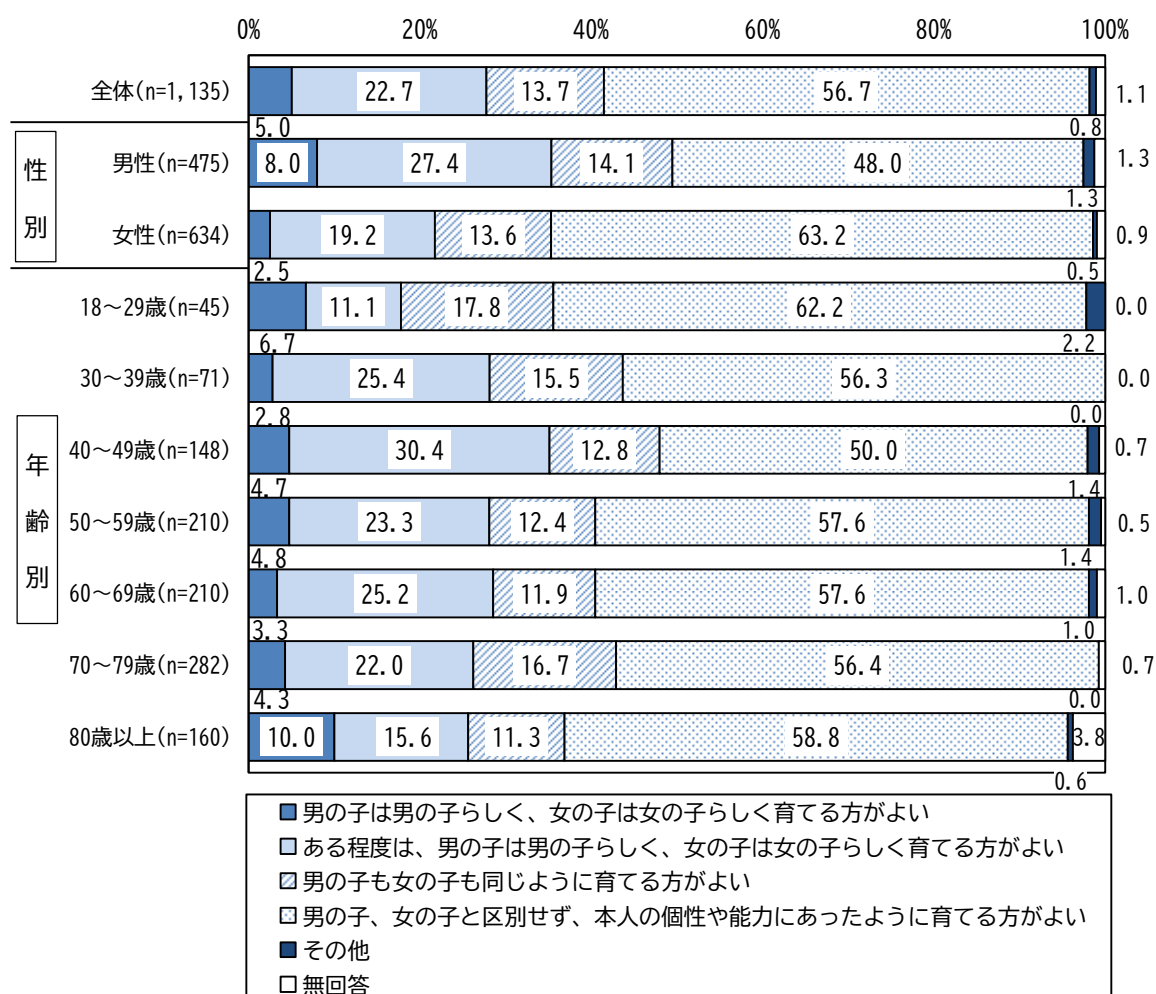
(1) 子どもの育て方について

問 15 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。(1つに○)

「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい」が56.7%で最も高く、次いで「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」が22.7%、「男の子も女の子も同じように育てる方がよい」が13.7%、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」が5.0%となっています。

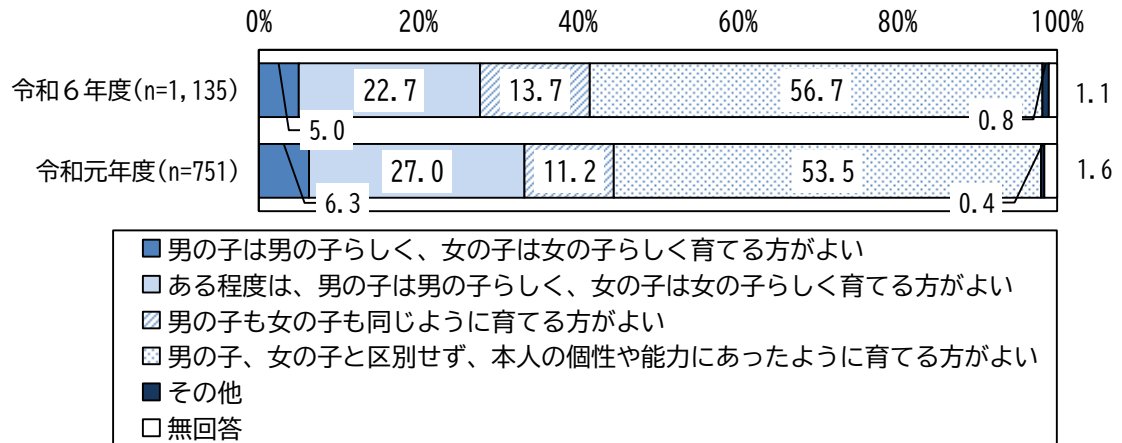
性別で比較すると、男女ともに「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい」が最も高くなっていますが、女性に比べ男性で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」や「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい」が最も高くなっていますが、40～49歳で「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」の割合が他の年齢を上回ります。



〈経年比較〉

経年比較でみると、「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」が 4.3 ポイント低下し、「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい」が 3.2 ポイント上昇しています。



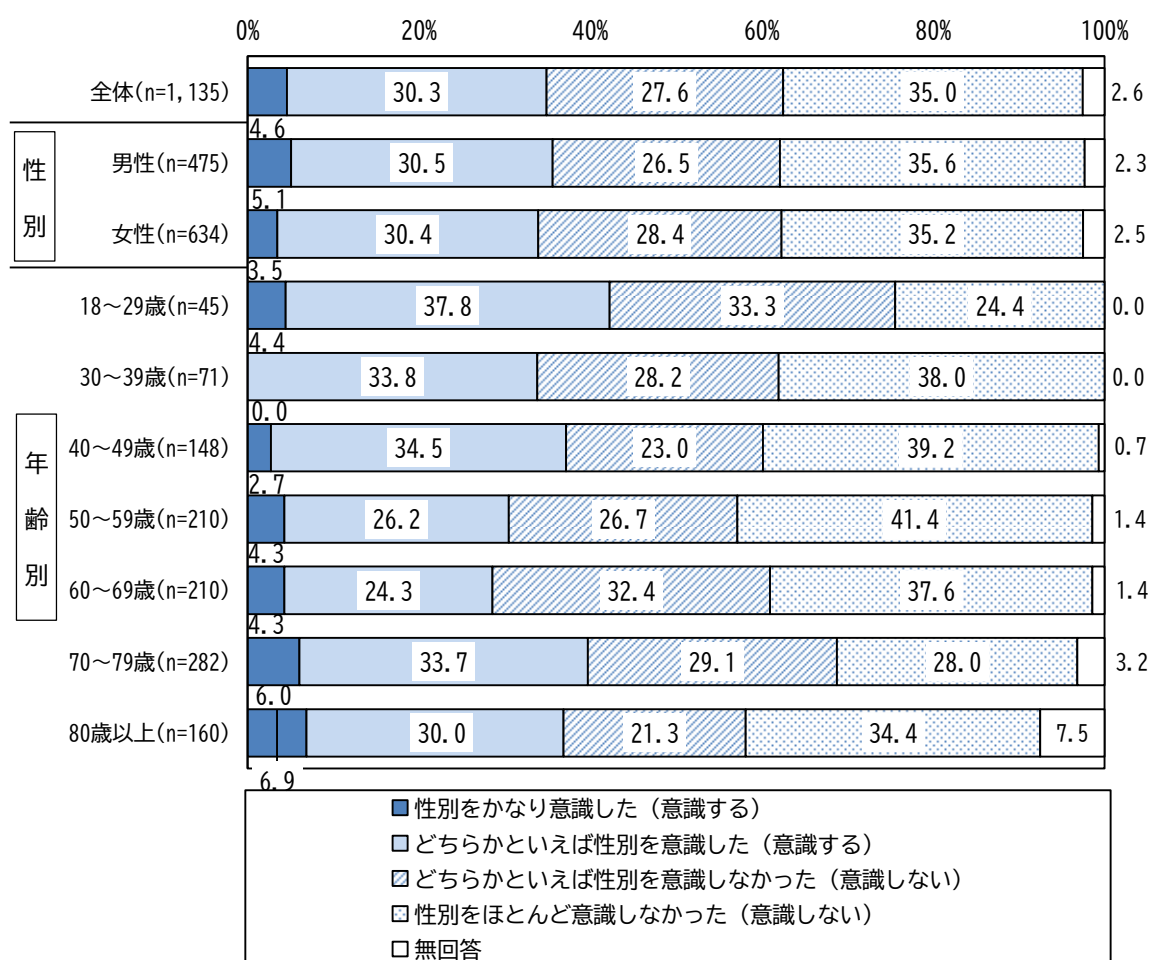
(2) 子どもの進路や職業の選択における性別の意識

問 16 あなたは、子どもの進路や職業の選択に性別を意識しましたか。また、該当する子どもがいない方は性別を意識すると思いますか。(1つに○)

「性別をほとんど意識しなかった(意識しない)」が 35.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば性別を意識した(意識する)」が 30.3%、「どちらかといえば性別を意識しなかった(意識しない)」が 27.6%、「性別をかなり意識した(意識する)」が 4.6%となっています。

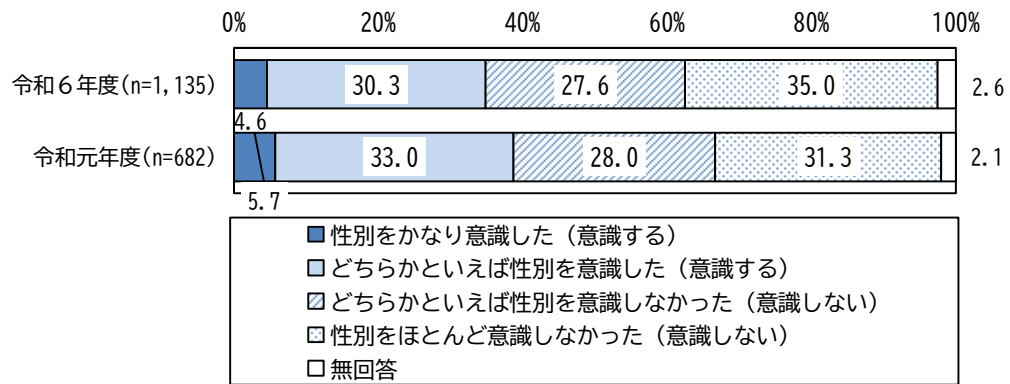
性別で比較すると、男女ともに「性別をほとんど意識しなかった(意識しない)」と「どちらかといえば性別を意識した(意識する)」が3割台と差はみられません。

年齢別でみると、18～29歳と70～79歳は「どちらかといえば性別を意識した(意識する)」、30～69歳と80歳以上で「性別をほとんど意識しなかった(意識しない)」が最も高くなっています。



〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「性別をほとんど意識しなかった（意識しない）」が3.7ポイント上昇しています。



※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

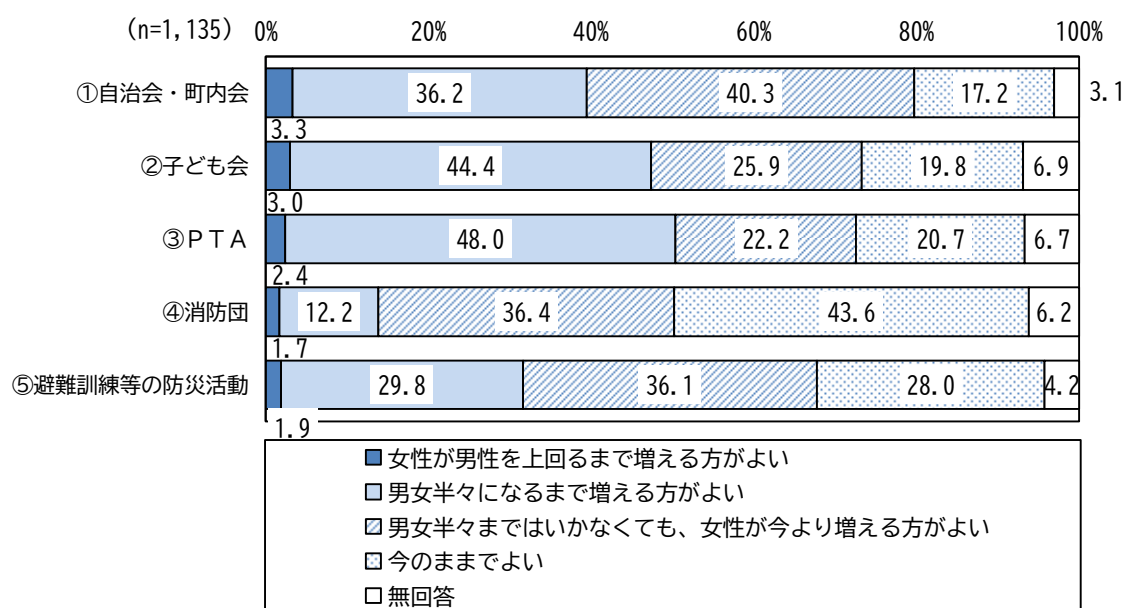
4. 意思決定過程への女性の参画について

(1) 地域活動における女性の参画について

問 17 あなたは、地域活動において女性が代表や運営に携わる立場になることについてどのように考えますか。(1つに○)

＜①自治会・市内会＞と＜⑤避難訓練等の防災活動＞は「男女半々まではいなくても、女性が今より増える方がよい」、＜②子ども会＞＜③PTA＞は「男女半々になるまで増える方がよい」、＜④消防団＞は「今のままでよい」がそれぞれ最も高くなっています。

ア. 全体の結果



イ. 性別・年齢別の結果

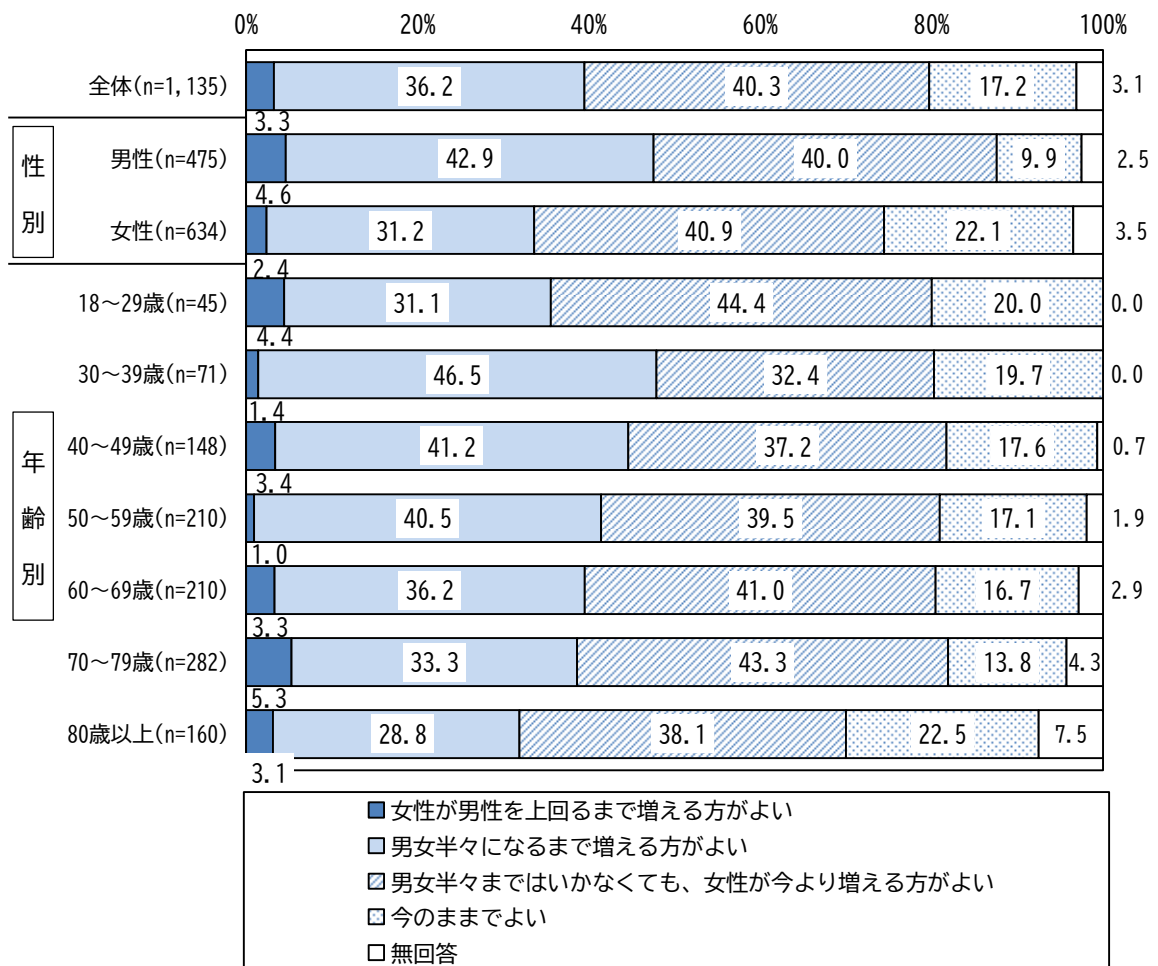
① 自治会・町内会

自治会・町内会については、「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」が40.3%で最も高く、次いで「男女半々になるまで増える方がよい」が36.2%、「今のままでよい」が17.2%となっています。

性別でみると、男性で「男女半々になるまで増える方がよい」、女性で「今のままでよい」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、18～29歳と60歳以上は「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」、30～59歳は「男女半々になるまで増える方がよい」が最も高くなっています。

1

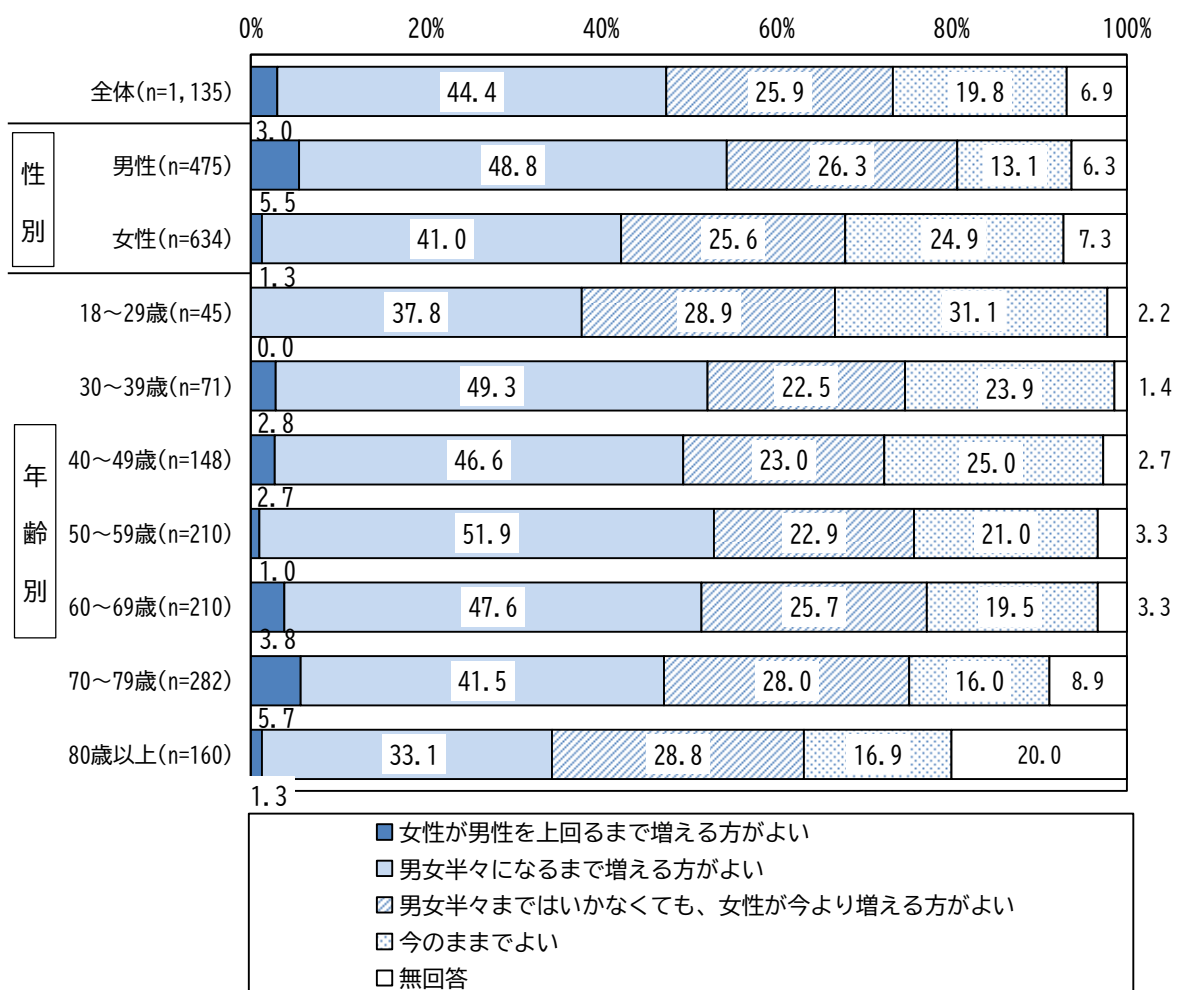


② 子ども会

子ども会については、「男女半々になるまで増える方がよい」が44.4%で最も高く、次いで「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」が25.9%、「今のままでよい」が19.8%となっています。

性別でみると、男性で「男女半々になるまで増える方がよい」、女性で「今のままでよい」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「男女半々になるまで増える方がよい」が最も高くなっています。

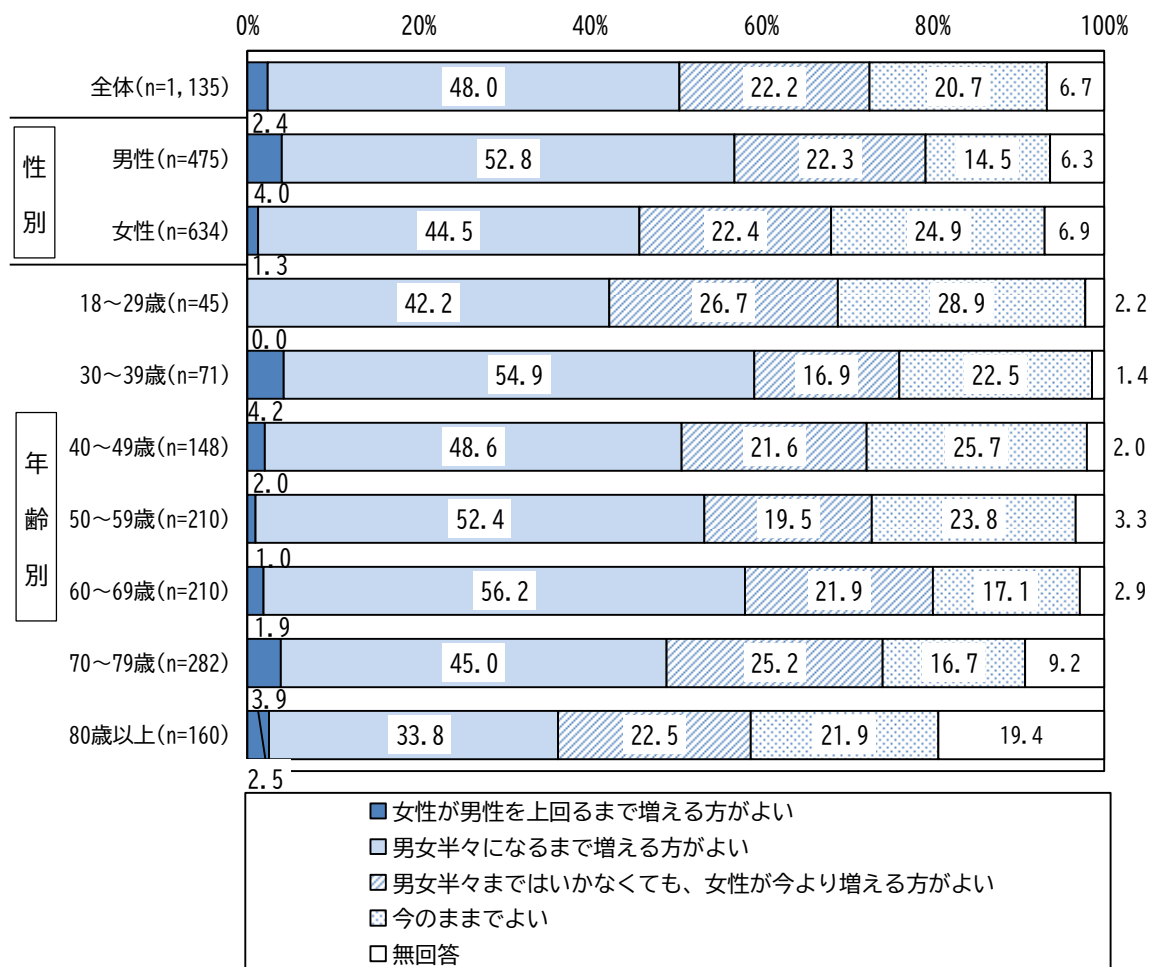


③ PTA

PTAについては、「男女半々になるまで増える方がよい」が48.0%で最も高く、次いで「男女半々まではいなくても、女性が今より増える方がよい」が22.2%、「今のままでよい」が20.7%となっています。

性別でみると、男性で「男女半々になるまで増える方がよい」、女性で「今のままでよい」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「男女半々になるまで増える方がよい」が最も高くなっています。

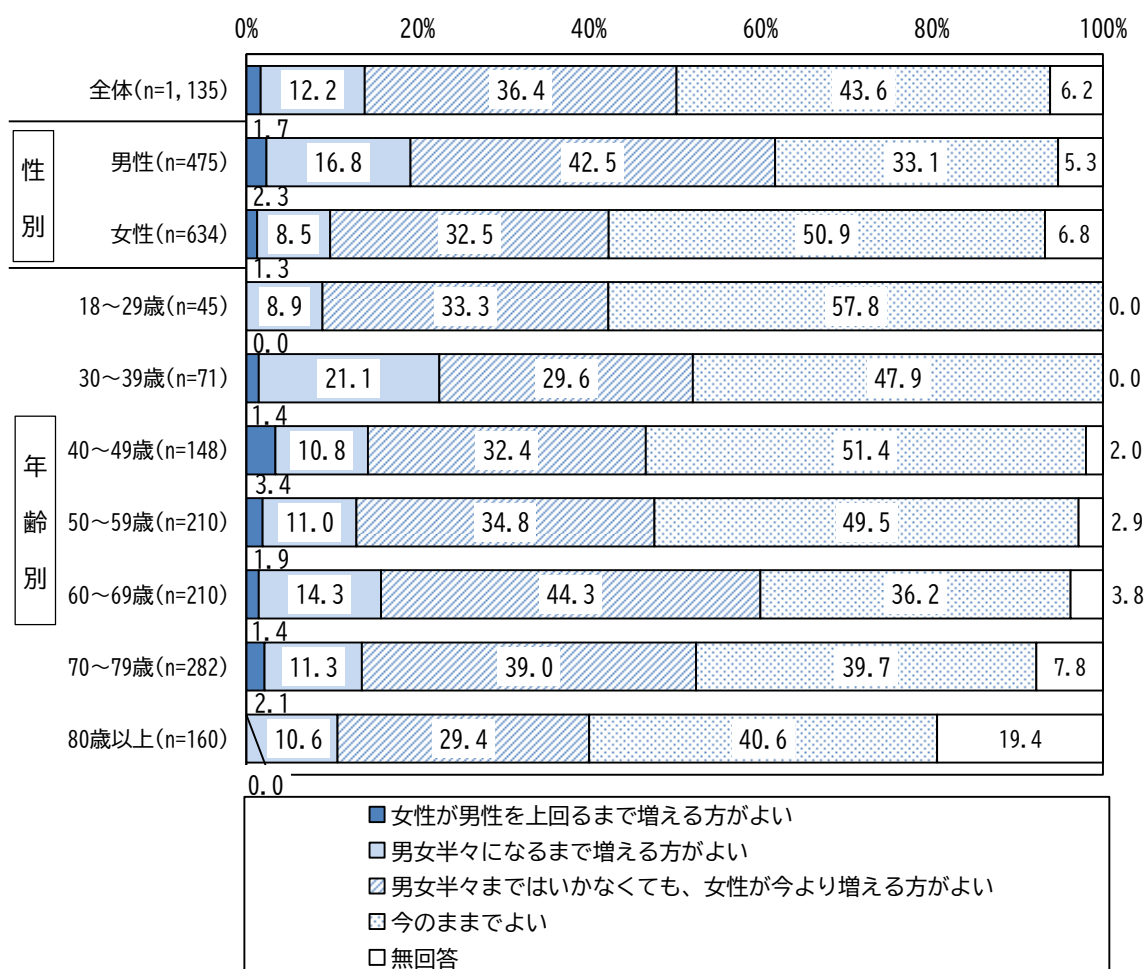


④ 消防団

消防団については、「今のままでよい」が43.6%で最も高く、次いで「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」が36.4%、「男女半々になるまで増える方がよい」が12.2%となっています。

性別でみると、男性で「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」、女性で「今のままでよい」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、60～69歳を除き「今のままでよい」、60～69歳では「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」が最も高くなっています。また、30～39歳で「男女半々になるまで増える方がよい」が2割台と他の年代を上回ります。

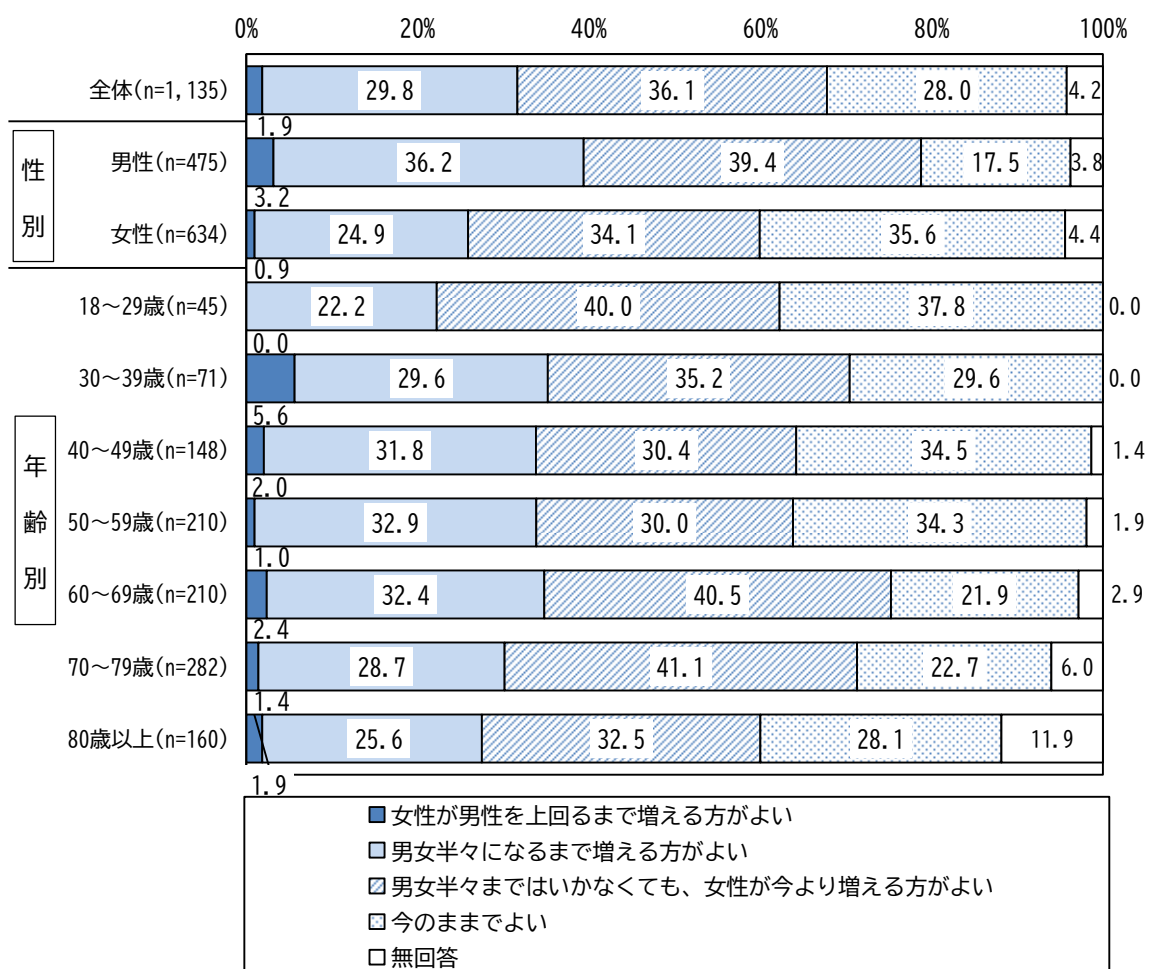


⑤ 避難訓練等の防災活動

避難訓練等の防災活動については、「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」が36.1%で最も高く、次いで「男女半々になるまで増える方がよい」が29.8%、「今のままでよい」が28.0%となっています。

性別でみると、男性で「男女半々になるまで増える方がよい」、女性で「今のままでよい」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、40～59歳は「男女半々になるまで増える方がよい」、それ以外の年齢では「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」が最も高くなっています。



5. 防災対策における男女参画について

(1) 男女共同参画の視点から望ましい避難所での支援

問 18 災害時の緊急避難所において、男女共同参画の視点から望ましいと思われる民間及び行政の支援は何ですか。(3つまでに○)

「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置」が 85.7% で最も高く、次いで「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」が 49.1%、「避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること」が 48.2%、「粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮」が 29.9%、「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」が 20.6%、「性別に関係なく集まることができる、交流の場の設置」が 15.5% となっています。

性別で比較すると、「性別に関係なく集まることができる、交流の場の設置」は男性が女性を上回り (7.6 ポイント差)、「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」や「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」は女性が男性を上回ります (各 7.8/5.3 ポイント差)。

年齢別にみると、30～39 歳では「粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮」、60～79 歳では「避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること」が他の年代に比べて高くなっています。

問18 避難所運営に関する望ましい民間及び行政の支援

単位：％

		男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置	粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮	女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り	性差やそれに基づくニーズに配慮した相談支援窓口の設置（こころのケアも含む）	性別を問わずに参加できる、生きがいとなる活動や雇用体制の整備	避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること
全体(n=1,135)		85.7	29.9	49.1	15.4	15.2	48.2
性別	男性(n=475)	86.9	30.5	46.1	14.9	16.2	48.4
	女性(n=634)	85.2	29.8	51.4	15.5	14.7	48.3
年齢別	18～29歳(n=45)	77.8	42.2	57.8	17.8	17.8	33.3
	30～39歳(n=71)	90.1	60.6	57.7	5.6	8.5	36.6
	40～49歳(n=148)	83.8	41.2	56.8	12.2	16.2	36.5
	50～59歳(n=210)	88.6	31.4	56.2	14.3	13.3	45.7
	60～69歳(n=210)	88.6	30.5	49.0	17.6	16.7	52.9
	70～79歳(n=282)	85.5	18.8	44.7	16.3	14.5	58.5
	80歳以上(n=160)	81.9	19.4	34.4	19.4	19.4	46.9

		性別に関係なく集まることができる、交流の場の設置	同性同士で気軽に集まることができる、交流の場の設置	防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策	その他	無回答
全体(n=1,135)		15.5	3.2	20.6	0.5	0.8
性別	男性(n=475)	19.6	3.6	16.0	0.2	1.1
	女性(n=634)	12.0	2.8	23.8	0.8	0.5
年代別	18～29歳(n=45)	13.3	2.2	24.4	0.0	0.0
	30～39歳(n=71)	7.0	1.4	19.7	1.4	0.0
	40～49歳(n=148)	12.2	4.1	21.6	0.0	0.0
	50～59歳(n=210)	9.0	2.4	21.0	0.0	0.5
	60～69歳(n=210)	14.8	1.9	16.7	1.0	0.0
	70～79歳(n=282)	18.8	2.8	20.2	0.7	1.1
	80歳以上(n=160)	26.9	6.9	23.8	0.6	2.5

(2) 男女共同参画の視点による防災対策で最も重要だと思うこと

問 19 男女共同参画の視点から防災に関するまちづくりを地域で行う場合、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。(最も重要だと思うこと1つに○)

「集団の意思決定の場への女性の参加を促進する」が28.0%で最も高く、次いで「子育て世帯や母子世帯など、避難時に要支援となる世帯の把握を地域で行う」が26.4%、「災害時に性差に応じた配慮ができるよう、地域で交流会などを開き、意見交換を行う」が19.7%、「地域の避難訓練などの際に、性差へ配慮することを意識的に行う」が12.5%となっています。

性別で比較すると、「集団の意思決定の場への女性の参加を促進する」は男性が女性を上回り(9.6ポイント差)、「子育て世帯や母子世帯など、避難時に要支援となる世帯の把握を地域で行う」は女性が男性を上回ります(8.4ポイント差)。

年齢別にみると、30～39歳では「子育て世帯や母子世帯など、避難時に要支援となる世帯の把握を地域で行う」や「地域の避難訓練などの際に、性差へ配慮することを意識的に行う」、70～79歳では「集団の意思決定の場への女性の参加を促進する」が他の年代に比べて高くなっています。

問19 男女共同参画の視点から防災のまちづくりで重要なこと

単位：％

		集団の意思決定の場への女性の参加を促進する	災害時に性差に応じた配慮ができるよう、地域で交流会などを開き、意見交換を行う	地域の避難訓練などの際に、性差へ配慮することを意識的に行う	性差に対応した避難所などの情報について、住民の連絡網などで予め共有しておく	子育て世帯や母子世帯など、避難時に要支援となる世帯の把握を地域で行う	その他	無回答
全体(n=1,135)		28.0	19.7	12.5	9.2	26.4	1.3	2.8
性別	男性(n=475)	33.9	20.2	11.6	9.1	21.7	1.5	2.1
	女性(n=634)	24.3	19.1	13.1	9.1	30.1	1.3	3.0
年齢別	18～29歳(n=45)	22.2	17.8	13.3	13.3	31.1	0.0	2.2
	30～39歳(n=71)	19.7	14.1	23.9	4.2	36.6	1.4	0.0
	40～49歳(n=148)	20.3	23.0	19.6	6.8	28.4	0.7	1.4
	50～59歳(n=210)	23.8	23.8	15.2	8.6	23.8	2.4	2.4
	60～69歳(n=210)	28.1	23.8	9.5	8.6	26.7	1.0	2.4
	70～79歳(n=282)	36.9	14.5	7.8	11.0	25.2	1.1	3.5
	80歳以上(n=160)	29.4	19.4	10.0	10.6	23.8	1.9	5.0

6. 地域社会とのつながりについて

(1) 現在取り組んでいる・今後取り組みたい活動

問 20 あなたが、次にあげる地域での活動の中で(1)現在取り組んでいる活動、(2)今後取り組みたい活動をお答えください。(〇はいくつでも)

ア. 現在取り組んでいる活動

「いずれもない」が55.1%と最も高いものの、「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」が22.1%、「自主防災・消防団などの防災団体活動」が9.5%、「スポーツに関する団体活動」が8.6%、「文化・教養・学習に関する団体活動」が6.1%、「その他の団体活動」「子育てや介護などでの団体活動」がともに5.6%と続きます。

性別で比較すると、「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」と「自主防災・消防団などの防災団体活動」は男性が女性を上回り(各9.1/7.4ポイント差)、「いずれもない」は女性が男性を上回ります(6.9ポイント差)。

年齢別にみると、40～49歳を除き「いずれもない」が最も高くなっています。40～49歳では「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」が他の年代を大きく上回ります。

問20 (1) 現在取り組んでいる活動

単位：％

		自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動	子育てや介護などでの団体活動	自主防災・消防団などの防災団体活動	環境保護に関する団体活動	スポーツに関する団体活動
性 別	全体(n=1,135)	22.1	5.6	9.5	4.8	8.6
	男性(n=475)	27.6	4.6	13.9	5.9	11.2
年 齢 別	女性(n=634)	18.5	6.5	6.5	3.9	6.9
	18～29歳(n=45)	20.0	8.9	6.7	13.3	15.6
	30～39歳(n=71)	19.7	4.2	4.2	1.4	9.9
	40～49歳(n=148)	43.2	2.7	9.5	2.7	10.1
	50～59歳(n=210)	23.3	3.3	9.0	1.4	7.1
	60～69歳(n=210)	23.8	4.3	9.5	2.9	4.3
	70～79歳(n=282)	16.3	6.0	12.4	6.4	8.9
	80歳以上(n=160)	10.0	11.9	8.8	10.0	10.6

		文化・教養・学習に関する団体活動	その他の団体活動	いずれもない	無回答
性 別	全体(n=1,135)	6.1	5.6	55.1	3.1
	男性(n=475)	5.7	6.9	50.7	2.1
年 代 別	女性(n=634)	6.6	4.9	57.6	3.6
	18～29歳(n=45)	8.9	4.4	62.2	0.0
	30～39歳(n=71)	5.6	1.4	69.0	0.0
	40～49歳(n=148)	3.4	4.7	41.2	0.7
	50～59歳(n=210)	2.9	2.4	59.5	1.9
	60～69歳(n=210)	5.2	6.7	61.0	0.0
	70～79歳(n=282)	7.4	9.2	53.9	2.8
	80歳以上(n=160)	11.3	5.0	50.0	13.1

イ. 今後取り組みたい活動

「いずれもない」が52.1%と最も高いものの、「文化・教養・学習に関する団体活動」が12.9%、「環境保護に関する団体活動」が10.7%、「子育てや介護などでの団体活動」が9.3%、「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」が7.8%、「スポーツに関する団体活動」が7.2%、「自主防災・消防団などの防災団体活動」が6.4%と続きます。

性別で比較すると、「環境保護に関する団体活動」と「自主防災・消防団などの防災団体活動」は男性が女性を上回り（5.4ポイント差）、「いずれもない」は女性が男性を上回ります（5.2ポイント差）。

年齢別にみると、「いずれもない」が最も高くなっています。

問20 （2）今後取り組みたい活動

単位：％

	自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動	子育てや介護などでの団体活動	自主防災・消防団などの防災団体活動	環境保護に関する団体活動	スポーツに関する団体活動
全体(n=1,135)	7.8	9.3	6.4	10.7	7.2
性別					
男性(n=475)	10.1	6.7	7.8	13.9	8.6
女性(n=634)	6.3	11.5	5.5	8.5	6.2
年齢別					
18～29歳(n=45)	15.6	13.3	11.1	8.9	24.4
30～39歳(n=71)	14.1	9.9	5.6	8.5	9.9
40～49歳(n=148)	11.5	13.5	6.1	13.5	8.1
50～59歳(n=210)	7.6	7.6	8.6	9.0	6.2
60～69歳(n=210)	8.1	6.7	4.8	11.9	5.7
70～79歳(n=282)	3.9	9.9	6.4	10.6	7.4
80歳以上(n=160)	5.6	8.1	5.6	10.6	3.1

	文化・教養・学習に関する団体活動	その他の団体活動	いずれもない	無回答
全体(n=1,135)	12.9	4.4	52.1	1.9
性別				
男性(n=475)	12.4	4.2	48.6	1.7
女性(n=634)	13.4	4.7	53.8	1.9
年代別				
18～29歳(n=45)	22.2	6.7	44.4	0.0
30～39歳(n=71)	8.5	1.4	56.3	0.0
40～49歳(n=148)	12.8	2.7	46.6	0.0
50～59歳(n=210)	11.9	5.7	51.9	1.4
60～69歳(n=210)	17.1	4.3	51.9	0.0
70～79歳(n=282)	11.7	5.7	53.5	1.1
80歳以上(n=160)	10.0	3.1	56.9	8.8

(2) 今後取り組みたい活動がない理由

問 21 今後取り組みたい活動がない理由をお答えください。(〇はいくつでも)

「自分の健康や体力に自信がない」が46.2%で最も高く、次いで「仕事が忙しく、時間がない」が31.3%、「経済的な余裕がない」が16.1%、「家事・育児が忙しく、時間がない」が10.5%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が9.3%となっています。

性別で比較すると、「仕事が忙しく、時間がない」は男性が女性を上回り(5.3ポイント差)、「自分の健康や体力に自信がない」と「家事・育児が忙しく、時間がない」は女性が男性を上回ります(各12.8/8.5ポイント差)。

年齢別にみると、18～69歳は「いずれもない仕事が忙しく、時間がない」、70歳以上は「自分の健康や体力に自信がない」が最も高くなっています。

問21 今後取り組みたい活動がない理由

単位：％

		仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない
全体(n=591)		31.3	10.5	3.0	4.6	46.2	9.3	4.7
性別	男性(n=231)	34.6	5.6	2.2	3.0	39.4	6.5	3.0
	女性(n=341)	29.3	14.1	3.5	5.3	52.2	11.4	6.2
年齢別	18～29歳(n=20)	50.0	30.0	10.0	0.0	5.0	20.0	10.0
	30～39歳(n=40)	67.5	50.0	15.0	0.0	10.0	12.5	7.5
	40～49歳(n=69)	58.0	29.0	10.1	2.9	29.0	18.8	1.4
	50～59歳(n=109)	58.7	10.1	1.8	7.3	28.4	12.8	2.8
	60～69歳(n=109)	32.1	1.8	0.0	10.1	45.0	9.2	6.4
	70～79歳(n=151)	5.3	0.7	0.0	4.0	64.9	4.0	4.0
	80歳以上(n=91)	0.0	0.0	0.0	0.0	75.8	2.2	5.5

		経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	その他	特に理由はない	無回答
全体(n=591)		16.1	0.8	1.2	9.5	15.9	0.2
性別	男性(n=231)	16.9	0.4	1.3	11.7	17.7	0.4
	女性(n=341)	15.0	1.2	1.2	8.2	14.1	0.0
年齢別	18～29歳(n=20)	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0
	30～39歳(n=40)	27.5	0.0	5.0	0.0	7.5	2.5
	40～49歳(n=69)	29.0	2.9	1.4	8.7	7.2	0.0
	50～59歳(n=109)	17.4	0.9	2.8	1.8	16.5	0.0
	60～69歳(n=109)	20.2	0.9	0.0	7.3	25.7	0.0
	70～79歳(n=151)	12.6	0.7	0.7	12.6	16.6	0.0
	80歳以上(n=91)	2.2	0.0	0.0	20.9	12.1	0.0

7. 用語などについて

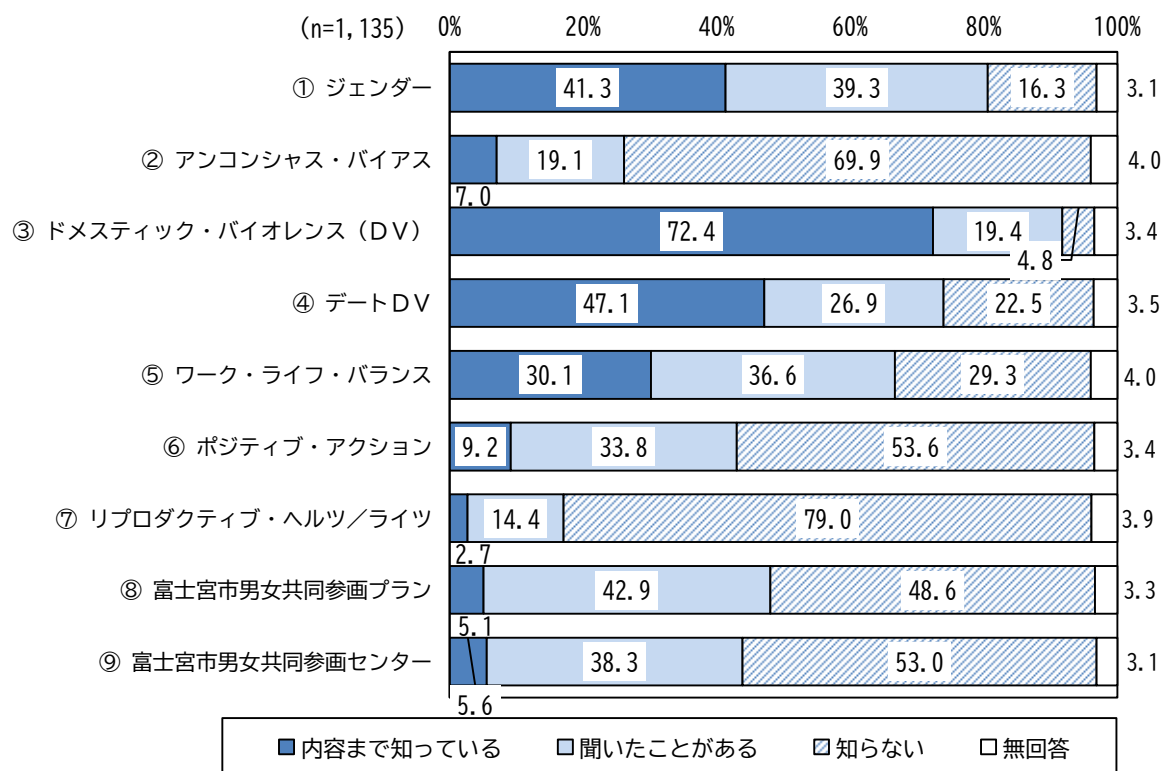
(1) 男女共同参画に関する用語や市の事業の認知度

問 22 あなたは、次にあげる用語や市の実施する事業について知っていますか。(それぞれ1つに○)

男女共同参画に関する用語や市の事業の等の認知度について、「内容まで知っている」は、＜③ドメスティック・バイオレンス（DV）＞72.4%が最も高く、次いで＜④デートDV＞47.1%、＜①ジェンダー＞41.3%などとなっています。

「聞いたことがある」は、＜⑧富士宮市男女共同参画プラン＞の42.9%が最も高く、＜①ジェンダー＞39.3%、＜⑤ワーク・ライフ・バランス＞36.6%、＜⑨富士宮市男女共同参画センター＞38.3%、＜⑥ ポジティブ・アクション＞33.8%などで3割を超えています。また、「知らない」は、＜⑦リプロダクティブ・ヘルツ／ライツ＞や＜②アンコンシャス・バイアス＞で高くなっています。

ア. 全体の結果



【用語解説】

①ジェンダー（文化的社会的につくられた性別固定的役割意識）

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間は生まれつきの生物学的性別（セックス/SEX）がある。一方、社会通念や習慣の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的文化的に形成された性別」（ジェンダー）という。

②アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）

自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の思い込み」と呼ばれる。

例えば「家事・育児は女性がするべきだ」、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」のようなものが該当する。

③ドメスティック・バイオレンス（DV）

配偶者・パートナー関係にある、又はあった者から振るわれる暴力をいい、身体的暴力に限らず、精神的、経済的、性的等あらゆる形の暴力が含まれる。

④デートDV

交際中の恋人の間で起こる暴力のこと。殴る、蹴る等の身体的暴力のほか、相手を思いどおりに支配しようとする態度や行為も含む。

⑤ワーク・ライフ・バランス

仕事と仕事以外の生活（家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など）が、希望するバランスで展開できる状態。「仕事の充実」と「仕事以外の充実」のバランスが保たれると、好循環をもたらし、多様性に富んだ活力ある社会を創出するため、その基盤として極めて重要とされる。

⑥ポジティブ・アクション

社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のこと。

⑦リプロダクティブ・ヘルツ／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

女性自身が生涯を通じて健康を自己管理するとともに、子どもを産むかどうか、産むとしたらいつ、何人産むかといった、性と身体を含む自分の人生について自己決定する権利を持ち、妊娠・出産を含む性の問題を女性の人権に関わる問題として捉える考え方のこと。

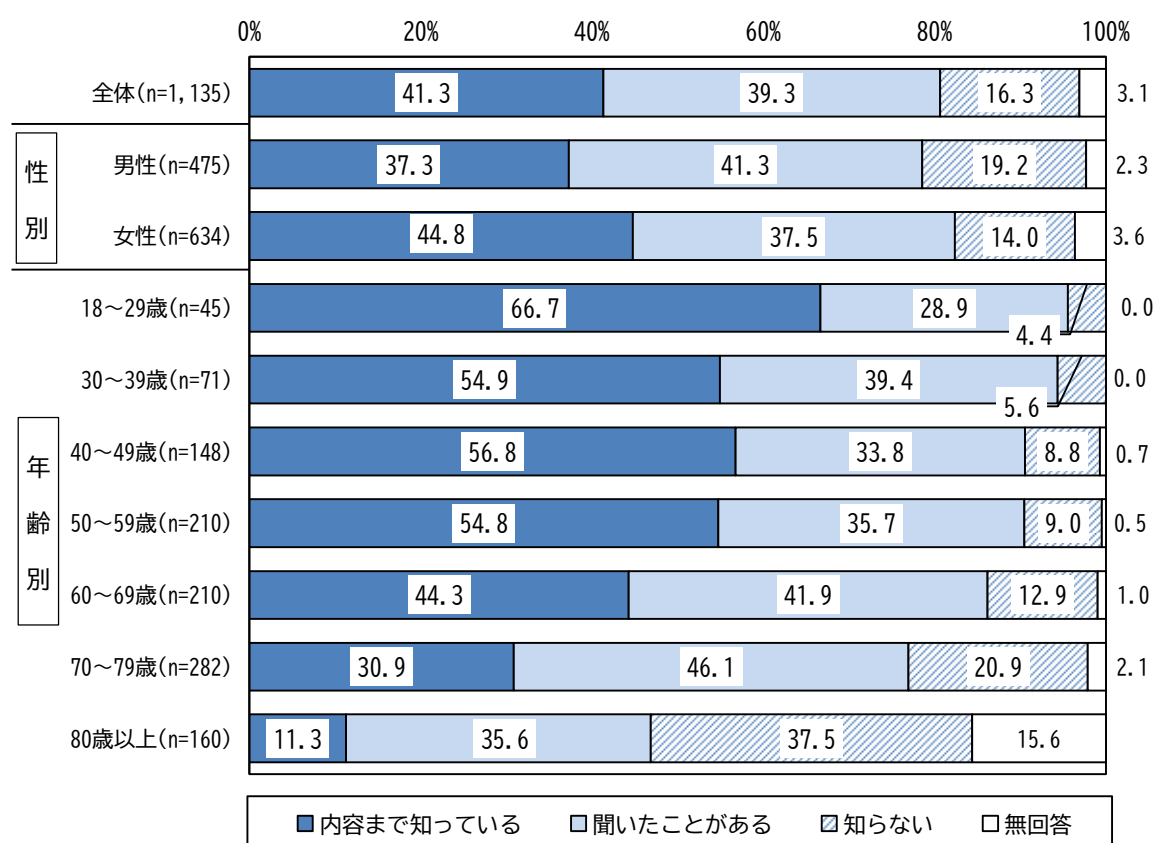
イ. 性別・年齢別の結果

① ジェンダー

「内容まで知っている」が41.3%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が39.3%、「知らない」が16.3%となっています。

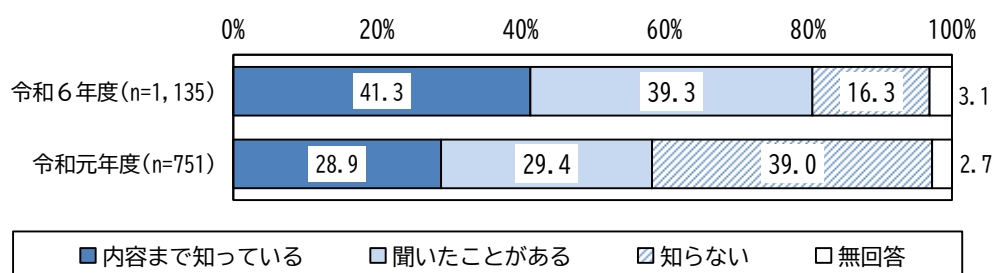
性別で比較すると、「内容まで知っている」は、女性が男性を上回ります（7.5ポイント差）。

年齢別にみると、18～69歳は「内容まで知っている」、70～79歳は「聞いたことがある」、80歳以上は「知らない」が最も高くなっています。



〈経年比較〉

経年比較でみると、「知らない」が22.7ポイント低下し、「内容まで知っている」や「聞いたことがある」が上昇しています（各12.4/9.9ポイント）。

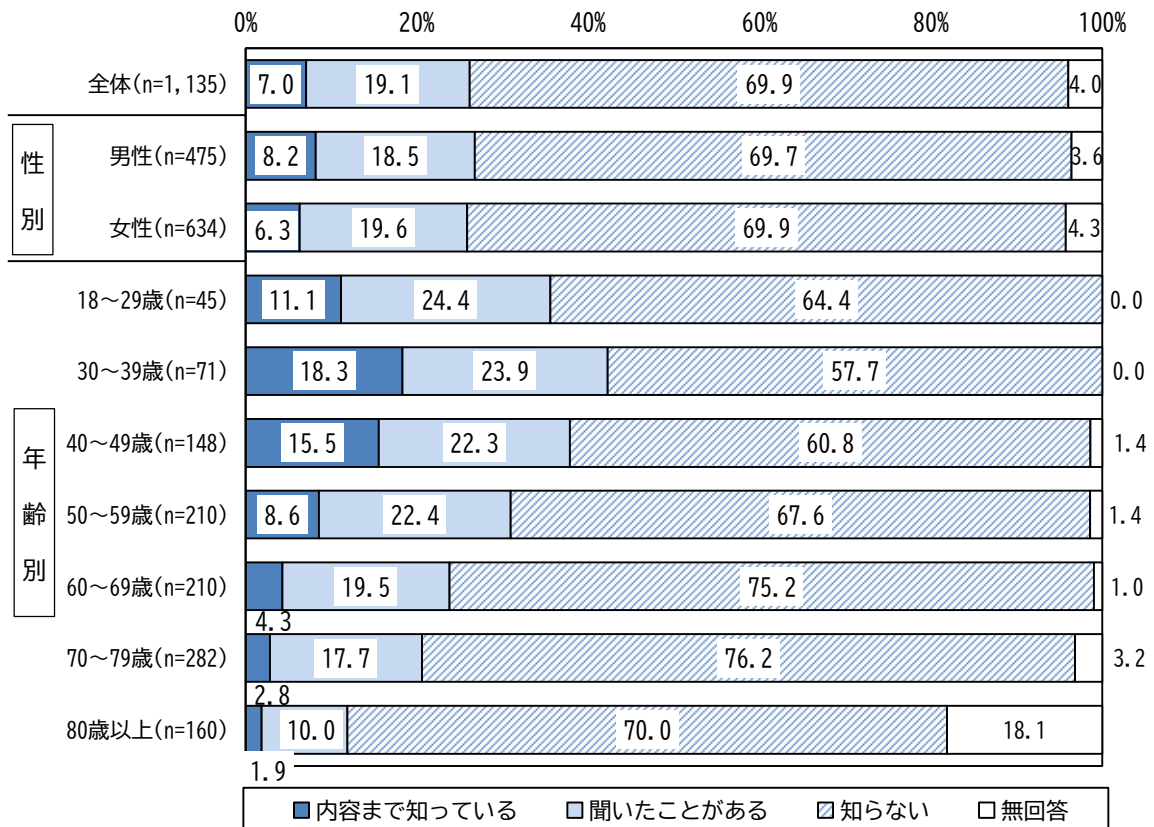


② アンコンシャス・バイアス

「知らない」が69.9%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が19.1%、「内容まで知っている」が7.0%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、いずれの年齢も「知らない」が最も高くなっていますが、30～39歳で「内容まで知っている」が18.3%と他の年齢を上回ります。

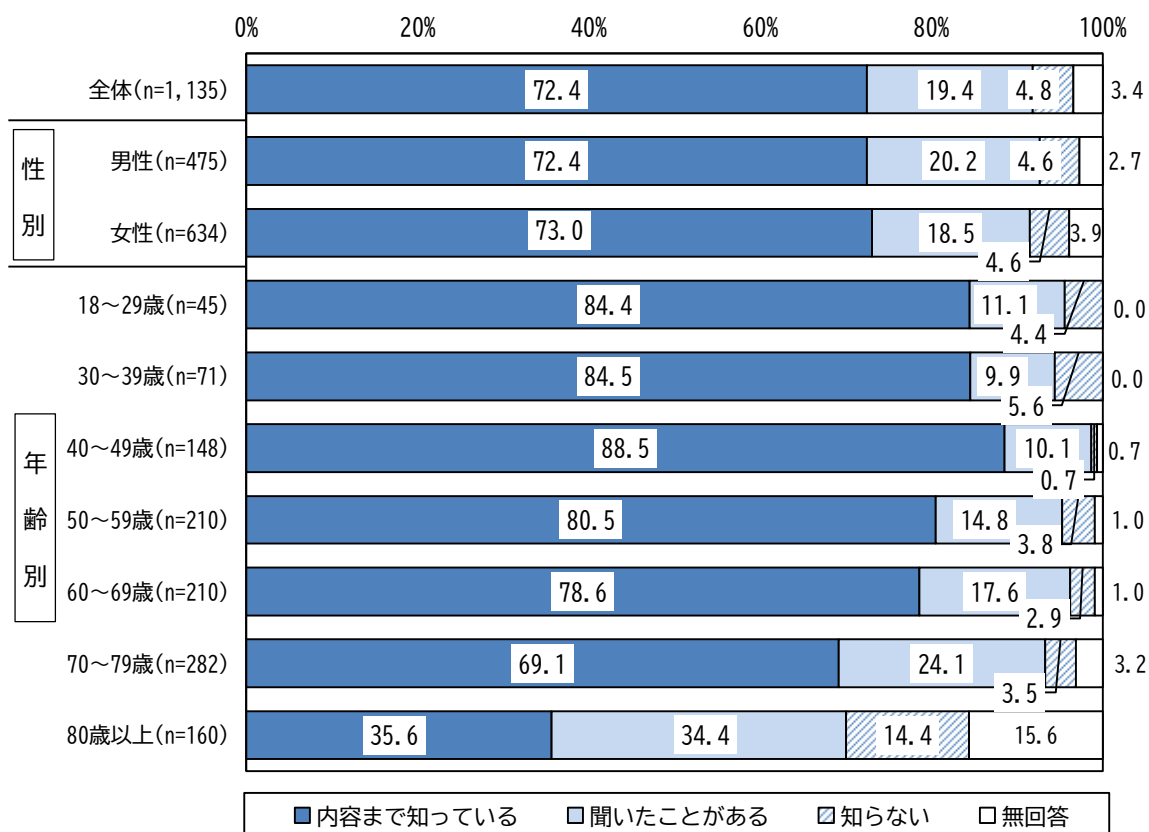


③ ドメスティック・バイオレンス（DV）

「内容まで知っている」が72.4%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が19.4%、「知らない」が4.8%となっています。

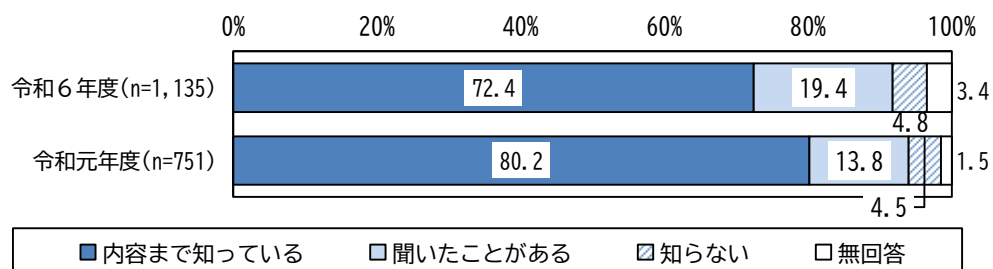
性別で比較すると、男女ともに「内容まで知っている」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、いずれの年齢も「内容まで知っている」が最も高くなっていますが、80歳以上は「聞いたことがある」が34.4%と他の年齢を上回ります。



〈経年比較〉

経年比較でみると、「内容まで知っている」は7.8ポイント低下し、「聞いたことがある」が5.6ポイント上昇しています。

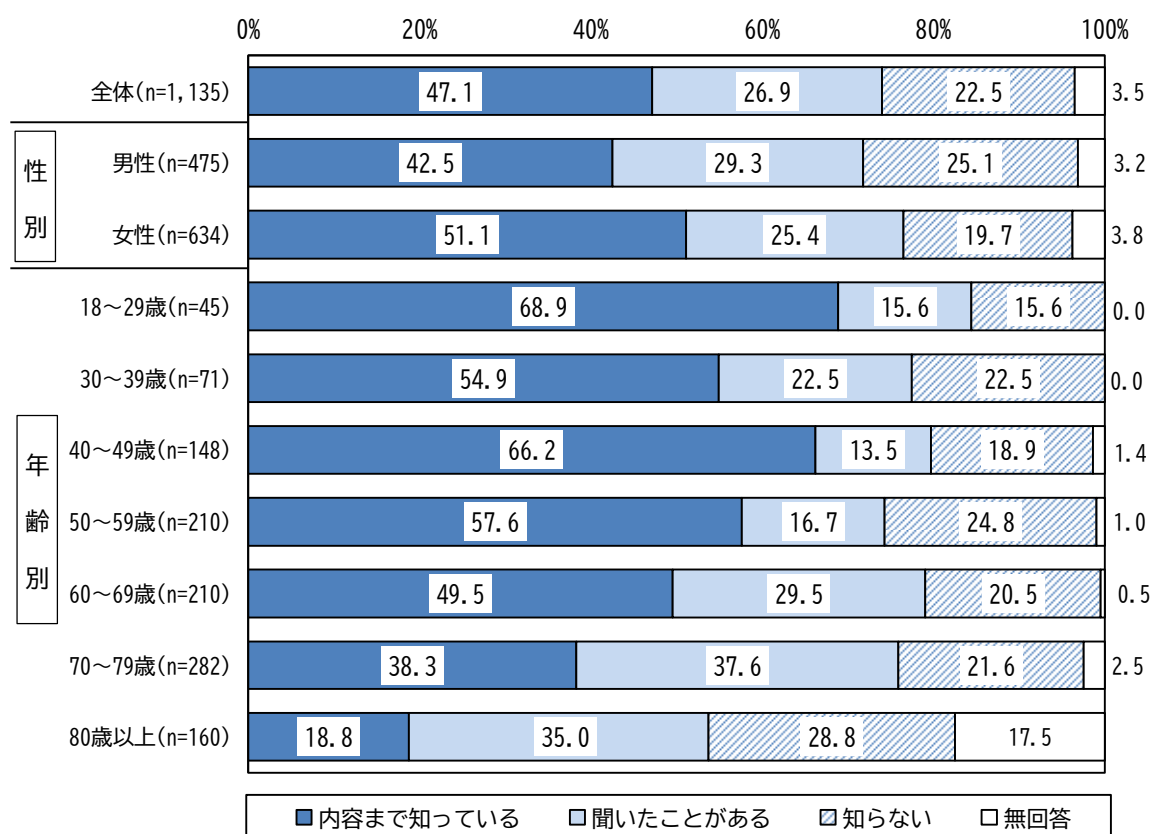


④ デートDV

「内容まで知っている」が47.1%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が26.9%、「知らない」が22.5%となっています。

性別で比較すると、「内容まで知っている」は女性が男性を上回ります(8.6ポイント差)。

年齢別にみると、18～79歳は「内容まで知っている」、80歳以上は「聞いたことがある」が最も高くなっています。

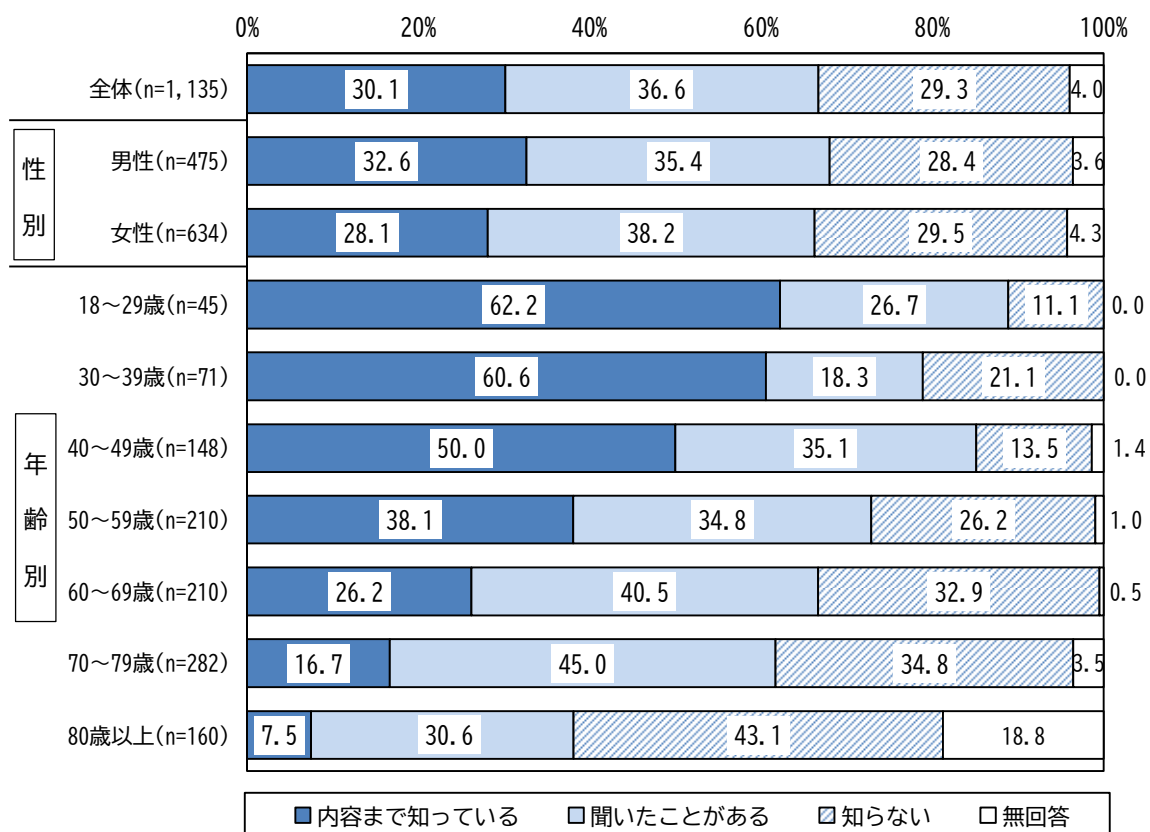


⑤ ワーク・ライフ・バランス

「聞いたことがある」が36.6%で最も高く、次いで「内容まで知っている」が30.1%、「知らない」が29.3%となっています。

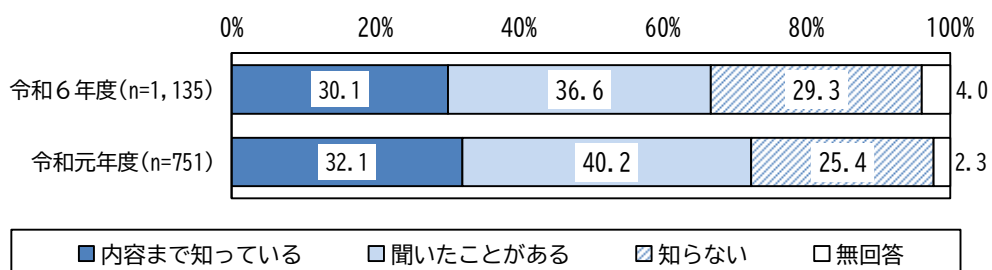
性別で比較すると、「内容まで知っている」は男性が女性を上回ります(4.6ポイント差)。

年齢別にみると、18～59歳は「内容まで知っている」、60～79歳は「聞いたことがある」、80歳以上は「知らない」が最も高くなっています。



〈経年比較〉

経年比較でみると、「知らない」が3.9ポイント上昇し、「内容まで知っている」は「聞いたことがある」が低下しています(各3.6/2.0ポイント)。

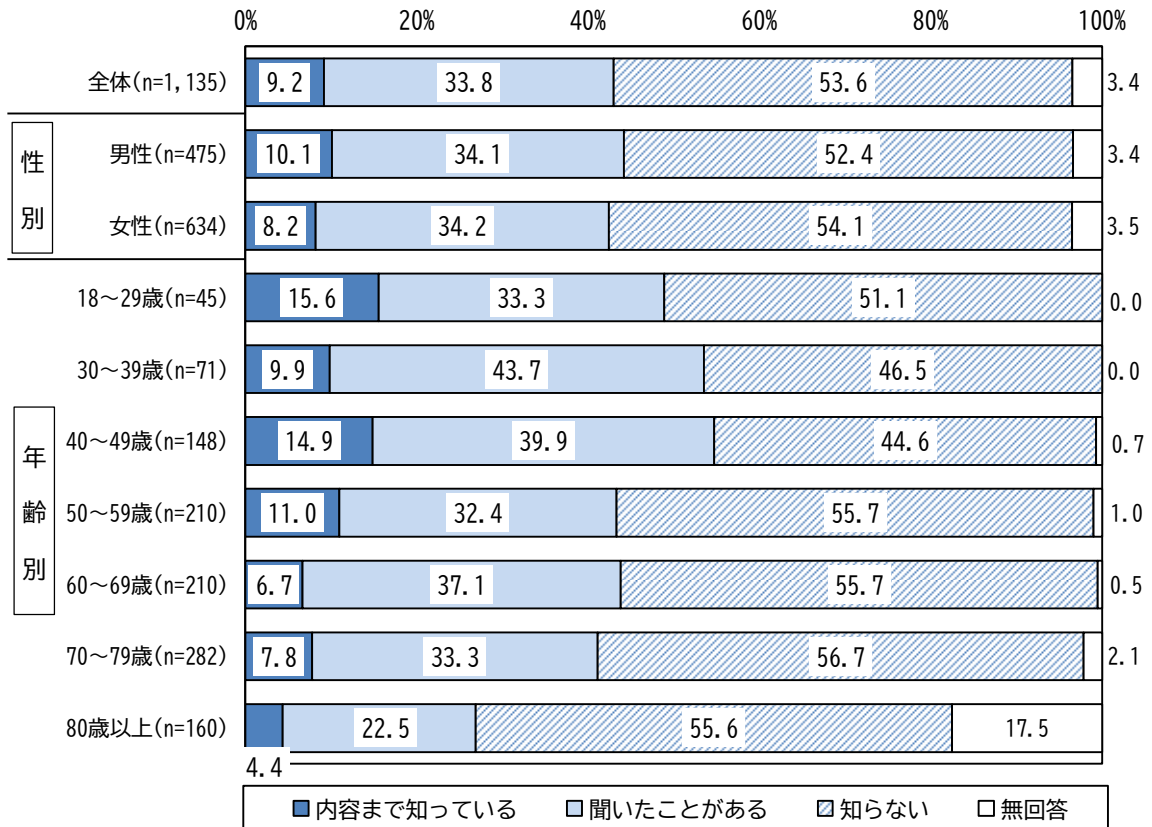


⑥ ポジティブ・アクション

「知らない」が53.6%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が33.8%、「内容まで知っている」が9.2%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、すべての年齢で「知らない」が最も高くなっています。

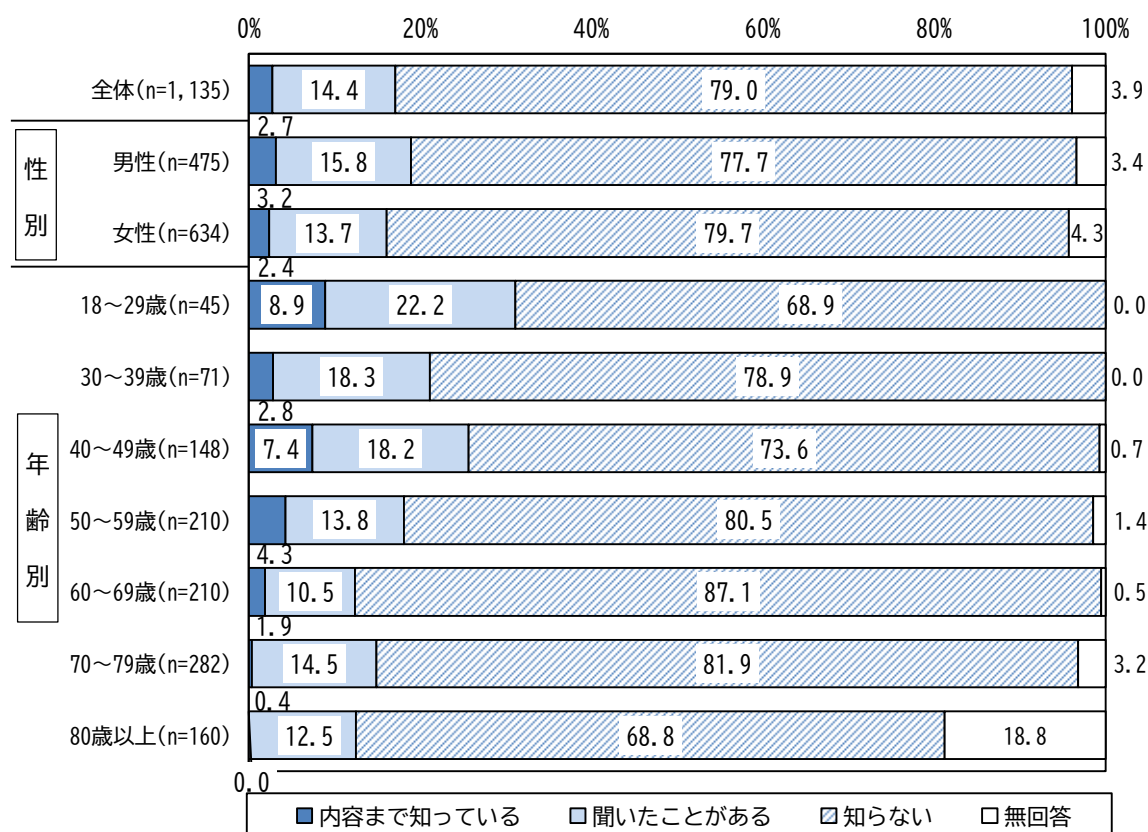


⑦ リプロダクティブ・ヘルツ／ライツ

「知らない」が 79.0%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が 14.4%「内容まで知っている」が 2.7%となっています。

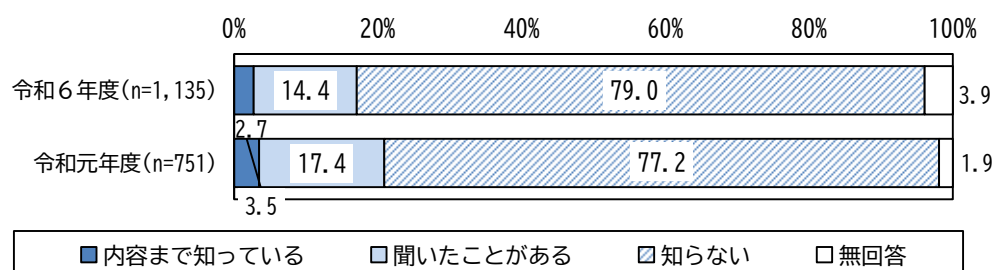
性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、いずれの年齢も「知らない」が最も高くなっていますが、18～29 歳で「聞いたことがある」が 22.2%と他の年齢を上回ります。



〈経年比較〉

経年比較でみると、「知らない」が最も高いなど、大きな変化はみられません。

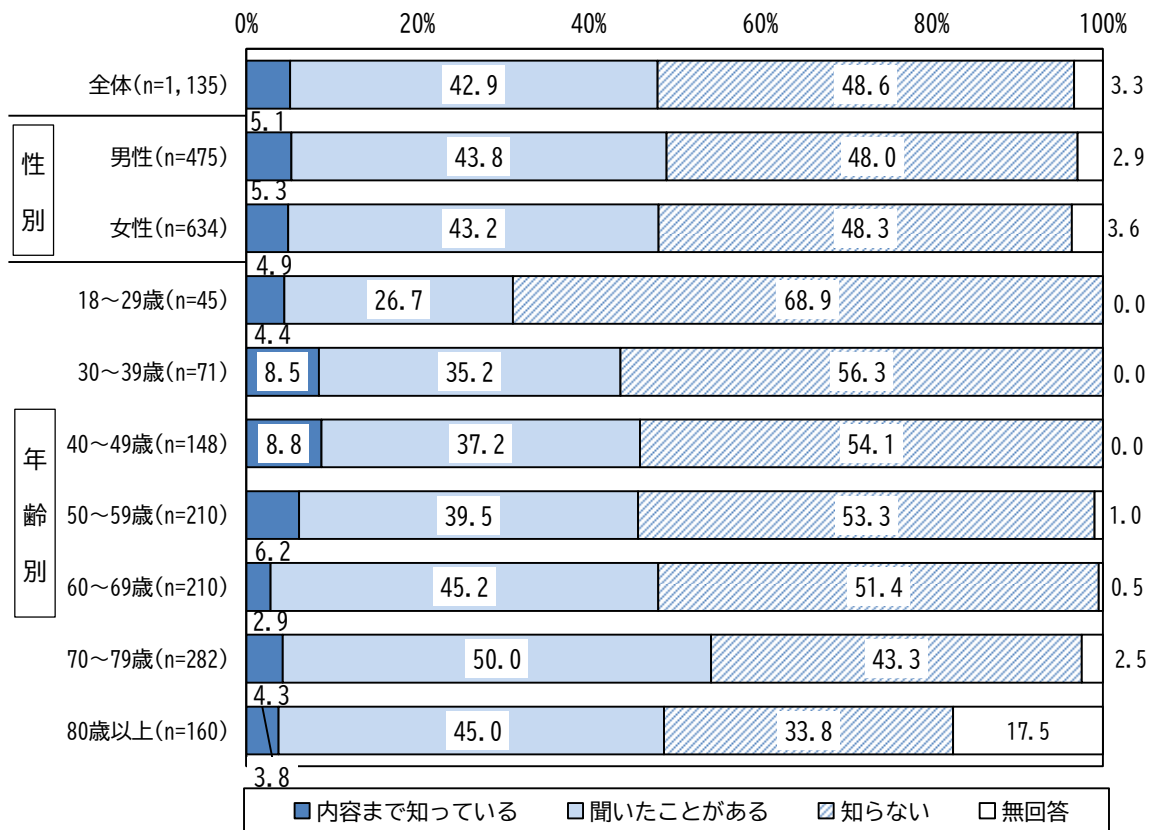


⑧ 富士宮市男女共同参画プラン

「知らない」が48.6%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が42.9%、「内容まで知っている」が5.1%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、18～69歳は「知らない」、70歳以上は「聞いたことがある」が最も高くなっています。

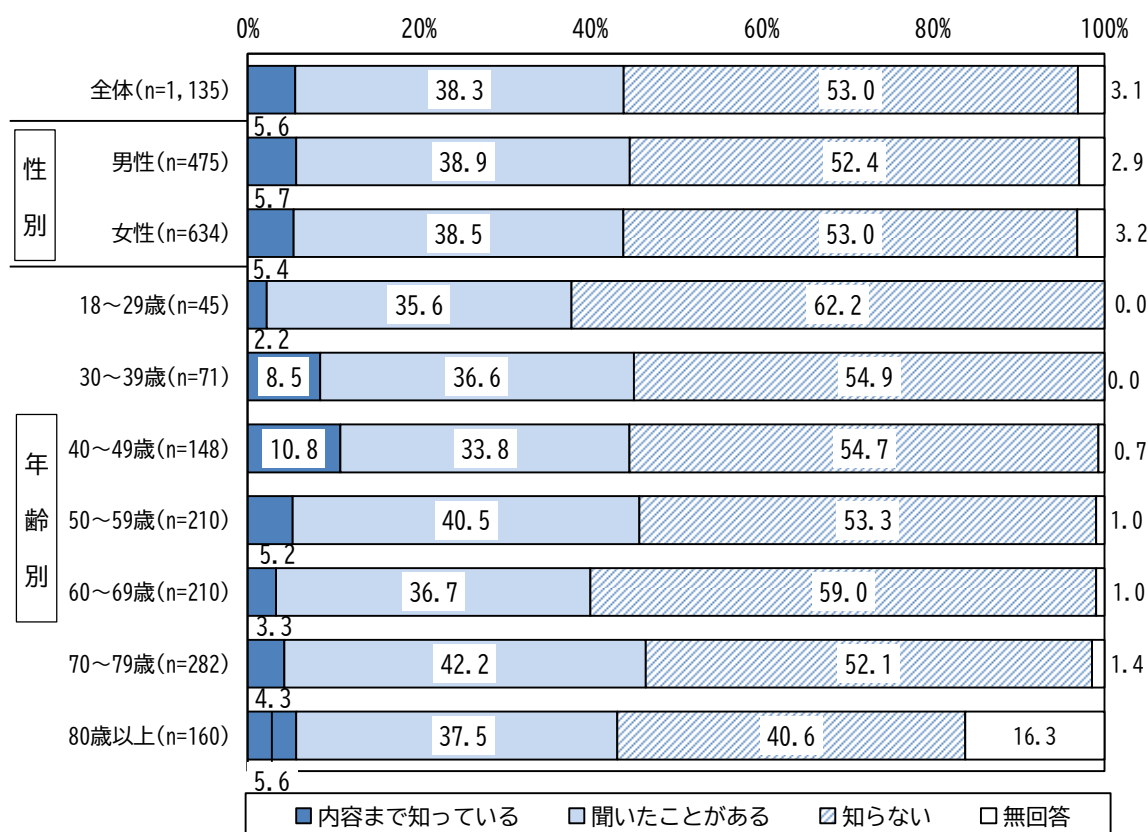


⑨ 富士宮市男女共同参画センター

「知らない」が53.0%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が38.3%、「内容まで知っている」が5.6%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、いずれの年齢も「知らない」が最も高くなっていますが、40～49 歳で「内容まで知っている」が10.8%と他の年齢を上回ります。



8. 男女がともに働きやすい就業環境について

(1) 女性が働くことについて

問 23 女性が働くことについてどのように考えますか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。(1つに○)

「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が47.7%で最も高く、次いで「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が35.7%、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」が4.2%、「結婚をするまでは職業を持つ方がよい」が2.5%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、80歳以上を除き「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高くなっていますが、60歳以上では「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」も4割台と拮抗しています。

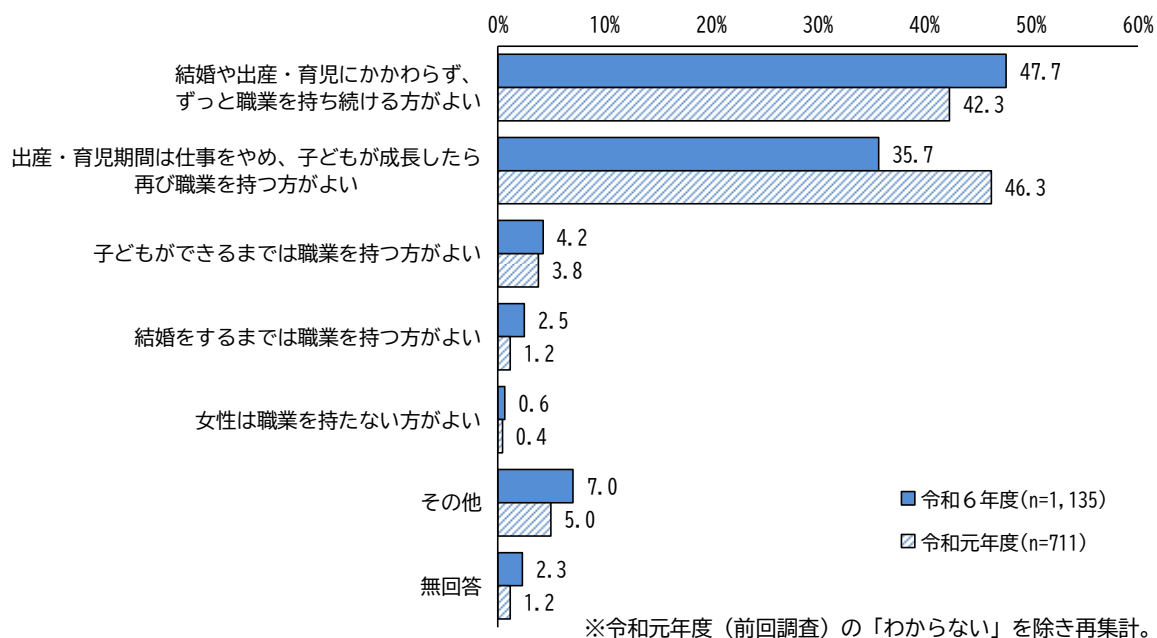
問23 女性が働くことについて

単位：％

		結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい	出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい	子どもができるまでは職業を持つ方がよい	結婚をするまでは職業を持つ方がよい	女性は職業を持たない方がよい	その他	無回答
全体(n=1,135)		47.7	35.7	4.2	2.5	0.6	7.0	2.3
性別	男性(n=475)	48.4	36.2	4.2	2.3	0.6	6.7	1.5
	女性(n=634)	47.5	35.8	4.3	2.1	0.6	7.3	2.5
年齢別	18～29歳(n=45)	48.9	26.7	2.2	0.0	2.2	17.8	2.2
	30～39歳(n=71)	54.9	26.8	2.8	0.0	0.0	15.5	0.0
	40～49歳(n=148)	62.2	23.0	2.0	1.4	0.7	10.8	0.0
	50～59歳(n=210)	54.8	29.5	2.4	1.4	1.4	9.5	1.0
	60～69歳(n=210)	47.1	41.0	2.9	1.4	0.0	5.7	1.9
	70～79歳(n=282)	42.2	41.8	7.1	3.5	0.4	2.5	2.5
	80歳以上(n=160)	31.3	45.0	6.9	5.6	0.6	3.1	7.5

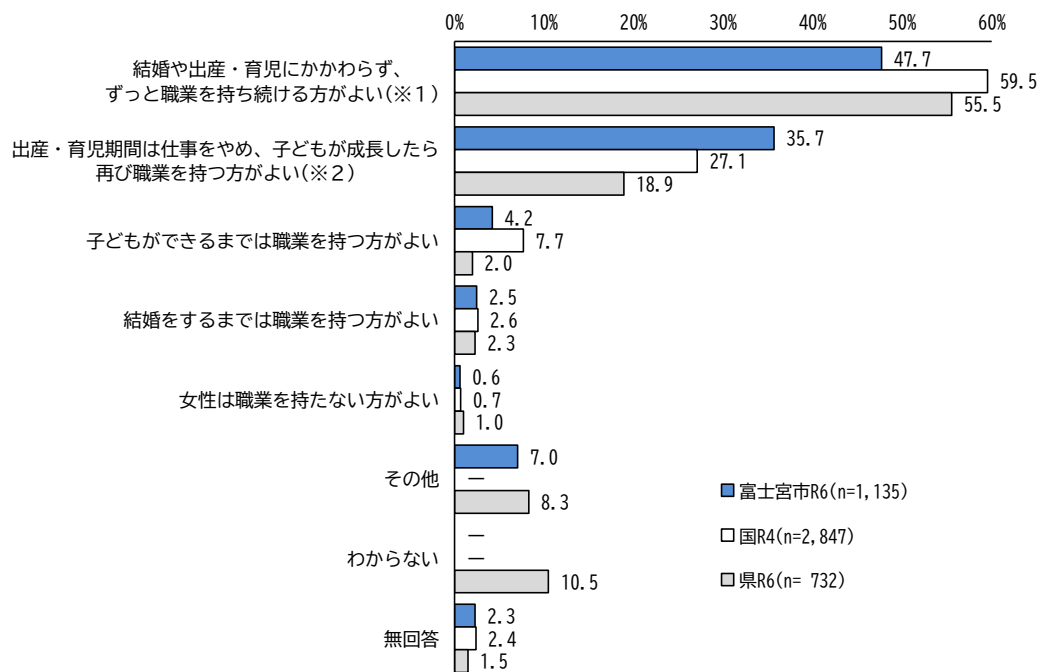
〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「出産・育児期間
は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が 10.6 ポイント低下し、「結
婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が 5.4 ポイント上昇し
ています。



〈国・県調査との比較〉

国の調査結果（令和4年11月実施）・県の調査結果（令和6年7月実施）との比較では、
国や県に比べ「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」割合
が低く、「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」
割合が高くなっています。



※1 国は「こどもができて、ずっと職業を続ける方がよい」、県は「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」

※2 国・県は「こどもができた後職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ（持つ）方がよい」

(2) 女性の職業継続における課題

問24 あなたは、女性が継続して働く上での課題は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

「育児・介護休業の制度が整っていない」が42.9%で最も高く、次いで「賃金の男女格差」が39.8%、「育児・介護休業が取得しにくい環境」が38.8%、「採用、昇進などにおける男女の格差」が35.3%、「男性が育児・介護休業をとることへの無理解」が33.4%、「仕事内容における男女の格差」が29.3%、「育児・介護施設の不足」が28.8%、「長時間労働」が28.6%となっています。

性別で比較すると、「仕事内容における男女の格差」は男性が女性を上回り（13.0ポイント差）、「男性が育児・介護休業をとることへの無理解」と「家族に反対されたり、協力が得られない」は女性が男性を上回ります（各10.6/6.8ポイント差）。

年齢別にみると、18～69歳は「育児・介護休業の制度が整っていない」、70歳以上は「賃金の男女格差」が最も高くなっています。30～39歳では「採用、昇進などにおける男女の格差」が46.5%と他の年齢を上回ります。

問24 女性が継続して働く上での課題

単位：%

	採用、昇進 などにおける 男女の格差	仕事内容に おける男女 の格差	資質・能力 を高めるた めの資格取 得機会の不 備	賃金の男女 格差	長時間労働	育児・介護 休業の制度 が整ってい ない	育児・介護 施設の不足	育児・介護 休業が取得 しにくい環 境
全体(n=1,135)	35.3	29.3	10.9	39.8	28.6	42.9	28.8	38.8
性別 男性(n=475)	38.3	36.8	9.1	39.8	27.2	45.5	28.6	37.7
女性(n=634)	33.8	23.8	12.1	39.7	29.7	41.0	29.0	39.9
年齢別 18～29歳(n=45)	35.6	26.7	8.9	40.0	26.7	55.6	24.4	48.9
30～39歳(n=71)	46.5	19.7	7.0	29.6	33.8	46.5	31.0	45.1
40～49歳(n=148)	37.8	28.4	10.8	35.8	30.4	50.0	31.8	45.9
50～59歳(n=210)	41.0	28.1	11.9	41.0	24.3	47.1	29.5	40.5
60～69歳(n=210)	36.7	25.7	11.9	41.0	29.0	42.4	34.8	39.5
70～79歳(n=282)	30.5	34.4	10.6	44.3	32.3	37.9	26.2	34.0
80歳以上(n=160)	28.8	33.8	11.3	37.5	24.4	34.4	23.1	31.9

	結婚・出産 退職等の慣 行	女性が働き 続けること に反対する 職場の雰囲気	家族に反対 されたり、 協力が得ら れない	女性自身の 就業意欲が 低い	男性が育 児・介護休 業をとること への無理解	その他	障害は特に ない	無回答
全体(n=1,135)	13.0	13.0	10.9	10.8	33.4	2.9	2.0	2.7
性別 男性(n=475)	14.3	10.3	6.9	11.4	27.4	2.5	1.9	1.9
女性(n=634)	12.0	15.1	13.7	10.4	38.0	3.2	2.2	3.2
年齢別 18～29歳(n=45)	22.2	20.0	13.3	11.1	40.0	8.9	2.2	0.0
30～39歳(n=71)	12.7	14.1	5.6	9.9	35.2	5.6	2.8	1.4
40～49歳(n=148)	18.2	14.2	13.5	12.2	40.5	3.4	1.4	0.0
50～59歳(n=210)	12.4	13.8	12.4	12.9	31.0	1.9	1.9	0.5
60～69歳(n=210)	11.0	13.8	11.0	11.0	34.3	3.8	1.9	0.0
70～79歳(n=282)	9.9	12.1	7.1	10.3	32.3	1.4	2.1	3.2
80歳以上(n=160)	14.4	9.4	14.4	8.8	27.5	2.5	2.5	11.9

(3) 男性の育児休業・介護休業の取得について

問 25 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。

この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることにについて、あなたはどのように考えますか。(それぞれ1つに○)

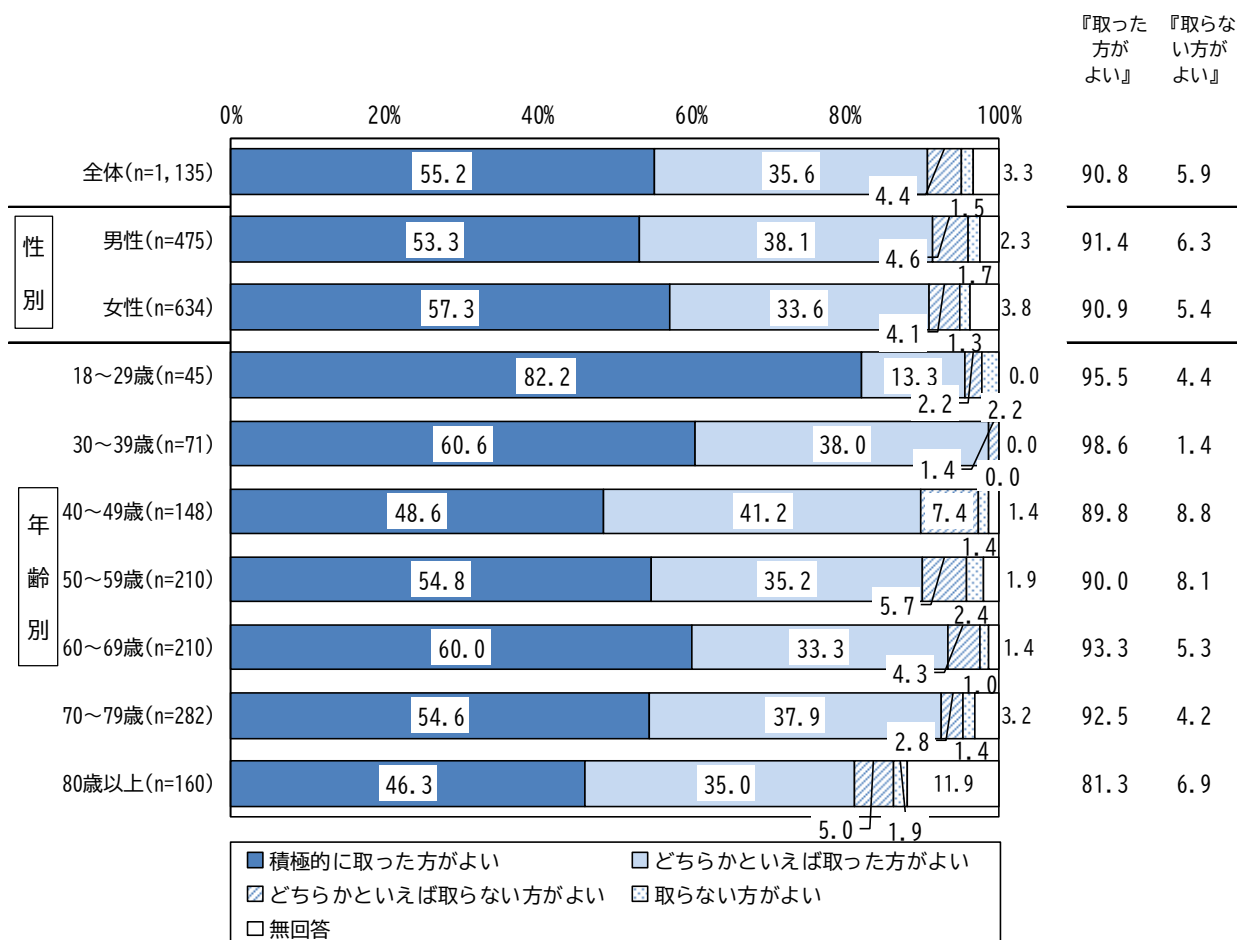
ア. 国調査との比較

①育児休業

育児休業は、「積極的に取った方がよい」が55.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が35.6%、「どちらかといえば取らない方がよい」は4.4%となっています。

性別で比較すると、「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」を合計した『取った方がよい』は男女ともに9割台となっていますが、「積極的に取った方がよい」は女性が男性を上回ります(4.0ポイント差)。

年齢別にみると、いずれの年齢も「積極的に取った方がよい」が最も高くなっていますが、18～29歳では8割を超えるなど他の年齢を大きく上回ります。

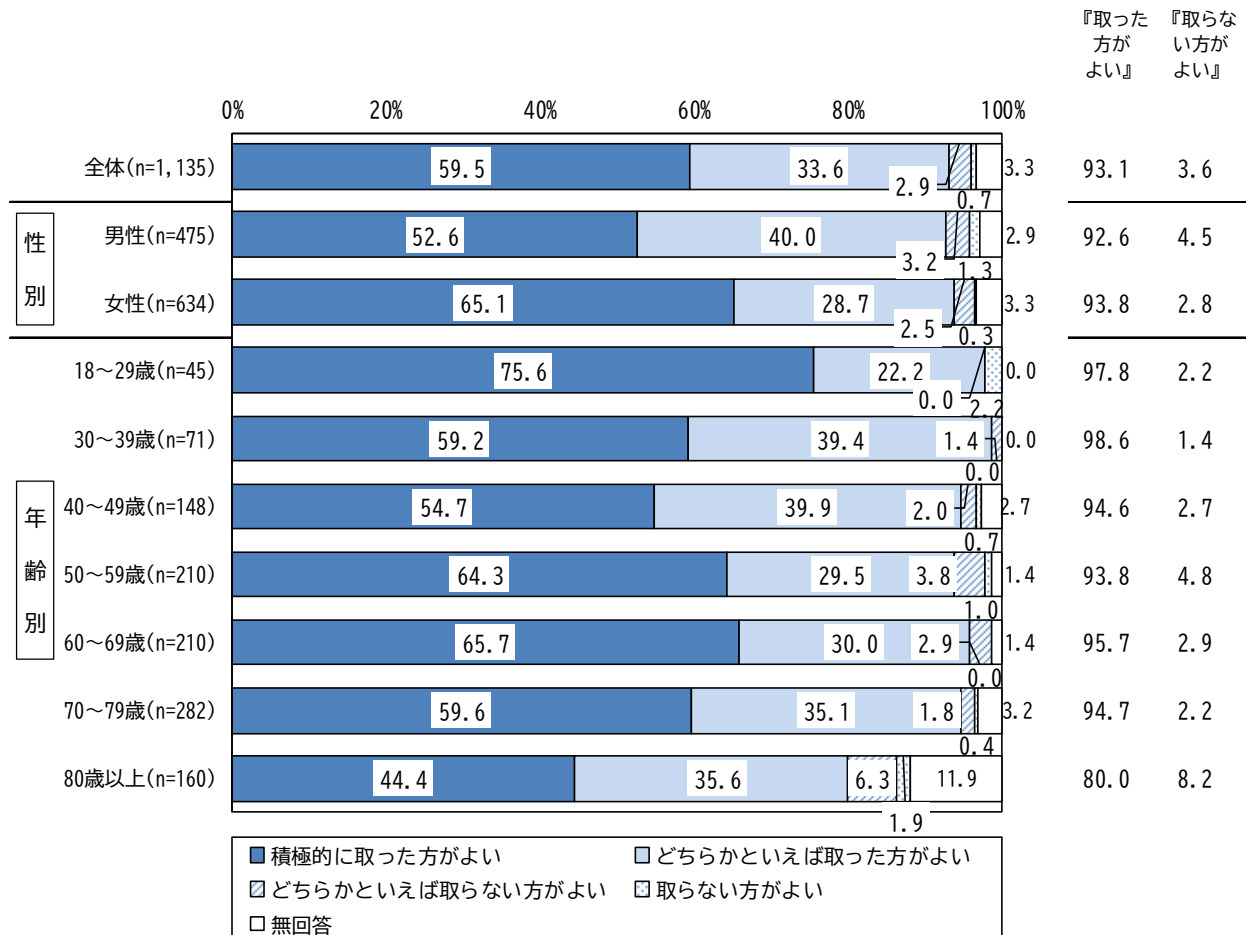


②介護休業

介護休業は、「積極的に取った方がよい」が 59.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が 33.6%となっています。

性別で比較すると、「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」を合計した『取った方がよい』は男女ともに9割台となっていますが、「積極的に取った方がよい」は女性が男性を上回ります（12.5 ポイント差）。

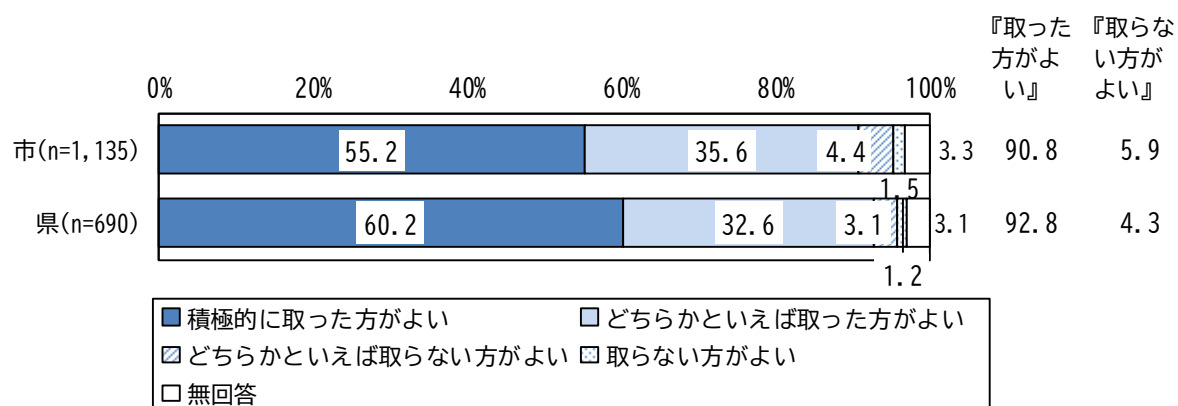
年齢別にみると、いずれの年齢も「積極的に取った方がよい」が最も高くなっています。



イ. 県調査との比較

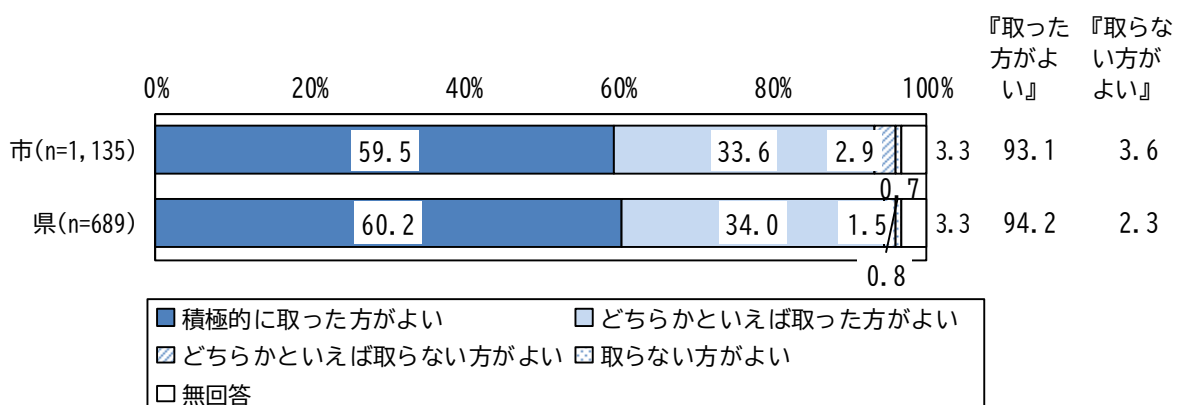
①育児休業

県の調査結果（令和6年7月実施 ※「わからない」を除き再集計）との比較では、『取った方がよい』は市・県ともに9割台となっていますが、「積極的に取った方がよい」の割合は、市が県を5.0ポイント下回ります。



②育児休業

県の調査結果（令和6年7月実施 ※「わからない」を除き再集計）との比較では、『取った方がよい』は市・県ともに9割台であり、大きな差はみられません。



（４）男性が家事・育児・介護・地域活動に参加するために必要なこと

問 26 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

「男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと」が 61.9%で最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 53.6%、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が 47.3%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」が 39.7%、「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること」が 38.1%、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのＩＣＴ（情報通信技術）を利用した多様な働き方などの普及を進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 35.8%となっています。

性別で比較すると、多くの項目で女性の割合が男性を上回ります。特に「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」と「男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」で差が大きくなっています（各 14.2／12.0／11.2 ポイント差）。

年齢別にみると、30～39 歳は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、それ以外の年齢は「男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっています。30～39 歳では、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのＩＣＴ（情報通信技術）を利用した多様な働き方などの普及を進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 47.9%と他の年齢を上回ります。

問26 今後男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

単位：％

		男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
全体(n=1,135)		61.9	17.2	53.6	39.7	38.1	47.3
性別	男性(n=475)	55.2	14.9	47.2	32.0	33.7	42.5
	女性(n=634)	67.2	19.2	58.4	46.2	40.9	51.3
年齢別	18～29歳(n=45)	62.2	28.9	46.7	37.8	40.0	53.3
	30～39歳(n=71)	54.9	22.5	59.2	36.6	40.8	56.3
	40～49歳(n=148)	63.5	16.2	48.6	44.6	42.6	56.8
	50～59歳(n=210)	64.8	15.7	42.9	39.5	39.0	48.6
	60～69歳(n=210)	65.7	18.6	61.0	41.4	41.9	53.3
	70～79歳(n=282)	59.6	14.9	56.7	35.5	34.8	36.9
	80歳以上(n=160)	59.4	16.9	56.9	42.5	30.6	41.3

		労働時間短縮や休暇制度等の普及を進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りを進めること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体(n=1,135)		35.8	19.2	15.3	2.6	1.7	2.9
性別	男性(n=475)	32.8	19.8	15.2	2.3	2.5	2.3
	女性(n=634)	37.4	18.3	15.3	2.8	0.8	3.2
年齢別	18～29歳(n=45)	44.4	22.2	15.6	2.2	2.2	0.0
	30～39歳(n=71)	47.9	21.1	18.3	4.2	1.4	0.0
	40～49歳(n=148)	39.2	18.2	17.6	4.1	0.7	0.0
	50～59歳(n=210)	36.2	15.2	14.8	3.3	2.9	1.4
	60～69歳(n=210)	35.2	17.6	14.3	4.3	1.4	1.0
	70～79歳(n=282)	32.6	20.9	12.8	0.4	1.8	4.6
	80歳以上(n=160)	30.6	21.9	18.8	1.3	1.3	9.4

9. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（１）家庭・育児・介護等の役割分担

問 27 次にあげる事柄は、主にどなたがしていますか。（それぞれ1つに○）

① 掃除、洗濯、食事の支度など

【現状】は、「主に妻」が50.2%で最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」が21.2%、「単身等で自分が行う」が10.6%、「夫と妻が同じくらい」が6.1%となっています。

性別で比較すると、「主に妻だが、夫も分担」は男性が女性を上回り（10.0ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（15.0ポイント差）。

年齢別にみると、18～29歳を除き「主に妻」が最も高くなっています。

【希望】は、「主に妻だが、夫も分担」が40.3%で最も高く、次いで「夫と妻が同じくらい」が21.9%となっています。

性別で比較すると、「主に妻」は男性が女性を上回ります（6.0ポイント差）。

年齢別にみると、18～39歳は「夫と妻が同じくらい」、40歳以上は「主に妻だが、夫も分担」が最も高くなっています。

問27 ① 掃除、洗濯、食事の支度など【現状】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	50.2	21.2	6.1	1.2	0.6	4.0	10.6	2.9	3.2
性別									
男性(n=475)	41.5	27.4	8.2	2.3	1.3	4.2	9.1	3.2	2.9
女性(n=634)	56.5	17.4	4.3	0.5	0.0	3.8	11.7	2.8	3.2
年齢別									
18～29歳(n=45)	20.0	22.2	8.9	6.7	0.0	17.8	15.6	6.7	2.2
30～39歳(n=71)	35.2	29.6	14.1	2.8	0.0	8.5	5.6	2.8	1.4
40～49歳(n=148)	48.0	23.6	10.8	0.0	0.0	9.5	6.1	1.4	0.7
50～59歳(n=210)	47.6	22.9	5.2	1.0	0.5	1.9	13.3	5.7	1.9
60～69歳(n=210)	51.4	25.2	5.2	1.0	0.0	1.4	11.4	1.9	2.4
70～79歳(n=282)	61.3	17.7	3.2	1.4	0.7	1.1	11.0	1.1	2.5
80歳以上(n=160)	49.4	13.1	5.0	0.6	2.5	4.4	10.6	3.8	10.6

問27 ① 掃除、洗濯、食事の支度など【希望】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	6.5	40.3	21.9	0.9	0.2	2.6	6.3	4.5	16.9
性別									
男性(n=475)	10.1	39.2	21.1	0.8	0.0	2.7	6.3	4.4	15.4
女性(n=634)	4.1	41.3	23.2	0.8	0.2	2.4	6.3	4.4	17.4
年齢別									
18～29歳(n=45)	2.2	20.0	31.1	2.2	0.0	8.9	13.3	15.6	6.7
30～39歳(n=71)	2.8	31.0	45.1	1.4	0.0	4.2	5.6	2.8	7.0
40～49歳(n=148)	7.4	43.9	31.1	0.7	0.0	4.7	6.1	4.7	1.4
50～59歳(n=210)	10.0	41.0	21.4	1.4	0.0	1.4	9.0	6.7	9.0
60～69歳(n=210)	5.7	46.2	23.8	0.5	0.5	1.4	7.1	3.3	11.4
70～79歳(n=282)	8.2	45.4	13.1	0.7	0.4	1.4	4.3	2.5	24.1
80歳以上(n=160)	2.5	29.4	14.4	0.6	0.0	3.1	3.1	4.4	42.5

② ゴミ出しなどの簡単な家事

【現状】は、「主に夫」が 26.1%で最も高く、次いで「主に妻」が 24.1%、「主に妻だが、夫も分担」が 11.2%、「単身等で自分が行う」が 10.6%、「主に夫だが、妻も分担」が 9.4%となっています。

性別で比較すると、「主に夫」は男性が女性を上回り（12.8 ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（13.8 ポイント差）。

年齢別にみると、18～29 歳は「その他の人」、30～49 歳と 60 歳以上は「主に夫」、50～59 歳は「主に妻」が最も高くなっています。

【希望】は、「主に夫」が 20.4%で最も高く、次いで「夫と妻が同じくらい」が 17.3%、「主に妻だが、夫も分担」が 16.7%、「主に夫だが、妻も分担」が 11.2%となっています。

性別で比較すると、「主に夫だが、妻も分担」は男性が女性を上回ります（4.6 ポイント差）。

年齢別にみると、18～39 歳と 50～59 歳は「夫と妻が同じくらい」、40～49 歳と 60 歳以上は「主に夫」が最も高くなっています。

問27 ② ゴミ出しなどの簡単な家事【現状】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		24.1	11.2	7.8	9.4	26.1	4.8	10.6	2.7	3.3
性別	男性(n=475)	16.0	12.8	8.4	9.9	33.5	3.8	9.9	2.7	2.9
	女性(n=634)	29.8	10.4	7.3	9.1	20.7	5.5	11.0	2.7	3.5
年齢別	18～29歳(n=45)	13.3	4.4	13.3	11.1	13.3	17.8	15.6	8.9	2.2
	30～39歳(n=71)	16.9	8.5	12.7	14.1	29.6	7.0	5.6	4.2	1.4
	40～49歳(n=148)	23.0	9.5	12.2	12.8	25.0	8.1	6.8	2.0	0.7
	50～59歳(n=210)	26.2	12.4	9.0	9.0	19.0	5.2	12.9	3.8	2.4
	60～69歳(n=210)	24.8	12.9	8.6	9.0	27.6	1.9	11.4	1.9	1.9
	70～79歳(n=282)	24.8	14.5	4.3	7.8	31.9	1.8	11.0	0.7	3.2
	80歳以上(n=160)	26.3	6.3	3.8	6.3	26.3	6.3	10.0	4.4	10.6

問27 ② ゴミ出しなどの簡単な家事【希望】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		3.3	16.7	17.3	11.2	20.4	3.7	5.8	4.3	17.3
性別	男性(n=475)	3.4	16.6	16.0	13.9	21.1	3.4	6.7	3.4	15.6
	女性(n=634)	3.5	17.2	18.1	9.3	20.0	3.9	5.2	4.9	17.8
年齢別	18～29歳(n=45)	2.2	4.4	28.9	6.7	13.3	8.9	13.3	15.6	6.7
	30～39歳(n=71)	2.8	9.9	26.8	14.1	25.4	4.2	4.2	5.6	7.0
	40～49歳(n=148)	0.7	14.9	25.7	13.5	28.4	6.1	5.4	4.1	1.4
	50～59歳(n=210)	6.7	18.1	21.0	11.0	17.1	4.3	8.1	5.2	8.6
	60～69歳(n=210)	3.3	21.0	17.1	11.9	24.3	2.4	6.7	3.3	10.0
	70～79歳(n=282)	3.5	18.8	9.6	12.8	19.5	1.8	4.6	2.8	26.6
	80歳以上(n=160)	1.9	13.8	11.3	5.6	13.8	4.4	2.5	3.8	43.1

③ 日々の家計の管理

【現状】は、「主に妻」が52.7%で最も高く、次いで「単身等で自分が行う」が11.4%、「夫と妻が同じくらい」が9.2%となっています。

性別で比較すると、「主に妻だが、夫も分担」は男性が女性を上回り（5.1ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（8.0ポイント差）。

年齢別にみると、いずれの年代も「主に妻」が最も高くなっています。

【希望】は、「主に妻」が24.8%で最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」が18.5%、「夫と妻が同じくらい」が17.7%、「単身等で自分が行う」が7.2%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「主に妻」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、18～39歳は「夫と妻が同じくらい」、40～79歳は「主に妻」が最も高くなっています。

問27 ③ 日々の家計の管理【現状】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	52.7	6.8	9.2	4.0	5.6	2.4	11.4	4.1	3.9
性別 男性(n=475)	48.0	9.7	9.5	4.2	8.2	2.7	10.3	4.4	2.9
女性(n=634)	56.0	4.6	9.3	3.9	3.6	2.1	12.1	3.9	4.4
年齢別 18～29歳(n=45)	26.7	0.0	15.6	4.4	6.7	15.6	15.6	13.3	2.2
30～39歳(n=71)	42.3	8.5	9.9	5.6	8.5	5.6	7.0	11.3	1.4
40～49歳(n=148)	54.7	6.1	10.1	4.7	6.1	3.4	9.5	4.7	0.7
50～59歳(n=210)	49.0	7.6	8.6	6.2	7.1	0.5	14.3	4.3	2.4
60～69歳(n=210)	53.8	6.7	12.9	4.3	4.3	1.4	11.9	2.9	1.9
70～79歳(n=282)	59.9	8.2	7.4	2.5	5.0	1.1	10.6	1.1	4.3
80歳以上(n=160)	53.1	4.4	5.0	1.9	5.0	2.5	10.6	5.0	12.5

問27 ③ 日々の家計の管理【希望】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	24.8	18.5	17.7	3.3	3.1	1.4	7.2	5.4	18.6
性別 男性(n=475)	23.2	18.9	18.1	4.2	4.0	2.1	7.4	5.3	16.8
女性(n=634)	25.7	18.5	18.1	2.8	2.4	0.8	7.3	5.2	19.2
年齢別 18～29歳(n=45)	15.6	6.7	24.4	0.0	8.9	6.7	17.8	13.3	6.7
30～39歳(n=71)	23.9	16.9	25.4	4.2	4.2	4.2	4.2	9.9	7.0
40～49歳(n=148)	29.1	24.3	20.3	2.7	4.1	2.7	8.1	7.4	1.4
50～59歳(n=210)	31.0	14.8	18.1	5.7	4.8	0.5	10.5	5.7	9.0
60～69歳(n=210)	28.6	21.0	19.5	5.7	1.4	0.5	7.6	4.3	11.4
70～79歳(n=282)	23.8	20.9	15.2	1.8	2.5	1.1	4.3	2.5	28.0
80歳以上(n=160)	12.5	15.0	11.3	1.3	1.3	0.6	5.0	5.6	47.5

④ 高額の品物の購入を決める

【現状】は、「夫と妻が同じくらい」が32.0%で最も高く、次いで「主に夫」が17.4%、「主に妻」が11.5%、「単身等で自分が行う」が11.5%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」は男性が女性を上回ります(7.2ポイント差)。年齢別にみると、いずれの年代も「夫と妻が同じくらい」が最も高くなっています。

【希望】は、「夫と妻が同じくらい」が38.3%で最も高く、次いで「主に夫だが、妻も分担」が11.4%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」は男性が女性を上回ります(5.5ポイント差)。年齢別にみると、いずれの年代も「夫と妻が同じくらい」が最も高くなっています。

問27 ④ 高額の品物の購入を決める【現状】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		11.5	6.3	32.0	8.4	17.4	1.9	11.5	5.6	5.5
性別	男性(n=475)	10.1	5.5	36.4	9.1	17.1	1.9	10.3	5.3	4.4
	女性(n=634)	12.1	6.9	29.2	7.9	17.8	1.9	12.5	5.8	5.8
年齢別	18～29歳(n=45)	11.1	4.4	26.7	2.2	13.3	8.9	20.0	11.1	2.2
	30～39歳(n=71)	4.2	7.0	39.4	5.6	16.9	5.6	7.0	11.3	2.8
	40～49歳(n=148)	14.2	5.4	32.4	12.8	15.5	2.0	12.2	5.4	0.0
	50～59歳(n=210)	13.3	8.6	30.5	10.0	15.2	1.0	14.3	4.8	2.4
	60～69歳(n=210)	11.9	5.2	37.6	6.7	19.5	1.4	12.4	3.3	1.9
	70～79歳(n=282)	11.3	5.0	29.4	10.6	21.3	1.1	9.9	4.3	7.1
	80歳以上(n=160)	8.8	6.9	30.0	3.8	13.1	1.9	8.8	8.1	18.8

問27 ④ 高額の品物の購入を決める【希望】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		5.8	6.3	38.3	11.4	6.0	1.5	7.0	5.6	18.1
性別	男性(n=475)	4.8	5.7	41.9	12.0	5.5	1.5	7.8	5.3	15.6
	女性(n=634)	6.6	6.8	36.4	11.0	6.5	1.4	6.6	5.5	19.1
年齢別	18～29歳(n=45)	4.4	0.0	37.8	6.7	4.4	4.4	17.8	17.8	6.7
	30～39歳(n=71)	4.2	4.2	50.7	9.9	5.6	4.2	5.6	8.5	7.0
	40～49歳(n=148)	8.1	8.8	46.6	9.5	8.1	2.0	9.5	6.1	1.4
	50～59歳(n=210)	8.6	9.0	38.6	11.4	6.7	0.5	10.5	6.2	8.6
	60～69歳(n=210)	5.2	7.1	43.8	12.9	7.1	2.4	7.1	3.8	10.5
	70～79歳(n=282)	5.3	4.6	34.4	14.9	5.7	0.7	3.5	2.5	28.4
	80歳以上(n=160)	3.1	4.4	25.6	7.5	2.5	0.6	3.8	7.5	45.0

⑤ 生活費を稼ぐ

【現状】は、「主に夫」が29.6%で最も高く、次いで「主に夫だが、妻も分担」が22.6%、「夫と妻が同じくらい」が14.4%、「該当しない」が11.6%、「単身等で自分が行う」が9.9%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」は男性が女性を上回り（4.7ポイント差）、「主に夫」は女性が男性を上回ります（4.2ポイント差）。

年齢別にみると、18～49歳は「主に夫だが、妻も分担」、50歳以上は「主に夫」が最も高くなっています。

【希望】は、「主に夫だが、妻も分担」が24.3%で最も高く、次いで「夫と妻が同じくらい」が20.4%、「主に夫」が15.3%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「主に夫だが、妻も分担」が最も高く、次いで「夫と妻が同じくらい」であるなど、差はみられません。

年齢別にみると、30～39歳と50～79歳は「主に夫だが、妻も分担」、40～49歳は「夫と妻が同じくらい」が最も高くなっています。

問27 ⑤ 生活費を稼ぐ【現状】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	2.5	1.2	14.4	22.6	29.6	1.8	9.9	11.6	6.3
性別									
男性(n=475)	2.1	1.5	17.1	20.6	32.0	1.3	9.5	11.6	4.4
女性(n=634)	2.8	1.1	12.3	24.6	27.8	2.1	10.3	11.8	7.3
年齢別									
18～29歳(n=45)	0.0	0.0	11.1	26.7	20.0	6.7	22.2	11.1	2.2
30～39歳(n=71)	1.4	5.6	18.3	29.6	23.9	4.2	8.5	5.6	2.8
40～49歳(n=148)	1.4	2.0	16.2	37.8	26.4	2.0	10.8	3.4	0.0
50～59歳(n=210)	2.9	1.4	15.7	26.2	31.9	1.0	15.2	3.3	2.4
60～69歳(n=210)	2.4	1.0	15.7	22.4	34.8	1.4	10.5	10.0	1.9
70～79歳(n=282)	3.2	0.7	14.2	16.0	30.5	1.1	7.1	18.4	8.9
80歳以上(n=160)	3.1	0.0	10.0	12.5	25.6	1.9	3.1	23.1	20.6

問27 ⑤ 生活費を稼ぐ【希望】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	0.5	1.6	20.4	24.3	15.3	1.1	6.7	9.9	20.1
性別									
男性(n=475)	0.4	1.5	21.9	26.1	14.5	0.6	7.6	9.7	17.7
女性(n=634)	0.6	1.7	19.9	23.2	15.8	1.4	6.2	9.9	21.3
年齢別									
18～29歳(n=45)	0.0	0.0	22.2	20.0	13.3	2.2	20.0	15.6	6.7
30～39歳(n=71)	2.8	4.2	25.4	31.0	14.1	2.8	8.5	4.2	7.0
40～49歳(n=148)	0.0	2.7	32.4	31.8	15.5	0.7	10.1	4.7	2.0
50～59歳(n=210)	0.0	1.4	25.2	29.5	18.1	1.0	10.0	4.8	10.0
60～69歳(n=210)	0.5	1.4	21.4	28.1	18.6	1.4	6.7	11.0	11.0
70～79歳(n=282)	0.7	1.1	14.9	19.1	13.5	1.1	2.8	13.8	33.0
80歳以上(n=160)	0.6	1.3	10.0	13.1	10.6	0.6	1.3	14.4	48.1

⑥ 育児、子どものしつけ

【現状】は、「該当しない」が 29.7%で最も高く、次いで「主に妻」が 19.4%、「主に妻だが、夫も分担」が 19.0%、「夫と妻が同じくらい」が 16.8%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」「主に妻だが、夫も分担」は男性が女性を上回り（各 6.1/6.0 ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（12.9 ポイント差）。

年齢別にみると、40～49 歳は「主に妻だが、夫も分担」、それ以外の年齢は「該当しない」が最も高くなっています。

【希望】は、「夫と妻が同じくらい」が 33.0%で最も高く、次いで「該当しない」が 22.4%、「主に妻だが、夫も分担」が 17.4%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「夫と妻が同じくらい」が最も高く、次いで「該当しない」、「主に妻だが、夫も分担」であるなど、差はみられません。

年齢別にみると、18～29 歳は「該当しない」、30 歳以上は「夫と妻が同じくらい」が最も高くなっています。

問27 ⑥ 育児、子どものしつけ【現状】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		19.4	19.0	16.8	1.8	0.6	0.9	2.2	29.7	9.6
性別	男性(n=475)	12.0	22.7	20.0	2.3	0.8	1.3	0.6	32.2	8.0
	女性(n=634)	24.9	16.7	13.9	1.4	0.3	0.6	3.3	28.5	10.3
年齢別	18～29歳(n=45)	24.4	11.1	13.3	2.2	2.2	4.4	4.4	35.6	2.2
	30～39歳(n=71)	14.1	22.5	19.7	5.6	0.0	2.8	1.4	29.6	4.2
	40～49歳(n=148)	22.3	30.4	21.6	1.4	0.0	1.4	3.4	18.9	0.7
	50～59歳(n=210)	20.5	21.9	18.6	1.4	1.4	0.0	4.8	28.6	2.9
	60～69歳(n=210)	22.4	17.6	20.0	1.4	0.5	0.5	1.0	32.4	4.3
	70～79歳(n=282)	16.0	16.3	14.2	2.1	0.4	0.4	1.8	34.0	14.9
	80歳以上(n=160)	18.1	11.9	10.0	0.6	0.6	1.3	0.0	29.4	28.1

問27 ⑥ 育児、子どものしつけ【希望】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		2.4	17.4	33.0	1.4	0.9	0.6	1.4	22.4	20.5
性別	男性(n=475)	2.5	17.7	34.1	1.7	0.8	0.8	0.6	23.2	18.5
	女性(n=634)	2.2	17.2	32.6	1.3	0.8	0.5	1.9	22.1	21.5
年齢別	18～29歳(n=45)	4.4	22.2	31.1	2.2	2.2	0.0	4.4	26.7	6.7
	30～39歳(n=71)	0.0	14.1	52.1	2.8	1.4	2.8	1.4	19.7	5.6
	40～49歳(n=148)	3.4	27.7	43.9	2.0	0.0	2.0	1.4	18.2	1.4
	50～59歳(n=210)	2.4	17.6	39.5	0.5	1.9	0.0	3.3	25.2	9.5
	60～69歳(n=210)	2.9	19.5	35.2	2.4	0.5	0.0	0.5	25.2	13.8
	70～79歳(n=282)	1.4	13.1	25.2	1.1	0.7	0.4	1.1	23.0	34.0
	80歳以上(n=160)	3.1	11.9	17.5	0.6	0.6	0.6	0.0	18.1	47.5

⑦ 親の世話〈介護〉

【現状】は、「該当しない」が43.4%で最も高く、次いで「主に妻」が16.6%、「夫と妻が同じくらい」が10.9%、「主に妻だが、夫も分担」が10.0%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」は男性が女性を上回り（6.3ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（11.7ポイント差）。

年齢別にみると、いずれの年齢も「該当しない」が最も高くなっています。

【希望】は、「夫と妻が同じくらい」が28.2%で最も高く、次いで「該当しない」が27.8%、「主に妻だが、夫も分担」が12.2%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「夫と妻が同じくらい」、「該当しない」が上位であるなど、差はみられません。

年齢別にみると、30～69歳は「夫と妻が同じくらい」、18～29歳と70歳以上は「該当しない」が最も高くなっています。

問27 ⑦ 親の世話〈介護〉【現状】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	单身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	16.6	10.0	10.9	1.7	1.3	1.9	4.2	43.4	10.0
性別									
男性(n=475)	9.9	10.9	14.5	1.7	2.7	2.7	3.6	45.1	8.8
女性(n=634)	21.6	8.8	8.2	1.7	0.3	1.4	4.6	42.9	10.4
年齢別									
18～29歳(n=45)	13.3	4.4	2.2	2.2	0.0	8.9	4.4	60.0	4.4
30～39歳(n=71)	4.2	5.6	9.9	2.8	0.0	1.4	5.6	66.2	4.2
40～49歳(n=148)	11.5	8.1	8.8	1.4	1.4	1.4	5.4	61.5	0.7
50～59歳(n=210)	18.1	11.4	15.7	1.4	1.4	1.9	10.5	36.2	3.3
60～69歳(n=210)	23.3	13.8	14.8	2.9	3.3	1.0	3.8	33.3	3.8
70～79歳(n=282)	15.6	9.6	10.3	1.1	0.7	1.8	1.1	44.3	15.6
80歳以上(n=160)	17.5	8.8	6.3	0.6	0.6	2.5	0.6	34.4	28.8

問27 ⑦ 親の世話〈介護〉【希望】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	单身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	1.9	12.2	28.2	1.9	0.8	2.5	3.2	27.8	21.5
性別									
男性(n=475)	1.9	12.6	30.1	1.9	0.8	2.5	3.4	27.6	19.2
女性(n=634)	1.7	12.0	27.0	2.1	0.8	2.4	3.0	28.4	22.7
年齢別									
18～29歳(n=45)	2.2	6.7	17.8	4.4	0.0	2.2	6.7	51.1	8.9
30～39歳(n=71)	1.4	5.6	38.0	2.8	0.0	2.8	5.6	38.0	5.6
40～49歳(n=148)	0.7	10.8	39.2	2.0	1.4	2.7	7.4	33.1	2.7
50～59歳(n=210)	2.9	11.4	33.8	2.4	1.9	6.2	5.7	25.7	10.0
60～69歳(n=210)	3.3	18.1	32.9	4.3	1.4	1.4	1.9	23.8	12.9
70～79歳(n=282)	1.4	11.0	20.6	0.4	0.0	1.1	0.7	28.7	36.2
80歳以上(n=160)	0.6	13.1	17.5	0.0	0.0	1.3	0.0	18.8	48.8

⑧ 自治会などの地域活動

【現状】は、「主に夫」が23.7%で最も高く、次いで「主に夫だが、妻も分担」と「該当しない」がともに15.1%、「夫と妻が同じくらい」が11.5%、「主に妻」が10.9%となっています。

性別で比較すると、主に夫だが、妻も分担は男性が女性を上回ります(4.7ポイント差)。

年齢別にみると、18～39歳は「該当しない」、40～49歳と60歳以上は「主に夫」が最も高くなっています。

【希望】は、「夫と妻が同じくらい」が23.3%で最も高く、次いで「主に夫だが、妻も分担」が19.6%、「主に夫」が11.9%、「該当しない」が11.8%となっています。

性別で比較すると、「主に夫だが、妻も分担」は男性が女性を上回ります(4.7ポイント差)。

年齢別にみると、18～39歳は「該当しない」、40～59歳は「夫と妻が同じくらい」、70～79歳は「主に夫だが、妻も分担」が最も高くなっています。60～69歳は「夫と妻が同じくらい」と「主に夫だが、妻も分担」が同率となっています。

問27 ⑧ 自治会などの地域活動【現状】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		10.9	6.3	11.5	15.1	23.7	4.1	7.3	15.1	6.1
性別	男性(n=475)	5.1	5.5	12.6	15.6	30.5	3.4	7.4	15.6	4.4
	女性(n=634)	15.3	6.6	10.7	15.3	19.1	4.4	7.1	14.5	6.9
年齢別	18～29歳(n=45)	11.1	4.4	11.1	8.9	6.7	11.1	0.0	40.0	6.7
	30～39歳(n=71)	5.6	7.0	7.0	8.5	9.9	9.9	2.8	43.7	5.6
	40～49歳(n=148)	9.5	14.2	13.5	12.2	23.6	6.8	6.1	13.5	0.7
	50～59歳(n=210)	12.9	7.1	18.1	15.2	17.6	1.9	11.0	13.3	2.9
	60～69歳(n=210)	9.5	5.7	14.3	18.1	29.0	1.9	7.6	11.0	2.9
	70～79歳(n=282)	10.6	3.5	7.1	19.5	31.6	2.8	8.9	8.9	7.1
	80歳以上(n=160)	13.1	3.1	7.5	11.3	21.9	4.4	4.4	16.3	18.1

問27 ⑧ 自治会などの地域活動【希望】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		1.2	4.9	23.3	19.6	11.9	2.8	4.0	11.8	20.4
性別	男性(n=475)	1.9	4.4	24.0	22.7	10.7	1.9	5.3	11.8	17.3
	女性(n=634)	0.8	5.4	22.9	18.0	12.9	3.5	3.0	11.5	22.1
年齢別	18～29歳(n=45)	0.0	8.9	22.2	15.6	2.2	4.4	0.0	37.8	8.9
	30～39歳(n=71)	1.4	5.6	25.4	16.9	7.0	7.0	2.8	26.8	7.0
	40～49歳(n=148)	0.0	6.1	31.1	23.6	14.9	3.4	5.4	13.5	2.0
	50～59歳(n=210)	2.4	4.3	32.4	14.3	13.3	2.4	8.1	11.9	11.0
	60～69歳(n=210)	1.0	6.7	26.2	26.2	12.9	1.9	4.8	8.1	12.4
	70～79歳(n=282)	1.4	2.8	16.0	23.4	13.8	2.8	2.1	5.7	31.9
	80歳以上(n=160)	1.3	5.0	11.9	11.3	7.5	1.9	0.6	12.5	48.1

⑨ 近所とのつきあい

【現状】は、「夫と妻が同じくらい」が29.7%で最も高く、次いで「主に妻」が20.6%、「主に妻だが、夫も分担」が13.5%、「単身等で自分が行う」が9.6%、「該当しない」が9.2%、「主に夫だが、妻も分担」が5.2%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」は男性が女性を上回り（6.4 ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（13.9 ポイント差）。

年齢別にみると、18～39歳は「該当しない」、40～79歳は「夫と妻が同じくらい」、80歳以上は「主に妻」が最も高くなっています。

【希望】は、「夫と妻が同じくらい」が41.5%で最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」が13.4%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「夫と妻が同じくらい」が最も高くなっています。

年齢別にみると、いずれの年代も「夫と妻が同じくらい」が最も高くなっています。

問27 ⑨ 近所とのつきあい【現状】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	20.6	13.5	29.7	5.2	4.7	3.3	9.6	9.2	4.2
性別									
男性(n=475)	12.6	16.0	33.7	6.7	6.7	3.4	8.0	9.5	3.4
女性(n=634)	26.5	11.7	27.3	4.1	3.2	3.3	10.7	8.8	4.4
年齢別									
18～29歳(n=45)	8.9	6.7	17.8	4.4	4.4	13.3	6.7	33.3	4.4
30～39歳(n=71)	11.3	12.7	22.5	2.8	4.2	7.0	7.0	28.2	4.2
40～49歳(n=148)	21.6	10.8	34.5	5.4	4.1	7.4	6.1	9.5	0.7
50～59歳(n=210)	19.5	15.7	28.1	4.8	4.8	3.3	11.4	10.0	2.4
60～69歳(n=210)	18.6	15.2	35.7	6.7	4.3	0.5	10.5	6.7	1.9
70～79歳(n=282)	23.0	14.2	31.6	7.1	5.7	1.4	9.6	3.9	3.5
80歳以上(n=160)	26.3	11.9	22.5	1.9	3.8	2.5	11.3	5.6	14.4

問27 ⑨ 近所とのつきあい【希望】

単位：％

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)	2.6	13.4	41.5	6.3	2.3	1.9	5.3	8.0	18.8
性別									
男性(n=475)	3.2	14.1	41.5	7.6	2.1	1.5	6.3	7.4	16.4
女性(n=634)	2.1	12.9	42.1	5.5	2.4	2.2	4.6	8.4	19.9
年齢別									
18～29歳(n=45)	0.0	8.9	42.2	4.4	2.2	4.4	4.4	24.4	8.9
30～39歳(n=71)	1.4	9.9	40.8	9.9	1.4	5.6	5.6	18.3	7.0
40～49歳(n=148)	2.7	11.5	56.8	6.8	2.0	2.7	5.4	10.1	2.0
50～59歳(n=210)	3.8	13.8	44.8	5.2	3.8	1.4	8.6	9.5	9.0
60～69歳(n=210)	2.4	16.7	45.2	7.6	2.4	1.0	6.2	7.1	11.4
70～79歳(n=282)	2.8	12.4	38.7	7.4	2.5	1.4	2.8	2.1	29.8
80歳以上(n=160)	1.9	15.0	23.1	2.5	0.6	1.9	3.8	6.9	44.4

⑩ 子どもの行事への参加

【現状】は、「該当しない」が 36.9%で最も高く、次いで「主に妻」が 18.7%、「主に妻だが、夫も分担」が 15.2%、「夫と妻が同じくらい」が 13.8%となっています。

性別で比較すると、「夫と妻が同じくらい」は男性が女性を上回り（7.7 ポイント差）、「主に妻」は女性が男性を上回ります（14.3 ポイント差）。

年齢別にみると、40～49 歳は「主に妻」、それ以外の年齢は「該当しない」が最も高くなっています。

【希望】は「夫と妻が同じくらい」が 30.4%で最も高く、次いで「該当しない」が 27.5%、「主に妻だが、夫も分担」が 14.6%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「夫と妻が同じくらい」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、18～69 歳は「夫と妻が同じくらい」、70 歳以上は「該当しない」が最も高くなっています（60～69 歳は「該当しない」も同率）。

問27 ⑩ 子どもの行事への参加【現状】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		18.7	15.2	13.8	1.5	1.2	0.7	2.4	36.9	9.6
性別	男性(n=475)	10.3	17.3	18.3	1.5	2.5	0.6	1.5	40.2	7.8
	女性(n=634)	24.6	13.9	10.6	1.6	0.3	0.8	2.8	34.9	10.6
年齢別	18～29歳(n=45)	17.8	20.0	11.1	2.2	0.0	4.4	0.0	40.0	4.4
	30～39歳(n=71)	14.1	22.5	12.7	2.8	0.0	1.4	0.0	39.4	7.0
	40～49歳(n=148)	28.4	22.3	19.6	1.4	1.4	0.7	4.1	22.3	0.0
	50～59歳(n=210)	21.0	17.6	14.3	1.4	1.4	0.0	4.3	36.2	3.8
	60～69歳(n=210)	17.1	15.7	16.7	3.3	0.5	0.0	2.4	40.0	4.3
	70～79歳(n=282)	16.7	9.6	13.1	0.7	0.7	0.4	1.4	42.9	14.5
	80歳以上(n=160)	14.4	9.4	7.5	0.0	3.1	1.9	1.3	36.3	26.3

問27 ⑩ 子どもの行事への参加【希望】

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
全体(n=1,135)		1.8	14.6	30.4	2.2	0.9	0.4	1.5	27.5	20.8
性別	男性(n=475)	1.3	14.9	31.6	2.1	0.4	0.4	1.3	28.8	19.2
	女性(n=634)	2.2	13.9	30.1	2.4	1.3	0.3	1.6	26.8	21.5
年齢別	18～29歳(n=45)	2.2	15.6	40.0	2.2	0.0	0.0	0.0	31.1	8.9
	30～39歳(n=71)	0.0	16.9	46.5	4.2	0.0	1.4	0.0	23.9	7.0
	40～49歳(n=148)	3.4	25.0	45.3	1.4	0.7	0.7	2.0	19.6	2.0
	50～59歳(n=210)	1.4	15.2	34.3	1.4	1.9	0.0	2.9	32.4	10.5
	60～69歳(n=210)	1.4	18.6	30.0	4.3	0.5	0.0	1.4	30.0	13.8
	70～79歳(n=282)	2.5	8.2	22.7	1.8	0.0	0.4	1.1	30.5	33.0
	80歳以上(n=160)	0.6	9.4	15.6	1.3	2.5	0.6	0.6	21.3	48.1

〈経年比較〉

経年比較でみると、〈③日々の家計の管理〉で「主に妻」、〈⑤生活費を稼ぐ〉で「主に夫」がともに 5.0 ポイント以上低下しています。反対に〈②ゴミ出しなどの簡単な家事〉では「主に夫」が 5.2 ポイント上昇しています。

問27 主にしている人【現状】経年比較

単位：％

		主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない	無回答
①掃除、洗濯、食事の支度など	令和6年度(n=1,135)	50.2	21.2	6.1	1.2	0.6	4.0	10.6	2.9	3.2
	令和元年度(n=751)	51.4	22.2	5.3	0.8	0.9	3.5	9.2	2.7	4.0
②ゴミ出しなどの簡単な家事	令和6年度(n=1,135)	24.1	11.2	7.8	9.4	26.1	4.8	10.6	2.7	3.3
	令和元年度(n=751)	26.4	16.6	8.0	7.2	20.9	4.8	9.5	2.5	4.1
③日々の家計の管理	令和6年度(n=1,135)	52.7	6.8	9.2	4.0	5.6	2.4	11.4	4.1	3.9
	令和元年度(n=751)	58.2	7.9	6.1	1.5	5.6	2.5	10.4	3.5	4.4
④高額の商品の購入を決める	令和6年度(n=1,135)	11.5	6.3	32.0	8.4	17.4	1.9	11.5	5.6	5.5
	令和元年度(n=751)	10.3	6.7	31.8	12.4	17.6	2.4	10.1	3.9	4.9
⑤生活費を稼ぐ	令和6年度(n=1,135)	2.5	1.2	14.4	22.6	29.6	1.8	9.9	11.6	6.3
	令和元年度(n=751)	3.6	0.9	10.8	24.4	35.4	1.5	9.2	9.6	4.7
⑥育児、子どものしつけ	令和6年度(n=1,135)	19.4	19.0	16.8	1.8	0.6	0.9	2.2	29.7	9.6
	令和元年度(n=751)	19.2	22.9	20.0	1.2	0.7	0.9	1.9	26.8	6.5
⑦親の世話（介護）	令和6年度(n=1,135)	16.6	10.0	10.9	1.7	1.3	1.9	4.2	43.4	10.0
	令和元年度(n=751)	15.4	13.6	11.6	2.5	1.2	2.8	2.8	43.7	6.4
⑧自治会などの地域活動	令和6年度(n=1,135)	10.9	6.3	11.5	15.1	23.7	4.1	7.3	15.1	6.1
	令和元年度(n=751)	10.5	8.3	14.1	16.8	21.6	4.4	6.1	13.3	4.9
⑨近所とのつきあい	令和6年度(n=1,135)	20.6	13.5	29.7	5.2	4.7	3.3	9.6	9.2	4.2
	令和元年度(n=751)	19.3	17.3	30.0	5.7	3.2	4.5	7.3	8.1	4.5
⑩子どもの行事への参加	令和6年度(n=1,135)	18.7	15.2	13.8	1.5	1.2	0.7	2.4	36.9	9.6
	令和元年度(n=751)	20.1	19.6	13.6	2.4	1.2	1.1	2.0	34.0	6.1

(2) 介護が必要になった時に希望する介護者

問 28 あなたが、もし介護が必要になった時、誰に介護してほしいですか。(1つに○)

「介護施設に入り介護してもらう」が39.2%で最も高く、次いで「配偶者（又はパートナー）に介護してもらう」が28.2%、「ホームヘルパー（家事援助者）に介護してもらう」が17.5%、「子どもに介護してもらう」が9.1%となっています。

性別で比較すると、「配偶者（又はパートナー）に介護してもらう」は男性が女性を大きく上回り（26.8 ポイント差）、「介護施設に入り介護してもらう」と「ホームヘルパー（家事援助者）に介護してもらう」は女性が男性を上回ります（各12.4/10.0 ポイント差）。

年齢別にみると、いずれの年齢も「介護施設に入り介護してもらう」が最も高くなっています。

問28 もし介護が必要になった時誰に介護してほしいか

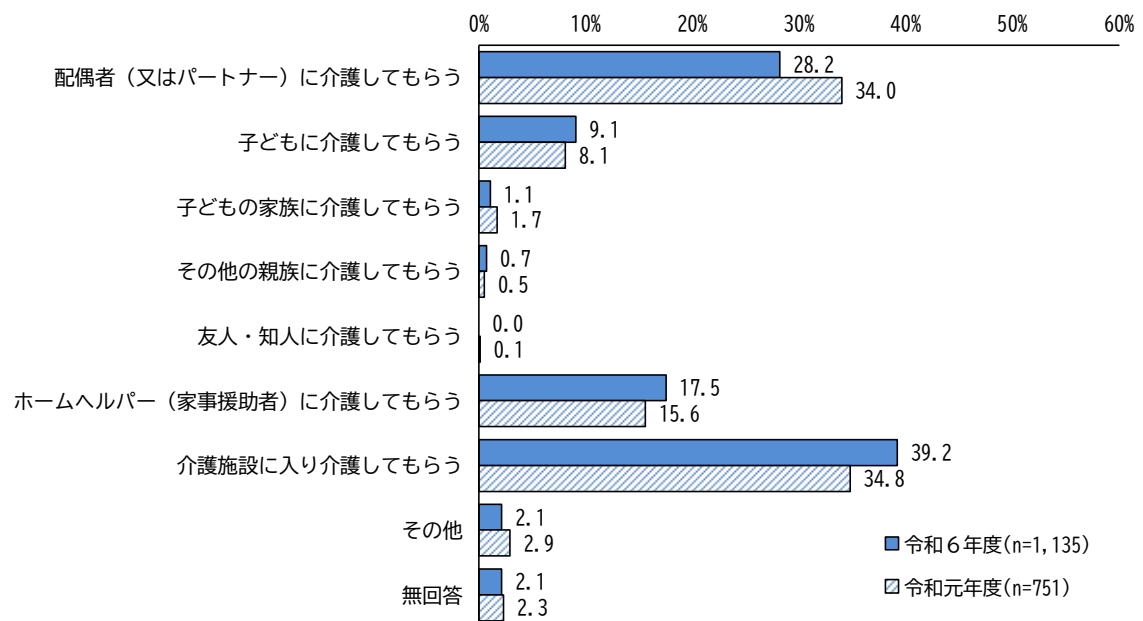
単位：％

		配偶者（又はパートナー）に介護してもらう	子どもに介護してもらう	子どもの家族に介護してもらう	その他の親族に介護してもらう	友人・知人に介護してもらう
性 別	全体(n=1,135)	28.2	9.1	1.1	0.7	0.0
	男性(n=475)	43.8	5.1	1.5	1.1	0.0
性 別	女性(n=634)	17.0	12.1	0.8	0.5	0.0
年 齢 別	18～29歳(n=45)	26.7	4.4	2.2	2.2	0.0
	30～39歳(n=71)	29.6	2.8	0.0	1.4	0.0
	40～49歳(n=148)	30.4	9.5	0.7	1.4	0.0
	50～59歳(n=210)	23.8	5.7	0.0	0.5	0.0
	60～69歳(n=210)	29.0	6.7	0.5	0.5	0.0
	70～79歳(n=282)	33.7	8.2	0.7	0.4	0.0
	80歳以上(n=160)	21.3	22.5	4.4	0.6	0.0

		ホームヘルパー（家事援助者）に介護してもらう	介護施設に入り介護してもらう	その他	無回答
性 別	全体(n=1,135)	17.5	39.2	2.1	2.1
	男性(n=475)	11.8	31.8	2.9	2.1
性 別	女性(n=634)	21.8	44.2	1.6	2.1
年 齢 別	18～29歳(n=45)	13.3	46.7	2.2	2.2
	30～39歳(n=71)	14.1	47.9	1.4	2.8
	40～49歳(n=148)	16.2	38.5	3.4	0.0
	50～59歳(n=210)	27.6	39.0	2.4	1.0
	60～69歳(n=210)	18.1	42.4	2.4	0.5
	70～79歳(n=282)	15.2	37.6	1.4	2.8
	80歳以上(n=160)	10.6	32.5	1.9	6.3

〈経年比較〉

経年比較でみると、「配偶者（又はパートナー）に介護してもらう」は 5.8 ポイント低下、「介護施設に入り介護してもらう」は 4.4 ポイント上昇しています。



(3) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場・家庭・地域での取り組み

問 29 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するために、職場・家庭・地域で必要だと思う取り組みは何ですか。（○はいくつでも）

「職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさ、休みの取りやすさなど）」が 45.1%で最も高く、次いで「保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されていること」が 39.6%、「育児休業や短時間勤務など、仕事と家事・育児・介護を両立するための制度が整備されていること」が 37.5%、「配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること」が 33.0%、「育児休業や短時間勤務といった制度の利用が、キャリアにおけるハンデとならないこと」が 28.0%、「仕事のやり方が変わること」が 23.3%となっています。

性別で比較すると、「仕事の量が少なくなること」は男性が女性を上回り（11.9 ポイント差）、「配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること」は女性が男性を大きく上回ります（27.5 ポイント差）。

年齢別にみると、18～69 歳は「職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさ、休みの取りやすさなど）」、70 歳以上は「保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されていること」が最も高くなっています。

問29 ワーク・ライフ・バランスを実現するために職場・家庭・地域で必要な取り組み

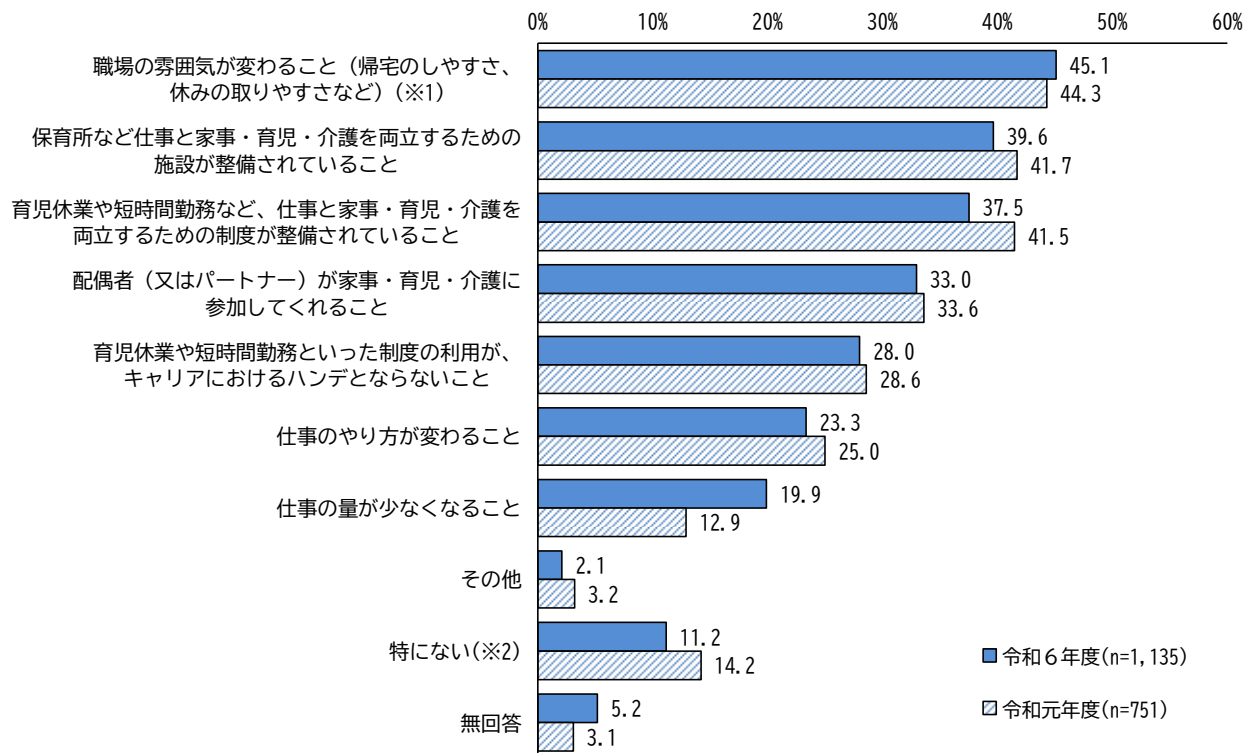
単位：％

		仕事のやり方が変わること	仕事の量が少なくなること	職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさ、休みの取りやすさなど）	配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること	育児休業や短時間勤務など、仕事と家事・育児・介護を両立するための制度が整備されていること
全体(n=1,135)		23.3	19.9	45.1	33.0	37.5
性別	男性(n=475)	25.1	26.7	40.4	17.3	32.8
	女性(n=634)	22.2	14.8	48.1	44.8	40.7
年齢別	18～29歳(n=45)	33.3	42.2	62.2	42.2	51.1
	30～39歳(n=71)	43.7	39.4	59.2	28.2	39.4
	40～49歳(n=148)	29.1	30.4	52.0	31.1	39.9
	50～59歳(n=210)	27.6	23.3	52.4	30.0	38.1
	60～69歳(n=210)	24.8	19.0	46.7	37.1	41.0
	70～79歳(n=282)	15.2	10.6	34.4	33.3	34.4
	80歳以上(n=160)	13.1	8.1	35.6	31.3	31.3

		育児休業や短時間勤務といった制度の利用が、キャリアにおけるハンデとならないこと	保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されていること	その他	特にない	無回答
全体(n=1,135)		28.0	39.6	2.1	11.2	5.2
性別	男性(n=475)	25.9	34.7	2.3	15.2	4.2
	女性(n=634)	29.3	43.7	1.9	8.0	5.7
年齢別	18～29歳(n=45)	37.8	51.1	2.2	6.7	0.0
	30～39歳(n=71)	36.6	33.8	4.2	5.6	1.4
	40～49歳(n=148)	33.8	41.2	2.7	4.7	0.0
	50～59歳(n=210)	27.6	36.2	2.9	7.6	0.5
	60～69歳(n=210)	28.6	44.3	3.3	6.7	0.5
	70～79歳(n=282)	22.0	38.3	0.7	19.5	6.7
	80歳以上(n=160)	26.3	38.1	0.6	16.9	21.9

〈経年比較〉

経年比較でみると、「仕事の量が少なくなること」は7.0ポイント上昇しています。



※1：令和元年度（前回調査）では「職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさなど）」

※2：令和元年度（前回調査）では「特にない・わからない」

(4) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

① ワーク・ライフ・バランスの希望

問 30 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。学生においては、仕事を学業とおきかえてお答えください。(1つに○)

【理想】は、『家庭生活』を優先したいが31.8%で最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが28.0%、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが12.2%、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが10.8%となっています。

性別で比較すると、『仕事』を優先したいは男性が女性を上回ります(8.1ポイント差)。

年齢別にみると、18～29歳と40～59歳は『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい、30～39歳と60歳以上は『家庭生活』を優先したいが最も高くなっています。

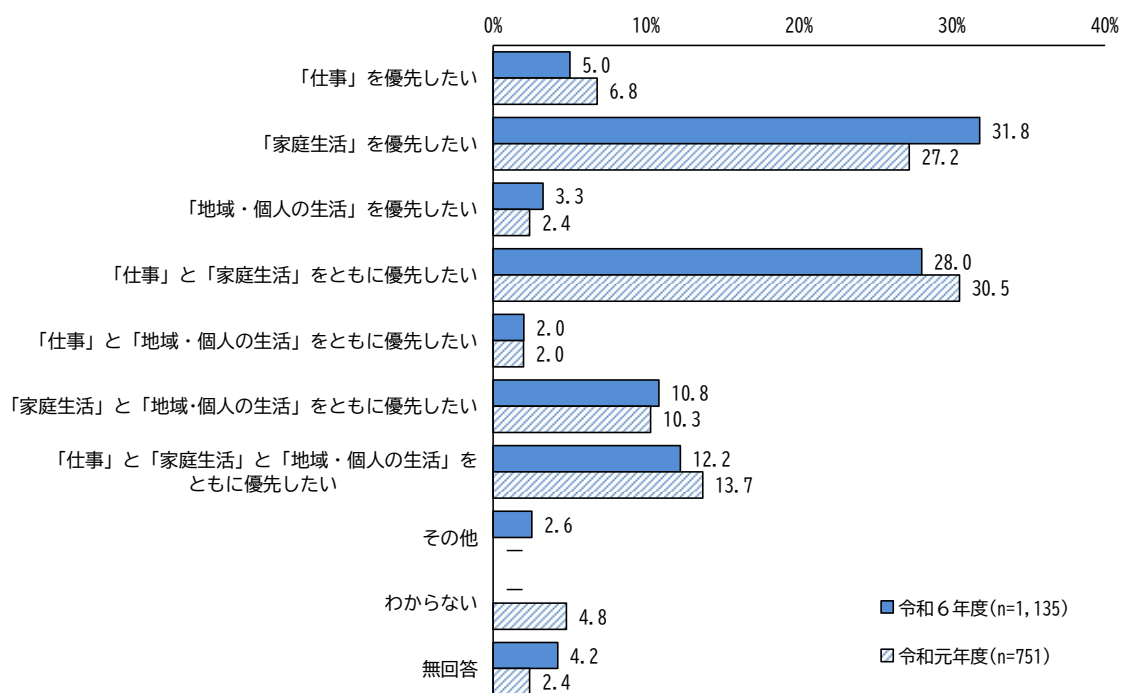
問30 ワークライフバランス【理想】

単位：%

		「仕事」 を優先し たい	「家庭生 活」を優 先したい	「地域・ 個人の生 活」を優 先したい	「仕事」 と「家庭 生活」を ともに優 先したい	「仕事」 と「地 域・個人 の生活」 をともに 優先した い	「家庭生 活」と 「地域・ 個人の生 活」をと もに優先 したい	「仕事」 と「家庭 生活」と 「地域・ 個人の生 活」をと もに優先 したい	その他	無回答
全体(n=1,135)		5.0	31.8	3.3	28.0	2.0	10.8	12.2	2.6	4.2
性別	男性(n=475)	9.5	29.5	3.4	28.0	2.5	10.7	10.1	2.9	3.4
	女性(n=634)	1.4	33.8	3.0	28.2	1.7	10.9	13.9	2.4	4.7
年齢別	18～29歳(n=45)	6.7	28.9	6.7	35.6	2.2	8.9	8.9	2.2	0.0
	30～39歳(n=71)	4.2	46.5	2.8	22.5	2.8	7.0	9.9	2.8	1.4
	40～49歳(n=148)	4.7	31.8	0.7	40.5	0.7	8.1	11.5	2.0	0.0
	50～59歳(n=210)	7.6	32.9	3.3	34.8	1.0	2.9	17.1	0.0	0.5
	60～69歳(n=210)	5.7	31.0	2.4	29.0	2.9	11.0	13.8	3.3	1.0
	70～79歳(n=282)	2.8	31.2	5.7	22.0	2.8	15.6	11.0	2.5	6.4
	80歳以上(n=160)	5.0	25.6	1.9	17.5	1.9	16.9	9.4	5.6	16.3

〈経年比較〉

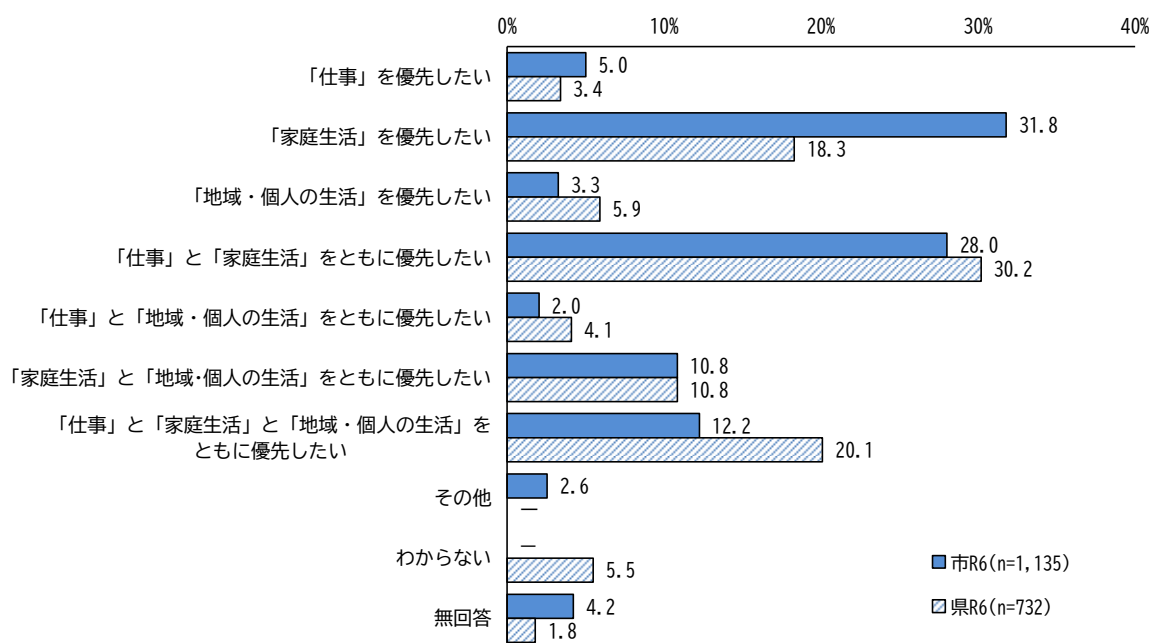
前回調査とは選択肢が異なるため※参考での比較となりますが、『家庭生活』を優先したい」が上昇しています。



※令和元年度（前回調査）では「その他」はなく「わからない」

〈県調査との比較〉

県調査とは選択肢が異なるため※参考での比較となりますが、『家庭生活』を優先したい」割合は、市が県を大きく上回ります。



※県・令和6年度調査では「その他」はなく「わからない」

② ワーク・ライフ・バランスの現実（現状）

問31 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

【現実】は、『家庭生活』を優先している」が 32.2%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 22.6%、『仕事』を優先している」が 20.4%、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が 7.6%、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が 4.3%、『地域・個人の生活』を優先している」が 4.1%となっています。

性別で比較すると、『仕事』を優先している」は男性が女性を上回り（16.7 ポイント差）、『家庭生活』を優先している」は女性が男性を上回ります（14.5 ポイント差）。

年齢別にみると、18～29 歳と 50～59 歳は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」、30～49 歳と 60 歳以上は『家庭生活』を優先している」が最も高くなっています。

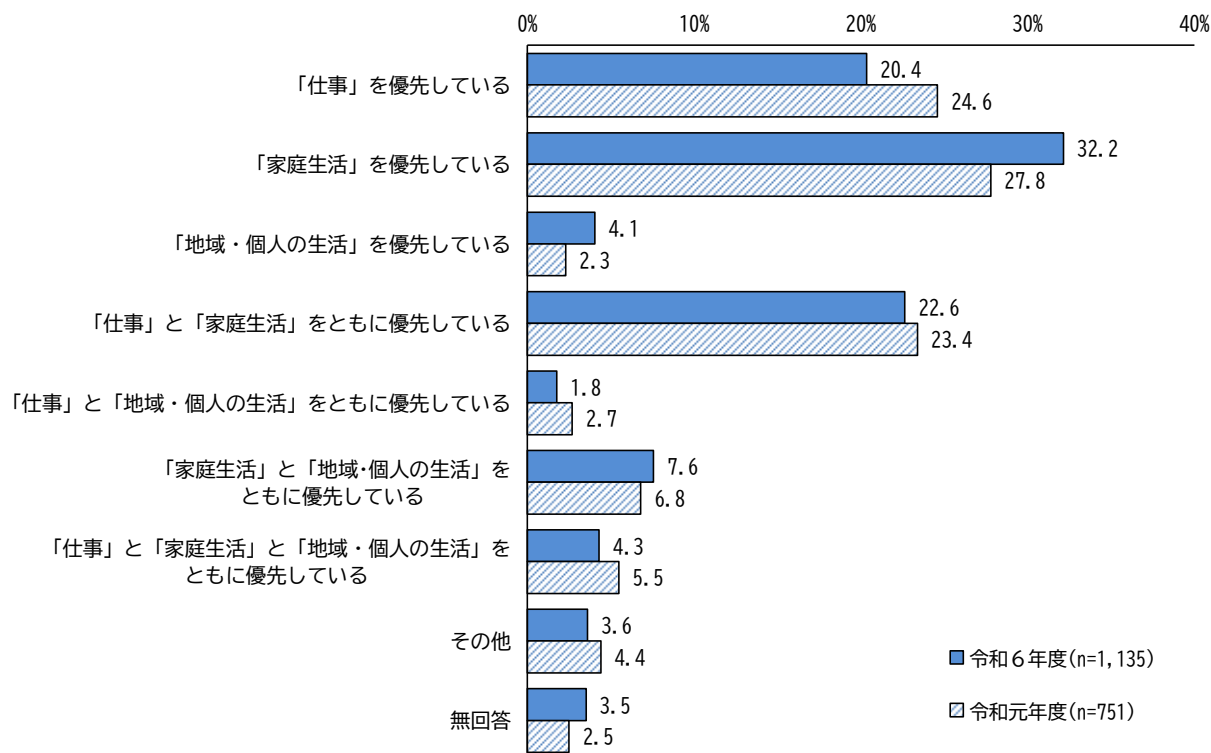
問30 ワークライフバランス【現実】

単位：％

		「仕事」 を優先し ている	「家庭生 活」を優 先してい る	「地域・ 個人の生 活」を優 先してい る	「仕事」 と「家庭 生活」を ともに優 先してい る	「仕事」 と「地 域・個人 の生活」 をともに 優先して いる	「家庭生 活」と 「地域・ 個人の生 活」をと もに優先 している	「仕事」 と「家庭 生活」と 「地域・ 個人の生 活」をと もに優先 している	その他	無回答
全体(n=1,135)		20.4	32.2	4.1	22.6	1.8	7.6	4.3	3.6	3.5
性別	男性(n=475)	29.9	24.0	4.2	19.6	2.7	6.7	5.9	4.0	2.9
	女性(n=634)	13.2	38.5	3.6	24.9	1.1	8.4	3.3	3.3	3.6
年齢別	18～29歳(n=45)	31.1	13.3	2.2	35.6	6.7	4.4	4.4	2.2	0.0
	30～39歳(n=71)	39.4	29.6	5.6	18.3	0.0	1.4	1.4	2.8	1.4
	40～49歳(n=148)	35.1	20.9	0.7	31.8	1.4	2.7	6.1	1.4	0.0
	50～59歳(n=210)	32.9	23.3	1.9	34.3	2.4	1.0	2.9	1.0	0.5
	60～69歳(n=210)	17.6	33.3	3.8	25.7	1.4	6.7	6.2	2.9	2.4
	70～79歳(n=282)	6.7	41.1	7.4	14.9	1.1	15.6	4.6	4.6	3.9
	80歳以上(n=160)	6.9	41.9	4.4	7.5	2.5	11.3	3.1	9.4	13.1

〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※参考での比較となりますが、「『仕事』を優先している」が低下し、「『家庭生活』を優先している」が上昇しています。



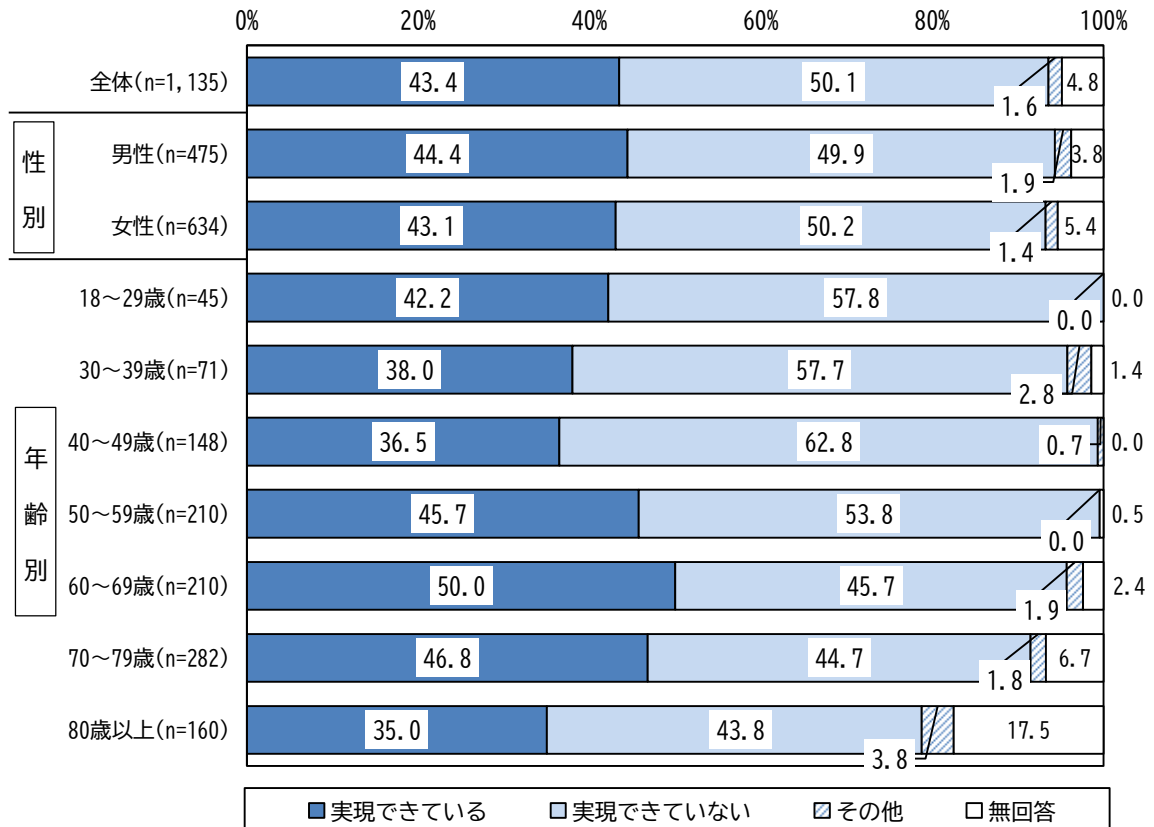
※令和元年度（前回調査）では「その他」はなく「わからない」

③ ワーク・ライフ・バランスが実現できているか

問 30 の【理想】と問 31 の【現実】よりワーク・ライフ・バランスが実現できているかを算出したところ、「実現できていない」の 50.1%が「実現できている」の 43.4%を上回っています。

性別で比較すると、男女ともに「実現できていない」人が多く、差はみられません。

年齢別にみると、「実現できている」は 30～49 歳で 3 割台と低くなっています。



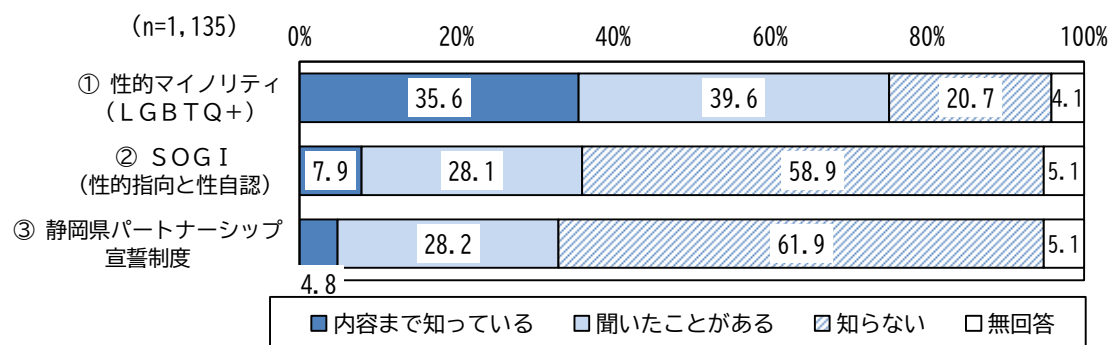
10. 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティに関する用語等の認知度

問 32 あなたは次の事柄について知っていますか。(1つに○)

性的マイノリティに関する用語等の認知度について、＜①性的マイノリティ（LGBTQ+）＞は「聞いたことがある」と「内容まで知っている」がともに3割台となっています。＜②SOGI（性的指向と性自認）＞と＜③静岡県パートナーシップ宣誓制度＞は「知らない」が約6割と高くなっています。

ア. 全体の結果



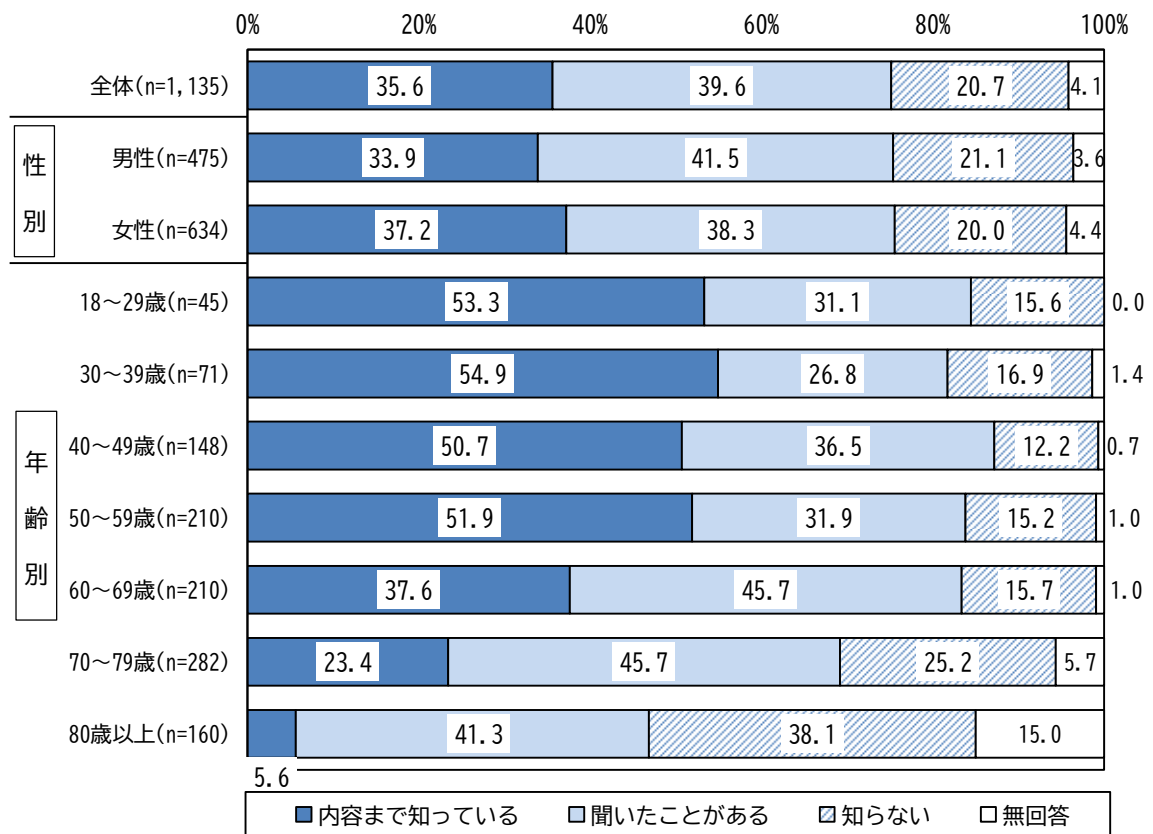
イ. 性別・年齢別の結果

①性的マイノリティ（LGBTQ+）

「聞いたことがある」が39.6%で最も高く、次いで「内容まで知っている」が35.6%、「知らない」が20.7%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「聞いたことがある」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、18～59歳は「内容まで知っている」、60歳以上は「聞いたことがある」が最も高くなっています。

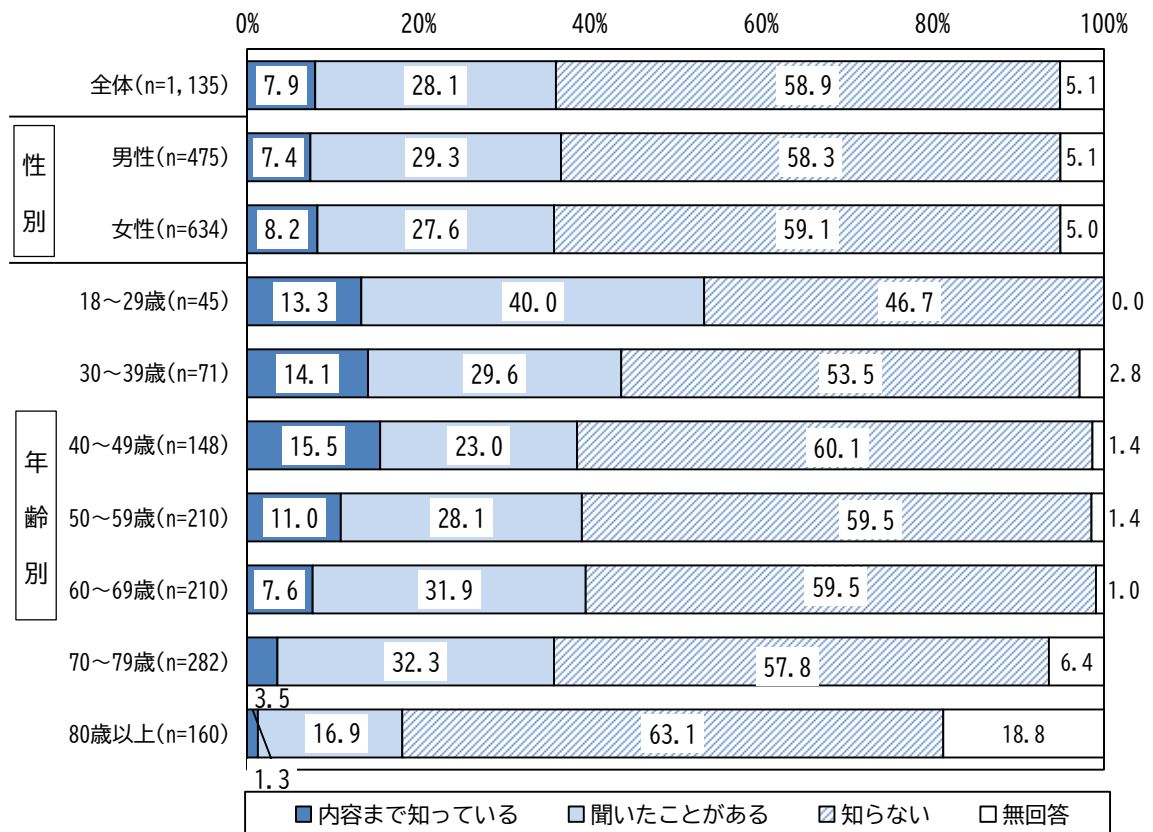


②SOG I（性的指向と性自認）

「知らない」が58.9%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が28.1%、「内容まで知っている」が7.9%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、いずれの年齢も「知らない」が最も高くなっています。

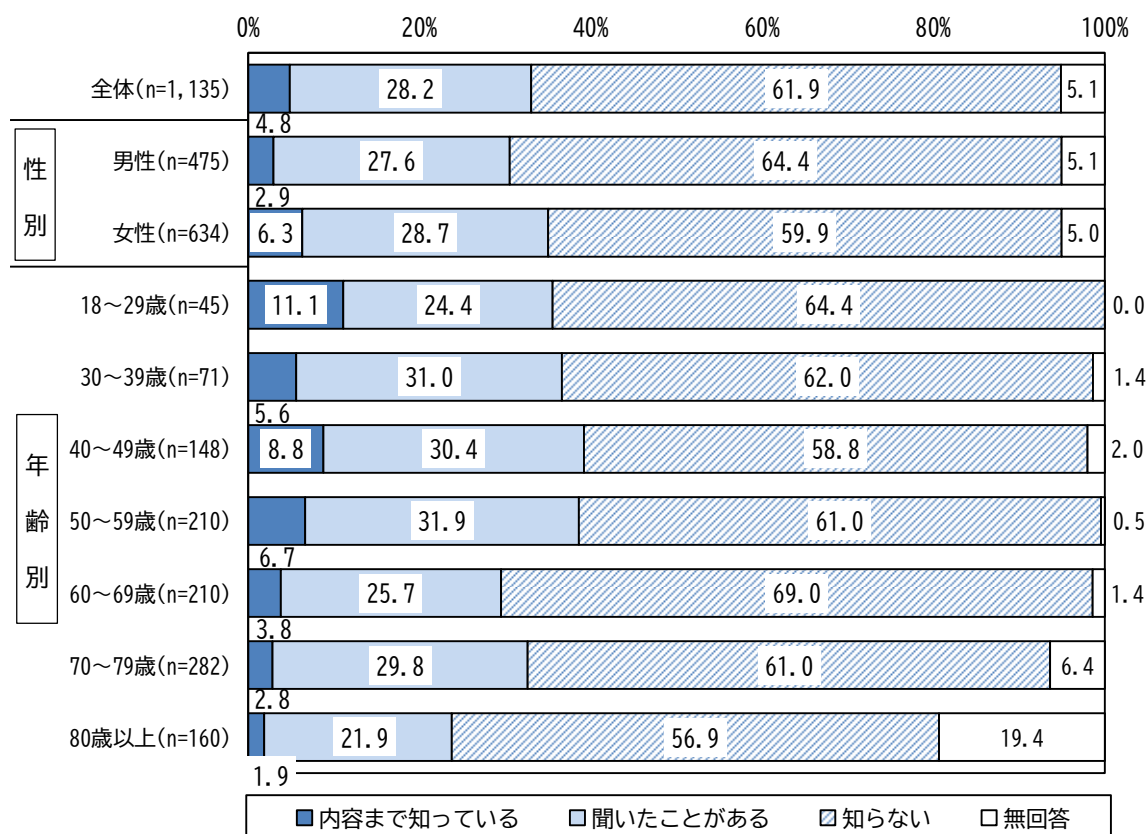


③静岡県パートナーシップ宣誓制度

「知らない」が61.9%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が28.2%、「内容まで知っている」が4.8%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年齢別にみると、いずれの年齢も「知らない」が最も高くなっています。



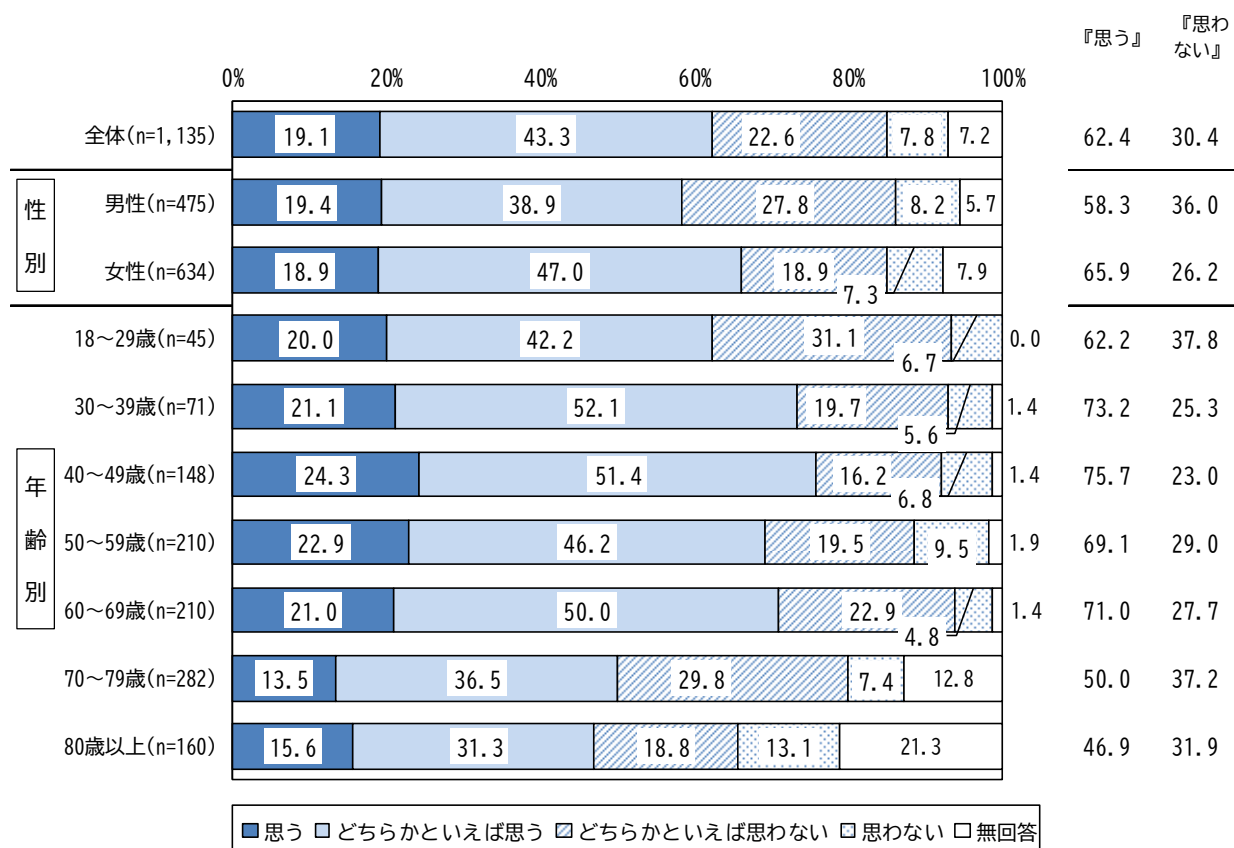
(2) 性的マイノリティの当事者が生活しづらい社会だと思うか

問 33 現在の状況は、性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

「どちらかといえば思う」が43.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば思わない」が22.6%、「思う」が19.1%、「思わない」が7.8%となっています。

性別で比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した『思う』は女性が男性を上回ります（7.6ポイント差）。

年齢別でみると、『思う』は30～49歳と60～69歳で7割を超え高くなっています。



(3) 性的マイノリティの当事者に対して必要だと思う対策

問 34 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が42.5%で最も高く、次いで「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が42.2%、「生徒や市民への対応を想定し、小中校などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が39.1%、「相談窓口を充実させ、その存在を周知する」が33.2%、「行政が市民等へ周知啓発を行う」が29.7%、「当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う」が21.0%となっています。

性別で比較すると、「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」は男性が女性を上回り（7.4 ポイント差）、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」は女性が男性を上回ります（11.7 ポイント差）。

年齢別でみると、18～29歳と50～59歳、80歳以上は「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」、30～49歳は「生徒や市民への対応を想定し、小中校などの学校教員や行政職員への研修等を行う」、60～79歳は「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が最も高くなっています。

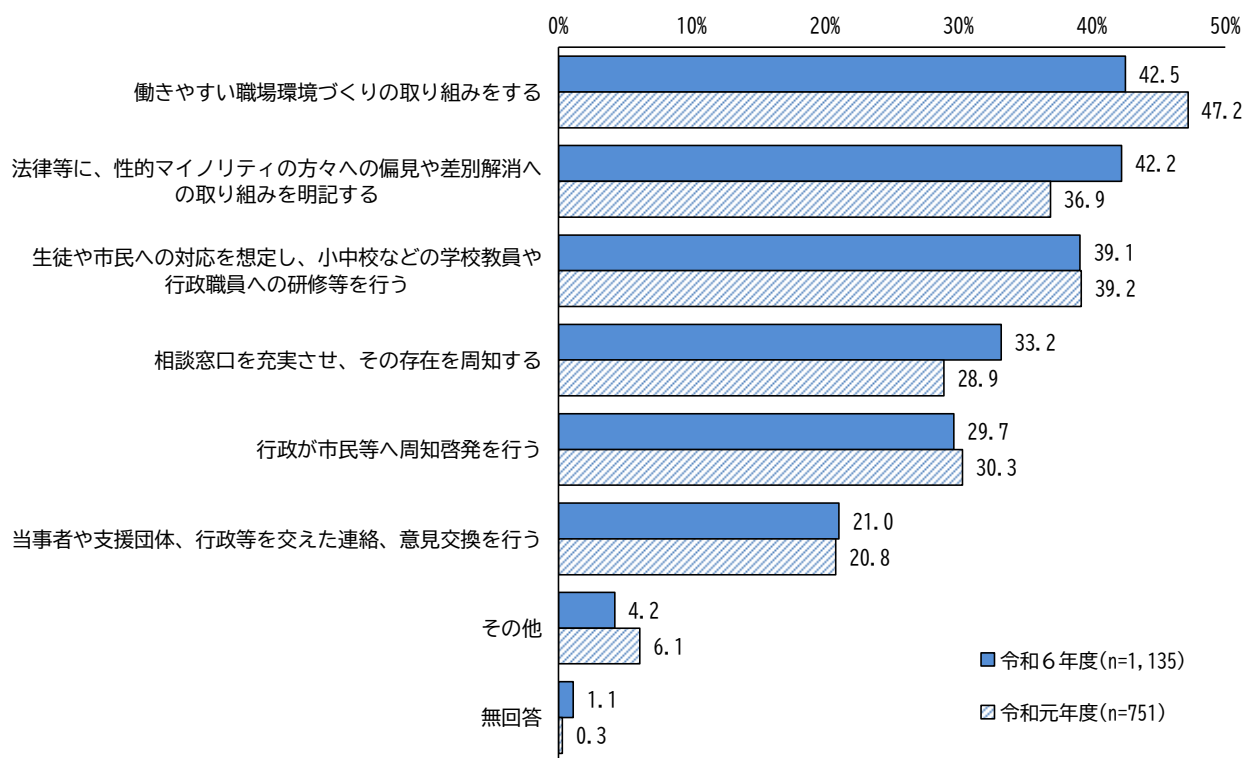
問34 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策

単位：%

		行政が市民等へ周知啓発を行う	相談窓口を充実させ、その存在を周知する	生徒や市民への対応を想定し、小中校などの学校教員や行政職員への研修等を行う	法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する	当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	その他	無回答
全体(n=708)		29.7	33.2	39.1	42.2	21.0	42.5	4.2	1.1
性別	男性(n=277)	32.1	34.7	35.7	46.9	20.9	35.4	3.6	1.1
	女性(n=418)	28.2	32.5	40.9	39.5	21.3	47.1	4.8	1.0
年齢別	18～29歳(n=28)	10.7	25.0	35.7	32.1	32.1	46.4	10.7	0.0
	30～39歳(n=52)	21.2	36.5	50.0	34.6	17.3	38.5	7.7	0.0
	40～49歳(n=112)	24.1	21.4	43.8	39.3	25.0	41.1	8.0	1.8
	50～59歳(n=145)	28.3	34.5	42.1	37.9	18.6	46.9	3.4	0.0
	60～69歳(n=149)	32.2	34.9	38.9	45.0	20.8	39.6	2.7	1.3
	70～79歳(n=141)	30.5	34.0	34.0	53.2	15.6	39.0	2.8	2.1
	80歳以上(n=75)	44.0	45.3	28.0	37.3	29.3	49.3	1.3	1.3

〈経年比較〉

前回調査とは選択肢が異なるため※参考での比較となりますが、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が低下し、「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」や「相談窓口を充実させ、その存在を周知する」が上昇しています。



※令和元年度（前回調査）では選択肢「わからない」を含む。

（４）男女共同参画の実現を目指し市で取り組むべき重点項目

問 35 男女共同参画社会の実現をめざして、市では、今後どのようなことに重点を置いて取り組んだらよいと思いますか。（○はいくつでも）

「子育てや介護への支援の充実」が 44.9%で最も高く、次いで「性別にかかわらず多様な選択を可能にする教育・学習の推進」が 44.5%、「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」が 44.1%、「男女共同参画についての理解を深める広報・啓発」が 38.4%、「働き方の見直しや男女の雇用機会の均等の推進」が 31.2%、「障害者・外国人市民・ひとり親世帯など生活に困難を抱える人が安心して暮らすための支援」が 29.1%となっています。

性別で比較すると、「男女共同参画についての理解を深める広報・啓発」は男性が女性を上回り（13.5 ポイント差）、「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」と「子育てや介護への支援の充実」は女性が男性を上回ります（各 16.4／13.5 ポイント差）。

年齢別でみると、18～29 歳と 80 歳以上は「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」、30～69 歳は「性別にかかわらず多様な選択を可能にする教育・学習の推進」、70～79 歳は「男女共同参画についての理解を深める広報・啓発」が最も高くなっています。

問35 男女共同参画社会の実現をめざして市が今後重点を置いて取り組むこと

単位：％

		男女共同参画についての理解を深める広報・啓発	性別にかかわらず多様な選択を可能にする教育・学習の推進	SDGsにおけるジェンダー平等など国際理解の推進	市の審議会や管理職への女性の積極的登用の推進	事業所等における女性の登用促進や女性の人材育成の推進	地域活動における男女共同参画の推進	男女共同参画の視点を取り入れた防災活動の推進
全体(n=1,135)		38.4	44.5	15.9	24.3	20.7	20.3	14.8
性別	男性(n=475)	46.5	40.0	17.5	28.0	24.0	23.8	18.9
	女性(n=634)	33.0	48.3	15.0	21.9	18.8	18.1	12.0
年齢別	18～29歳(n=45)	24.4	46.7	24.4	20.0	15.6	15.6	26.7
	30～39歳(n=71)	36.6	52.1	18.3	16.9	15.5	15.5	15.5
	40～49歳(n=148)	32.4	49.3	23.6	20.9	14.9	11.5	13.5
	50～59歳(n=210)	37.6	48.6	23.8	22.9	16.2	17.1	12.9
	60～69歳(n=210)	37.1	49.0	9.5	23.8	25.2	22.9	13.8
	70～79歳(n=282)	42.9	39.0	13.1	26.2	21.3	22.7	16.3
	80歳以上(n=160)	43.8	33.1	8.1	30.0	28.1	28.1	13.8

		働き方の見直しや男女の雇用機会の均等の推進	誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援	女性の就労・再就職・起業への支援	子育てや介護への支援の充実	互いの性・多様な性に関する理解の促進	性差やライフステージを通じた健康支援の充実
全体(n=1,135)		31.2	44.1	28.6	44.9	13.8	7.8
性別	男性(n=475)	30.5	34.5	25.7	37.5	11.6	6.1
	女性(n=634)	31.7	50.9	31.4	50.9	15.6	9.0
年齢別	18～29歳(n=45)	40.0	55.6	37.8	53.3	15.6	15.6
	30～39歳(n=71)	39.4	50.7	25.4	49.3	18.3	11.3
	40～49歳(n=148)	33.1	41.2	31.1	47.3	16.9	6.8
	50～59歳(n=210)	35.7	44.3	30.0	44.8	16.2	12.4
	60～69歳(n=210)	32.9	45.7	32.4	47.6	13.8	5.2
	70～79歳(n=282)	25.5	39.7	25.9	42.2	9.9	5.7
	80歳以上(n=160)	25.0	46.3	23.8	38.8	11.9	6.3

		あらゆる暴力・ハラスメントの根絶に向けた啓発	DV被害者の相談・保護・自立支援の充実	障害者・外国人市民・ひとり親世帯など生活に困難を抱える人が安心して暮らすための支援	その他	特にない	無回答
全体(n=1,135)		27.3	19.6	29.1	1.9	3.3	4.4
性別	男性(n=475)	26.1	17.9	23.2	2.5	4.4	3.6
	女性(n=634)	28.1	21.0	33.9	1.6	2.2	4.9
年齢別	18～29歳(n=45)	31.1	24.4	28.9	2.2	11.1	0.0
	30～39歳(n=71)	25.4	22.5	21.1	2.8	4.2	0.0
	40～49歳(n=148)	27.0	23.0	18.9	3.4	4.1	2.7
	50～59歳(n=210)	30.5	24.8	26.2	3.3	3.3	1.4
	60～69歳(n=210)	25.7	20.5	34.8	1.9	2.4	1.9
	70～79歳(n=282)	27.0	15.2	30.1	0.7	2.1	5.7
	80歳以上(n=160)	26.3	14.4	37.5	0.6	3.8	13.8

11. 自由回答

◆男女共同参画についてのあなたのご意見をご自由にお書きください。◆

男女共同参画に関して自由に記入していただいたところ、166 人の方より回答がありました。以下には、年齢別に主な意見を抜粋して掲載しています。

20 歳代（11 件）

- 私は子育て中なので子育て世帯としての意見が強くなってしまいますが、夫に育休をとってほしかったものの、会社からの理解を得るのが難しかったこともあります。収入が減ることが一番ネックとなり断念しました。育休中、給与金額もらえないのは、出費がかなり増える子育て世帯の大きな痛手です。経済支援がなければ育児だけでなく、介護についても結局収入のある男性が働き、収入が少ない女性が担うことになります。（女性／勤め人（フルタイム））
- 仕事や消防団などの男女比は無理に介入する必要はなく、働きたい人が働けるように意識の改革に努める程度で良い（男性／無職）
- 男女平等は、聞こえは良いが実際不可能だと思う。妊娠、出産は女性しか出来ないし生理など体の負担も男性よりはるかに女性の方が大きい。だから、男性が出来ないことは女性が、女性が出来ないことは男性がやる、そう言う関係で良いと思う。（女性／家事専業）
- 制度の充実も大切ですが、個人の意識改革も大切。制度があっても利用しなければ意味がないと思います。例えば女性は出産の際、産休・育休を取る前提で話をしてくれますが、その夫やパートナーは自己申告をしなければなかなか子どもが生まれることを知ってもらえません。男性も自然に制度を利用できるような流れができればと思います。（女性／勤め人（パートタイム））

30 歳代（12 件）

- 男女の雇用機会を均等、平等にするのはとても良いことだとは思いますが、それを強引に押し進めるような形（例えば無理して男女の雇用人数を均等にする。管理職の人数を強引に増員する。）等は、あまり効果的ではないような気がする。（男性／勤め人（フルタイム））
- 自然に任せればそのまま女性比率は上がって行くと思うし、女性の学歴が上がっていくに連れて給料や会社などの経済界の社会的価値が上がっている。不自然な活動、女性参画、女性の管理職比率などが数字として示された結果、多くの企業で男女の不自然な格差が生まれている。例、女性の管理職を不自然に増やしたことで男性社員のやりがいの低下など不満がでている。（男性／勤め人（フルタイム））
- 男女が平等に参画できる機会が増えて来ているが仕事だけでなく家庭でも平等になればと思う。そういう風潮になってほしい。（女性／勤め人（フルタイム））
- 問 14 で男性の方が優遇されている・男女平等・女性の方が優遇されているという選択肢しかなかったが、昔ながらの女性差別が根強く残る環境では同時に男性も男であることでの役割を押し付けられたり、ホモソーシャルに悩んでいることが多く、男女平等という選択肢が「差別がない」という意味なのであれば、どちらかの方が優遇(差別)されている or 男女平等の選択肢しかないこと自体が差別的だと思う。（女性／無職）

40 歳代 (21件)

- 男女平等というと、女性も男性と同じ様に扱うというイメージがあり、私自身男性と同じ様に仕事ができるかというそうではない。時間的にも体力的にも難しい。仕事上では男女平等を望んでいない女性も少なくないはず。それに比べて共同参画の考え方の方が良いのではないかと思います。男・女ではなく、個として人間として扱うイメージがあり好感が持てます。(女性／勤め人 (フルタイム))
- 無回答は対象がなかった問です。男女という観点に括っているように感じた。「誰もが」というポイントが必要だと思う。(男性／勤め人 (フルタイム))
- 今までが男性中心社会だったのだから、女性中心社会を 50 年～100 年くらい揺り戻しとして見てみれば良いと思う。良い面、悪い面も浮き彫りにして更に良い社会を構築していければ。数年の政治程度で変えられるようなものではないし、本当に必要な改革は継承されなければならない。(男性／勤め人 (フルタイム))
- 世代によっては、結婚したら家事・育児は女性、働くのは男性のような偏見をもっている人がまだまだいる。偏見をもつだけならまだいいが、意見を押しつけてくる方も多いので、全世代に向けて男女共同参画について知ってもらいたい。また、介護についてもやってもらって当たり前と感じている人がまだまだ多い。実際、義父母の介護をしている家庭も多く、そのほとんどを血のつながりがない妻が担っている。介護に限らずではあるが、どんなことでも「やってもらって当たり前」という考えがよくないし、性別や立場などは関係なく、皆平等に生きられる社会をつくってもらいたい。(女性／勤め人 (パートタイム))
- 世代交代するほどの長い目で教育していくしかないと考えます(男性／勤め人 (パートタイム))
- 男性の育児休暇や有休の取得などは、公立の団体や大きな企業での取得率は上がっているようだが、子会社には取得歴がない状況があります。そういった企業への働きかけはどのようにしていきますか。(特に育児時に女性への負担が大きいため)そこへの働きかけをぜひお願いしたいです！(女性／勤め人 (パートタイム))

50 歳代 (27 件)

- 男女が同等になる事は大変難しいと思います。女性も自分が女だからという意識を捨て男性同様の意識を持ってもらいたい。(性別無回答／勤め人 (フルタイム))
- 男女共同参画という言葉は聞いた事があってもそれについて深く知ろうとはしていませんでしたが、とても大切な事だと改めて感じています。人間として男女平等であることは、同等の権利と義務が伴うと思いますが、体の仕組みからして違うのだから、それぞれを尊重しあうことが大前提だと思います。(女性／家事専業)
- 今の社会ではやはりまだ男性の方が優遇されている事がとても多いと感じます。特に女性の方が大変な仕事をしているのに、当然のごとく男性の方が給料がよかったり、職場だけではないですがそういう事も含めて家庭の中やいろいろな事で全く同じとはできませんが、ともに納得する社会にしていけたらと思います。お互いに尊重しあえるようにこれからの市政と市民の意見を参考にしながら考えていけるようにして頂けたらと思います。このアンケートをするにあたって改めて色々と考えました。ありがとうございます。(女性／勤め人 (フルタイム))
- まだまだ理解されていない事が多い。性別で出来ない事があってはいけない。(男性／勤

め人（フルタイム）

- 自分の現在の生活の中で質問内容を深く考えずに毎日が過ぎていく。今回の質問も理解しているつもりでも選択する事が困難な質問が多かった。皆がそれを考えずに受け入れる事が当たり前の世が一番いいと思う。但し、自分達だけでなく周りがある。周りとは助け合う気持ちを持つ世の中になる事を願う。（女性／自営業（農林水産業））
- 男性には男性、女性には女性の役割があると思うので、すべてを平等にするというのは難しいと思います。ただ、男性だから、女性だからと不利になるような環境をなるべく改善して欲しいです。お互いを尊重しあい、協力しあえる社会を作って欲しいです。（女性／勤め人（パートタイム））

60 歳代（44 件）

- 男女ともに男性は男性の仕事と決めつけしないで、女性も女性の仕事とは決めつけしないで、人間としてできることはやれる社会になって行ってくれればいいと思う。（女性／自営業（農林水産業以外））
- 男女共同参画を市がもっとどういう内容でどうしたら良いのか、もっと説明や周知すべきである。（男性／無職）
- 弱者や、今困っている人を、自然と助けられる精神を、より若い時から子ども達に大人が生活の中で示していくことの大切さを感じます。男女差は身体的には当然ありますが、男だから女だからではなく、人としてどう対処・行動すべきか考えられる人間を育てる。「家庭・学校・地域」どれも大切です！男女共同参画を掲げずとも個人のやりたい事が目指せる社会になると良いですね。（女性／無職）
- 共同体について個人の認識を深めることが必要であり、男女それぞれの持ち分、役割があることを理解し、男女共同参画といった考え方を改める必要がある。（男性／勤め人（フルタイム））
- シニアは新しく学ばないと理解しにくい。ぜひ若い人達に今後のために参画のための集会や周知を市が先導してほしい。（女性／自営業（農林水産業以外））
- 女性が社会に出るには、パートナーの理解と協力があってのものだと思う。女性が子育てをしながらフルタイムで仕事をするのは無理だと思う。疲れ、ストレスで心身共に不調がでます。子どもも親も倒れてしまいます。子どもが小さい時は、親が呼び出されることが多く、職場の理解も必要。とはいえ、許されない職場もあるのも仕方ない。あと、祖父母のサポートも必要だと思う。（女性／家事専業）
- 男性、女性、どちらもたとえば男性はみな同じ生き方が幸せではなく、10人10色の幸せのあり方があると思います。（男性／無職）
- 自治会の仕事をしているが女性の参加がほとんどなく、様々な面で困っている。男側の意識の変革を求められる報道が多いが、「男に任せておけない」という女の気概、女性の意識も変わっていかねばいけないだろう。防災を考えた時、女性でなければできないことも多いので、女性の参加をもっともっと求めたい。（男性／無職）
- 私が子育てをしていた時、保育園は5時半まででした。職場の理解も薄く、仕事を残して保育園に急ぐ私に「だから女は困るんだ。まともに仕事をしろよ。」という声が聞こえてきました。本当に悔しくて、子どもにも申し訳なくて、保育園に向かう車の中で涙が出ました。今、息子たちは進んで家事や子育てに手を出し、育児休暇も短いですが取りました。

やっと少しだけ平等に近づいたと思います。(女性／勤め人(フルタイム))

- 男性が常に優遇され、女性は冷遇されているとの考えから始めてはいけない。それぞれの持ち味があり、得手不得手もある。女性の政治家や管理職がいないからといって、無理に引き上げようとするならば、それはそれで負担に感じる女性もいるだろう。社会人としては、能力の評価が見えるようになって入ればおのずと答えが出てくると思っている。役所で働く方々は、自分の評価がわかるようになっていきますか？(男性／勤め人(フルタイム))

70 歳代 (35 件)

- ノルウェーやスウェーデンやデンマークなどへ人々を送り込み勉強させて欲しいです。男女共同で良い家庭づくりの勉強していかないと前進しないと思います。ノルウェー(家庭づくり、仕事)、スウェーデン(介護、福祉全般)、デンマーク(介護のあり方、やり方、人々の考え方、国の方針など)市役所職員の自覚と働き方も変えて欲しいです。前向きに変革してほしいです。(女性／家事専業)
- この参画は「成程」と首肯できる点は多々あるが、今日やったから明日できるというものではない。幼少期からの彼らを取り巻く環境、教育(家庭・学校・社会)等によるところが大きく影響を与える。長期計画に基づいて実施すべきで、現在は親子でしっかり話し合い納得の上で物事を行うことが希薄になってきている。根本的なところに目を向けて進めていくべきだと考える。(女性／無職)
- 性別にかかわらず、多様な選択ができる環境は素晴らしいことだと思うが、男性は男性らしく、女性は女性らしくもある得意分野もあって良いと思う。(男性／勤め人(フルタイム))
- 男女平等が強調されている世の中ですが、男性と女性は誕生の時より体と心の造りが違い、その造りに応じての人間としての役割があるので平等には限界があります。男性、女性それぞれの役割を自覚すべき事が大切です。社会の偏見について、互いに「自分にして欲しいように他の人にもする→黄金律」という原則を当てはめて生きるなら社会は良くなります。(女性／勤め人(パートタイム))
- 男女平等は憲法で記載されている。その具現化が大切で実行するための法律をしっかりと整備し、国民全体に周知、徹底することだと考える。(男性／無職)
- 男女共同参画の理念は誰にでも理解されたとしても、それを社会的な共有理念として実現することはとても難しい。子育て、家事、介護などの家庭内労働に対する金銭評価をして、その対価を行政が保障して支払うというような行政措置をするべきであろうと思う。また、議員、市役所の管理職に女性枠を法律的に設けるという思い切った処断も必要であろうと思う。(男性／無職)

80 歳以上 (15 件)

- 共に学び、共に進める社会の実現を。(男性／無職)
- 新しい用語が最近出てきます。意味がわからないものが多く理解できませんので、もっとわかりやすい用語でして頂ければ良いと思います。(女性／無職)
- 地域に根深く残っている習慣等、すぐに変えられませんが気長に気付いた人が自分の出来ることをそれぞれがやっていく事が大切。その為には広報、啓発も大切です。公の機関に依る積極的な行動を度々行ってほしいです。(女性／家事専業)

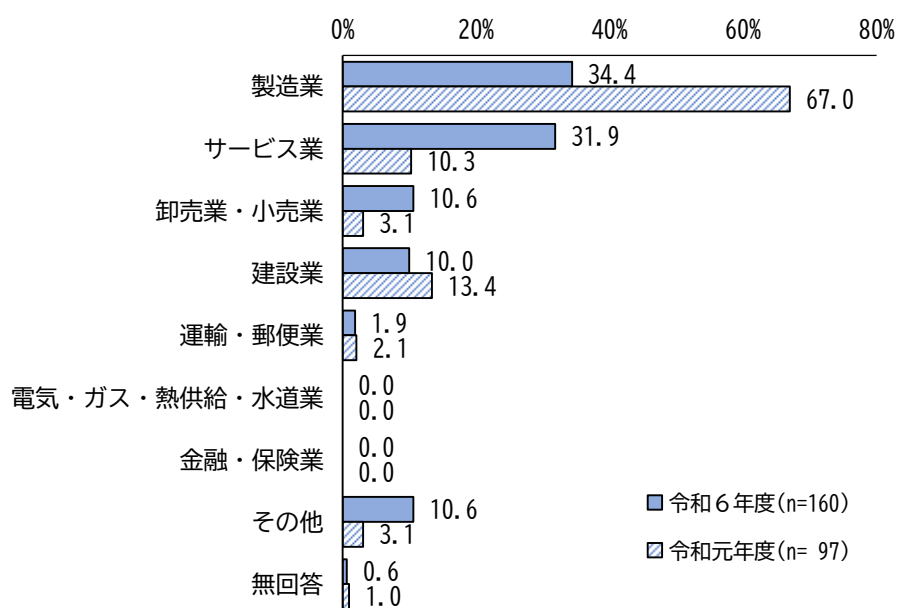
Ⅲ 調査結果【事業所調査】

1. 現在の事業所の状況について

(1) 事業分類

「製造業」が34.4%で最も高く、次いで「サービス業」が31.9%、「卸売業・小売業」が10.6%、「建設業」が10.0%、「運輸・郵便業」が1.9%となっています。

経年比較でみると、「製造業」の割合が低下、「サービス業」が上昇しています。

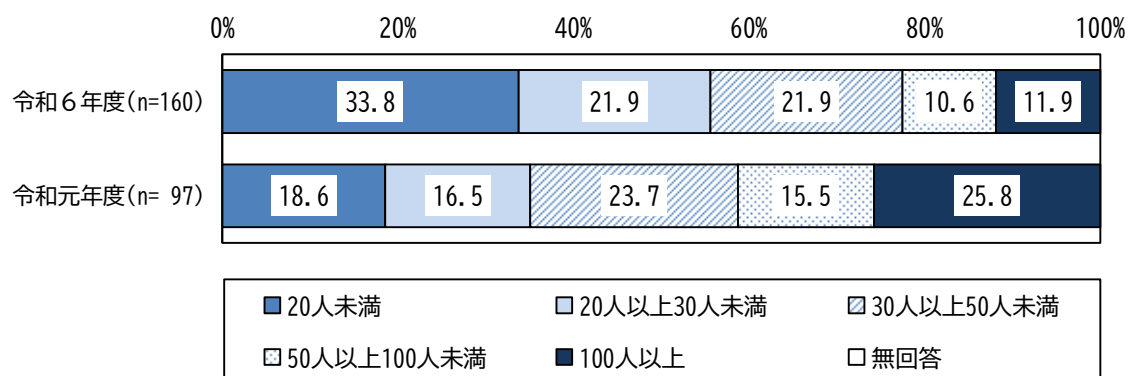


(2) 雇用者数（令和6年6月30日現在）

ア. 雇用者数全体

「20人未満」が33.8%で最も高く、次いで「20人以上30人未満」と「30人以上50人未満」がともに21.9%、「100人以上」が11.9%、「50人以上100人未満」が10.6%となっています。

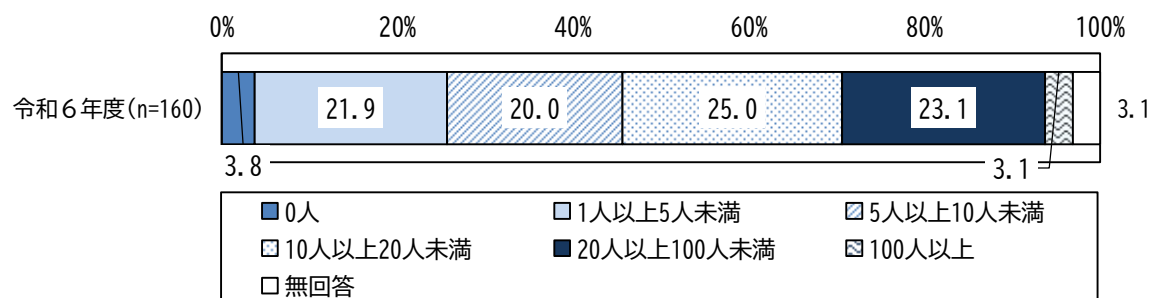
経年比較でみると、「20人未満」や「20人以上30人未満」などの回答が前回調査を上回ります。



イ. 従業員の性別・就業形態別の状況

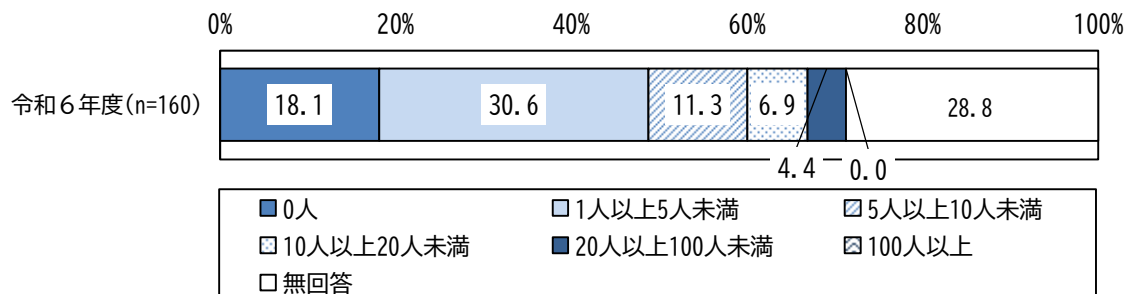
① 男性正社員

「10人以上20人未満」が25.0%で最も高く、次いで「20人以上100人未満」が23.1%、「1人以上5人未満」が21.9%、「5人以上10人未満」が20.0%、「0人」が3.8%となっています。



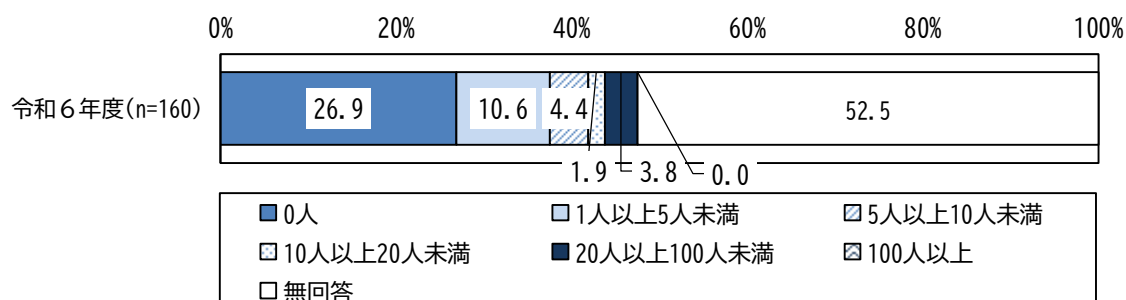
② 男性パートタイム労働者

「1人以上5人未満」が30.6%で最も高く、次いで「0人」が18.1%、「5人以上10人未満」が11.3%、「10人以上20人未満」が6.9%、「20人以上100人未満」が4.4%となっています。



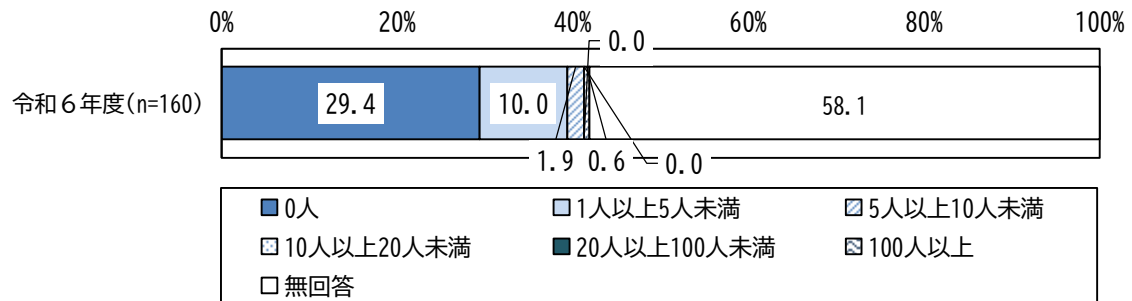
③ 男性その他労働者

「0人」が26.9%で最も高く、次いで「1人以上5人未満」が10.6%、「5人以上10人未満」が4.4%、「20人以上100人未満」が3.8%となっています。



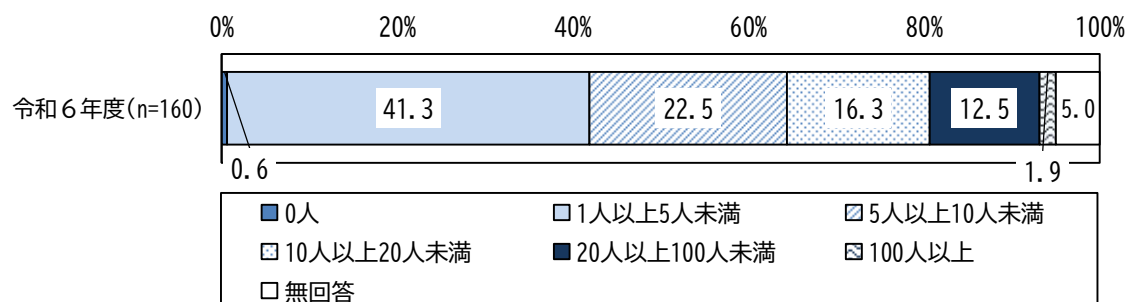
④ 男派遣社員

「0人」が29.4%で最も高く、次いで「1人以上5人未満」が10.0%、「5人以上10人未満」が1.9%となっています。



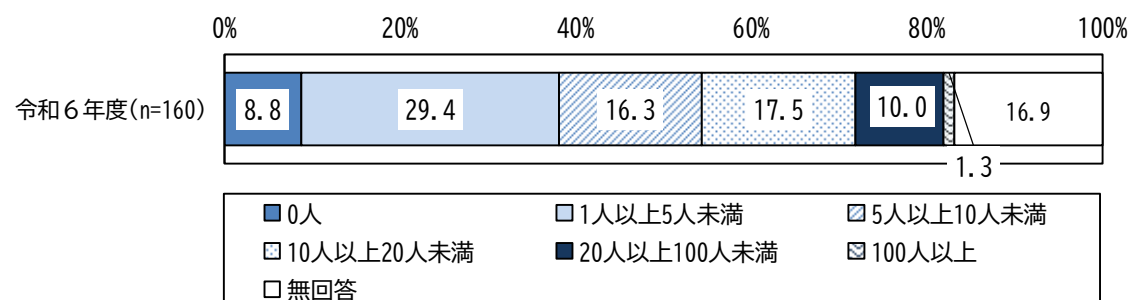
⑤ 女性正社員

「1人以上5人未満」が41.3%で最も高く、次いで「5人以上10人未満」が22.5%、「10人以上20人未満」が16.3%、「20人以上100人未満」が12.5%、「100人以上」が1.9%となっています。



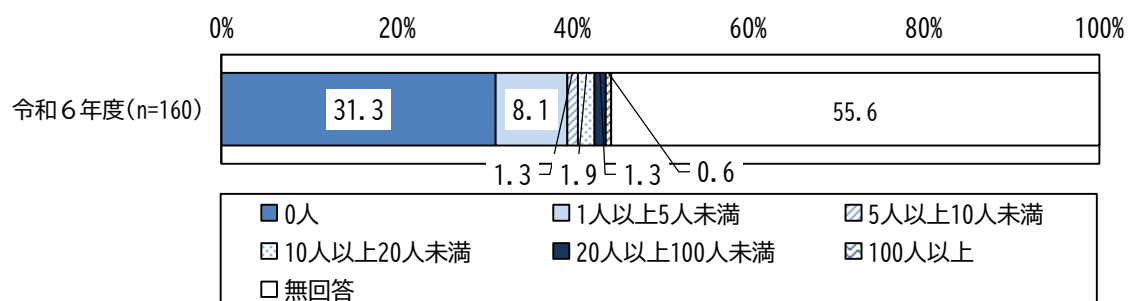
⑥ 女性パートタイム労働者

「1人以上5人未満」が29.4%で最も高く、次いで「10人以上20人未満」が17.5%、「5人以上10人未満」が16.3%、「20人以上100人未満」が10.0%、「0人」が8.8%、「100人以上」が1.3%となっています。



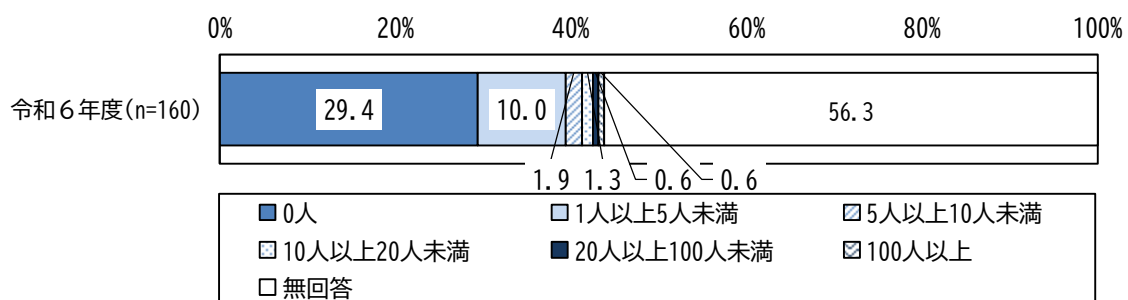
⑦ 女性その他労働者

「0人」が31.3%で最も高く、次いで「1人以上5人未満」が8.1%、「10人以上20人未満」が1.9%、「5人以上10人未満」と「20人以上100人未満」がともに1.3%となっています。



⑧ 女性派遣社員

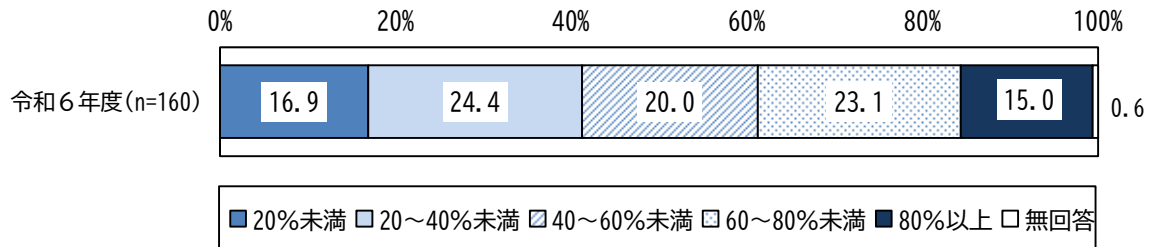
「0人」が29.4%で最も高く、次いで「1人以上5人未満」が10.0%、「5人以上10人未満」が1.9%、「10人以上20人未満」が1.3%となっています。



ウ. 女性の就労の状況（参考）

① 雇用者総数に占める女性の割合

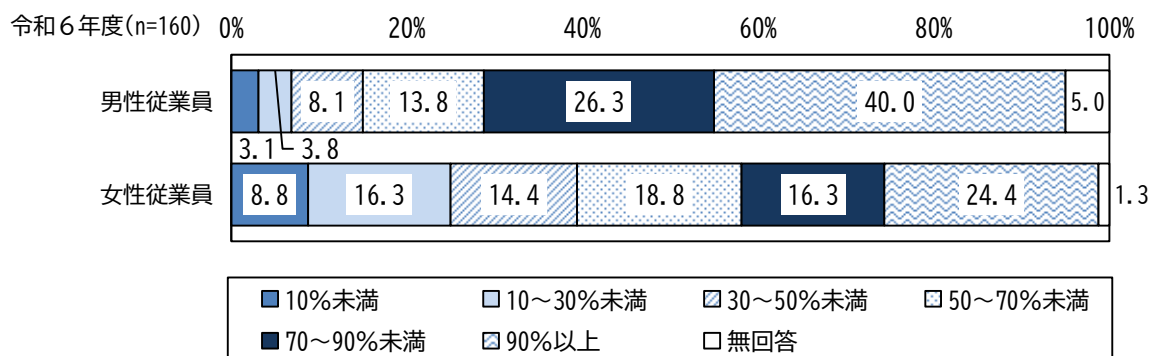
「20%未満」が16.9%、「20～40%未満」が24.4%、「40～60%未満」が20.0%、「60～80%未満」が23.1%、「80%以上」が15.0%となっています。



② 性別の雇用者総数に占める正社員の割合

男性従業員は「90%以上」が40.0%で最も高く、次いで「70～90%未満」が26.3%、「50～70%未満」が13.8%、「30～50%未満」が8.1%となっています。

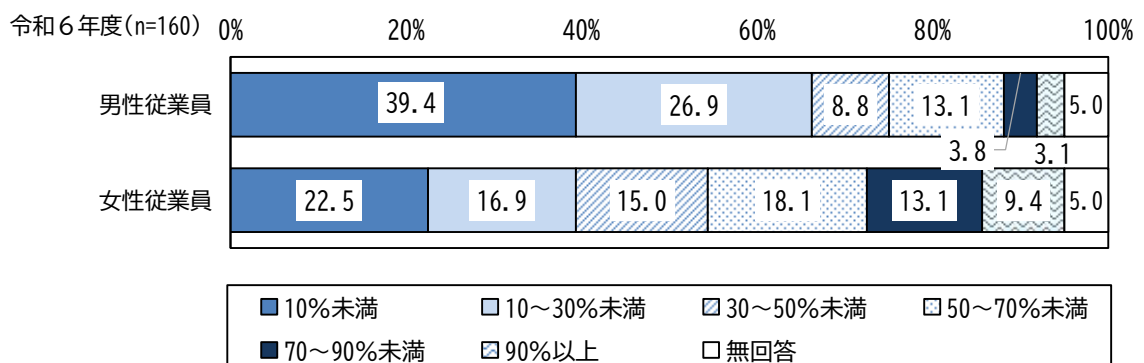
女性従業員は「90%以上」が24.4%で最も高く、次いで「50～70%未満」が18.8%、「10～30%未満」と「70～90%未満」がともに16.3%、「30～50%未満」が14.4%となっています。



③ 性別の雇用者総数に占める非正規社員の割合

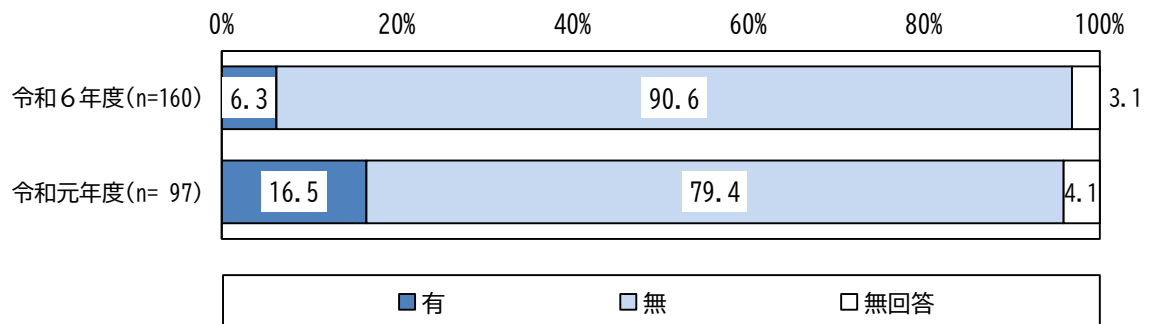
男性従業員は「10～30%未満」が39.4%で最も高く、次いで「10%未満」が26.9%となっています。

女性従業員は「10%未満」が22.5%で最も高いものの、「10～30%未満」が16.9%、「30～50%未満」が15.0%、「50～70%未満」が18.1%、「70～90%未満」が13.1%とあまり差がなく続きます。



(3) 労働組合の有無

「無」 90.6%が、「有」 6.3%を大きく上回ります。
経年比較でみると、「有」は 10 ポイント以上減少しています。



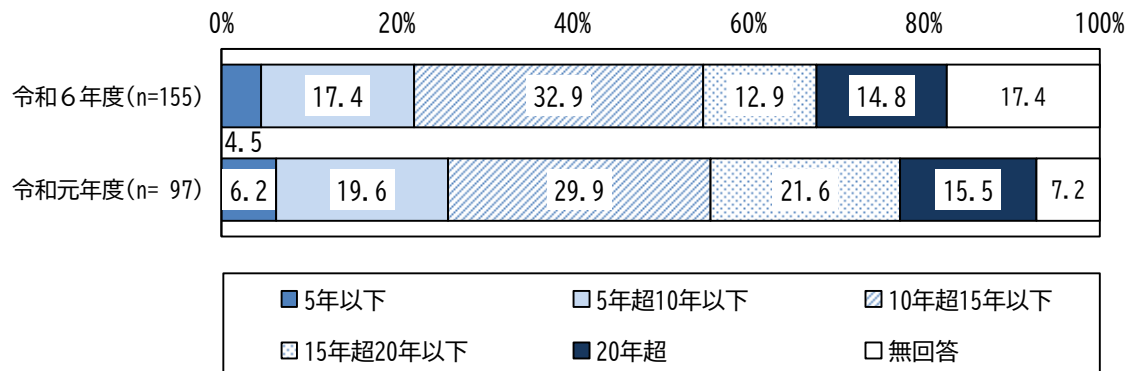
(4) 平均勤続年数

ア. 従業員の性別・就業形態別の状況

① 男性正社員

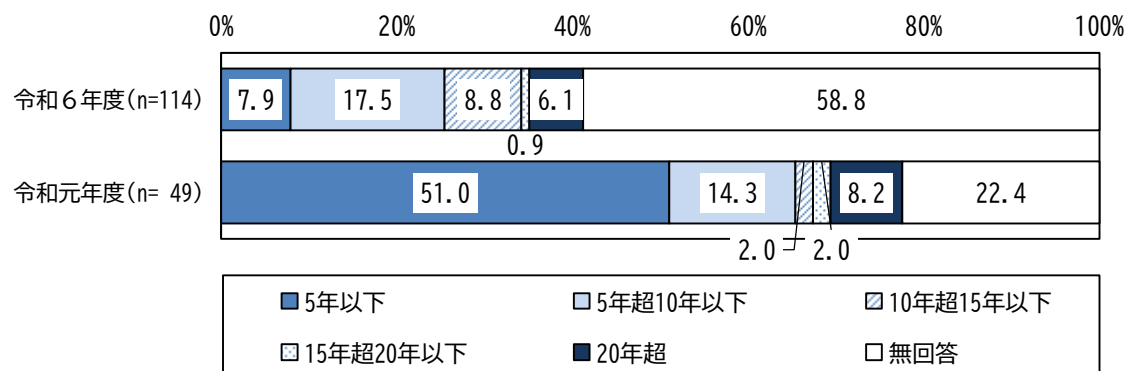
「10 年超 15 年以下」が 32.9%で最も高く、次いで「5 年超 10 年以下」が 17.4%、「20 年超」が 14.8%、「15 年超 20 年以下」が 12.9%、「5 年以下」が 4.5%となっています。

経年比較でみると、「15 年超 20 年以下」の割合が低下、「10 年超 15 年以下」が上昇しています。



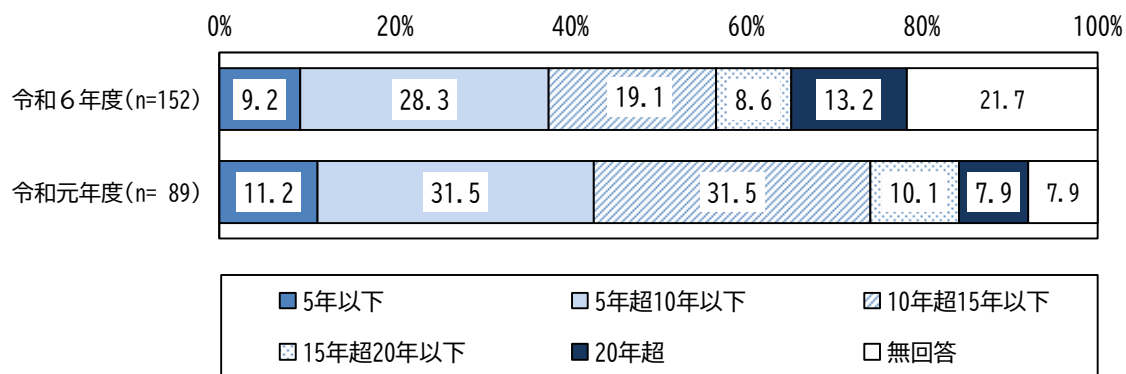
② 男性パートタイム労働者

「5 年超 10 年以下」が 17.5%で最も高く、次いで「10 年超 15 年以下」が 8.8%、「5 年以下」が 7.9%、「20 年超」が 6.1%となっています。



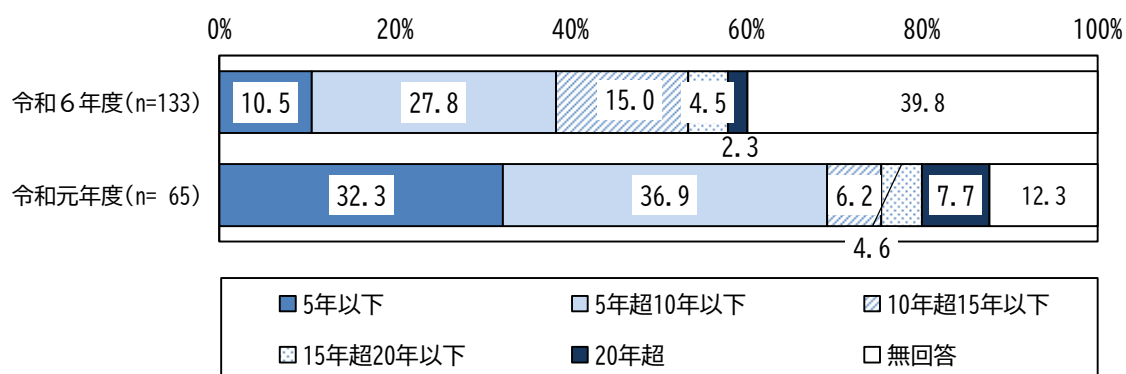
③ 女性正社員

「5 年超 10 年以下」が 28.3%で最も高く、次いで「10 年超 15 年以下」が 19.1%、「20 年超」が 13.2%、「5 年以下」が 9.2%、「15 年超 20 年以下」が 8.6%となっています。
経年比較でみると、「10 年超 15 年以下」の割合が減少しています。



④ 女性パートタイム労働者

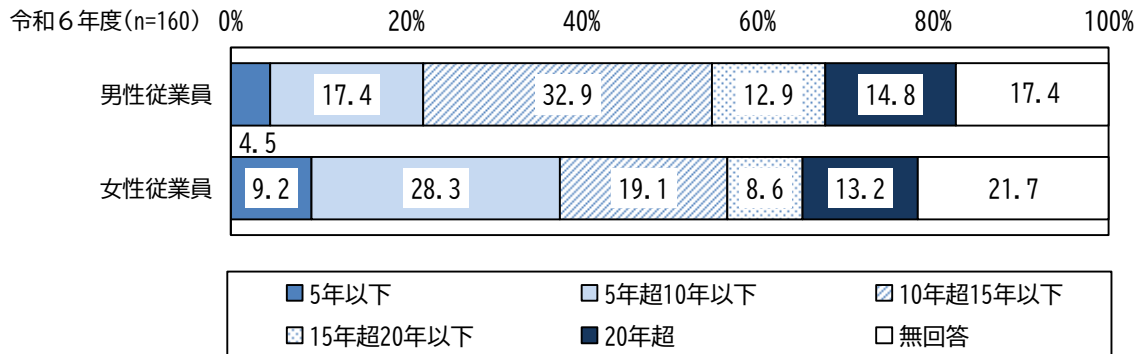
「5 年超 10 年以下」が 27.8%で最も高く、次いで「10 年超 15 年以下」が 15.0%、「5 年以下」が 10.5%、「15 年超 20 年以下」が 4.5%、「20 年超」が 2.3%となっています。



イ. 性別の平均勤続年数の比較

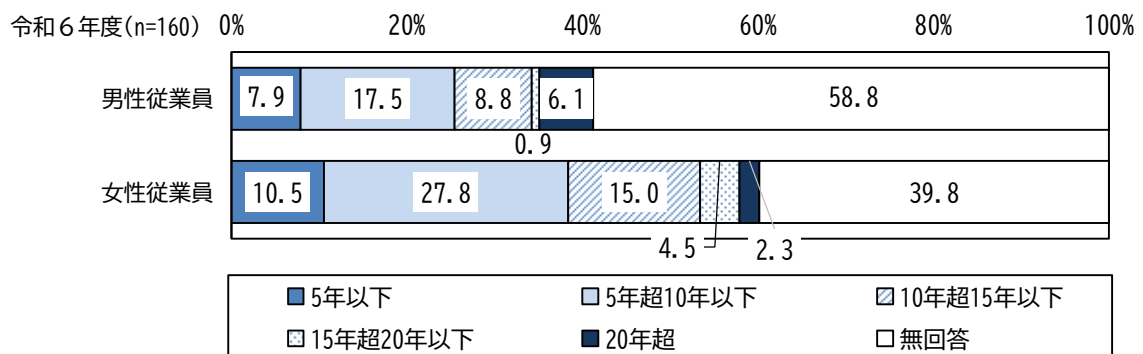
① 正社員

従業員の性別で比較すると、男性は「10 年超 15 年以下」、女性は「5 年超 10 年以下」が最も高くなっており、男性従業員の方が平均勤続年数が長い傾向にあります。



② パートタイム労働者

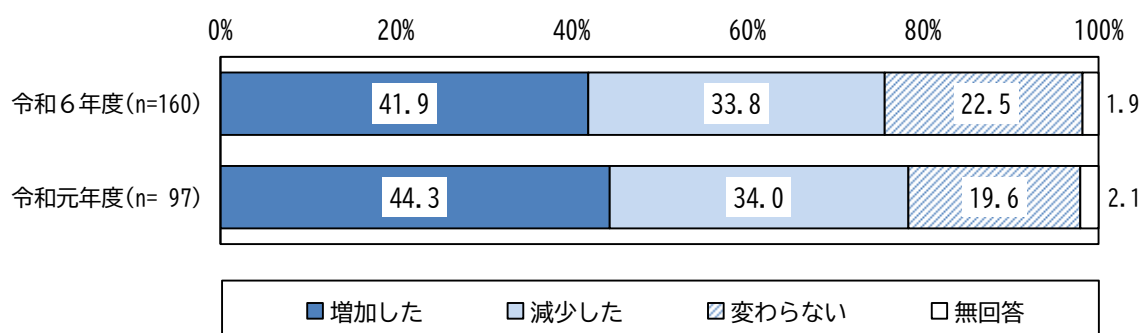
従業員の性別で比較すると、男性は「5 年超 10 年以下」、女性は「10 年超 15 年以下」が最も高くなっており、女性従業員の方が平均勤続年数が長い傾向にあります。



(5) 雇用者数の推移（5年前と比較）

① 正社員

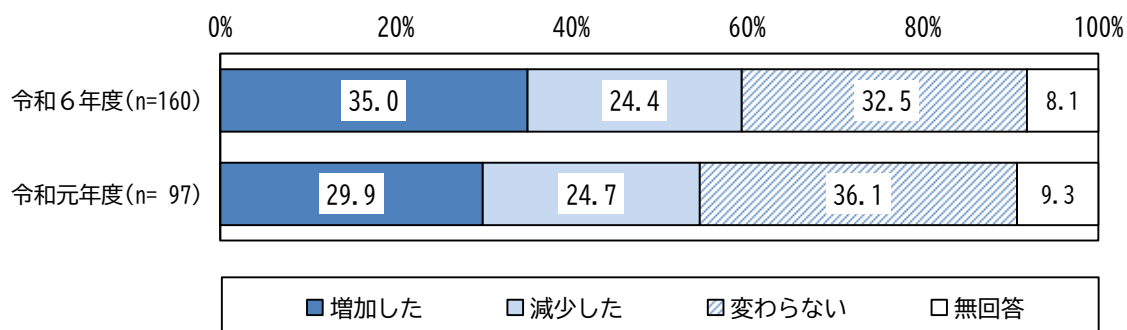
「増加した」が41.9%で最も高く、次いで「減少した」が33.8%、「変わらない」が22.5%となっています。



② パートタイム労働者

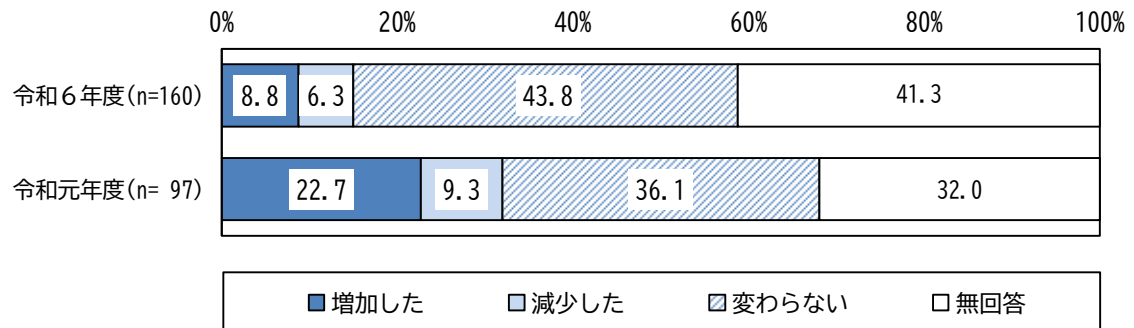
「増加した」が35.0%で最も高く、次いで「変わらない」が32.5%、「減少した」が24.4%となっています。

経年比較でみると、「増加した」割合が5.1ポイント上昇しています。



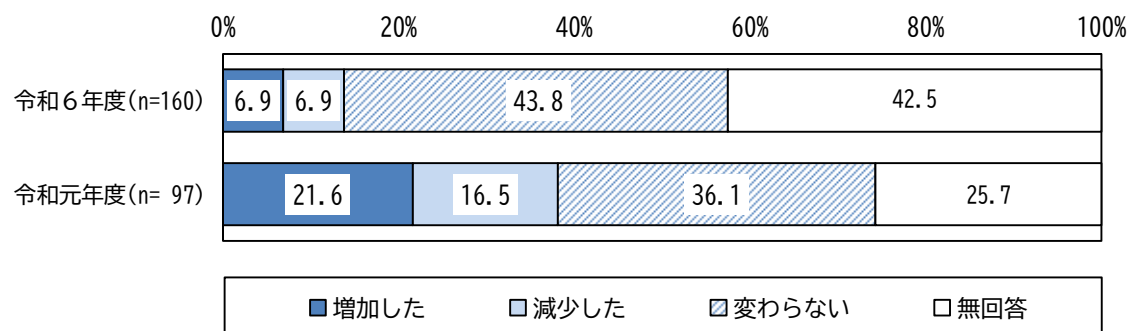
③ その他（契約社員等）

「変わらない」が43.8%で最も高く、次いで「増加した」が8.8%、「減少した」が6.3%、となっています。



④ 派遣社員

「変わらない」が43.8%で最も高く、次いで「増加した」と「減少した」がともに6.9%となっています。



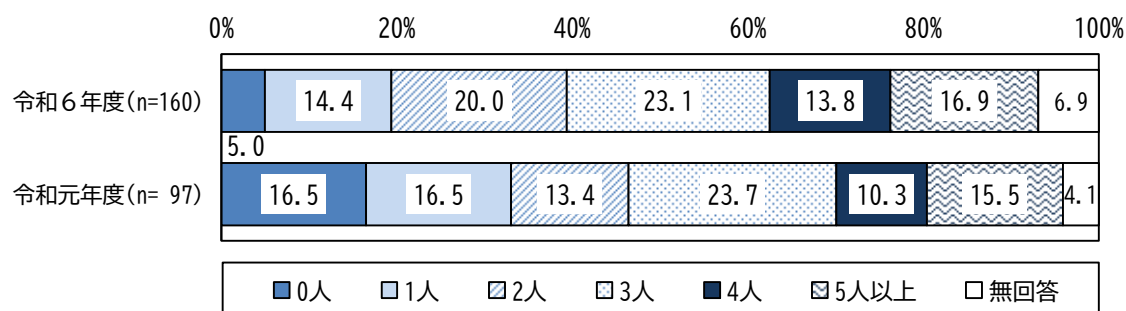
2. 女性の活躍推進・管理職登用について

(1) 管理職及び女性管理職の人数

ア. 役職別の人数

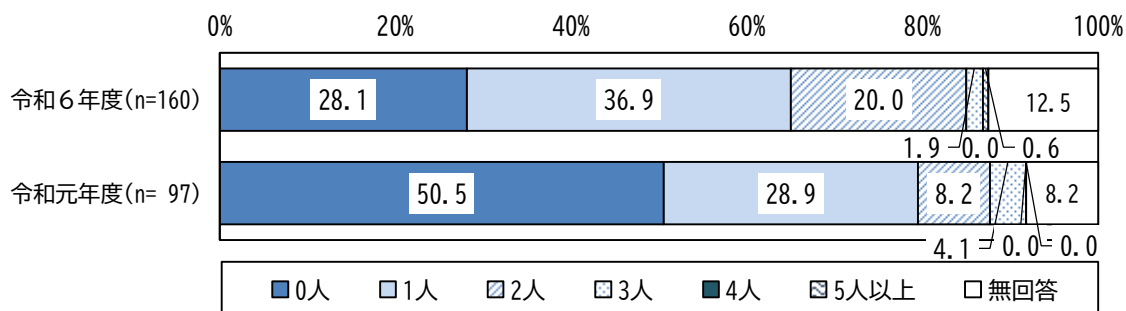
① 役員の数

「3人」が23.1%で最も高く、次いで「2人」が20.0%、「5人以上」が16.9%、「1人」が14.4%、「4人」が13.8%、「0人」が5.0%となっています。



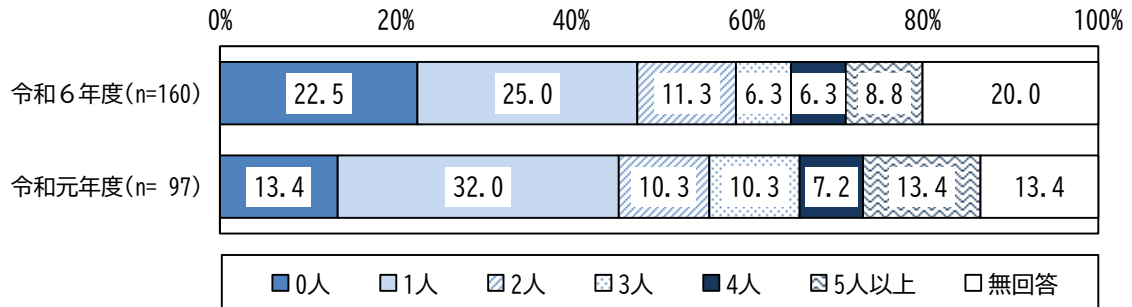
② 役員のうち女性の数

「1人」が36.9%で最も高く、次いで「0人」が28.1%、「2人」が20.0%、「3人」が1.9%となっています。



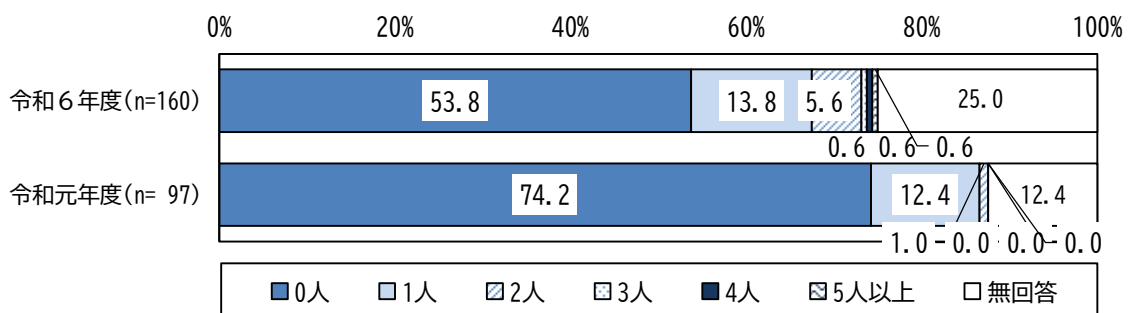
③ 部長相当職の数

「1人」が25.0%、「0人」が22.5%、「2人」が11.3%、「5人以上」が8.8%、「3人」と「4人」がともに6.3%となっています。



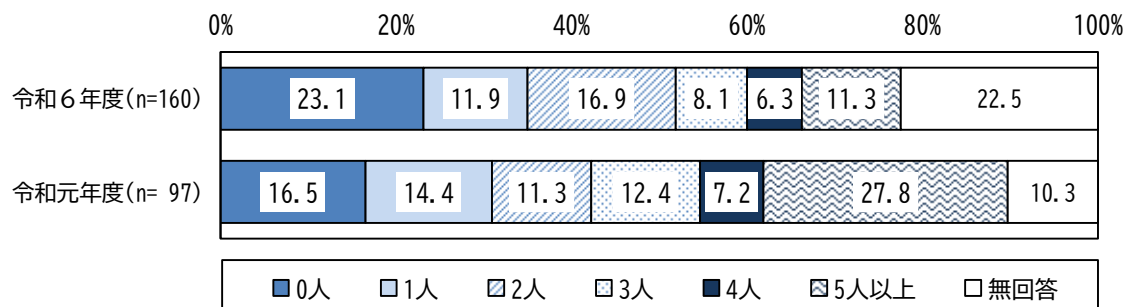
④ 部長相当職のうち女性の数

「0人」が53.8%で最も高く、次いで「1人」が13.8%、「2人」が5.6%となっています。



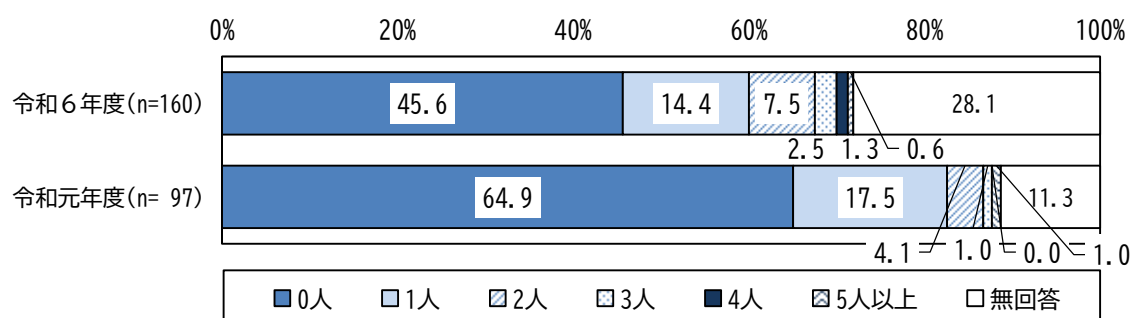
⑤ 課長相当職の数

「0人」が23.1%で最も高く、次いで「2人」が16.9%、「1人」が11.9%、「5人以上」が11.3%、「3人」が8.1%、「4人」が6.3%となっています。



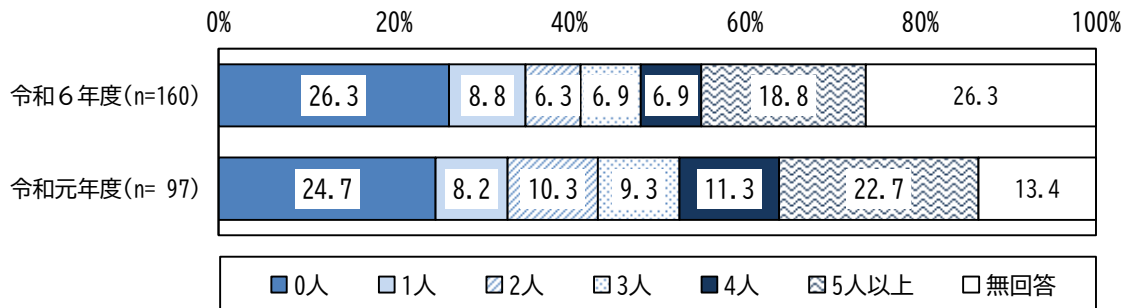
⑥ 課長相当職のうち女性の数

「0人」が45.6%で最も高く、次いで「1人」が14.4%、「2人」が7.5%、「3人」が2.5%、「4人」が1.3%となっています。



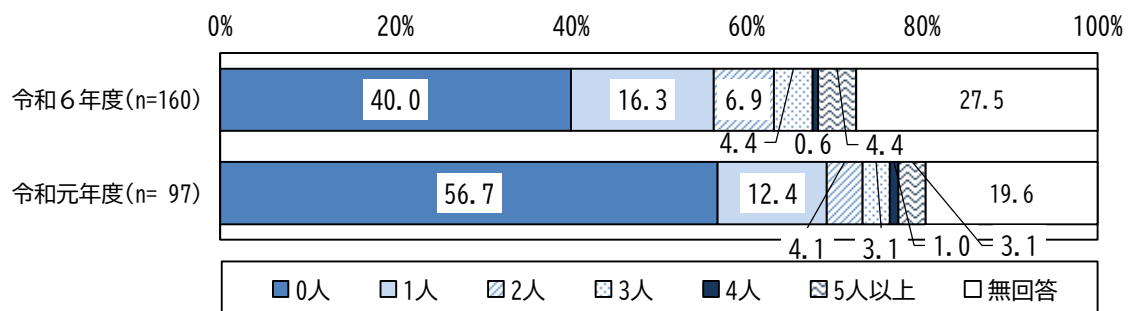
⑦ 係長相当職の数

「0人」が26.3%で最も高く、次いで「5人以上」が18.8%、「1人」が8.8%、「3人」が6.9%、「4人」が6.9%、「2人」が6.3%となっています。



⑧ 係長相当職のうち女性の数

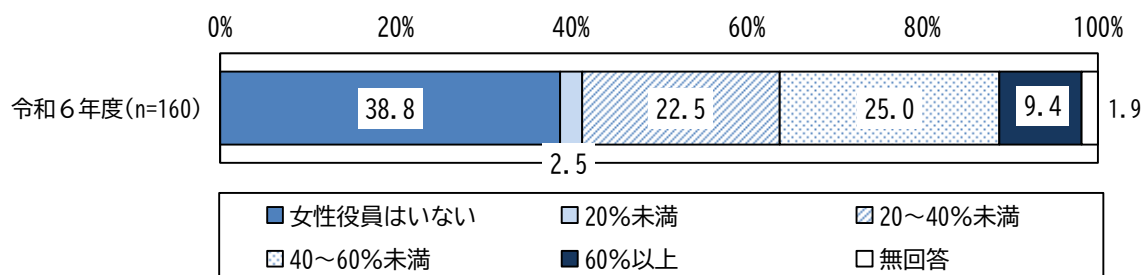
「0人」が40.0%で最も高く、次いで「1人」が16.3%、「2人」が6.9%、「3人」が4.4%、「5人以上」が0.6%、「4人」が4.4%となっています。



イ. 女性役員・女性管理職の状況【参考】

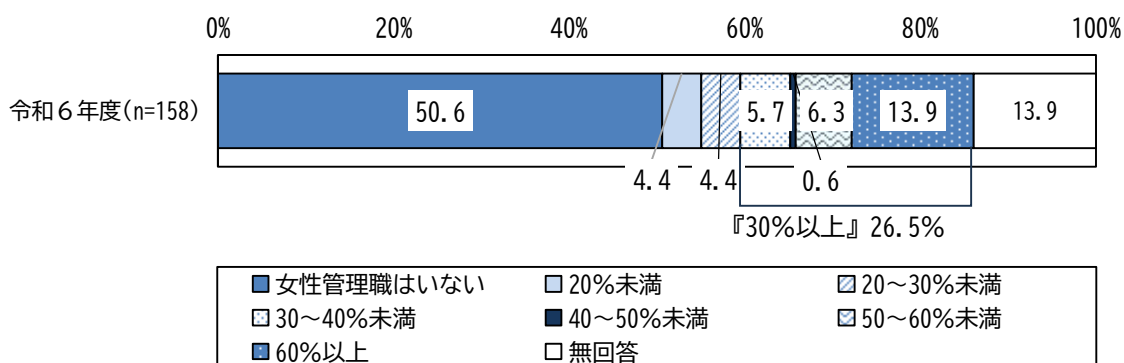
① 役員に占める女性の割合

記入された役員数及び役員に占める女性人数より割合を算出したところ、「女性役員はいない」が 38.8%で最も高く、次いで「40～60%未満」が 25.0%、「20～40%未満」が 22.5%、「60%以上」が 9.4%となっています。



② 管理職（部・課長級）に占める女性の割合

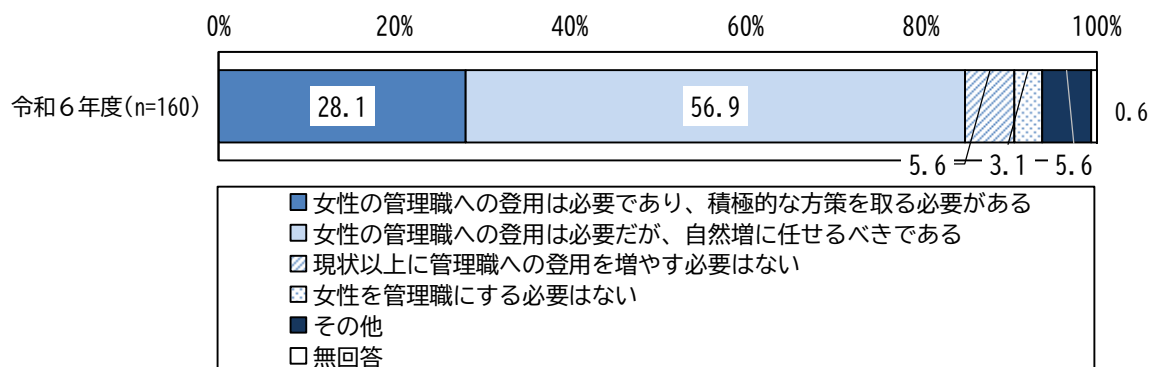
記入された管理職数及び管理職に占める女性人数より割合を算出したところ、「女性管理職はいない」が 50.6%で最も高く、次いで「60%以上」が 13.9%、「50～60%未満」が 6.3%、「30～40%未満」が 5.7%、「20%未満」と「20～30%未満」がともに 4.4%となっています。国が目標に掲げる『30%以上』は全体の 26.5%となっています。



(2) 女性職員を管理職に登用することへの考え方

問7 女性を管理職に登用することについてどのようにお考えですか。（貴事業所の見解に近い考え1つに○）

「女性の管理職への登用は必要だが、自然増に任せるべきである」が56.9%で最も高く、次いで「女性の管理職への登用は必要であり、積極的な方策を取る必要がある」が28.1%、「現状以上に管理職への登用を増やす必要はない」が5.6%、「女性を管理職にする必要はない」が3.1%となっています。

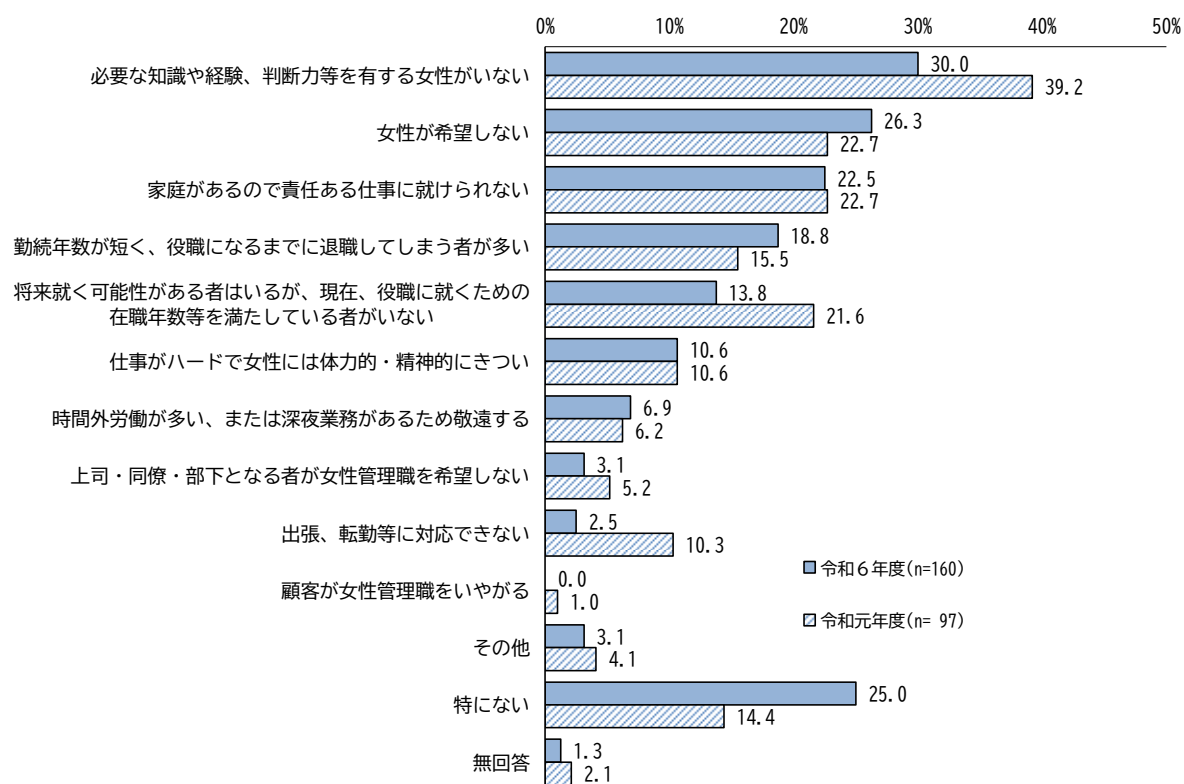


(3) 女性の管理職への登用を増やすための課題

問8 貴事業所で女性の管理職への登用を増やすことについて、どのような課題がありますか。
(〇はいくつでも)

「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない」が30.0%で最も高く、次いで「女性が希望しない」が26.3%、「家庭があるので責任ある仕事に就けられない」が22.5%、「勤続年数が短く、役職になるまでに退職してしまう者が多い」が18.8%、「将来就く可能性がある者はいるが、現在、役職に就くための在職年数等を満たしている者がいらない」が13.8%、「仕事がハードで女性には体力的・精神的にきつい」が10.6%となっています。

経年比較でみると、「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない」や「将来就く可能性がある者はいるが、現在、役職に就くための在職年数等を満たしている者がいらない」の割合が低下、「特にない」が上昇しています。



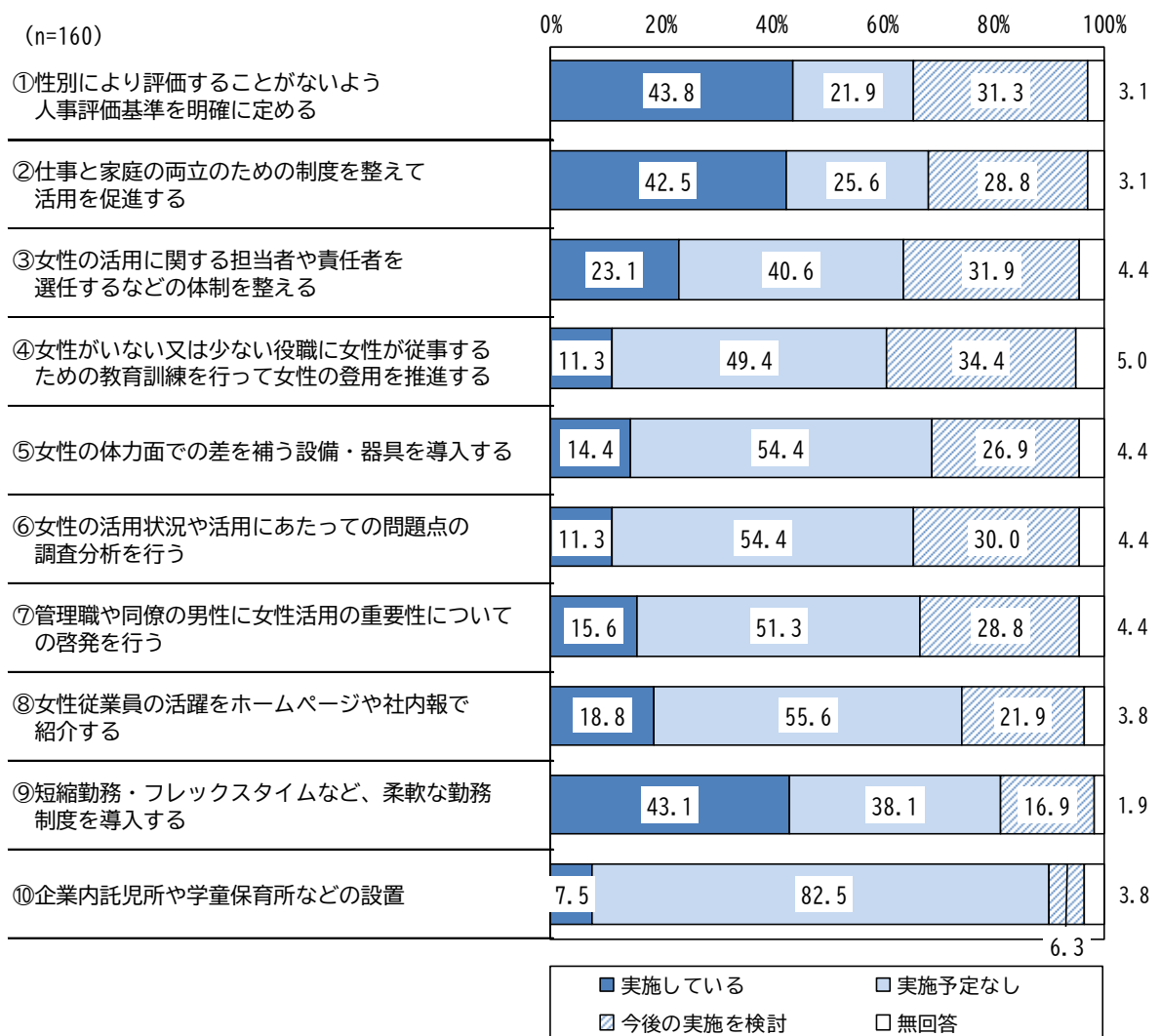
(4) 女性を活用するための取り組みとして実施しているもの

問9 女性を活用するための取り組みとして貴事業所で実施しているものはありますか。
(それぞれ1つに○)

「実施している」は、＜①性別により評価することがないよう 人事評価基準を明確に定める＞、＜②仕事と家庭の両立のための制度を整えて活用を促進する＞、＜⑨短縮勤務・フレックスタイムなど、柔軟な勤務制度を導入する＞などで4割を超え高くなっています。

「今後の実施を検討」は、＜④女性がいらない又は少ない役職に女性が従事するための教育訓練を行って女性の登用を推進する＞や＜③女性の活用に関する担当者や責任者を選任するなどの体制を整える＞、＜①性別により評価することがないよう人事評価基準を明確に定める＞で3割台となっています。

一方で、「実施予定なし」は＜⑩企業内託児所や学童保育所などの設置＞が82.5%で最も高く、他の項目を大きく上回ります。



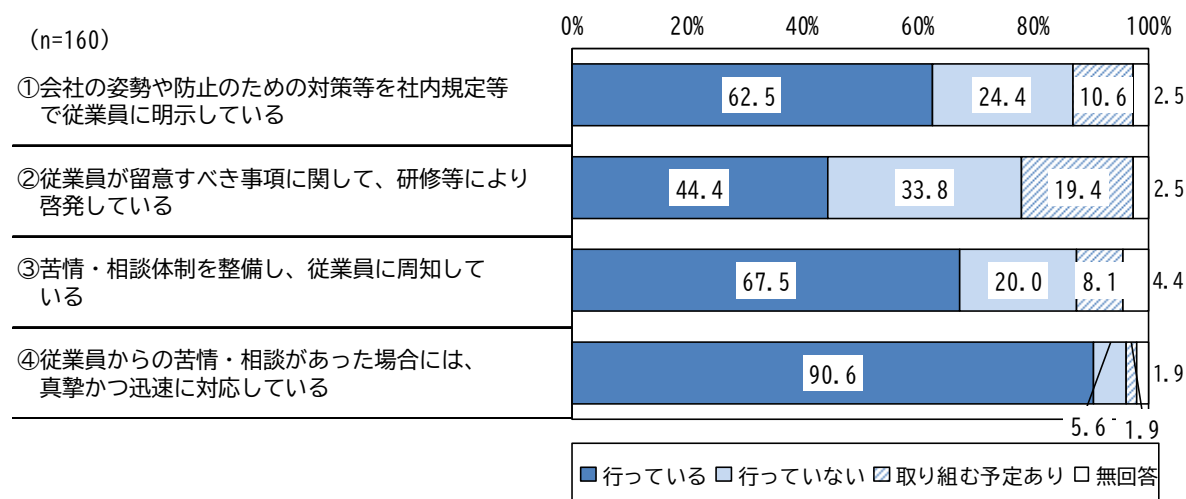
3. 各種ハラスメント対策について

(1) 職場における各種ハラスメント対策

問 10 職場におけるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等の各種ハラスメント対策について、あてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに○)

「行っている」は、＜④従業員からの苦情・相談があった場合には、真摯かつ迅速に対応している＞が90.6%で最も高く、次いで＜③苦情・相談体制を整備し、従業員に周知している＞、＜①会社の姿勢や防止のための対策等を社内規定等で従業員に明示している＞が6割台となっています。

「取り組む予定あり」は、＜②従業員が留意すべき事項に関して、研修等により啓発している＞で19.4%と他の項目をやや上回ります。



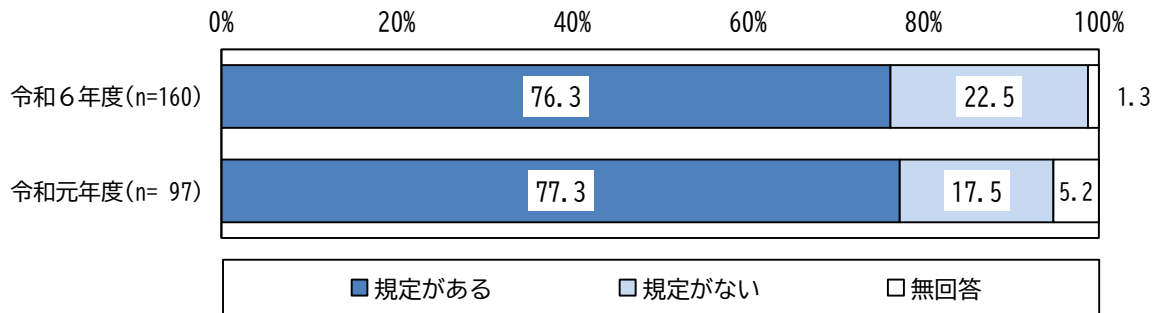
4. 育児・介護休業制度について

(1) 育児休業制度の状況

問 11 育児休業制度の状況についておたずねします。

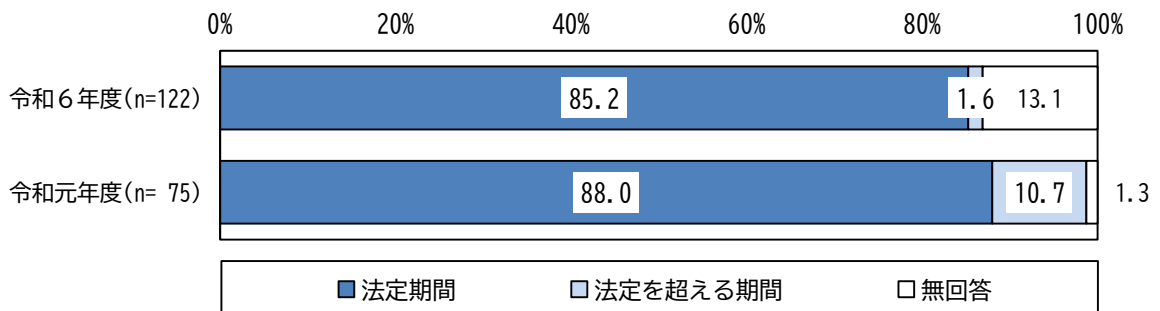
① 育児休業制度の規定（令和6年6月30日現在）

「規定がある」が76.3%、「規定がない」が22.5%となっています。



② 育児休業の期間

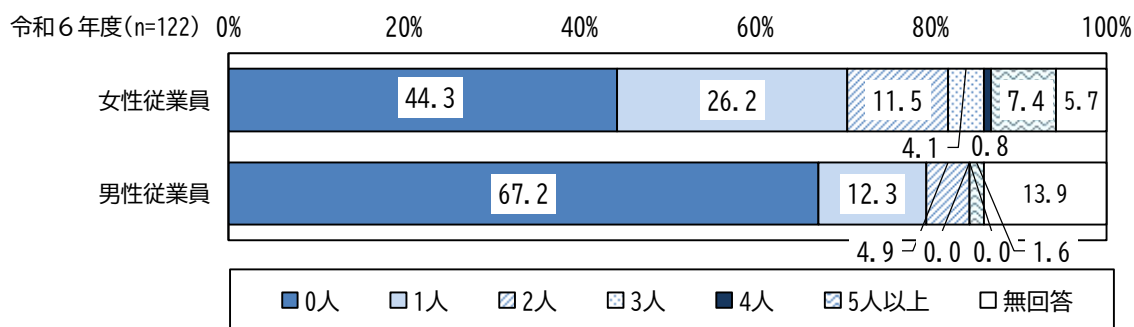
「法定期間」が85.2%、「法定を超える期間」が1.6%となっています。



③－１ 育児休業の取得状況（令和３～５年度の取得者数）

女性従業員は、「０人」が44.3%で最も高く、次いで「１人」が26.2%、「２人」が11.5%、「３人」が4.1%、「４人」が0.8%、「５人以上」が7.4%となっています。

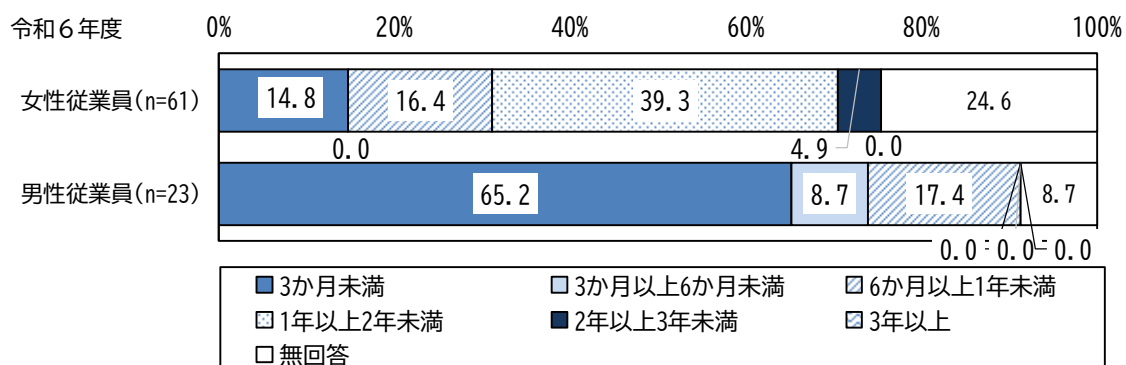
男性従業員は、「０人」が67.2%で最も高く、次いで「１人」が12.3%、「２人」が4.9%、「５人以上」が1.6%であるなど、取得者数は、男性従業員に比べ、女性従業員で多くなっています。



③－２ 育児休業の取得状況（１人あたり平均取得期間）

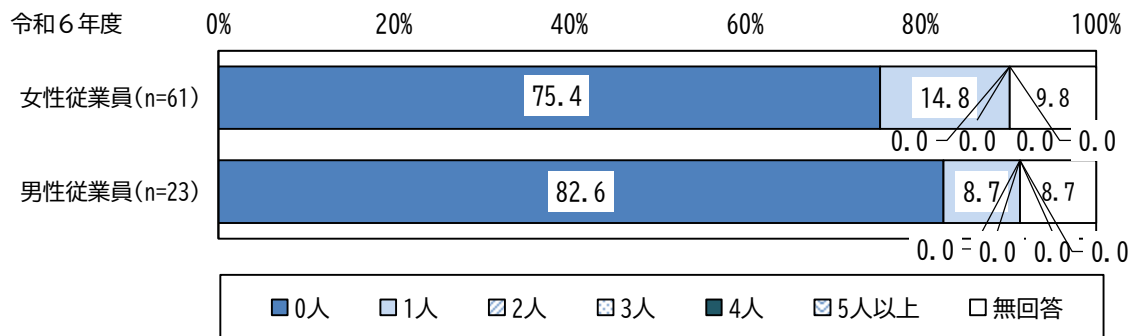
女性従業員は、「１年以上２年未満」が39.3%で最も高く、次いで「６か月以上１年未満」が16.4%、「３か月未満」が14.8%、「２年以上３年未満」が4.9%となっています。

男性従業員は、「３か月未満」が65.2%で最も高く、次いで「６か月以上１年未満」が17.4%、「３か月以上６か月未満」が8.7%であるなど、平均取得期間は、男性従業員に比べ、女性従業員で長くなっています。



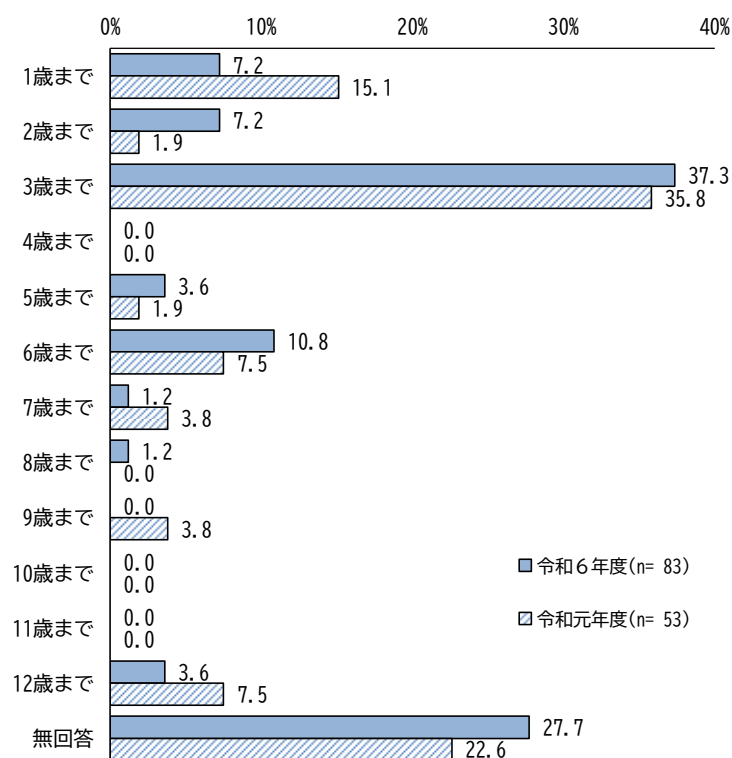
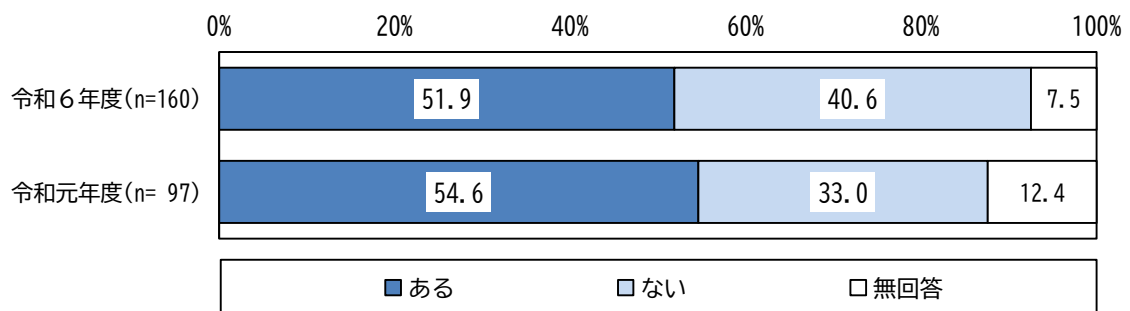
③-3 育児休業の取得状況（利用後の退職者数）

女性従業員は、「0人」が75.4%で最も高く、次いで「1人」が14.8%となっています。
男性従業員は、「0人」が82.6%で最も高く、次いで「1人」が8.7%となっています。



④ 育児のための短時間勤務制度の有無と使用できる子の年齢

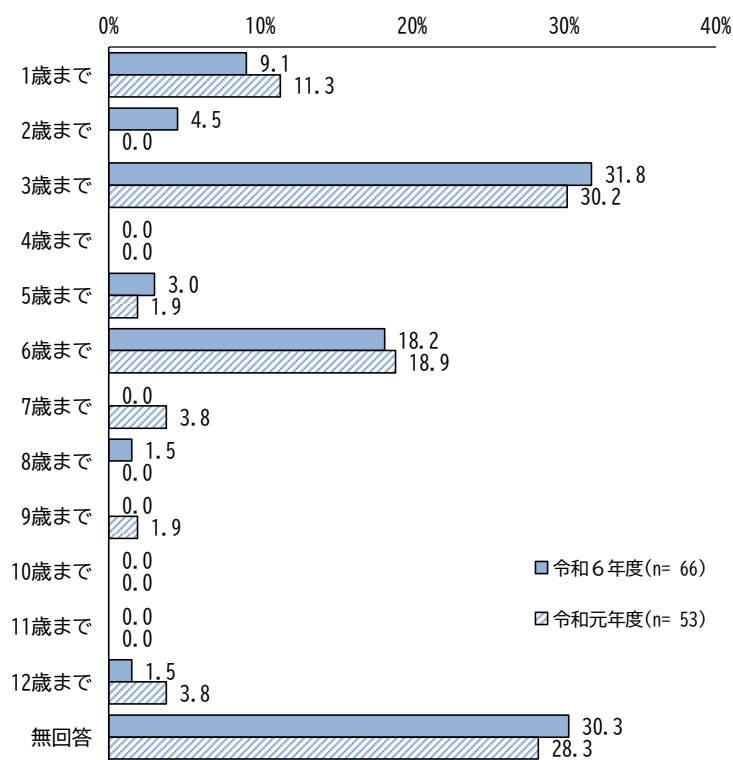
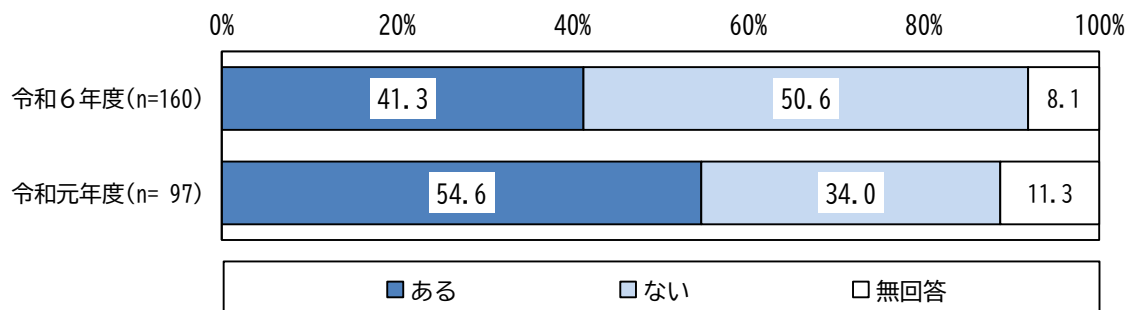
育児のための短時間勤務制度が「ある」は51.9%、「ない」が40.6%となっています。
短時間勤務制度が使用できる子の年齢については、「3歳まで」が37.7%で最も高く、次いで「6歳まで」が10.8%、「1歳まで」が7.2%、「2歳まで」が7.2%となっています。



⑤ 所定外労働の免除の有無と免除される子の年齢

所定外労働の免除が「ある」は41.3%、「ない」が50.6%となっています。

所定外労働が免除される子の年齢については、「3歳まで」が31.8%で最も高く、次いで「6歳まで」が18.2%、「1歳まで」が9.1%、「2歳まで」が4.5%となっています。

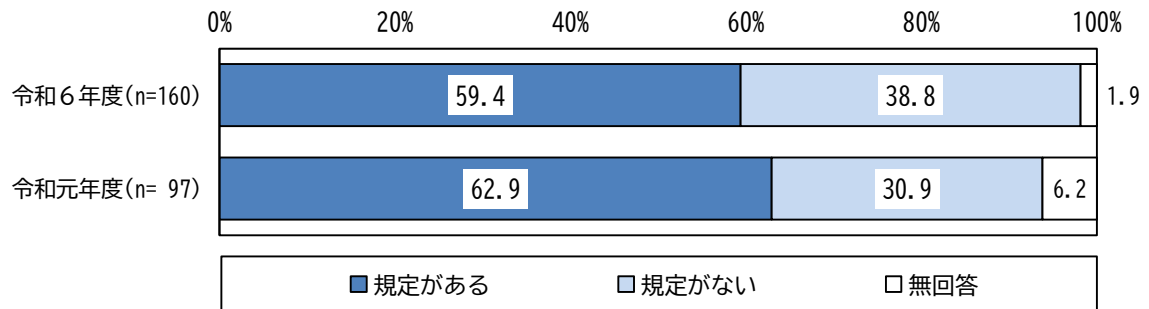


（２）介護休業制度の状況

問 12 介護休業制度の状況についておたずねします。

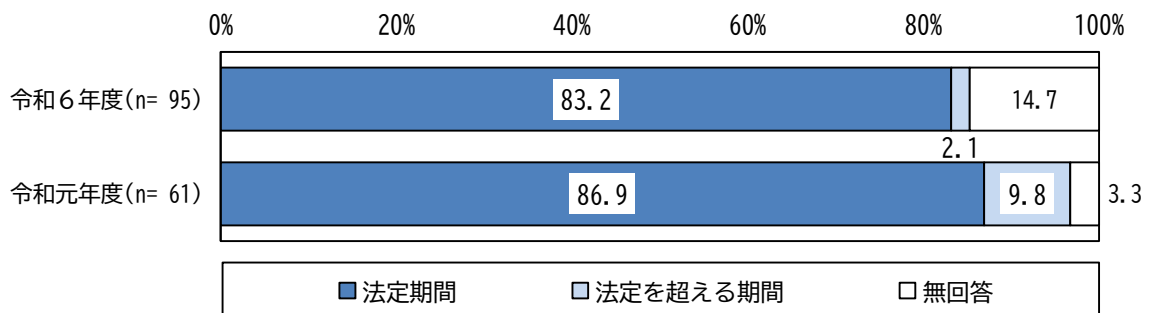
① 介護休業制度の規定（令和６年６月３０日現在）

「規定がある」が 59.4%、「規定がない」が 38.8%となっています。



② 介護休業の期間

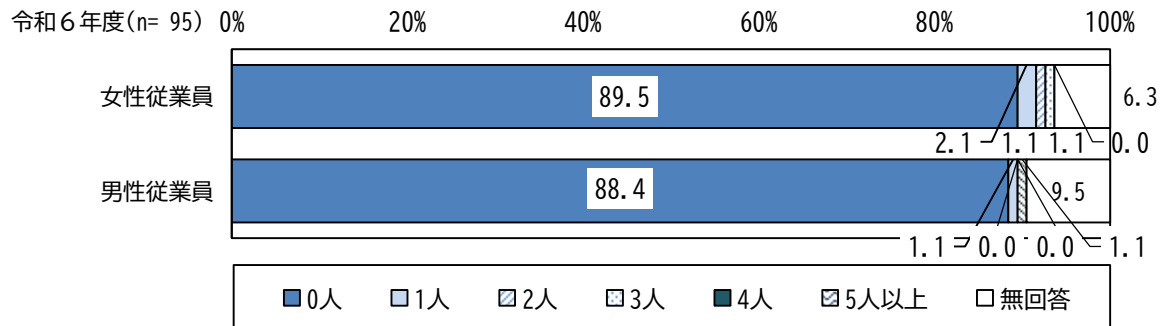
「法定期間」が 83.2%、「法定を超える期間」が 2.1%となっています。



③－１ 介護休業の取得状況（令和３～５年度の取得者数）

女性従業員は、「０人」が89.5%で最も高く、次いで「１人」が2.1%（２社）、「２人」と「３人」がともに1.1%（１社）となっています。

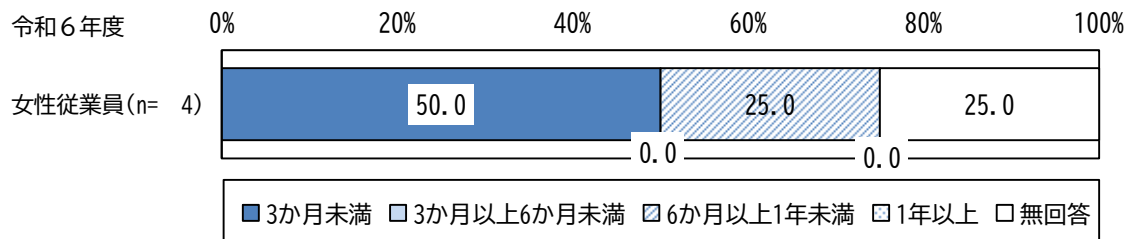
男性従業員は、「０人」が88.4%で最も高く、次いで「１人」と「５人以上」がともに1.1%（１社）となっています。



③－２ 介護休業の取得状況（１人あたり平均取得期間）

女性従業員は、「３か月未満」が50.0%（２社）、「６か月以上１年未満」が25.0%（１社）、となっています。

男性従業員については、も無回答となっています。



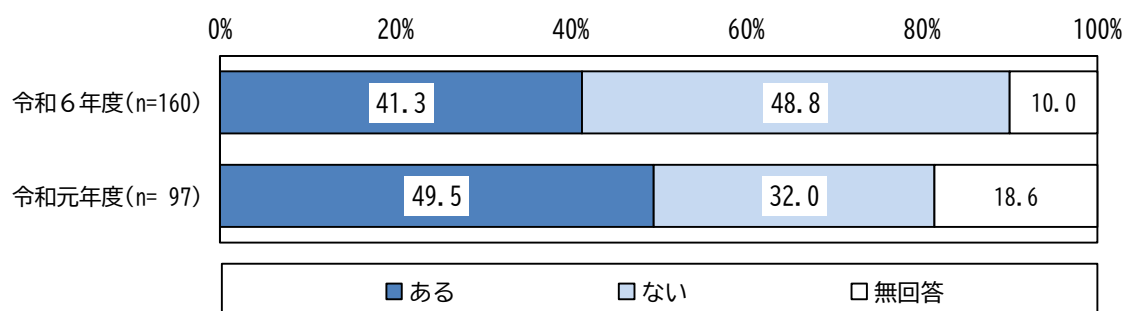
③－３ 介護休業の取得状況（令和３～５年度の利用後の退職者数）

女性従業員は、「０人」と「１人」がともに25.0%（２社）となっています。

男性従業員は、「０人」が50.0%（１社）となっています。

④ 介護のための短時間勤務制度

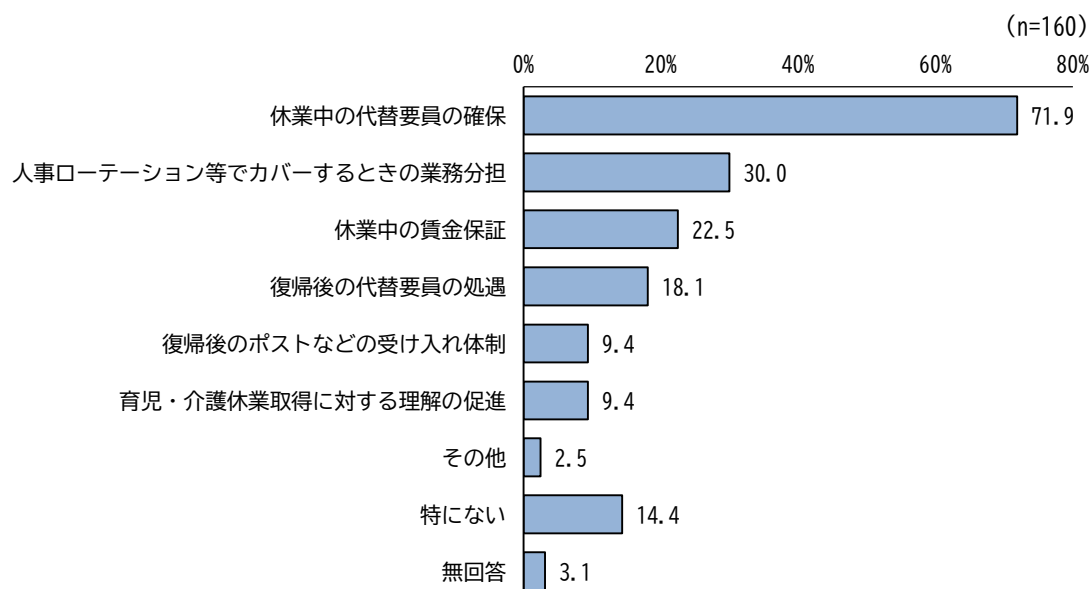
「ある」が41.3%、「ない」が48.8%となっています。



(3) 育児・介護休業制度が定着するための主な課題

問 13 従業員に対して育児休業や介護休業制度を定着させる上で、特に課題となっていることは何ですか。(〇は2つまで)

「休業中の代替要員の確保」が71.9%で最も高く、次いで「人事ローテーション等でカバーするときの業務分担」が30.0%、「休業中の賃金保証」が22.5%、「復帰後の代替要員の処遇」が18.1%、「復帰後のポストなどの受け入れ体制」と「育児・介護休業取得に対する理解の促進」がともに9.4%となっています。



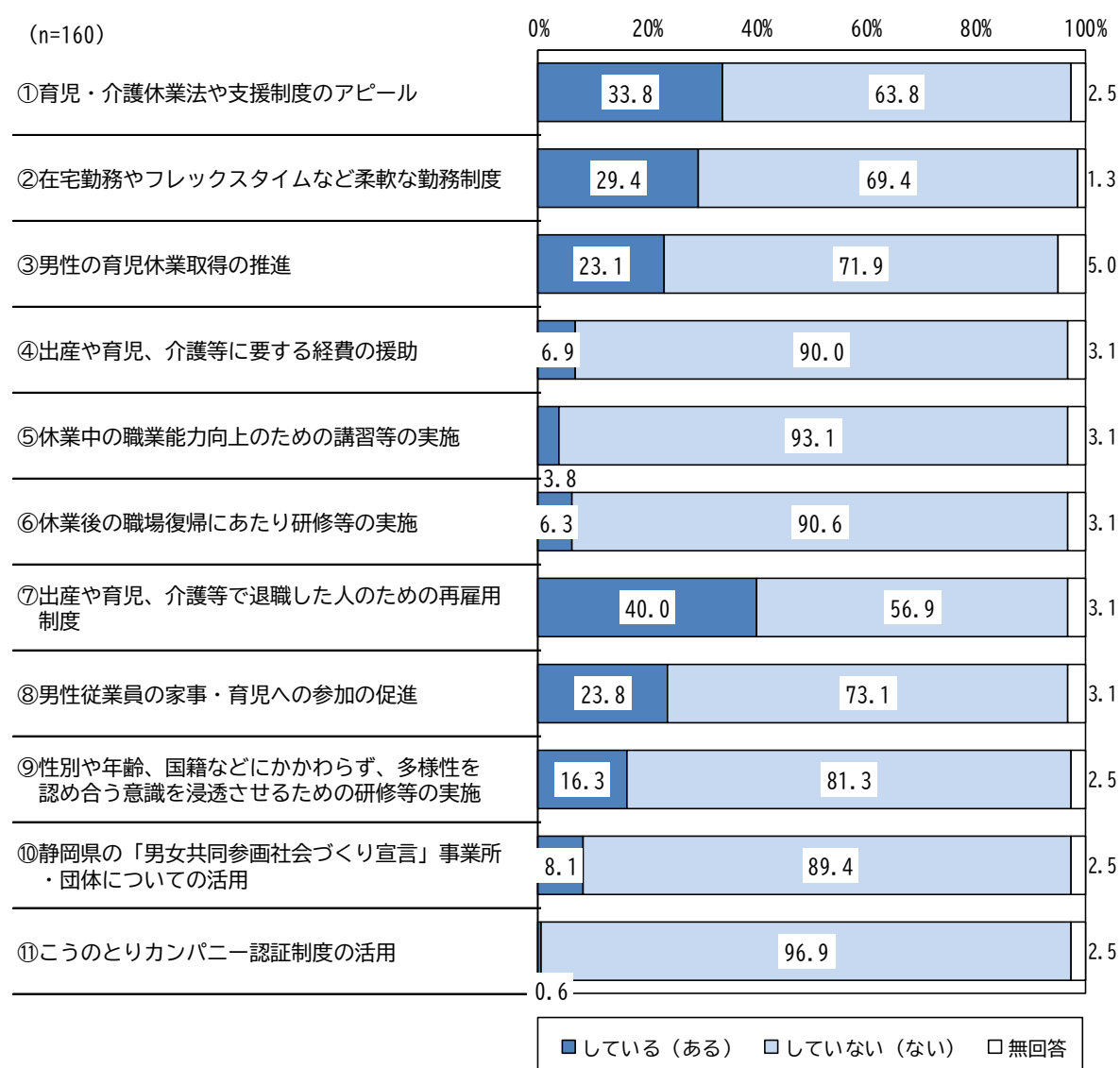
5. 仕事と家庭の両立支援について

(1) 仕事と家庭の両立支援として実施しているもの

問 14 仕事と家庭の両立支援として実施しているものはありますか。(それぞれ1つに○)

「している(ある)」は、＜⑦出産や育児、介護等で退職した人のための再雇用制度＞が40.0%で最も高く、次いで＜①育児・介護休業法や支援制度のアピール＞や＜②在宅勤務やフレックスタイムなど柔軟な勤務制度＞が3割程度となっています。

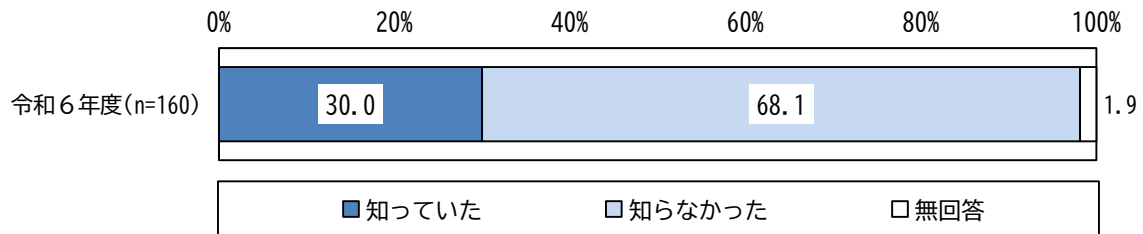
すべての項目で「していない(ない)」が「している(ある)」を上回りますが、＜⑪このとりカンパニー認証制度の活用＞は、「していない(ない)」が96.9%と最も高くなっています。



（２）静岡県「男女共同参画社会づくり宣言」の認知

問 15 あなたは、問 14 の⑩に記載されている、静岡県の「男女共同参画社会づくり宣言」をご存じでしたか。（○は１つ）

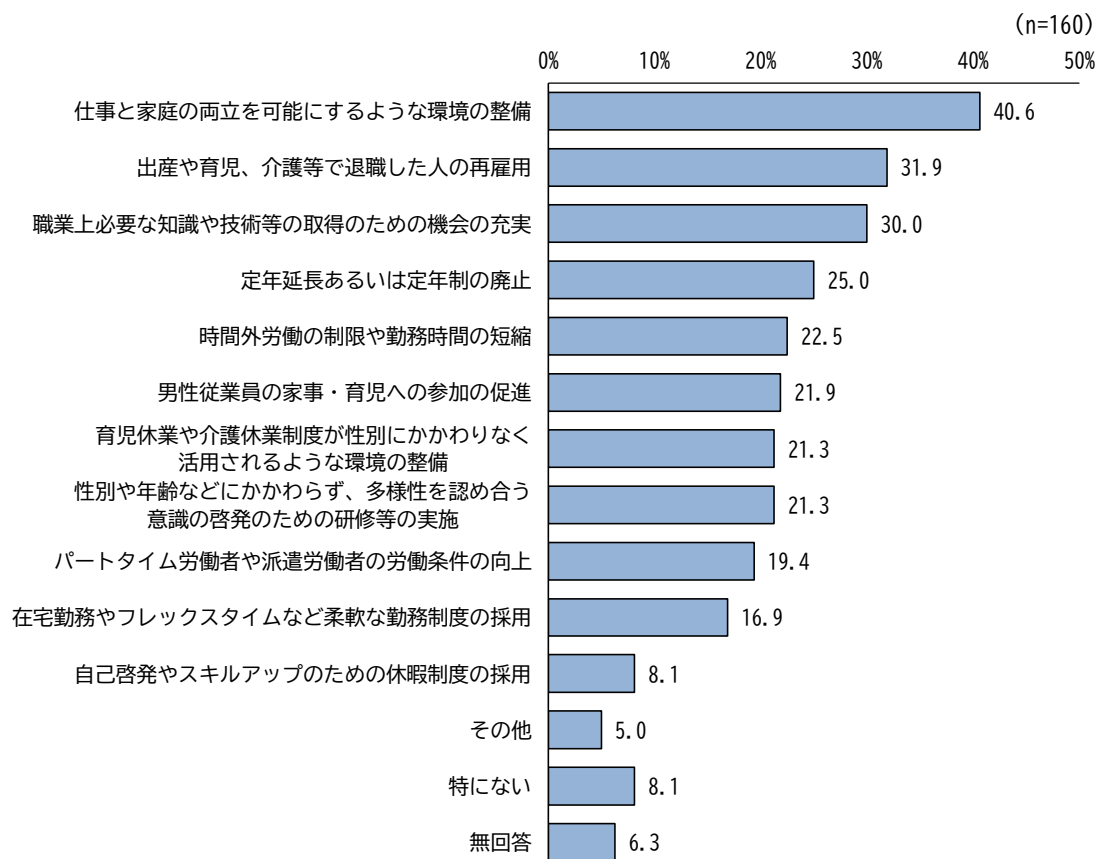
「知らなかった」が 68.1%、「知っていた」が 30.0%となっています。



（３）誰もが働きやすい職場環境整備に必要なこと

問 16 性別にかかわらず、誰もが働きやすい職場環境をつくるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。（○はいくつでも）

「仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備」が 40.6%で最も高く、次いで「出産や育児、介護等で退職した人の再雇用」が 31.9%、「職業上必要な知識や技術等の取得のための機会の充実」が 30.0%、「定年延長あるいは定年制の廃止」が 25.0%、「時間外労働の制限や勤務時間の短縮」が 22.5%、「男性従業員の家事・育児への参加の促進」が 21.9%となっています。

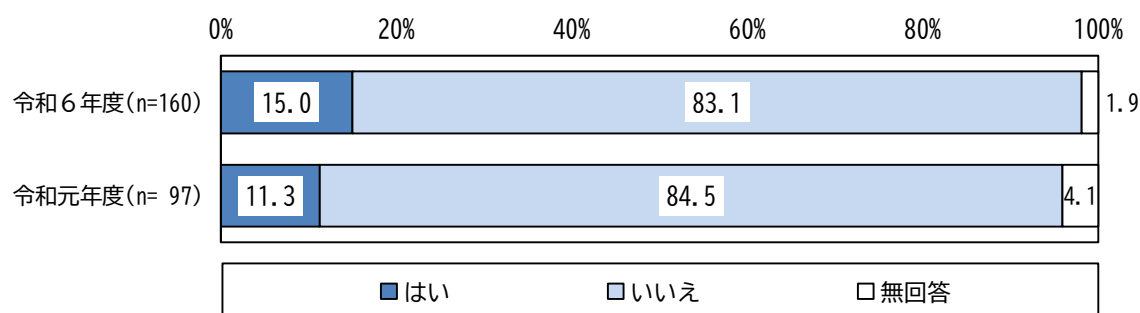


6. 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティの方々にとって働きやすい職場づくりへの取組

問 17 現在、性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって、働きやすい環境づくりに取り組んでいますか。（○は1つ）

「いいえ」が83.1%、「はい」が15.0%となっています。
経年比較でみると、「はい」の割合は令和5年度で3.7ポイント上昇しています。



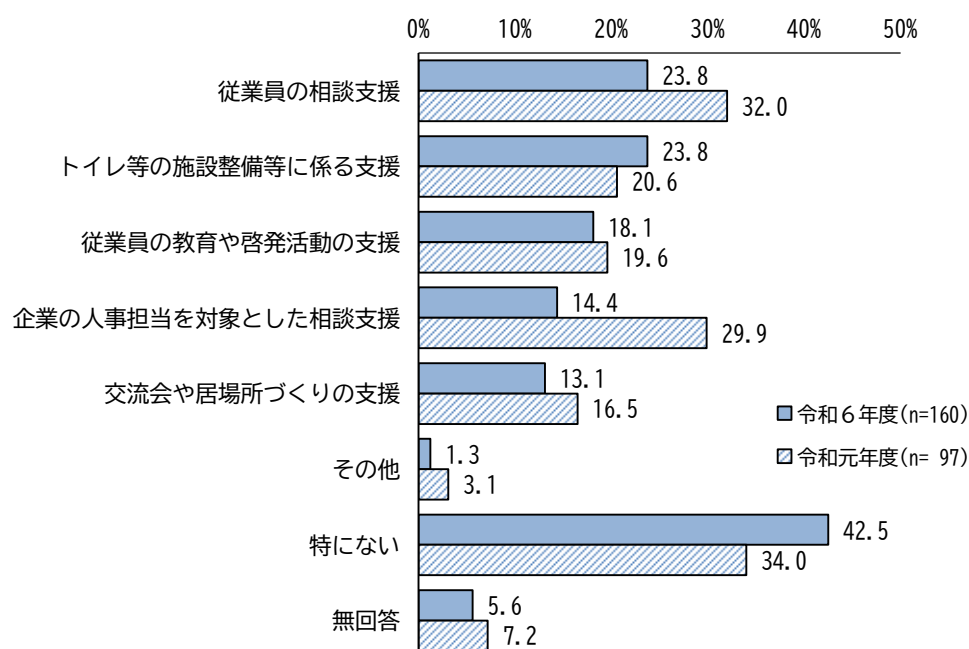
(2) 性的マイノリティの方々にとって働きやすい職場にするために市や県に支援してほしいこと

問 18 性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって、働きやすい職場にするために市や県に支援してほしいことは何ですか。（○はいくつでも）

「従業員の相談支援」と「トイレ等の施設整備等に係る支援」がともに23.8%、次いで「従業員の教育や啓発活動の支援」が18.1%、「企業の人事担当を対象とした相談支援」が14.4%、「交流会や居場所づくりの支援」が13.1%となっています。

一方で、「特にない」も42.5%と高くなっています。

経年比較でみると、「企業の人事担当を対象とした相談支援」や「従業員の相談支援」の割合が低下し、「特にない」が8.5ポイント上昇しています。



7. 自由回答

問 19 市へのご意見・ご要望等がありましたら、お聞かせください。

男女共同参画に関して市への意見・要望を自由に記入していただいたところ、12 事業所より回答がありました。以下に抜粋して掲載しています。

自由回答（12 件）

- 建設業界へ就職しようと思う若い女性が極めて少なく、弊社も若い担い手の確保に力を注いでいるが、中々いないため市からもアピールをしていただければ…と思います。（建設業）
- 社長が高齢の会社だと今回の様なアンケート内容に理解できないといった状況があります。高齢役員の意識を変えるところから取り組んで頂ければよりスムーズに企業が取り入れられるのでは？ と思います。（製造業）
- 人口増のため、様々な外国人雇用の補助（製造業）
- 男女雇用機会均等法を理解する人が少ないのもっと理解のための宣伝をお願いしたい。（サービス業）
- 少子化問題をなんとか…建設業は異性との出会いが少ないため、マッチングする機会を何か考えてほしい。建設業に限らず全産業に言えることではないだろうか考える。ただ、本人達の意識の問題もありますが…。女性の時代に入っていくと思われるので、女性には頑張ってもらいたい。（建設業）
- 言い方悪いのは百も承知ですが、医療介護分野においては女性の方が何倍も強く活躍もしています、ご心配なく。（サービス業）
- LGBTQ+の人が来たとしても変わりなく接するようにしている。（事業分類・その他）
- あらゆる面において差別意識が生まれないよう青少年教育に力を注いでいただきたいと願っております。（事業分類・その他）
- こういったことが実現できれば本当に良いことだと思います。働く環境を整えることは大事ですが、働く意味や姿勢を子どもの頃から教育してほしいです。権利だけを主張し働かない人が増えていますよ！市役所でこういった取組が行われているようでしたら、民間との温度差がかなりあることに気付いてください。職員さんの人数と仕事量、人件費、適正でしょうか。もっと中小零細企業にこういった活動ができるように回せる税金があるように思います。文句ではありません。1人の経営者としての意見です。寄りそった取組に期待します。（卸売業・小売業）
- 間違った方向に進むべきでない。制度はどうあれ強要されたくない。こんなことをやればやるほど「分断」が進んでいきます。（製造業）
- アンケートに割く時間に対して、ここ数年で何かが変わったり、良くなったことが明確ではない（市や県や国）、何のためのアンケートか？（サービス業）

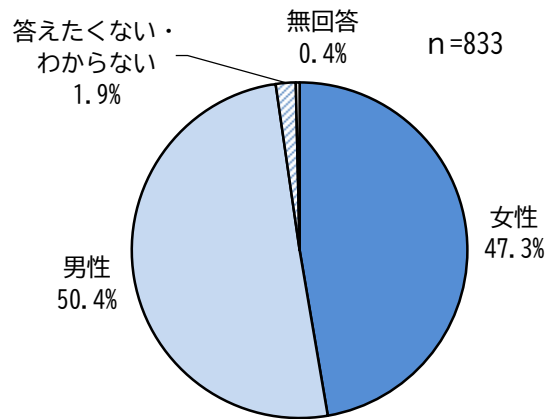
IV 調査結果【市民意識調査(中学生)】

1. 回答者の属性

（1）性別

問1 あなたの性別はどちらですか。（1つに○）

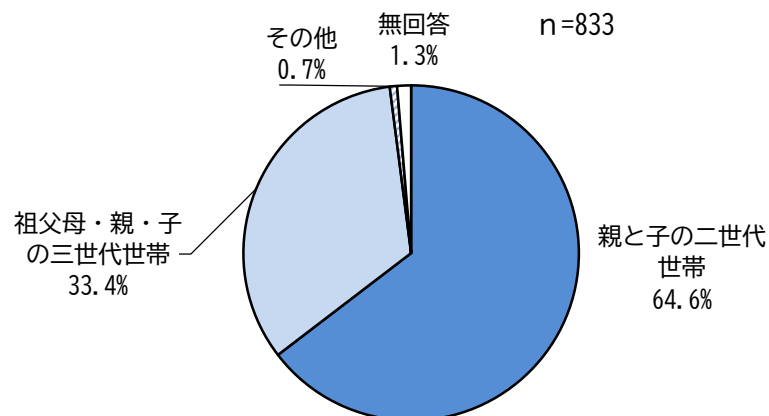
「女性」が47.3%、「男性」が50.4%、「答えたくない・わからない」が1.9%（16人）となっています。



（2）家族構成

問2 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか。（1つに○）

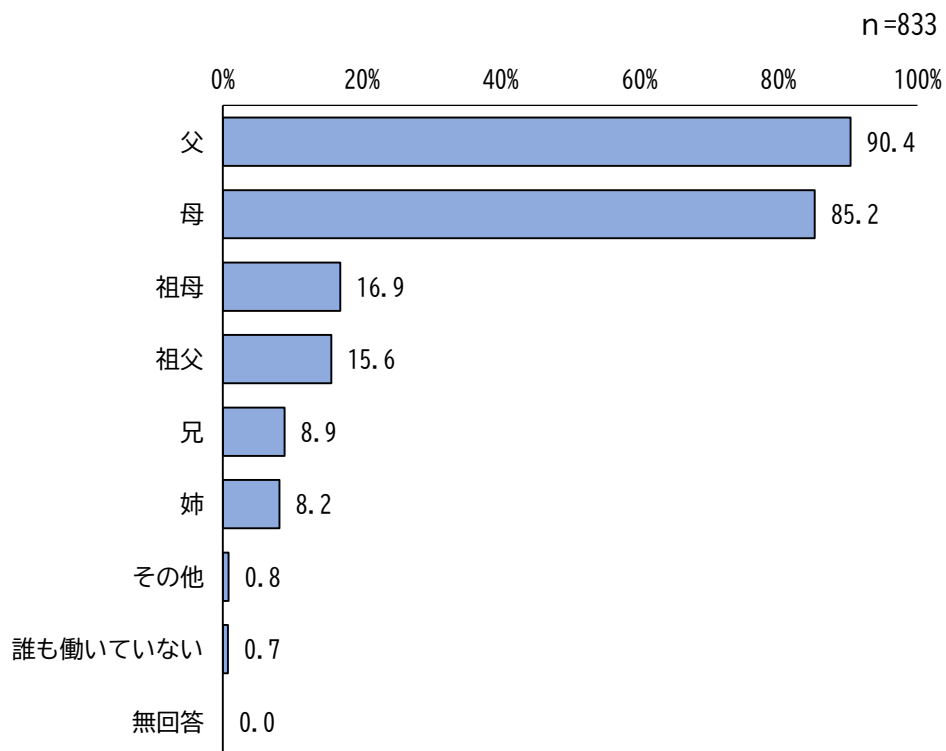
「親と子の二世帯世帯」が64.6%、「祖父母・親・子の三世帯世帯」が33.4%、「その他」が0.7%となっています。



(3) 働いている家族

問3 あなたの家で働いている人は誰ですか。(〇はいくつでも)

「父」が90.4%で最も高く、次いで「母」が85.2%、「祖母」が16.9%、「祖父」が15.6%、「兄」が8.9%、「姉」が8.2%となっています。



2. 学校生活での平等感について

（1）学校またはクラスであること

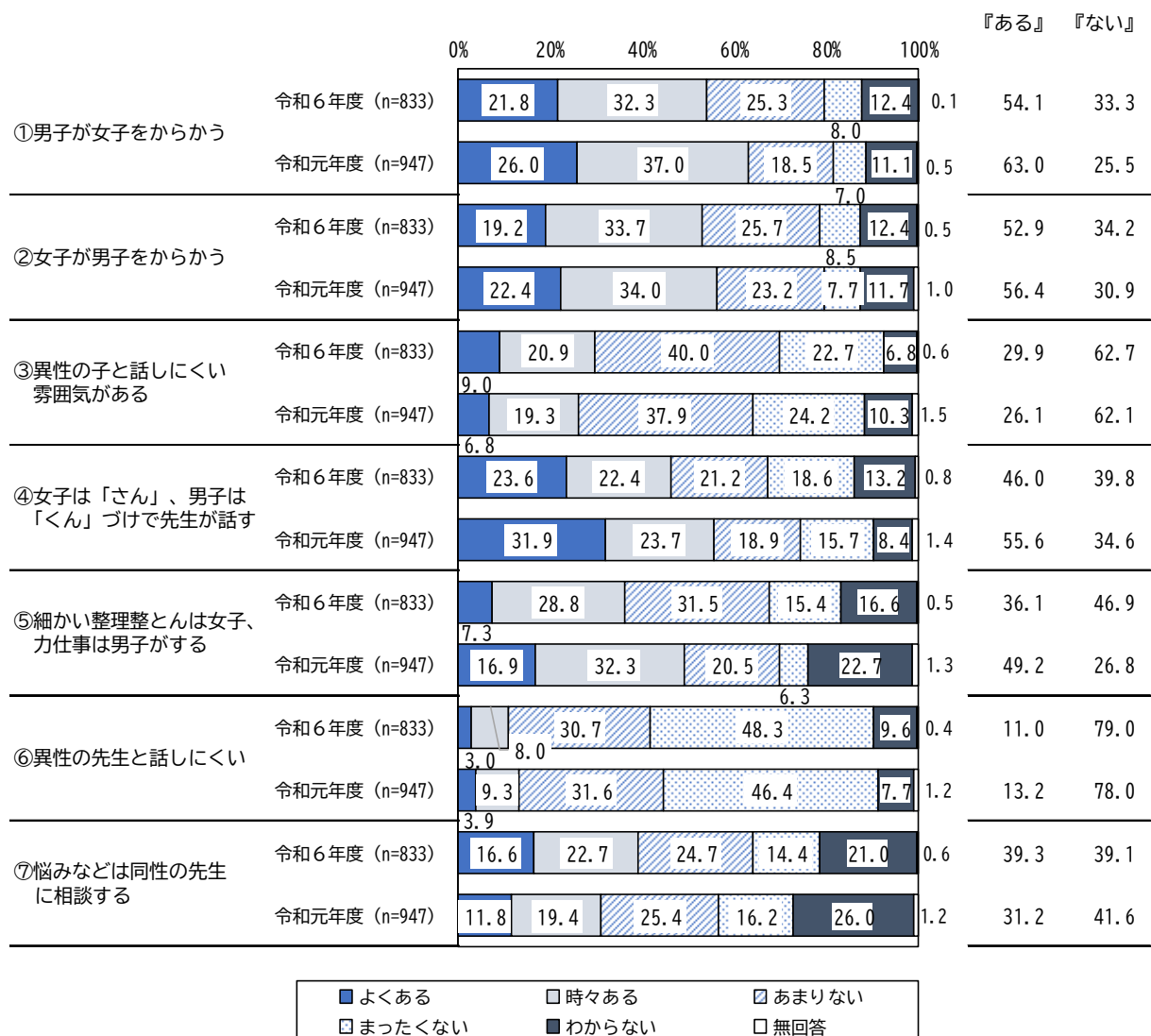
問4 あなたの学校、または、クラスで、次の項目についてどのようなですか。（それぞれ1つに○）

ア. 全体の結果、経年比較

全体では、＜③異性の子と話にくい雰囲気がある＞を除き、いずれの項目も「時々ある」が最も高くなっています。「ある」と「時々ある」を合計した『ある』は、＜①男子が女子をからかう＞と＜②女子が男子をからかう＞で5割を超えています。

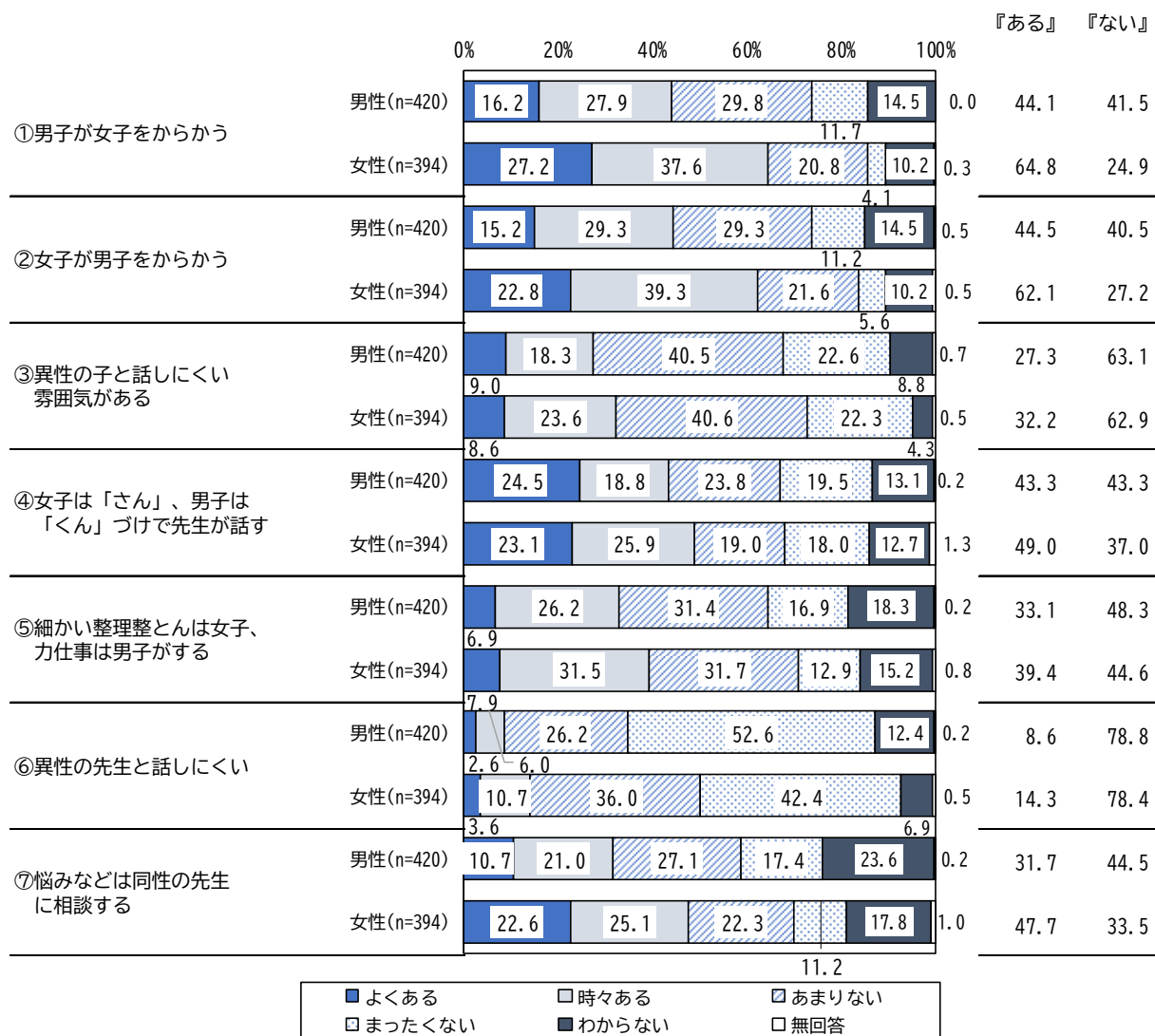
経年比較でみると、多くの項目で「あまりない」「まったくない」を合計した『ない』が上昇しています。『ない』は＜⑤細かい整理整頓は女子、力仕事は男子がする＞で20.1ポイント、＜①男子が女子をからかう＞で7.8ポイント上昇しています。

一方で、＜⑦悩みなどは同性の先生に相談する＞は『ある』が8.1ポイントの上昇となっています。



イ. 性別の結果

性別で比較すると、『ある』はすべての項目で女性が男性を上回ります。特に<①男子が女子をからかう>や<②女子が男子をからかう>、<⑦悩みなどは同性の先生に相談する>で差が大きくなっています（各 20.7/17.6/16.0 ポイント差）。



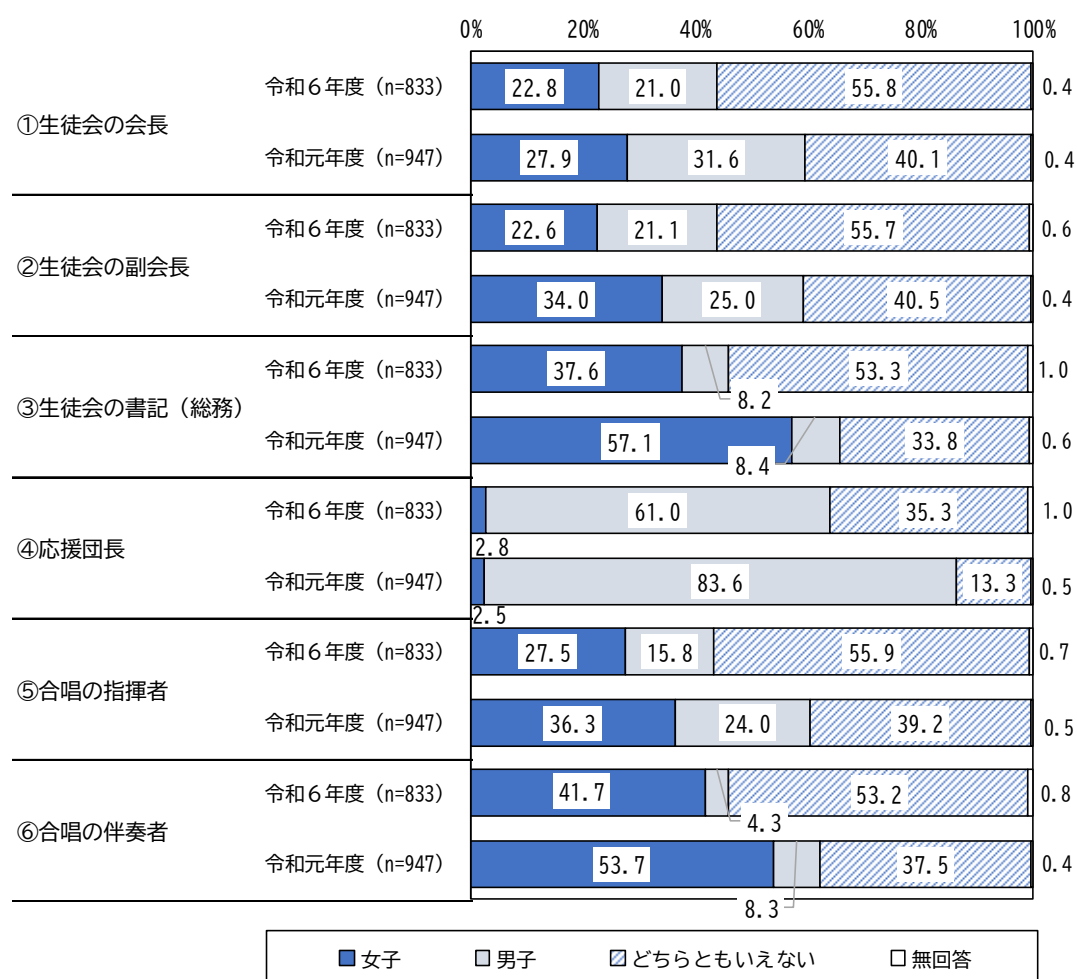
(2) 適していると思う性別

問5 次のことは、男女のどちらに適していると思いますか。（それぞれ1つに○）

ア. 全体の結果、経年比較

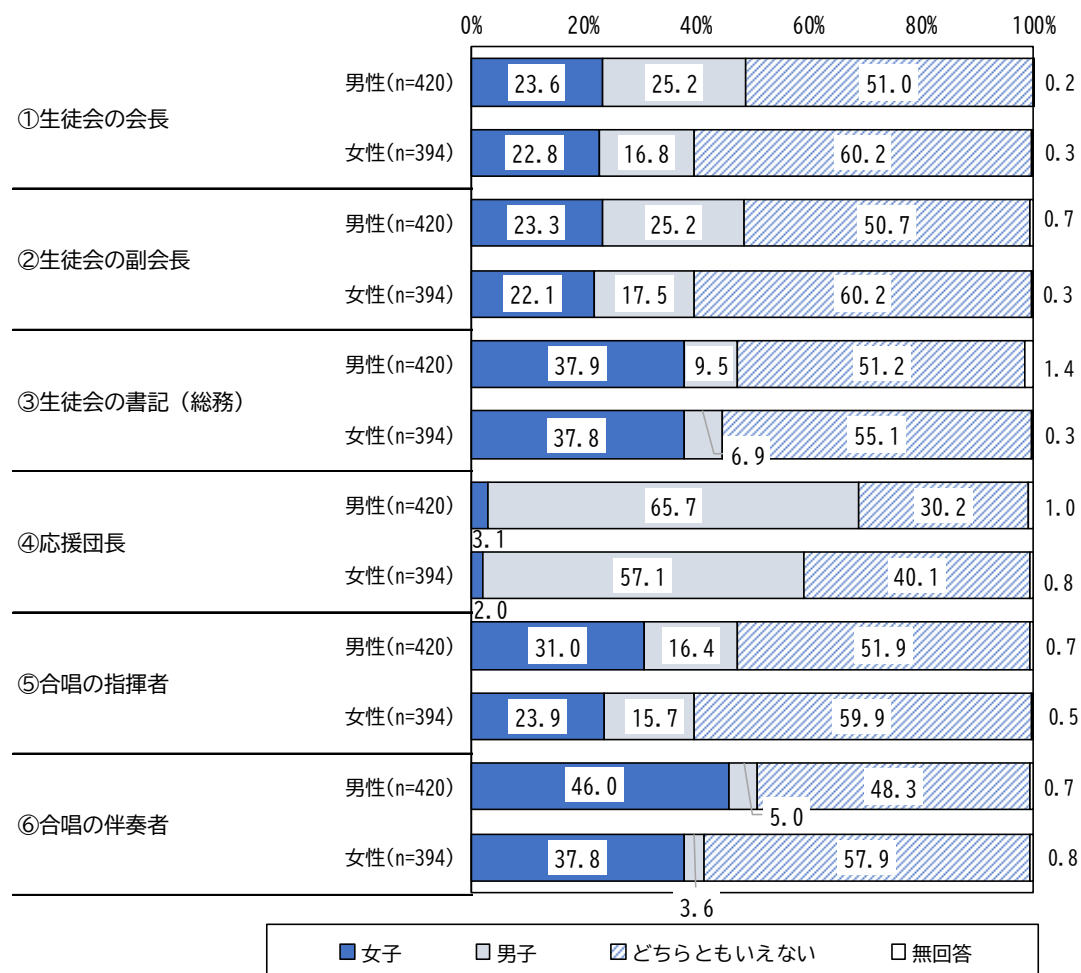
＜④応援団長＞は「男子」、それ以外の項目では「どちらともいえない」が最も高くなっています。

経年比較でみると、多くの項目で「女子」「男子」の割合が低下し、「どちらともいえない」が上昇しています。



イ. 性別の結果

性別で比較すると、男女ともに<④応援団長>は「男子」、それ以外の項目では「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、「男子」は<①生徒会の会長>と<④応援団長>で男性が女性を上回ります（各 8.6/8.4 ポイント差）。一方で、いずれの項目も「どちらともいえない」は女性が男性を上回ります。



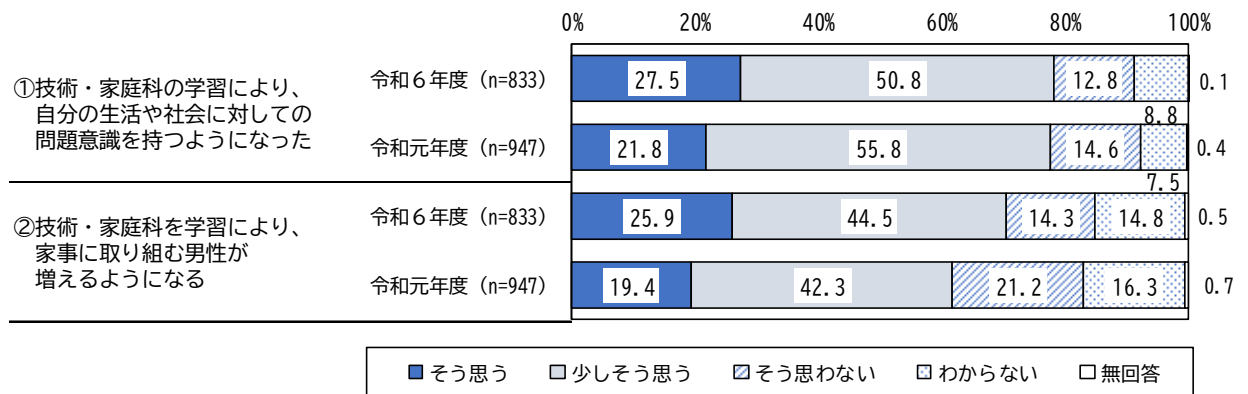
（３）技術・家庭科の授業で思うこと

問６ 技術・家庭科の授業について、次の中からあてはまるものを選んでください。（それぞれ１つに○）

ア．全体の結果、経年比較

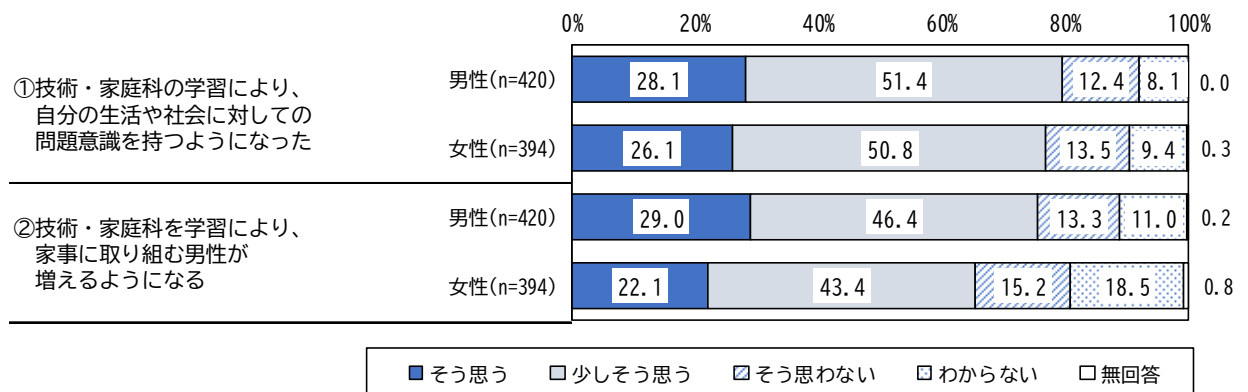
＜①技術・家庭科の学習により、自分の生活や社会に対しての問題意識を持つようになった＞、＜②技術・家庭科を学習により、家事に取り組む男性が増えるようになる＞ともに、「少しそう思う」が最も高く、次いで「そう思う」の順となっています。

経年比較でみると、「そう思う」「少しそう思う」とともに上昇しています。



イ．性別の結果

性別で比較すると、＜①技術・家庭科の学習により、自分の生活や社会に対しての問題意識を持つようになった＞では性別による差はみられません。一方で、＜②技術・家庭科を学習により、家事に取り組む男性が増えるようになる＞について、「そう思う」は男性が女性を上回ります（6.9ポイント差）。



3. 友達との関係について

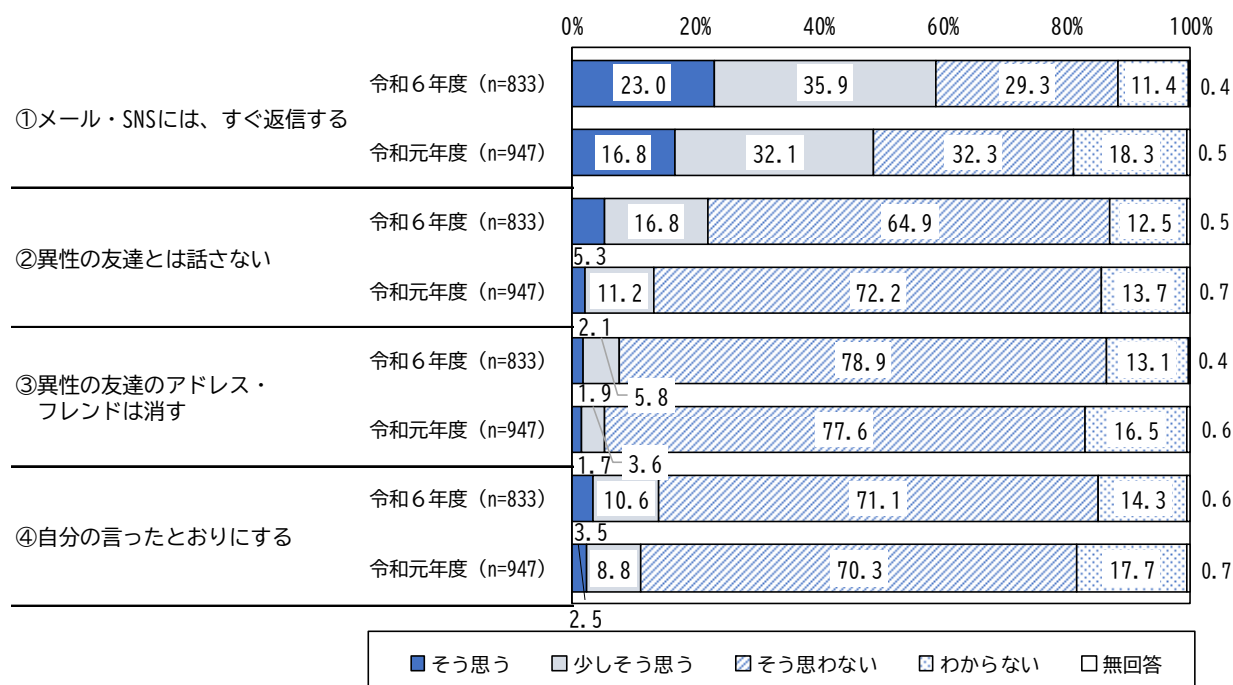
(1) 好きな異性に希望すること

問7 次の項目で、あなたに対して、好きな異性に、とってほしいと思う行動を選んでください。(それぞれ1つに○)

ア. 全体の結果、経年比較

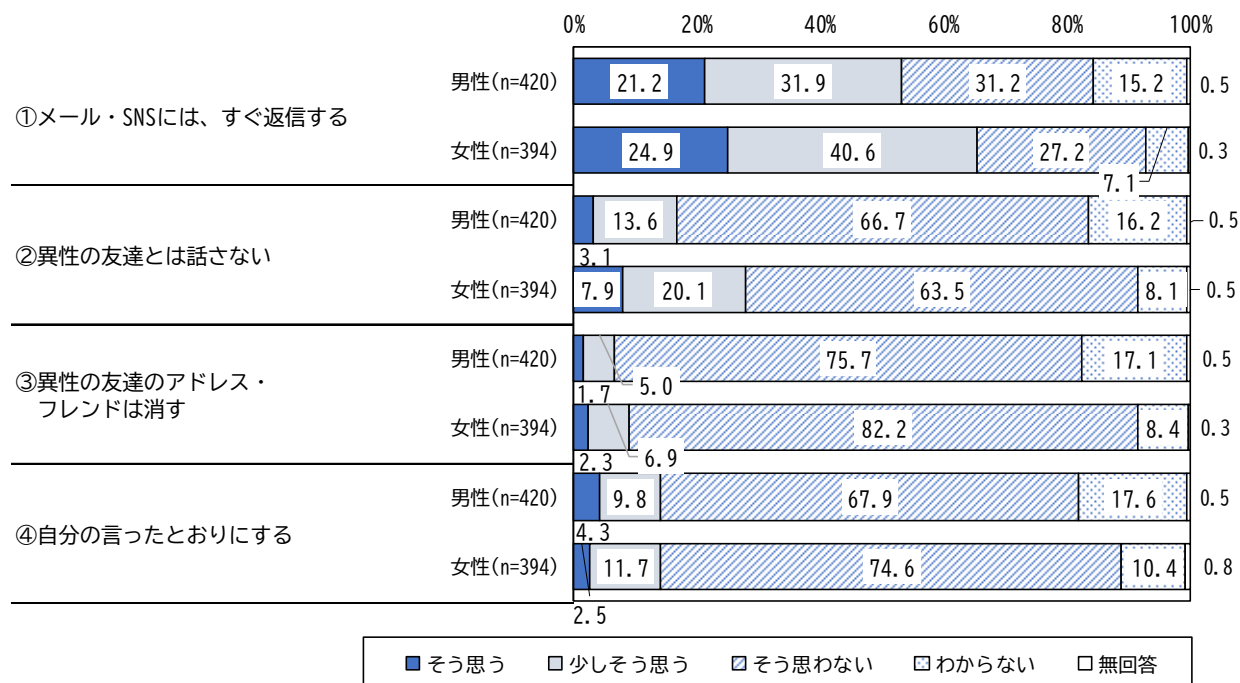
＜①メール・SNS には、すぐ返信する＞を除き、「そう思わない」が最も高くなっています。

経年比較でみると、＜①メール・SNS には、すぐ返信する＞の「そう思う」「少しそう思う」が上昇しています。



イ. 性別の結果

性別で比較すると、＜①メール・SNSには、すぐ返信する＞と＜②異性の友達とは話さない＞の「そう思う」「少しそう思う」ともに女性が男性を上回ります。

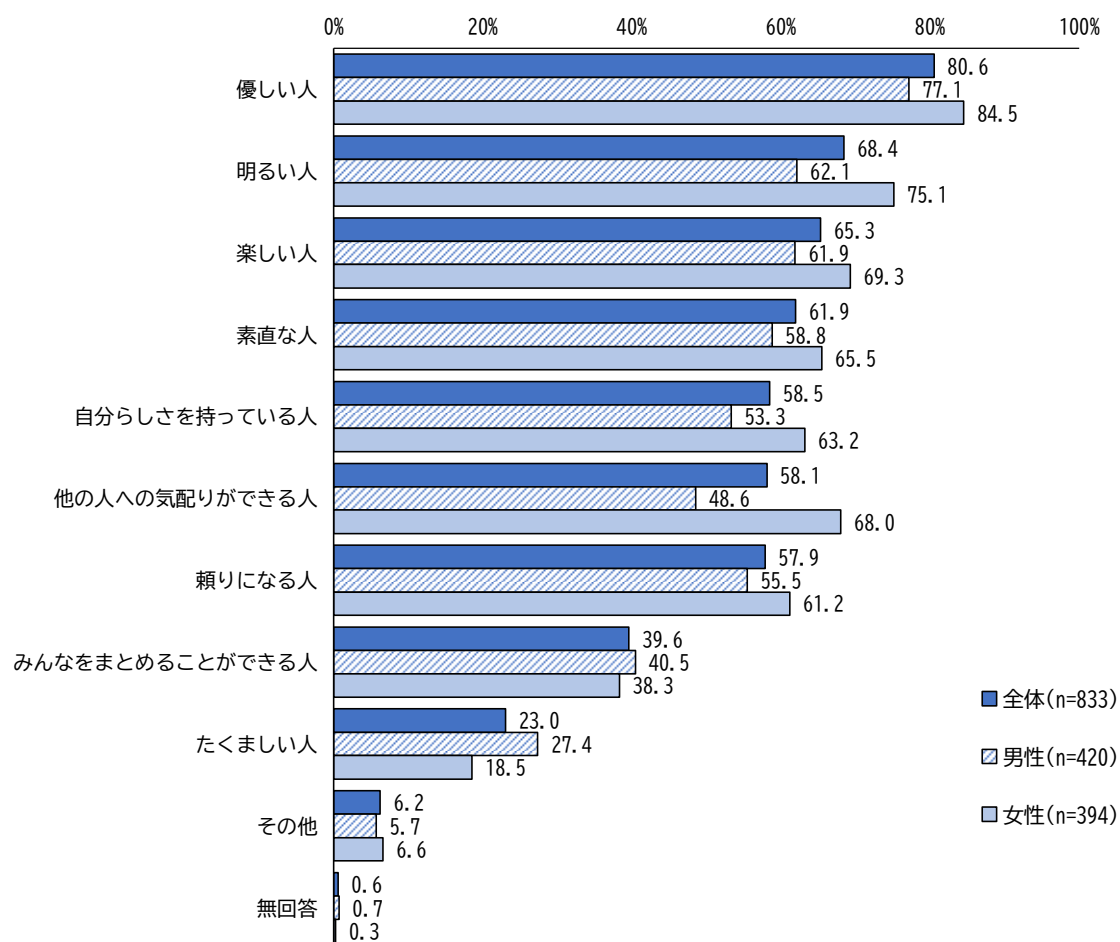


(2) 自分がなりたいタイプ

問8 次の項目で、自分がなりたいタイプを選んでください。(○はいくつでも)

「優しい人」が80.6%で最も高く、次いで「明るい人」が68.4%、「楽しい人」が65.3%、「素直な人」が61.9%、「自分らしさを持っている人」が58.5%、「他の人への気配りができる人」が58.1%となっています。

性別で比較すると、「たくましい人」は男性が女性を上回り(8.9ポイント差)、「他の人への気配りができる人」や「明るい人」は女性が男性を大きく上回ります(19.4/13.0ポイント差)。

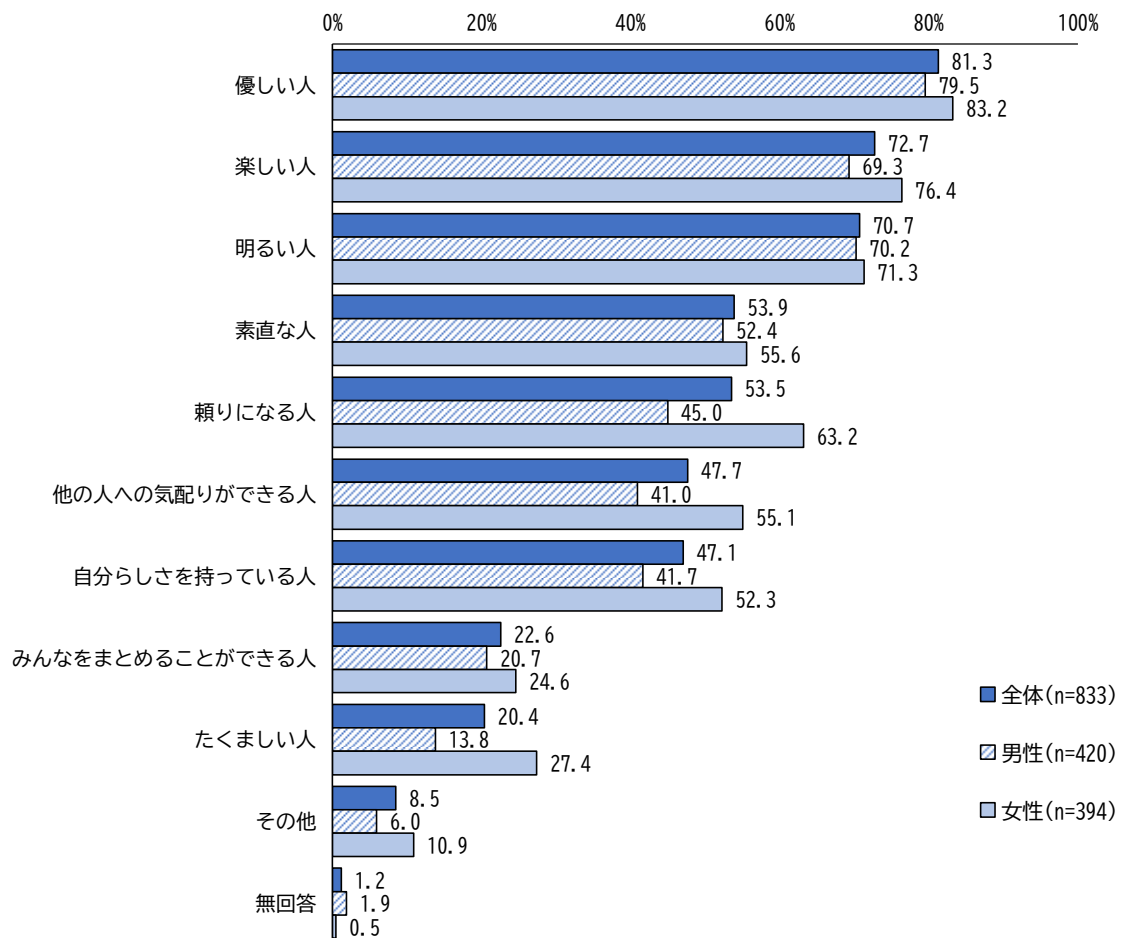


（３）好きな異性の友達のタイプ

問９ 次の項目で、好きな異性の友達のタイプを選んでください。（○はいくつでも）

「優しい人」が81.3%で最も高く、次いで「楽しい人」が72.7%、「明るい人」が70.7%、「素直な人」が53.9%、「頼りになる人」が53.5%、「他の人への気配りができる人」が47.7%となっています。

性別で比較すると、「頼りになる人」や「他の人への気配りができる人」、「たくましい人」は女性が男性を大きく上回ります（18.2／14.1／13.6 ポイント差）。



4. 親との関係について

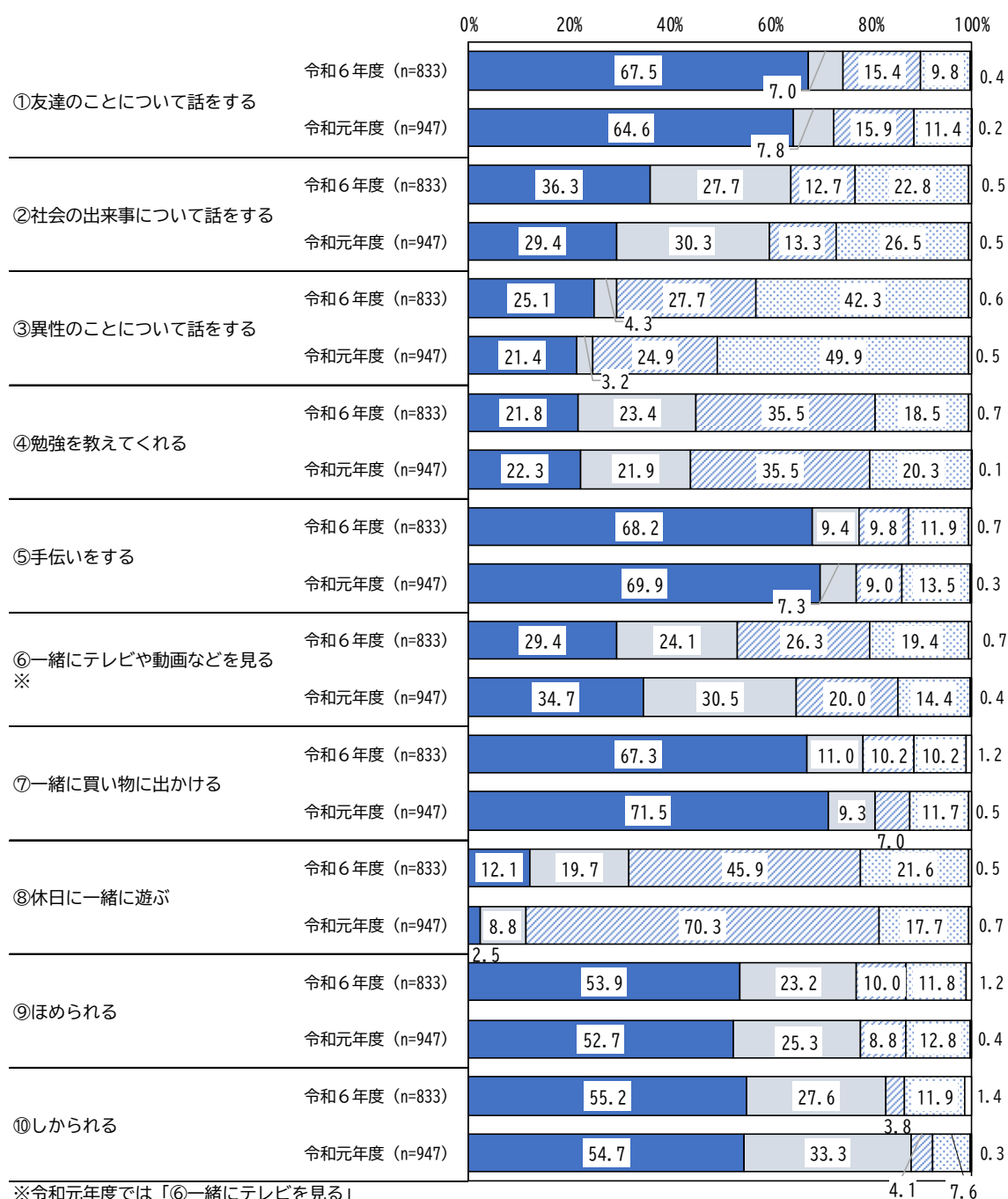
(1) いちばんあてはまると思う人

問 10 次の項目で、いちばんあてはまると思う人を選んでください。(それぞれ1つに○)

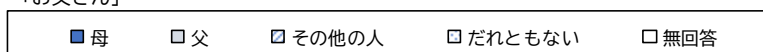
ア. 全体の結果、経年比較

「母」は<⑤手伝いをする>や<①朝一人で起きる>や<①友達のことについて話をする>、<⑦一緒に買い物に出かける>で6割、<⑩しかられる><⑨ほめられる>で5割を超え高くなっています。

経年比較でみると、「母」「父」ともに<⑧休日に一緒に遊ぶ>が10ポイント近く上昇しています。



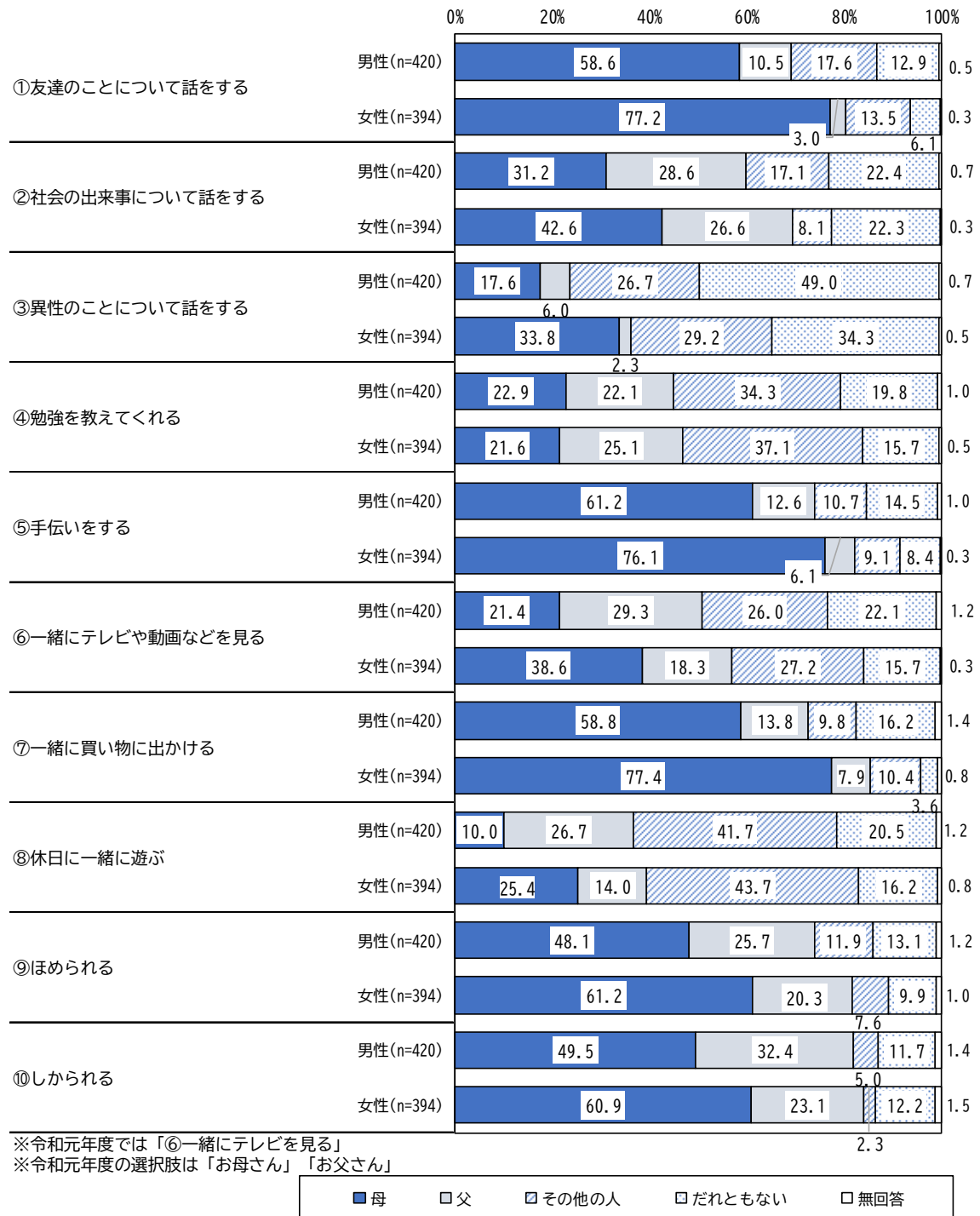
※令和元年度では「⑥一緒にテレビを見る」
※令和元年度の選択肢は「お母さん」「お父さん」



イ. 性別の結果

性別で比較すると、＜④勉強を教えてくれる＞を除き、女性は「母」、男性は「父」の割合が高くなっています。特に女性では＜⑦一緒に買い物に出かける＞、＜①友達のことについて話をする＞、＜⑤手伝いをする＞で「母」が7割を超えるなど高くなっています。

そのほか、男性で＜③異性のことについて話をする＞で「だれともない」が約5割と女性を大きく上回ります（14.2ポイント差）。



5. 家庭生活について

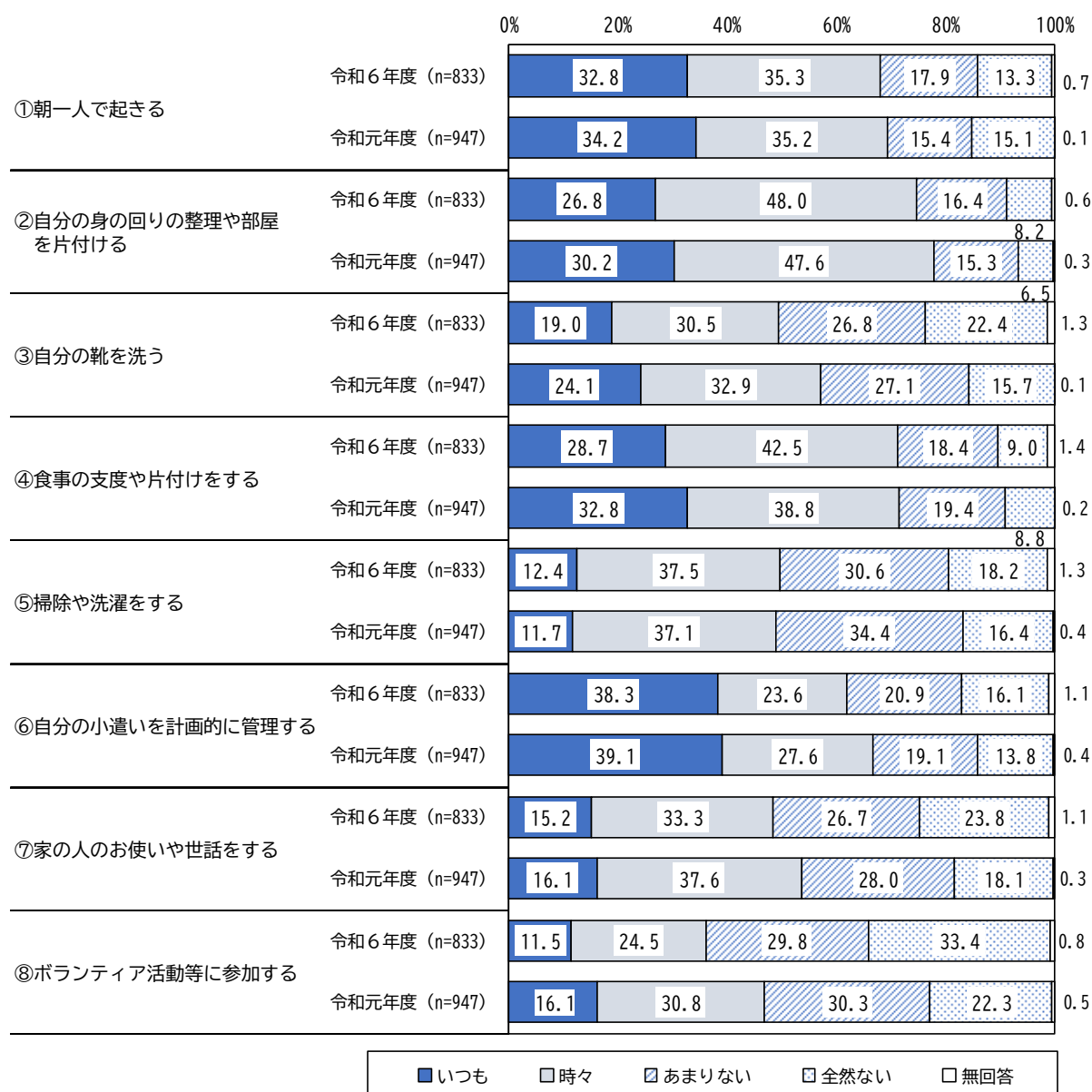
(1) 身の回りのことを行う頻度

問 11 身の回りのことについて、あてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに○)

ア. 全体の結果、経年比較

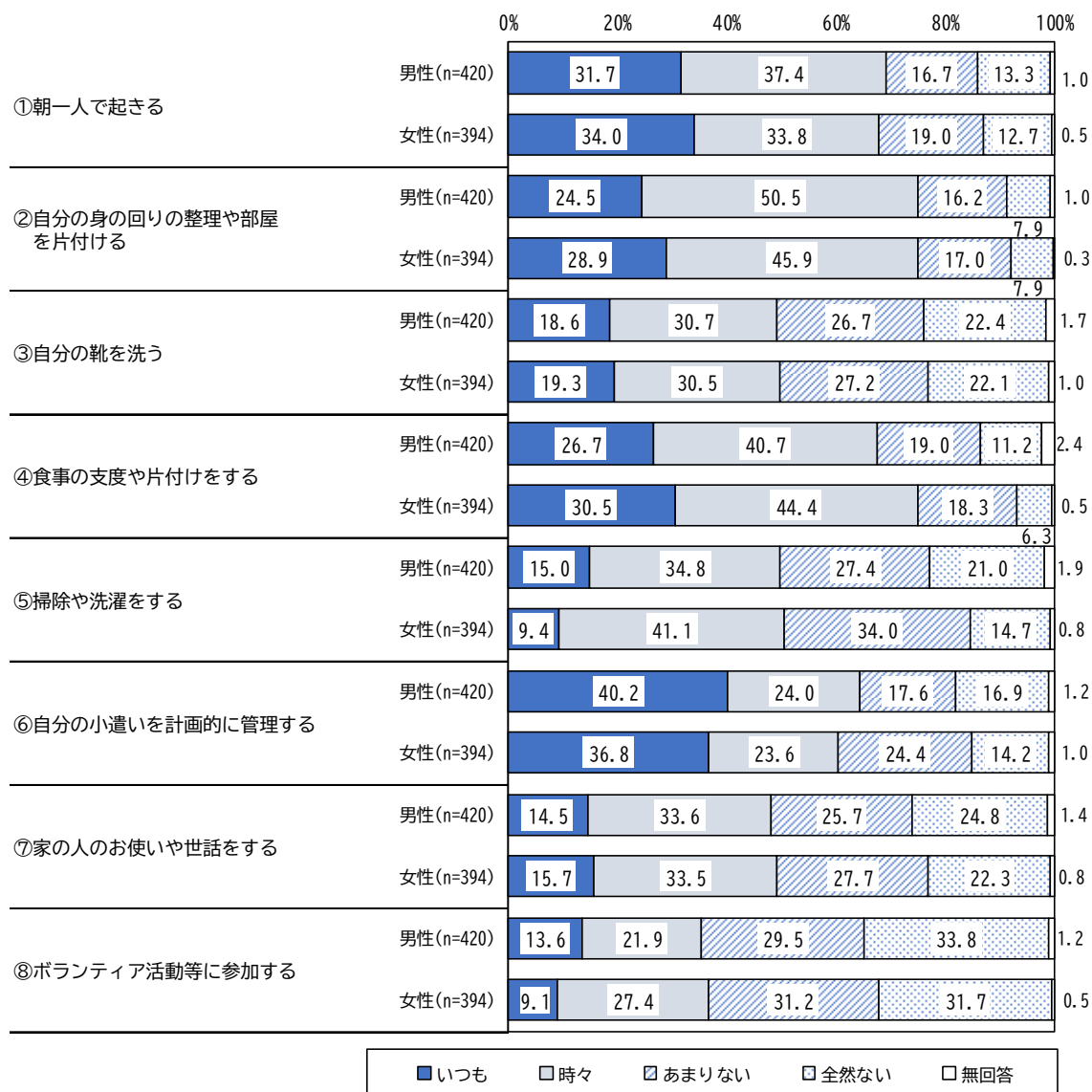
多くの項目で「時々」が最も高くなっています。「いつも」は<⑥自分の小遣いを計画的に管理する>や<①朝一人で起きる>で3割を超えています。「全然ない」は<⑧ボランティア活動等に参加する>のみ3割を超えるなど、他の項目を上回ります。

経年比較でみると、「いつも」は多くの項目で低下傾向にあり、「全然ない」は<⑧ボランティア活動等に参加する>や<③自分の靴を洗う>、<⑦家の人のお使いや世話をする>で5ポイント以上上昇しています。



イ. 性別の結果

性別でみると、男女ともに多くの項目で「時々」が最も高くなっています。＜⑥自分の小遣いを計画的に管理する＞について、「いつも」は男性が女性をやや上回り（3.4 ポイント差）、＜⑤掃除や洗濯をする＞については、「時々」は女性が男性を上回り（6.3 ポイント差）、「全然ない」は男性が女性を上回ります（6.3 ポイント差）。



(2) 身の回りのことを行う頻度

問12 次の①～⑩は主に誰がしていますか。主にしている人の番号を選んでください。(それぞれ1つに○)

ア. 全体の結果、経年比較

「母」は<⑥育児、子どものしつけ>、<③日々の家計の管理>や<①掃除、洗濯、食事の支度など>で6割を超え高くなっています。「父」は<⑤生活費を稼ぐ>で6割台、<②ゴミ出しなどの簡単な家事>で3割台となっています。

経年比較でみると、「母」は<①掃除、洗濯、食事の支度など>や<③日々の家計の管理>で低下、<④高額の商品の購入を決める>で上昇しています。「父」は<②ゴミ出しなどの簡単な家事>などで上昇がみられます。また、多くの項目で「みんなで協力して」の割合が上昇しており、特に<①掃除、洗濯、食事の支度など>では10ポイント程度上昇しています。

問12 主にしている人

単位：％

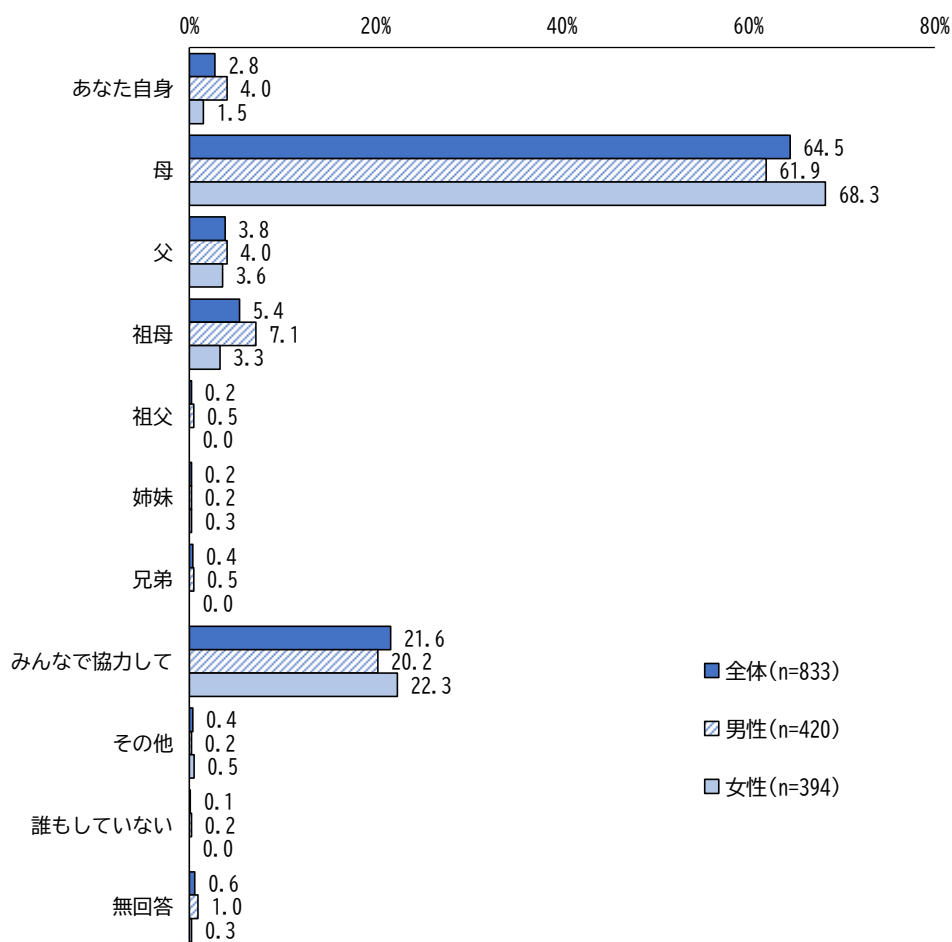
		あなた自身	母	父	祖母	祖父	姉妹	兄弟	みんなで協力して	その他	誰もして いない	無回答
①掃除、洗濯、 食事の支度など	令和6年度(n=833)	2.8	64.5	3.8	5.4	0.2	0.2	0.4	21.6	0.4	0.1	0.6
	令和元年度(n=947)	4.1	70.3	3.2	7.3	0.0	0.2	0.6	12.0	1.3	0.5	0.4
②ゴミ出しなどの 簡単な家事	令和6年度(n=833)	9.5	29.3	32.4	5.5	4.0	1.2	1.4	15.6	0.5	0.0	0.6
	令和元年度(n=947)	13.3	33.7	27.9	6.5	4.0	0.6	1.5	11.2	1.0	0.1	0.2
③日々の家計の管理	令和6年度(n=833)	1.6	64.8	14.2	4.3	0.6	0.1	0.0	8.2	1.7	3.6	1.0
	令和元年度(n=947)	1.4	70.6	10.1	5.2	0.5	0.1	0.0	5.2	4.3	1.9	0.6
④高額の商品の 購入を決める	令和6年度(n=833)	3.5	40.6	28.6	1.3	0.4	0.1	0.1	15.8	1.4	7.0	1.2
	令和元年度(n=947)	4.4	33.4	37.9	1.9	0.5	0.0	0.1	11.5	3.7	6.1	0.4
⑤生活費を稼ぐ	令和6年度(n=833)	1.4	15.2	63.1	0.4	0.1	0.0	0.1	16.4	1.6	0.5	1.1
	令和元年度(n=947)	0.5	17.2	65.2	1.4	1.0	0.2	0.2	9.0	4.1	0.8	0.4
⑥育児、子どもの しつけ	令和6年度(n=833)	3.4	68.1	5.4	1.3	0.5	0.1	0.1	12.2	1.1	6.8	1.0
	令和元年度(n=947)	1.6	69.2	7.3	3.1	0.3	0.2	0.3	9.7	2.3	5.5	0.5
⑦親の世話（介護）	令和6年度(n=833)	3.7	16.7	5.5	2.8	0.7	0.5	1.0	10.6	1.7	54.7	2.2
	令和元年度(n=947)	4.6	14.8	3.2	2.4	0.4	1.5	1.4	14.4	4.4	51.3	1.6
⑧自治会などの 地域活動	令和6年度(n=833)	4.7	19.7	26.1	7.4	4.6	0.2	0.1	13.2	1.9	20.5	1.6
	令和元年度(n=947)	7.0	17.6	25.6	5.0	6.5	0.5	0.3	14.7	3.9	18.0	1.0
⑨近所とのつきあい	令和6年度(n=833)	6.6	30.4	13.9	13.4	4.4	0.1	0.6	19.7	2.2	7.1	1.6
	令和元年度(n=947)	4.5	32.1	10.5	13.5	3.3	0.1	0.3	24.8	3.0	7.6	0.3
⑩子どもの行事 への参加	令和6年度(n=833)	13.9	42.1	9.5	1.2	0.5	0.7	1.4	14.4	1.3	13.9	1.0
	令和元年度(n=947)	22.3	37.6	6.9	1.3	0.3	1.8	1.9	14.9	2.1	10.0	1.0

イ. 性別の結果

① 掃除、洗濯、食事の支度など

性別でみると、男女ともに「母」が最も高く、次いで「みんなで協力して」の順となっています。

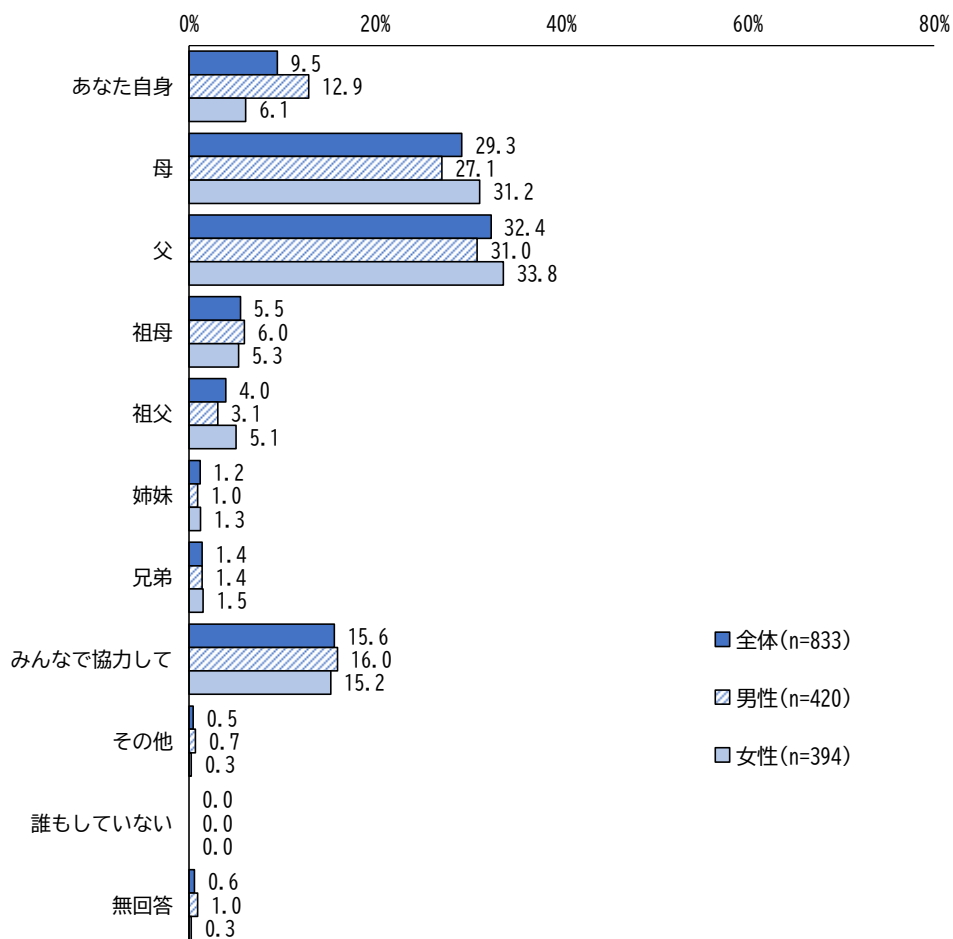
「母」は女性が男性を上回ります（6.4 ポイント差）。



② ゴミ出しなどの簡単な家事

性別でみると、男女ともに「父」「母」「みんなで協力して」の順となっています。

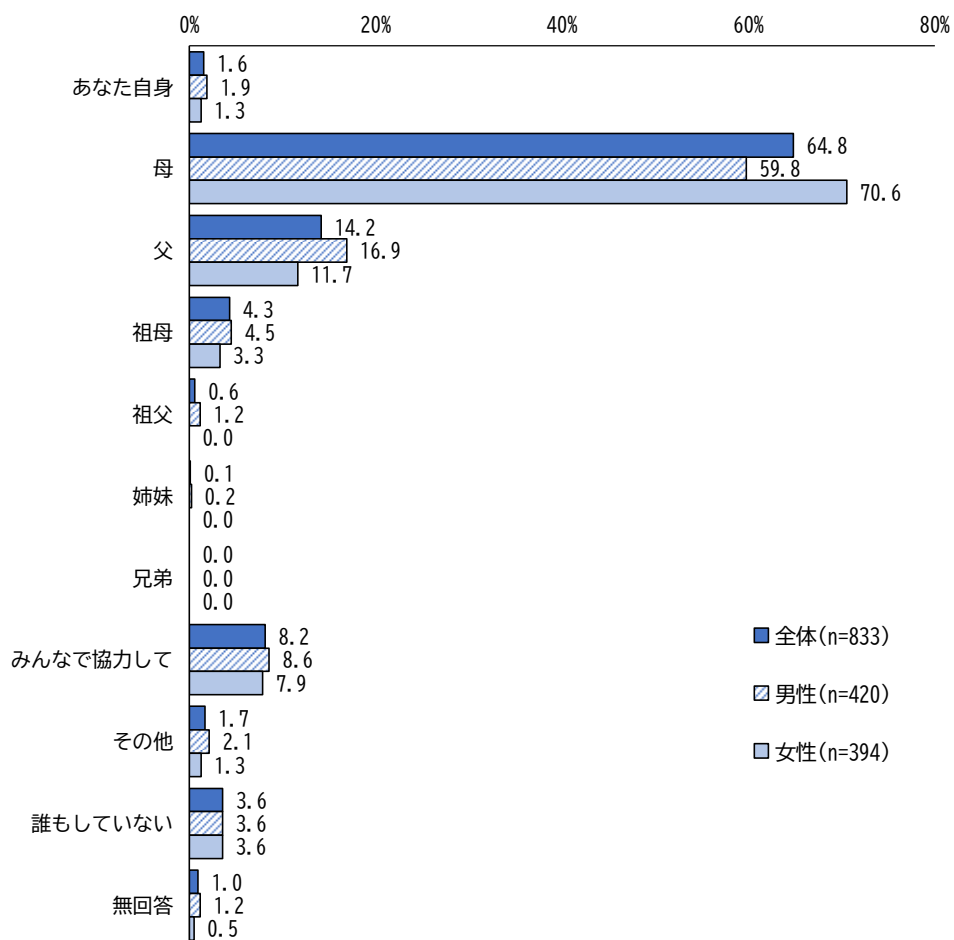
「あなた自身」は男性が女性を上回ります（6.8 ポイント差）。



③ 日々の家計の管理

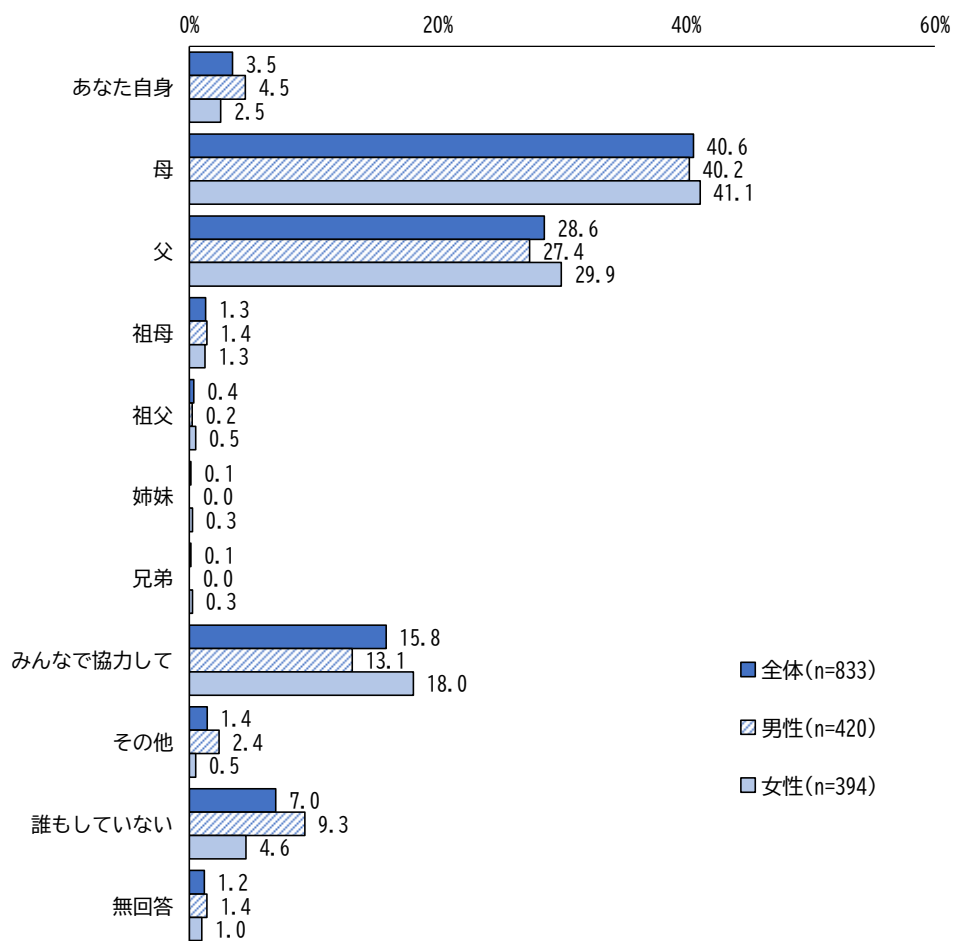
性別でみると、男女ともに「母」が最も高くなっています。

「母」は女性が男性を上回り（10.8 ポイント差）、「父」は男性が女性を上回ります（5.2 ポイント差）。



④ 高額の品物の購入を決める

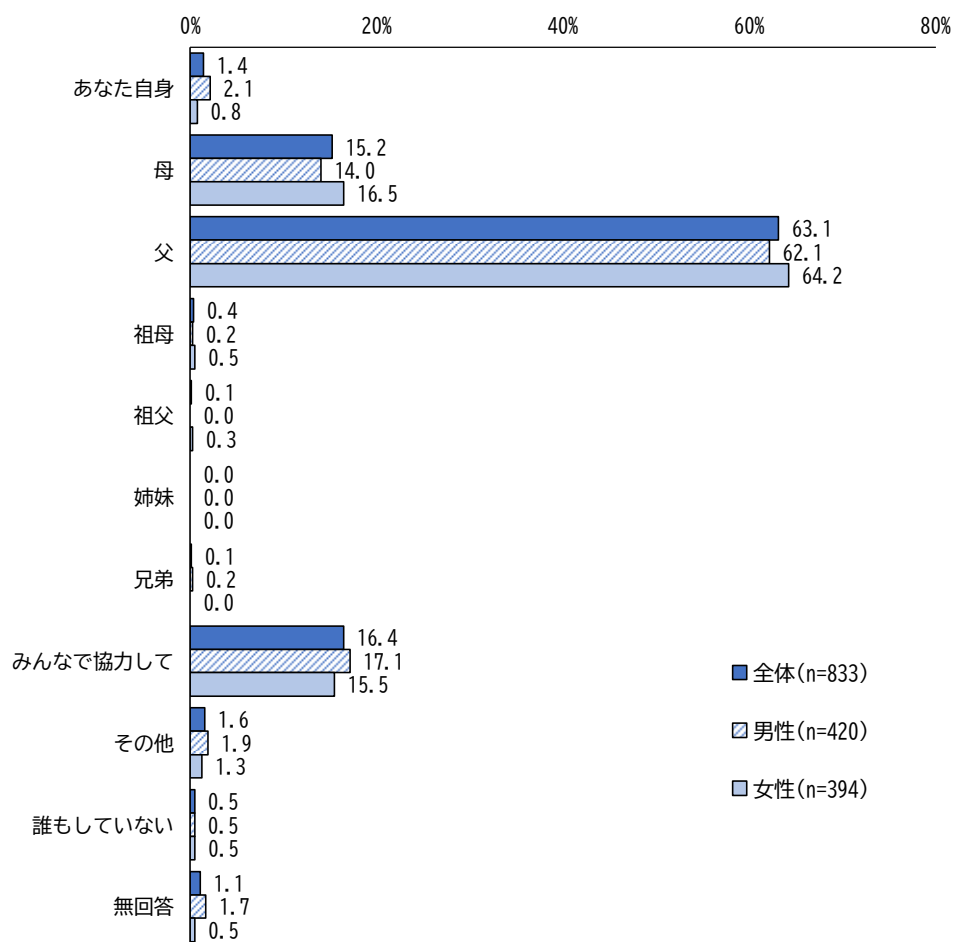
性別でみると、男女ともに「母」が最も高く、次いで「父」「みんなで協力して」の順となっています。「みんなで協力して」は女性が男性を上回ります（4.9 ポイント差）。



⑤ 生活費を稼ぐ

性別でみると、男女ともに「父」が最も高くなっています。

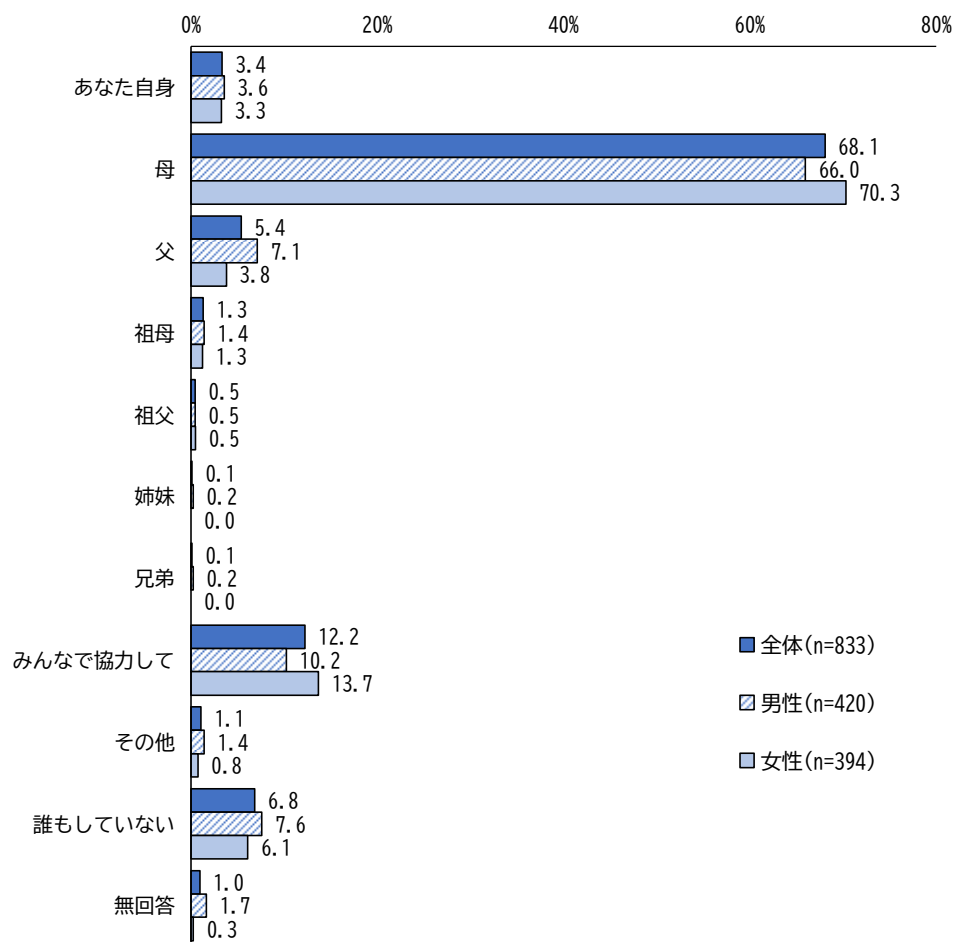
各項目の割合に大きな差はみられません。



⑥ 育児、子どものしつけ

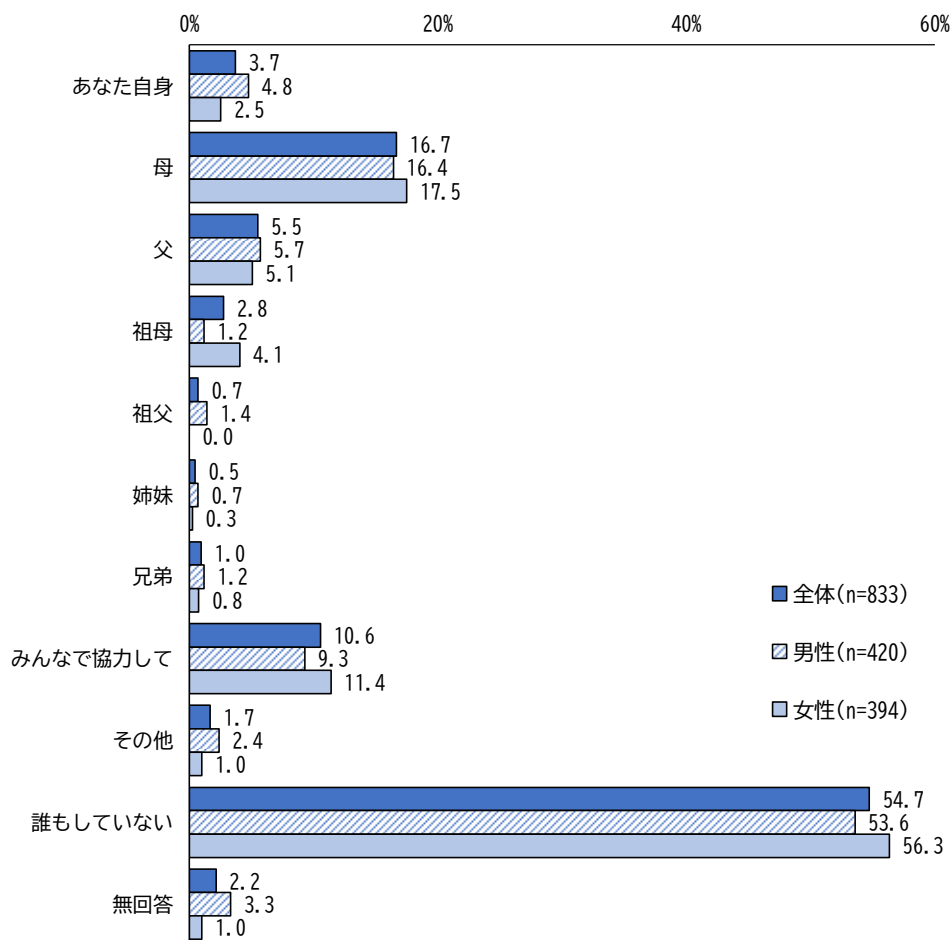
性別でみると、男女ともに「母」が最も高くなっています。

「母」は女性が男性をやや上回ります（4.3 ポイント差）。



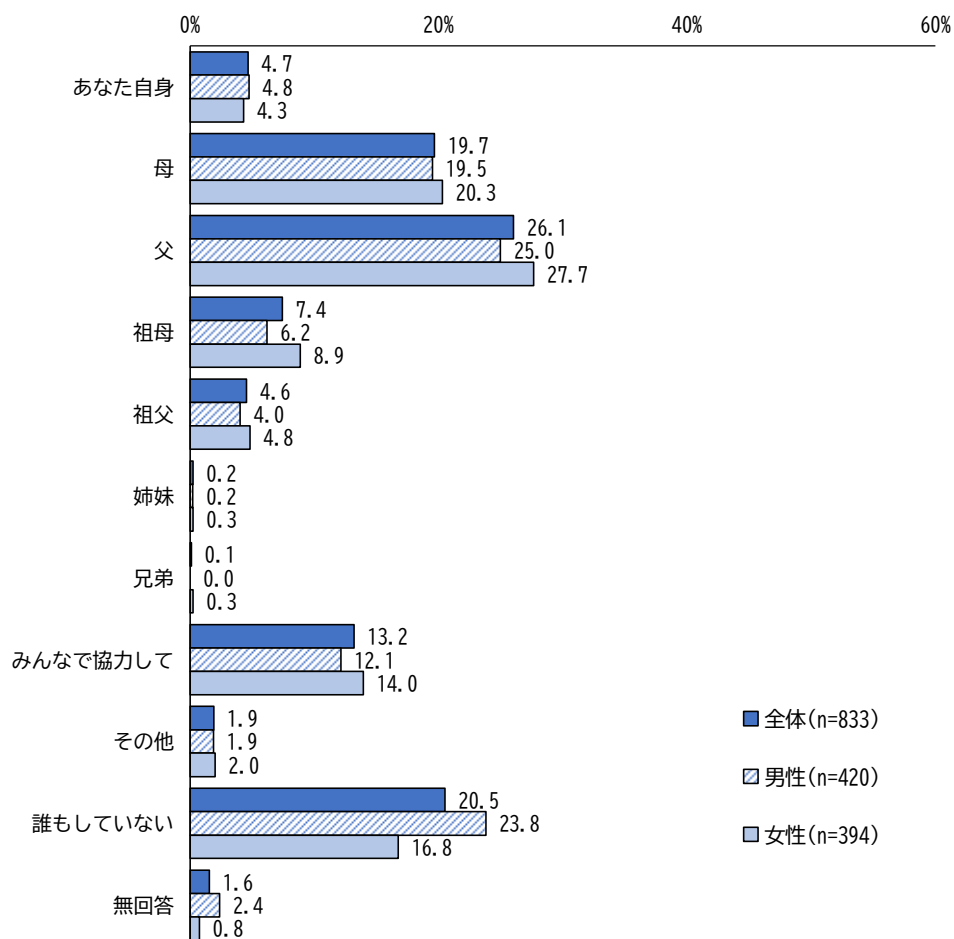
⑦ 親の世話（介護）

性別でみると、男女ともに「誰もしていない」が最も高くなっています。
各項目の割合に大きな差はみられません。



⑧ 自治会などの地域活動

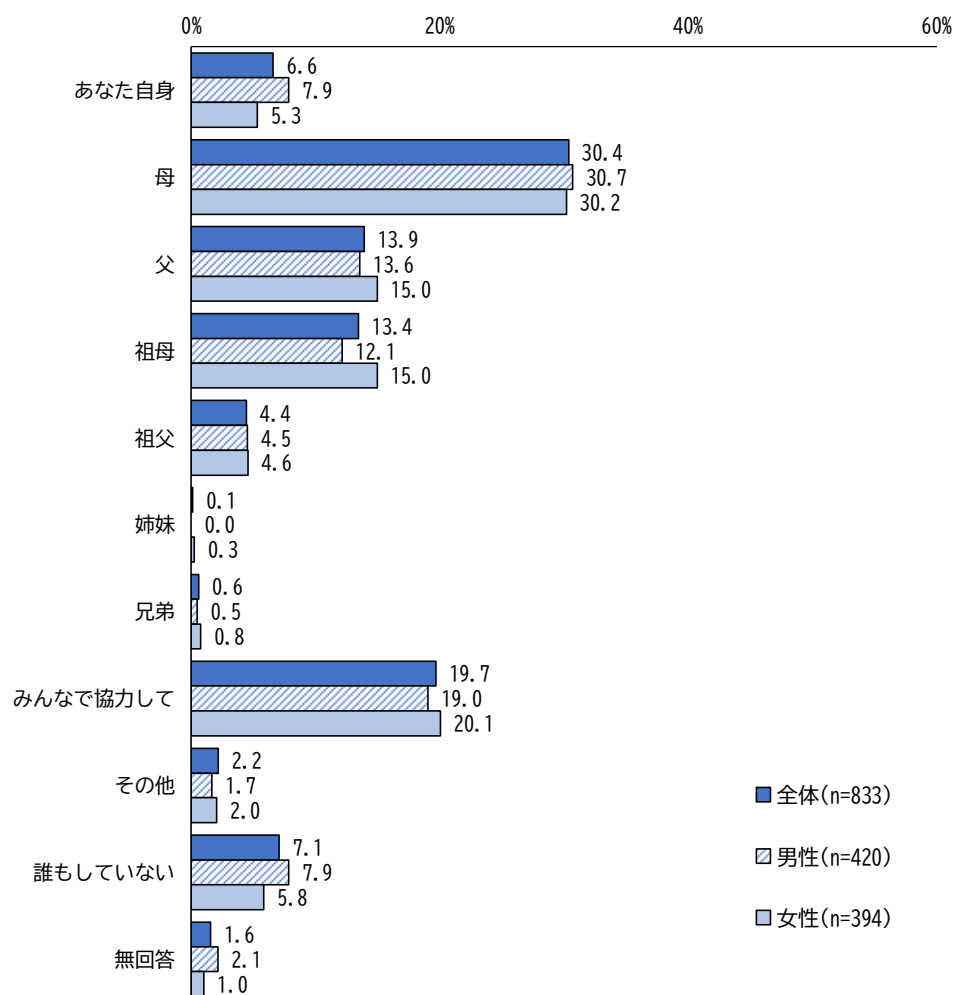
性別でみると、男女ともに「父」「誰もしていない」「母」が上位にあげられています。
「誰もしていない」は男性が女性を上回ります（7.0ポイント差）。



⑨ 近所とのつきあい

性別でみると、男女ともに「母」が最も高く、次いで「みんなで協力して」の順となっています。

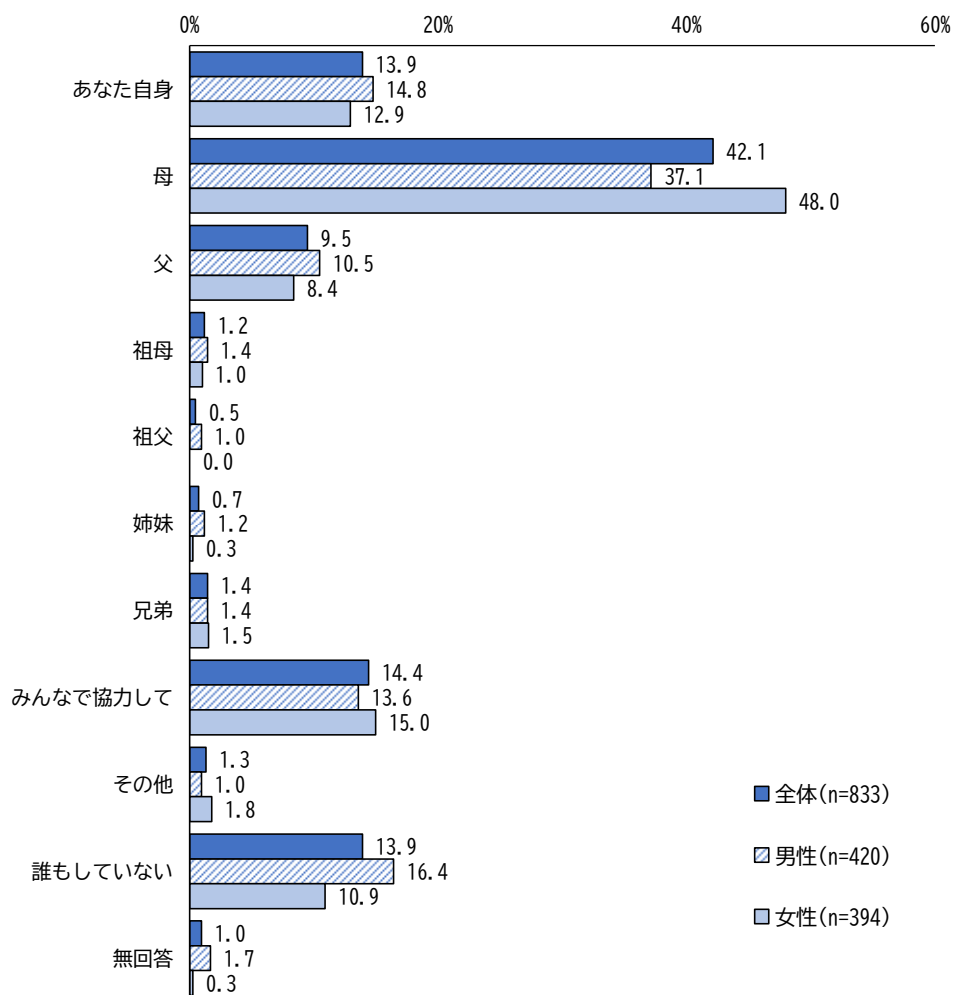
各項目の割合に大きな差はみられません。



⑩ 子どもの行事への参加

性別でみると、男女ともに「母」が最も高くなっています。

「母」は女性が男性を上回り（10.9 ポイント差）、「誰もしていない」は男性が女性を上回ります（5.5 ポイント差）。



6. 「女らしさ」「男らしさ」などについて

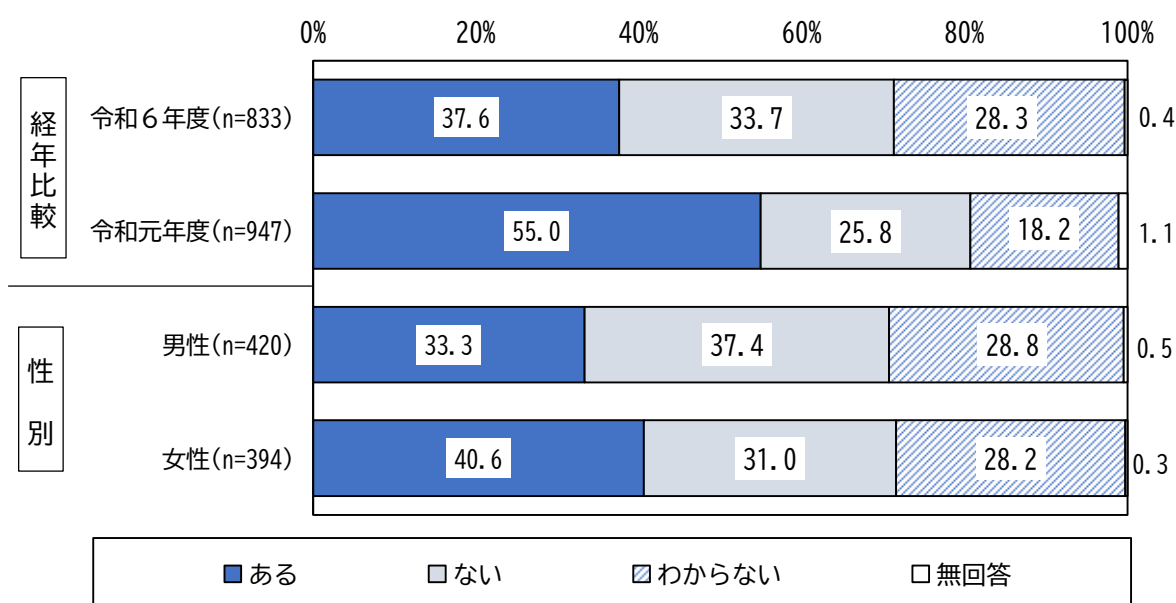
（1）女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたことの有無

問 13 あなたは、女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたことがありますか。（1つに○）

「ある」が37.6%、「ない」が33.7%、「わからない」が28.3%となっています。

経年比較でみると、「ある」が大きく低下、「ない」や「わからない」が上昇しています。

性別で比較すると、「ある」は女性が男性を上回り（7.3ポイント差）、「ない」は男性が女性を上回ります（6.4ポイント差）。



(2) 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われた時の感じ方

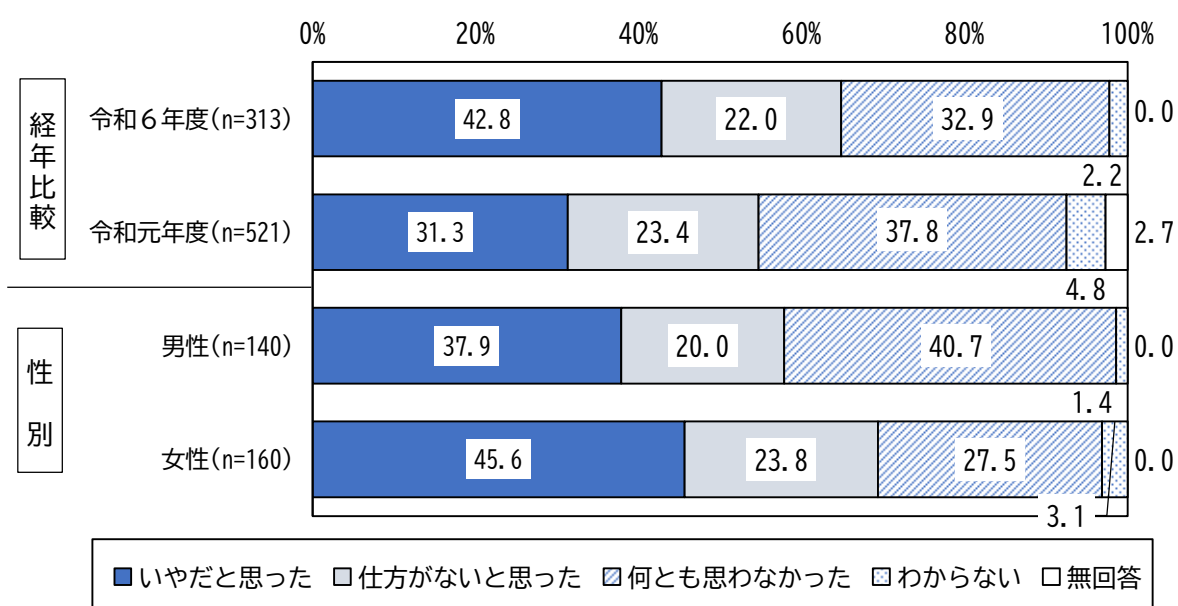
問 13 で「1 ある」に○をつけた方にうかがいます。

問 13-1 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われた時の感じ方について、あてはまるものを選んでください。(1 つに○)

「いやだと思った」が 42.8% で最も高く、次いで「何とも思わなかった」が 32.9%、「仕方がないと思った」が 22.0% となっています。

経年比較でみると、「いやだと思った」が大きく上昇しています。

性別で比較すると、「何とも思わなかった」は男性が女性を上回り (13.2 ポイント差)、「いやだと思った」は女性が男性を上回ります (7.7 ポイント差)。



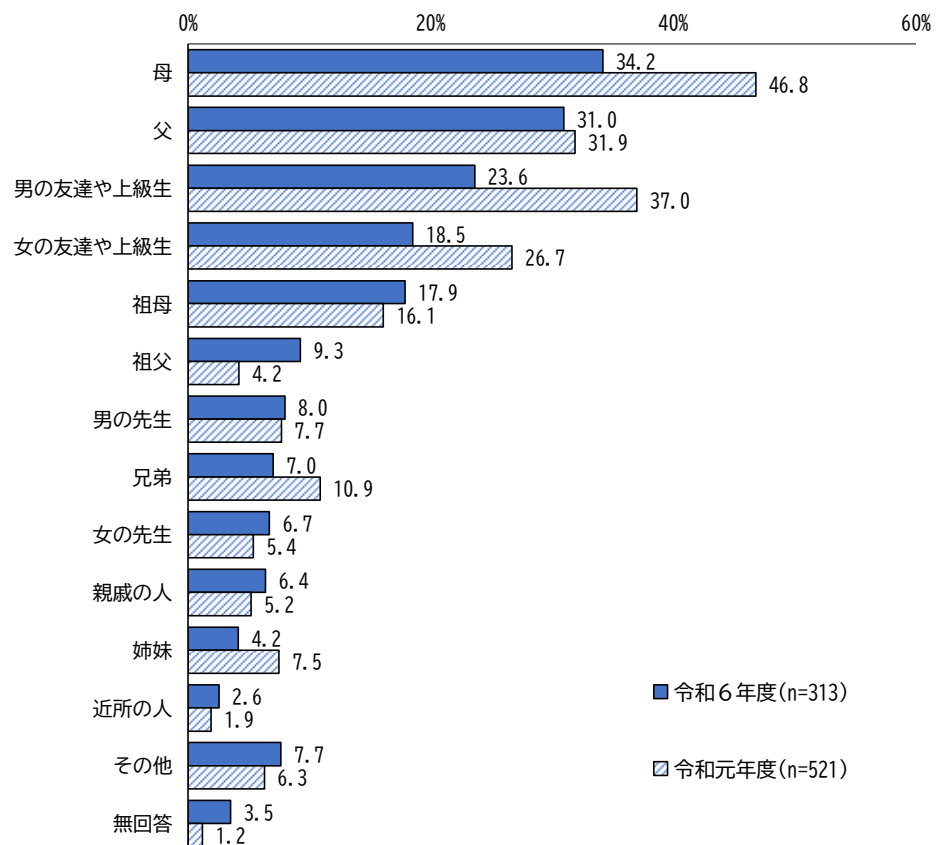
(3) 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言う人

問13で「1 ある」に○をつけた方にうかがいます。

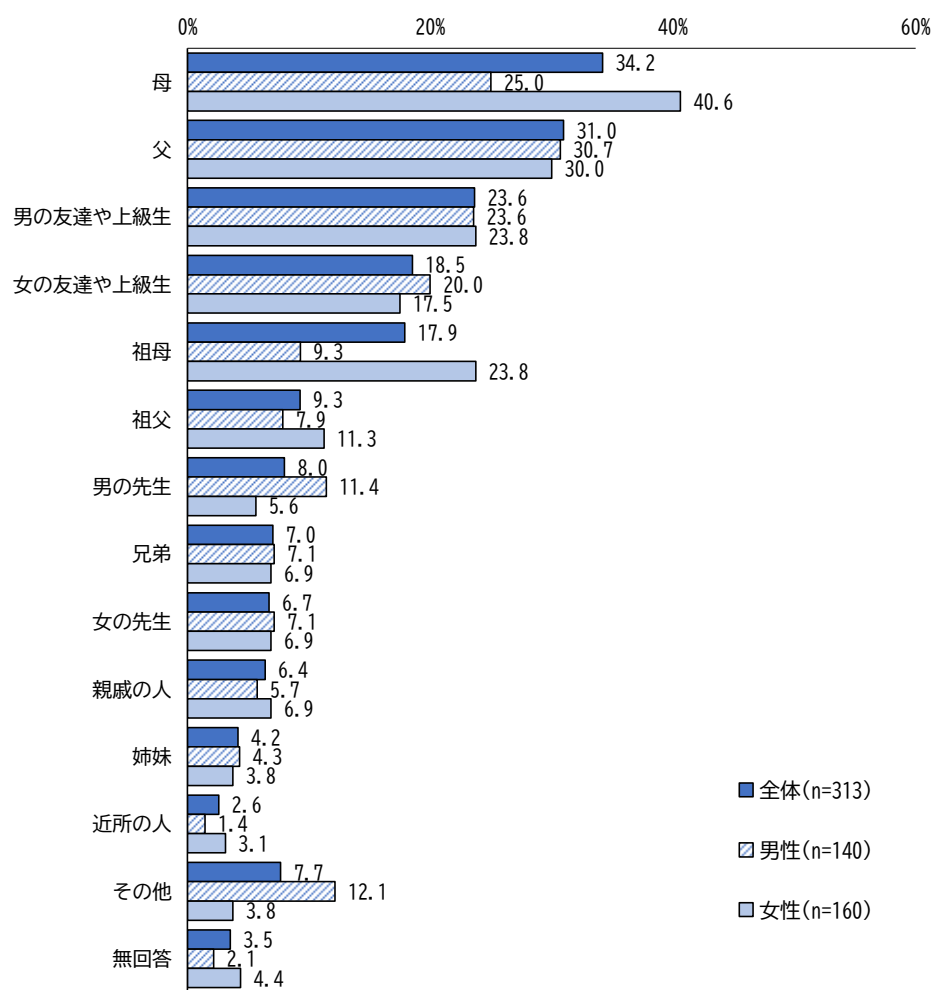
問13-2 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言う人は誰ですか。（○はいくつでも）

「母」が34.2%で最も高く、次いで「父」が31.0%、「男の友達や上級生」が23.6%、「女の友達や上級生」が18.5%、「祖母」が17.9%、「祖父」が9.3%となっています。

経年比較でみると、「母」や「男の友達や上級生」「女の友達や上級生」は大きく低下しています。



性別で比較すると、「母」や「祖母」は、女性が男性を大きく上回ります（各 15.6／14.5 ポイント差）。



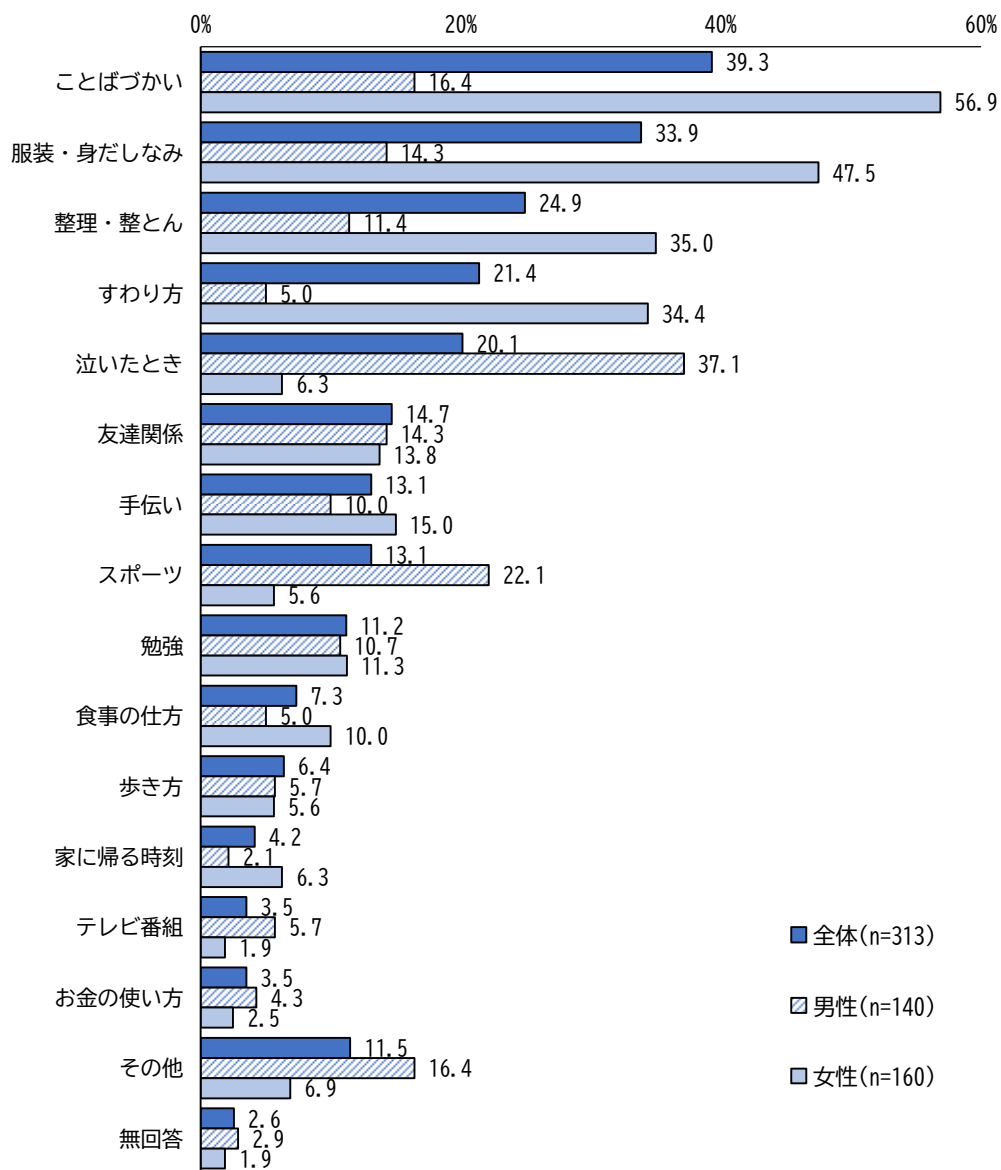
(4) 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われた場面・内容

問13で「1 ある」に○をつけた方にうかがいます。

問13-3 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたのはどんな時ですか。（○はいくつでも）

「ことばづかい」が39.3%で最も高く、次いで「服装・身だしなみ」が33.9%、「整理・整とん」が24.9%、「すわり方」が21.4%、「泣いたとき」が20.1%、「友達関係」が14.7%となっています。

性別で比較すると、「ことばづかい」「服装・身だしなみ」や「すわり方」「整理・整とん」は女性が男性を大きく上回り（各40.5/33.2/29.4/23.6ポイント差）、「泣いたとき」「スポーツ」は男性が女性を大きく上回ります（各30.8/16.5ポイント差）。



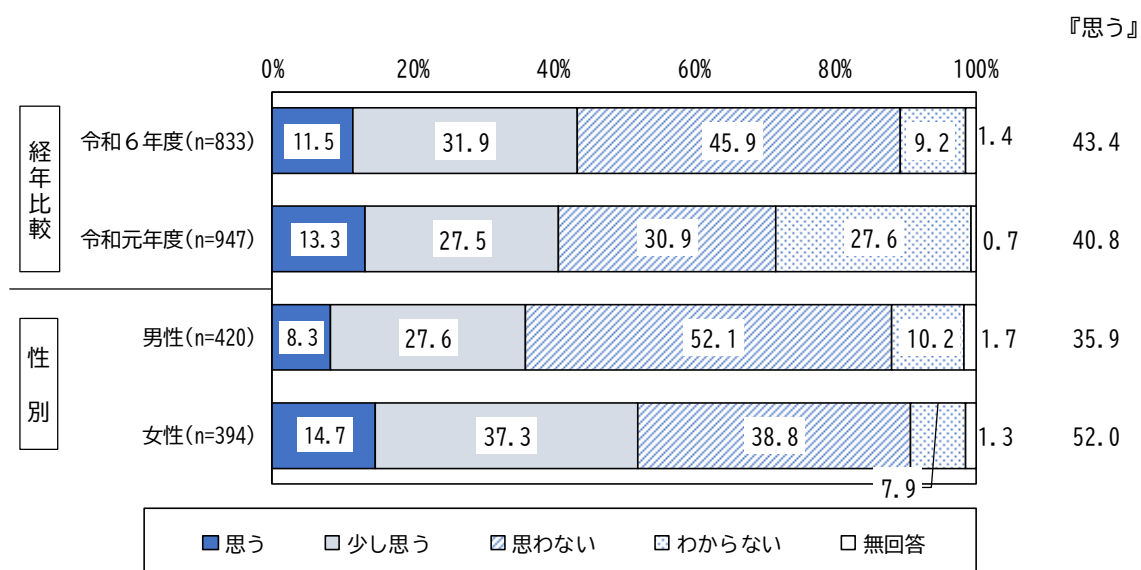
(5) 女・男「らしく」を意識することの有無

問 14 あなたは、ふだんの生活の中で「女らしく」「男らしく」を意識することはあると思いますか。(1つに○)

「思う」11.5%と「少し思う」31.9%を合計した『思う』は 43.4%、「思わない」が 45.9%、「わからない」が 9.2%となっています。

経年比較でみると、「わからない」が大きく低下し、「思わない」が上昇しています。

性別で比較すると、「思わない」は男性が女性を大きく上回り（13.3 ポイント差）、『思う』は女性が男性を大きく上回ります（16.1 ポイント差）。



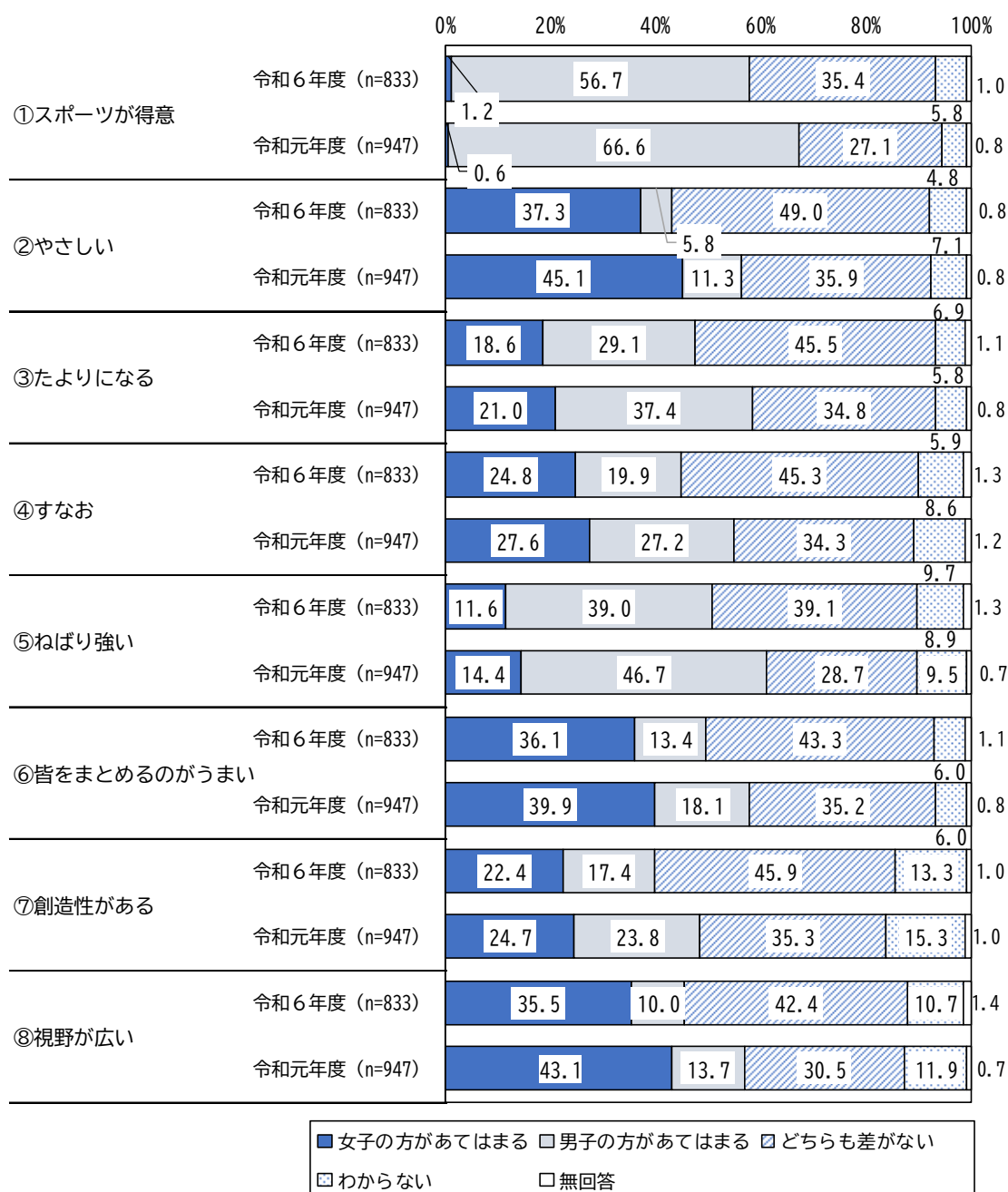
(6) あてはまると思う性別

問 15 次のことについてどのように思いますか。あてはまるものを選んでください。（それぞれ1つに○）

ア. 全体の結果、経年比較

「女子の方があてはまる」は、＜②やさしい＞、＜⑥皆をまとめるのがうまい＞や＜⑧視野が広い＞などで、3割台後半となっています。「男子の方があてはまる」は、＜①スポーツが得意＞が56.7%と他の項目を大きく上回ります。また、＜⑤ねばり強い＞も約4割となっています。「どちらも差がない」は、＜②やさしい＞、＜④すなお＞や＜⑦創造性がある＞、＜⑧視野が広い＞で4割を超え高くなっています。

経年比較でみると、「女子の方があてはまる」「男子の方があてはまる」はいずれの項目も減少傾向にあり、「どちらも差がない」の割合が上昇しています。

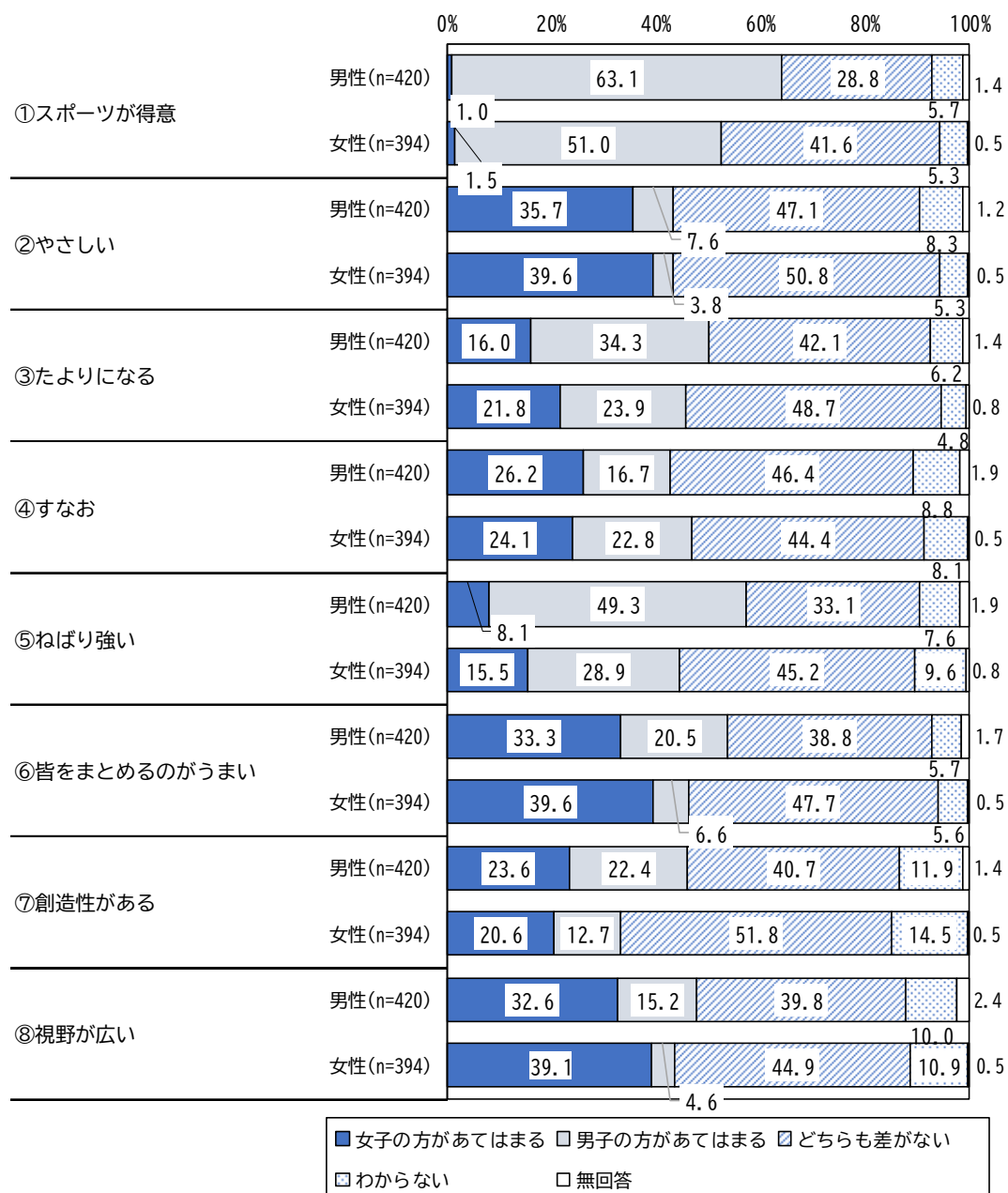


イ. 性別の結果

性別で比較すると、「どちらも差はない」は多くの項目で女性が男性を上回ります。

一方で、「男子の方があてはまる」は、＜⑤ねばり強い＞や＜①スポーツが得意＞で男性が女性を大きく上回ります（各 20.4／12.1 ポイント差）。

反対に、「女子の方があてはまる」は、＜⑧視野が広い＞や＜⑥「皆をまとめるのがうまい」＞で女性が男性を上回ります（各 6.5／6.3 ポイント差）。



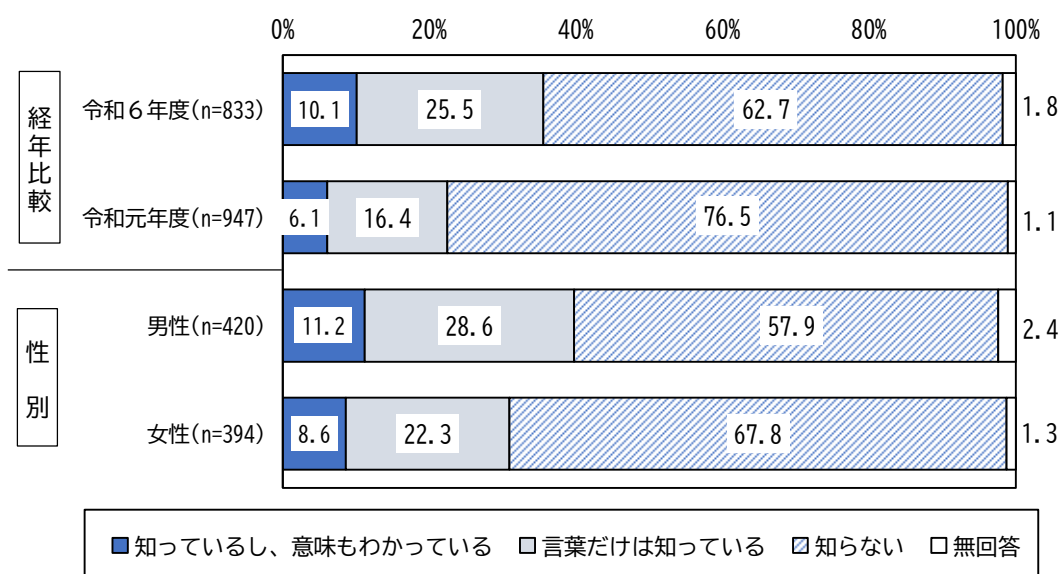
(7) 「男女共同参画社会」の認知

問 16 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。（1つに○）

「知らない」が62.7%で最も高く、次いで「言葉だけは知っている」が25.5%、「知っているし、意味もわかっている」が10.1%となっています。

経年比較でみると、「知らない」は低下、「言葉だけは知っている」や「知っているし、意味もわかっている」は上昇しています。

性別で比較すると、「知っているし、意味もわかっている」は男性が女性を上回り（6.2ポイント差）、「知らない」は女性が男性を上回ります（9.9ポイント差）。



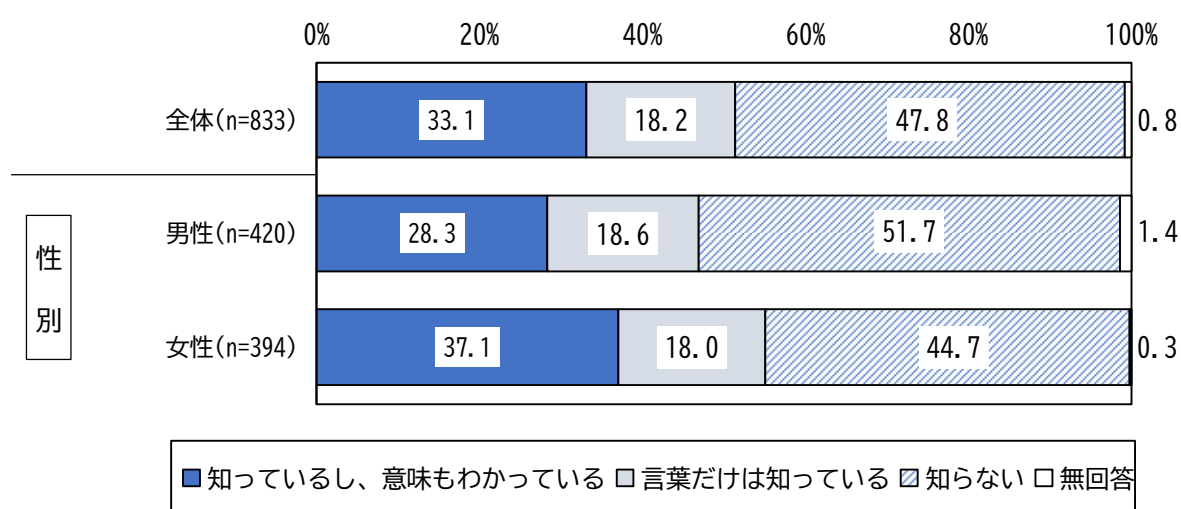
7. 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の認知

問 17 あなたは性的マイノリティ（またはLGBTQ+）という言葉を知っていますか。（1つに○）

「知らない」が47.8%で最も高く、次いで「知っているし、意味もわかっている」が33.1%、「言葉だけは知っている」が18.2%となっています。

性別で比較すると、「知っているし、意味もわかっている」は女性が男性を上回り（8.8ポイント差）、知らない」は男性が女性を上回ります（7.0ポイント差）。



【用語解説】

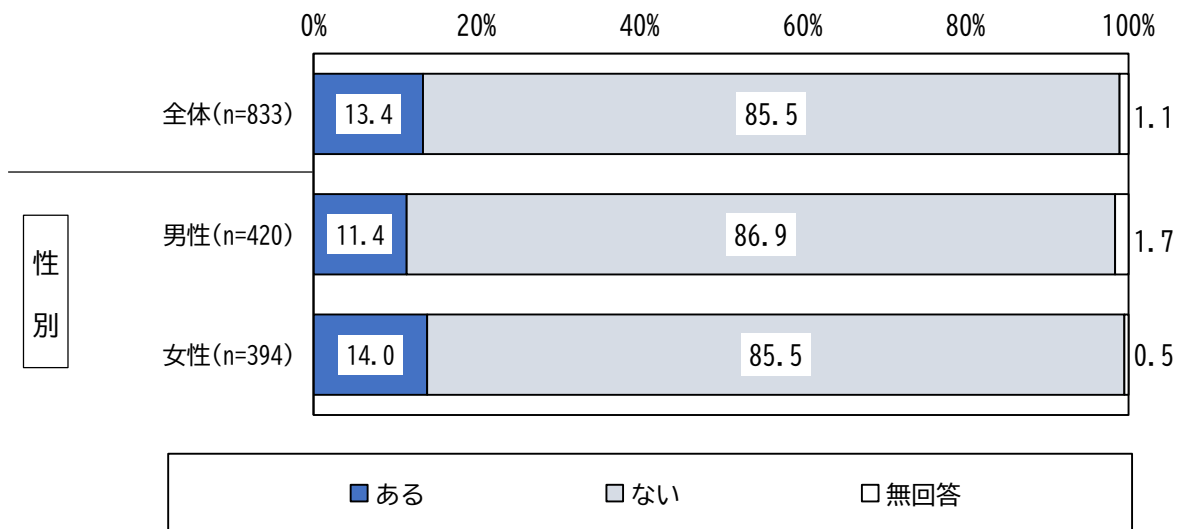
※性的マイノリティ

同性に対して、あるいは男女両方に恋愛感情をもつ人や、自分に割り当てられた性別に違和感がある人などのことをいい、「セクシュアルマイノリティ」「性的少数者」ともいう。

（２）性的指向や性自認で悩んだ経験の有無

問 18 あなたは好きになる相手の性別（性的指向）や自分自身が認識している性別（性自認）について悩んだことがありますか。（１つに○）

「ある」が13.4%、「ない」が85.5%となっています。
性別で比較すると、「ある」は女性が男性をわずかに上回ります（2.6 ポイント差）。



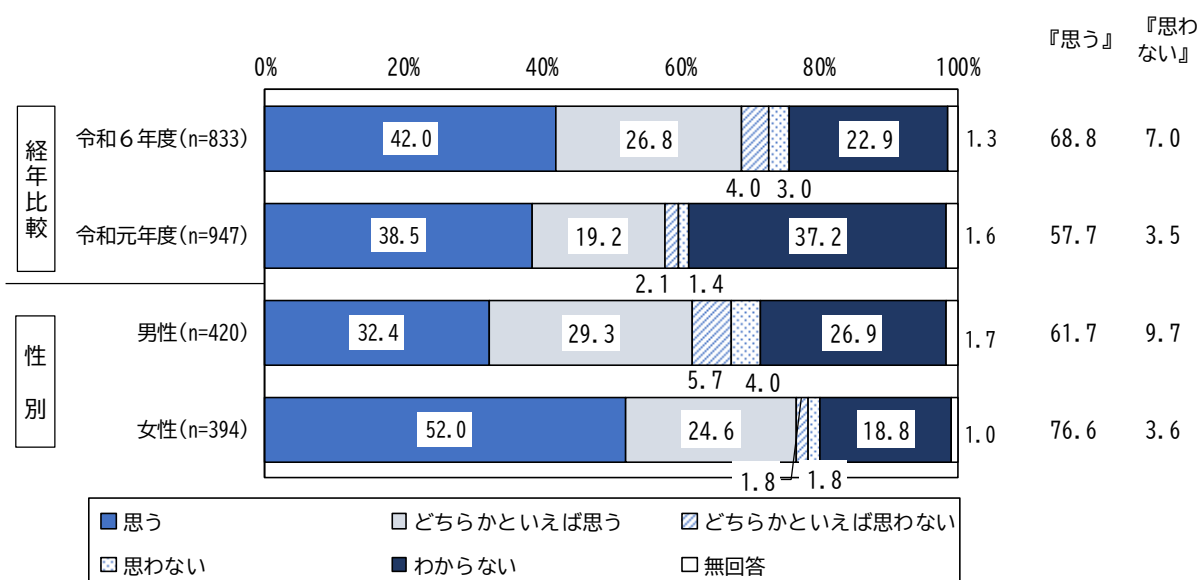
(3) 性的マイノリティの方々にとって暮らしやすい社会の実現の必要性

問 19 性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって、暮らしやすい社会の実現が必要だと思いますか。（1つに○）

「思う」42.0%と「どちらかといえば思う」26.8%と合計した『思う』は 68.8%、「どちらかといえば思わない」4.0%と「思わない」3.0%を合計した『思わない』は 7.0%、「わからない」が22.9%となっています。

経年比較でみると、「わからない」が大きく低下、『思う』が 11.1 ポイント上昇しています。

性別で比較すると、「思う」は女性が男性を大きく上回り（19.6 ポイント差）、「わからない」は男性が女性を上回ります（8.1 ポイント差）。



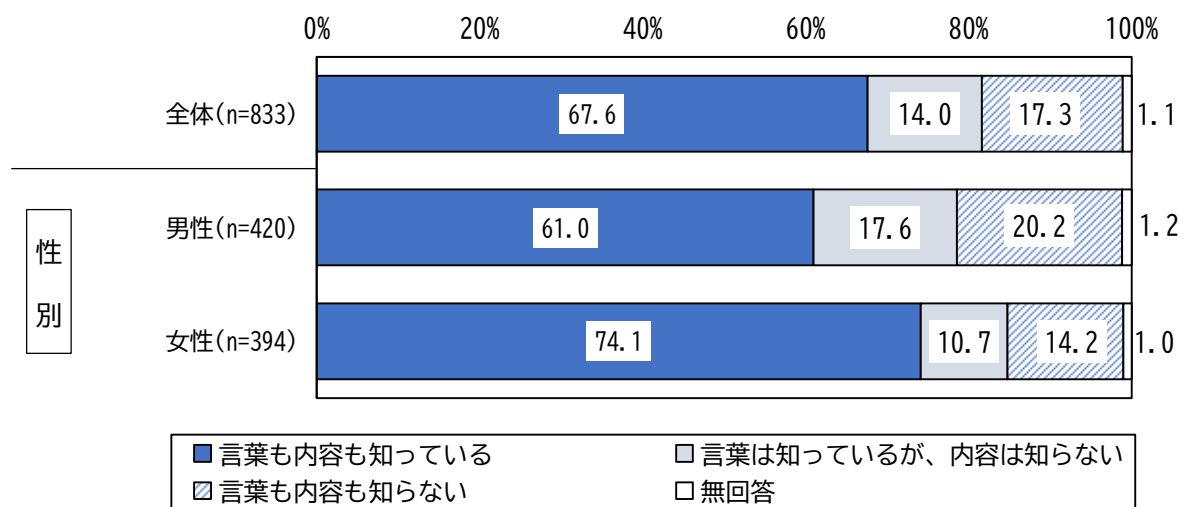
8. DV・デートDVについて

（１）DV（ドメスティック・バイオレンス）の認知

問 20 あなたは「DV（ドメスティック・バイオレンス）」という言葉を知っていますか。（１つに○）

「言葉も内容も知っている」が 67.6%、「言葉は知っているが、内容は知らない」が 14.0%、「言葉も内容も知らない」が 17.3%となっています。

性別で比較すると、「言葉も内容も知っている」は女性が男性を上回ります（13.1 ポイント差）。



【用語解説】

※DV

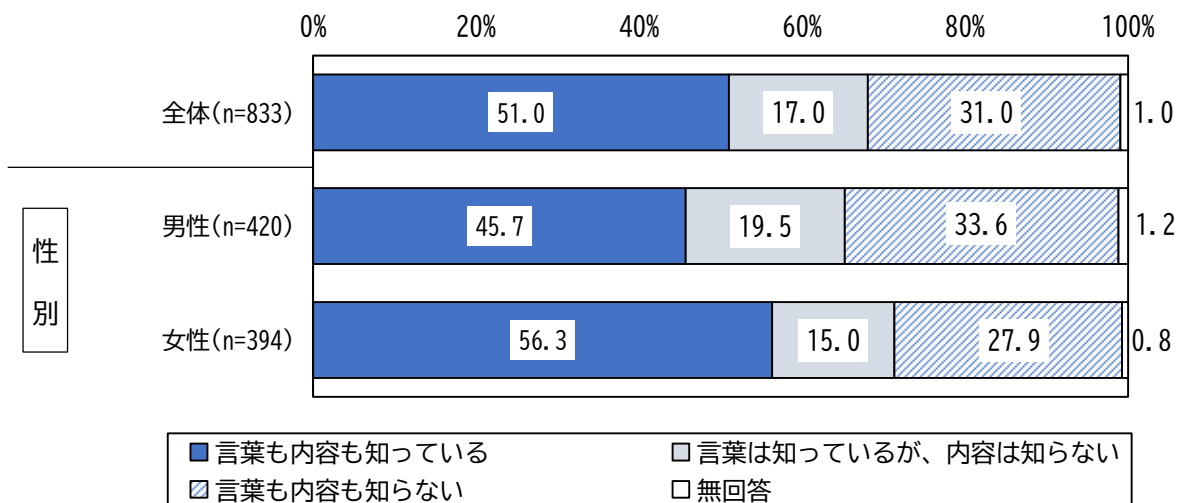
「domestic violence(ドメスティック バイオレンス)」の略で、「配偶者や恋人など、親密な関係にある、または関係にあったものからふるわれるあらゆる形の暴力」のことを言います。身体的暴力だけでなく、精神的、性的、経済的、社会的な暴力などがある。

(2) デートDVの認知

問 21 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。(1つに○)

「言葉も内容も知っている」が 51.0%、「言葉は知っているが、内容は知らない」が 17.0%、「言葉も内容も知らない」が 31.0%となっています。

性別で比較すると、「言葉も内容も知っている」は女性が男性を上回ります(10.6 ポイント差)。



【用語解説】

※デートDV

交際中の恋人間で起こる暴力のことです。愛しているなら、相手が自分の思いどおりになるのが当然と考え、コントロールしようとする態度や行動のこと。

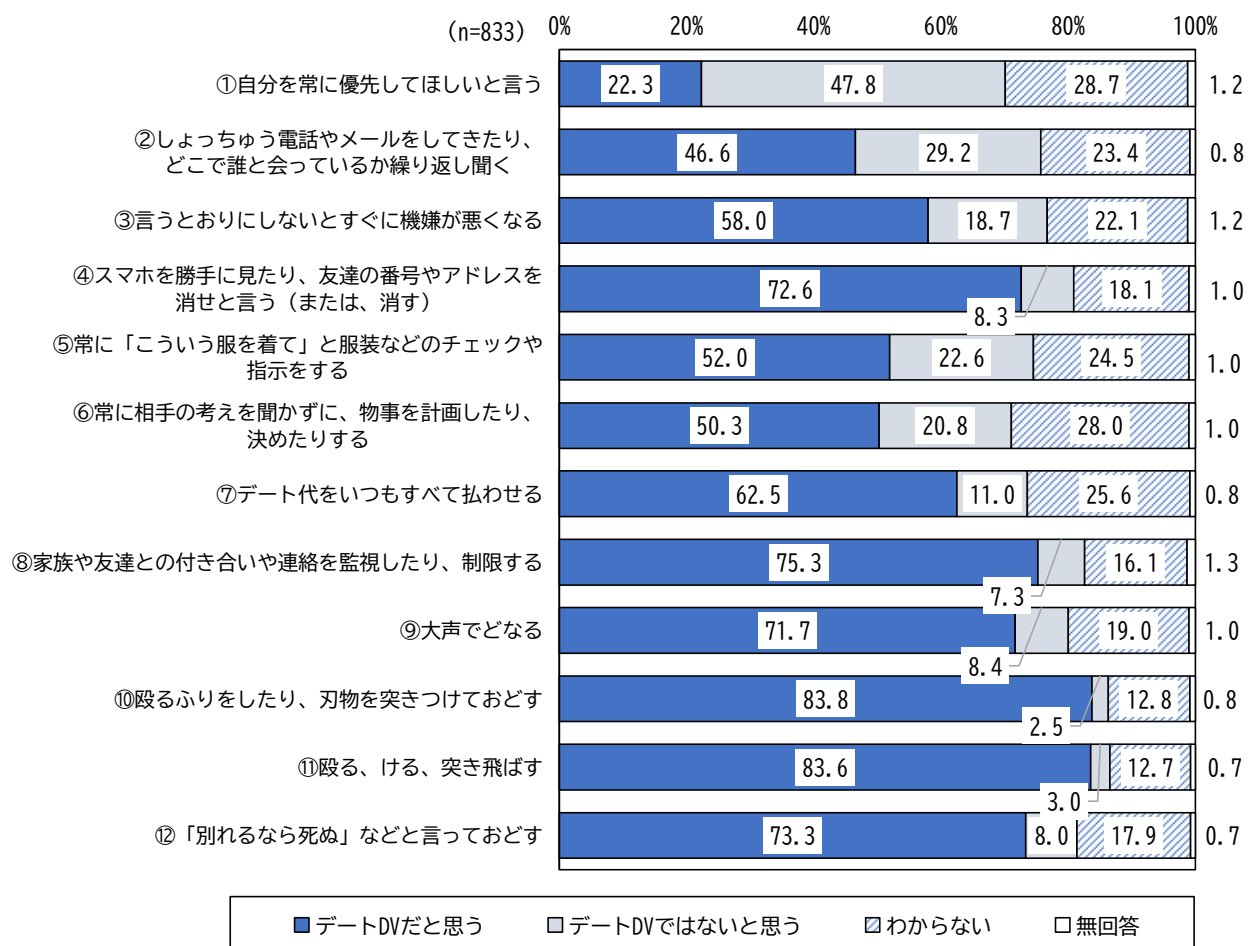
（３）デートＤＶだと思う恋人との間での言動

問 22 あなたは、恋人との間で次のようなことをされた場合どう思いますか。（それぞれ１つに○）

「デートＤＶだと思う」は、＜⑩殴るふりをしたり、刃物を突きつけておどす＞、＜⑪殴る、ける、突き飛ばす＞で８割、＜⑧家族や友達との付き合いや連絡を監視したり、制限する＞、＜④スマホを勝手に見たり、友達の番号やアドレスを消せと言う（または、消す）＞や＜⑨大声でどなる＞で７割を超え高くなっています。

「わからない」は、＜①自分を常に優先してほしいと言う＞、＜⑥常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり、決めたりする＞や＜⑦デート代をいつもすべて払わせる＞で２割台後半となっています。

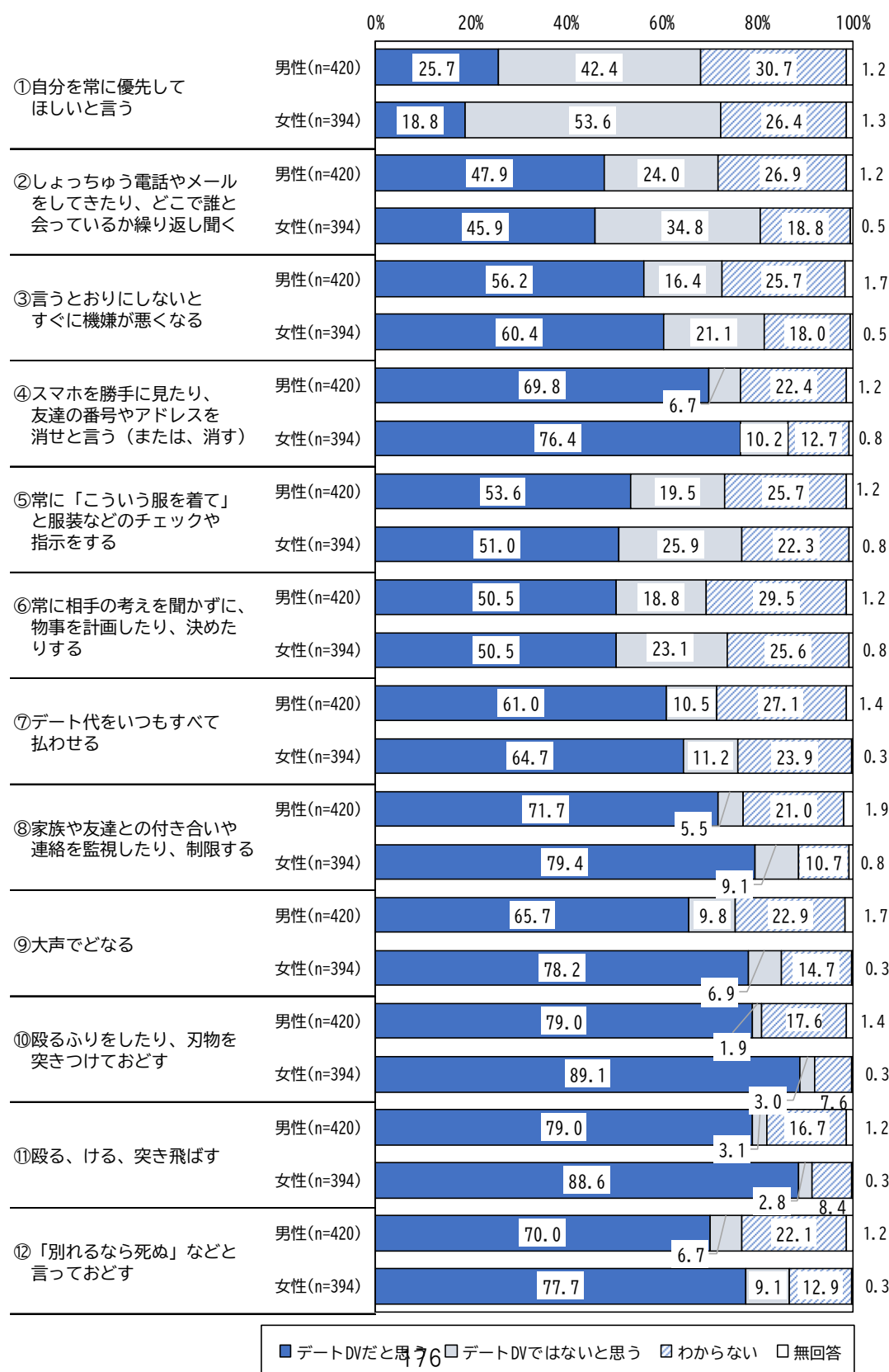
ア．全体の結果



イ. 性別の結果

性別で比較すると、「デートDVだと思う」は多くの項目で女性の割合が男性を上回ります。特に、＜⑨大声でどなる＞、＜⑩殴るふりをしたり、刃物を突きつけておどす＞や＜⑪殴る、ける、突き飛ばす＞では差が大きくなっています（各 12.5／10.1／9.6 ポイント差）。

反対に、＜①自分を常に優先してほしいと言う＞は男性が女性を上回ります（6.9 ポイント差）

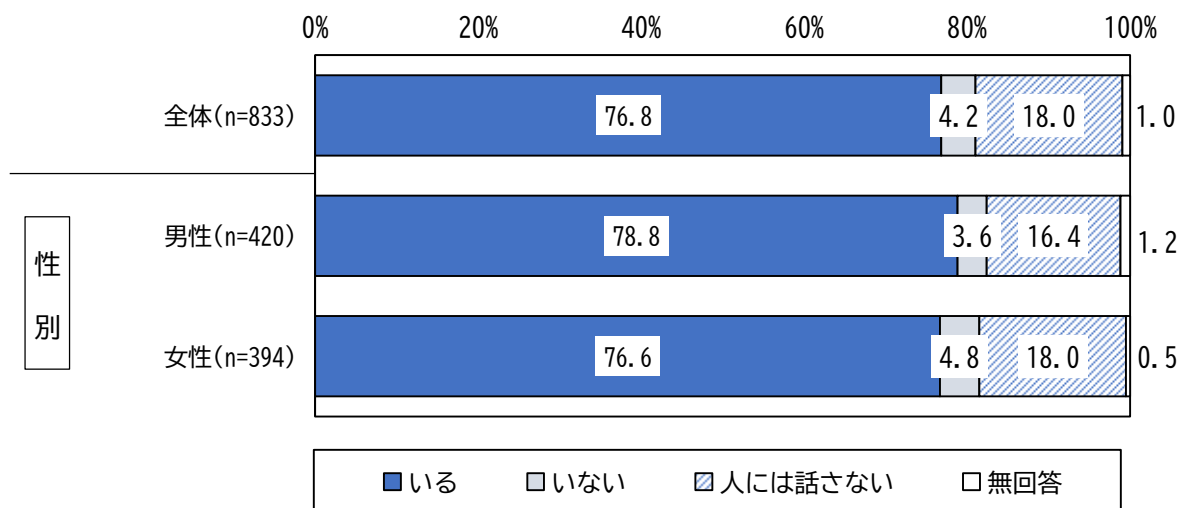


9. 悩みや不安について

（１）悩みや不安の相談ができる人の有無

問 23 あなたは、悩みや不安があったとき、気軽に話せる人がいますか。（１つに○）

「いる」が76.8%、「いない」が4.2%、「人には話さない」が18.0%となっています。
性別で比較すると、男女ともに「いる」が最も高く、差はみられません。



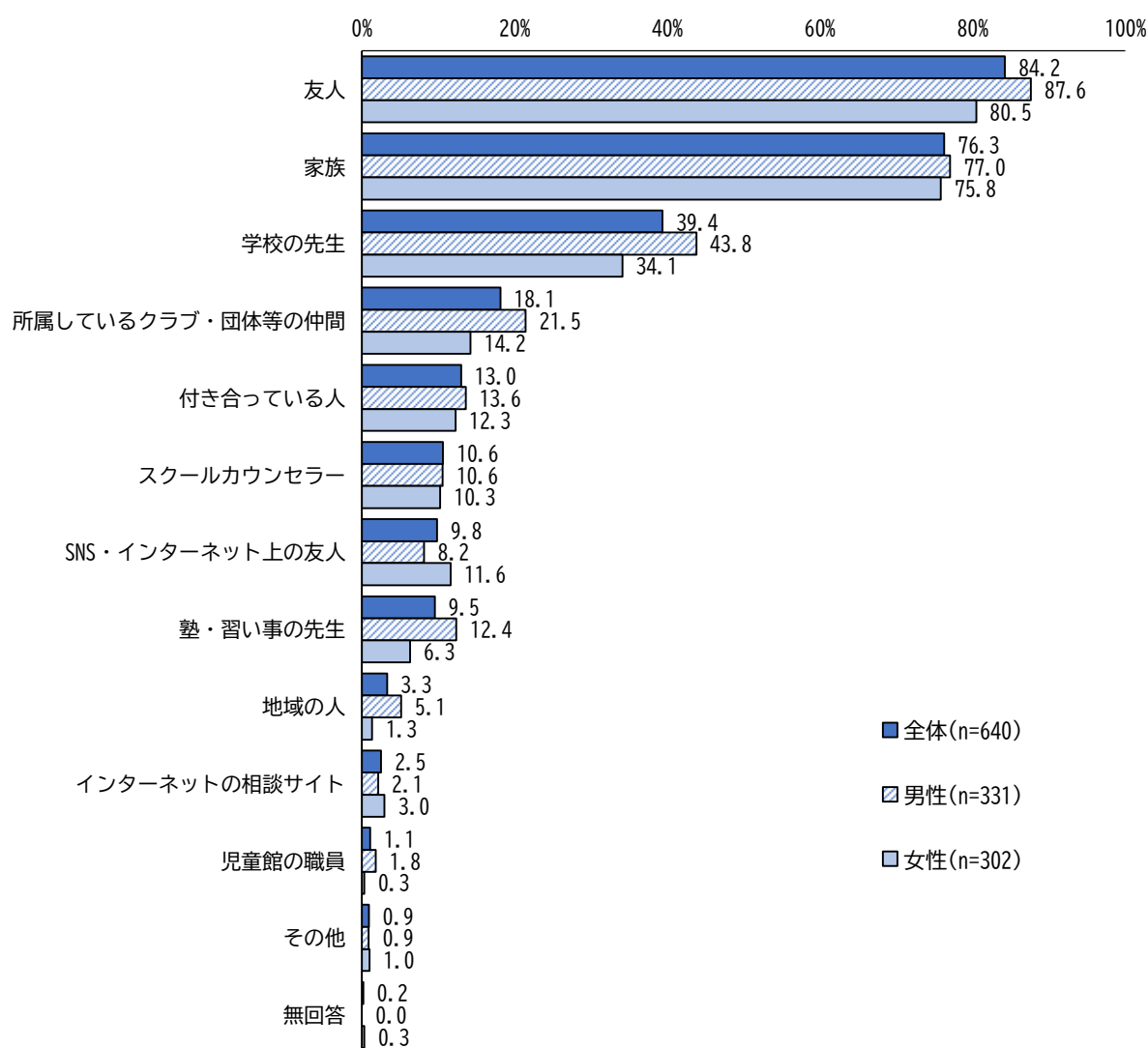
(2) 悩みや不安の相談先

問 23 で「1 いる」に○をつけた方にうかがいます。

問 23-1 悩みや不安を気軽に話せる人はどなたですか。(○はいくつでも)

「友人」が 84.2% で最も高く、次いで「家族」が 76.3%、「学校の先生」が 39.4%、「所属しているクラブ・団体等の仲間」が 18.1%、「付き合っている人」が 13.0%、「スクールカウンセラー」が 10.6%となっています。

性別で比較すると、「学校の先生」「所属しているクラブ・団体等の仲間」「友人」はいずれも男性が女性を上回ります(各 9.7/7.2/7.1 ポイント差)。



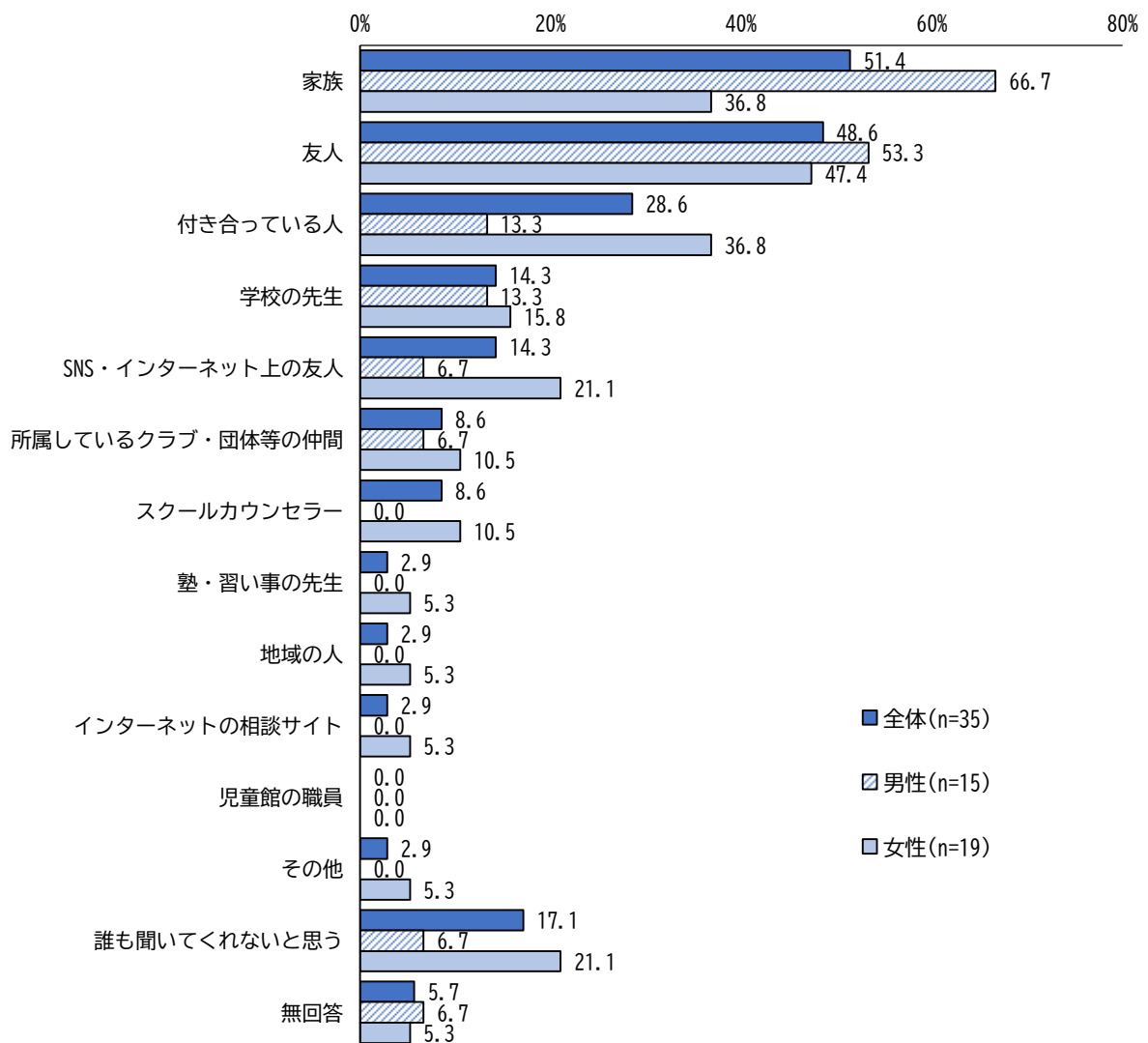
（３）相談する人がいない場合の希望する悩みや不安の相談先

問 23 で「２ いない」に○をつけた方にうかがいます。

問 23-2 悩みや不安を話したいと思う人はどなたですか。（○はいくつでも）

「家族」が 51.4% で最も高く、次いで「友人」が 48.6%、「付き合っている人」が 28.6%、「学校の先生」が 14.3%、「SNS・インターネット上の友人」が 14.3%、「所属しているクラブ・団体等の仲間」が 8.6% と続きます。一方で、「誰も聞いてくれないと思う」は 17.1% となっています。

性別で比較すると、「家族」は男性が女性を上回り（29.8 ポイント差）、「付き合っている人」や「SNS・インターネット上の友人」は女性が男性を上回ります（各 23.5/14.4 ポイント差）。また、「誰も聞いてくれないと思う」についても女性が男性を上回ります（14.4 ポイント差）。

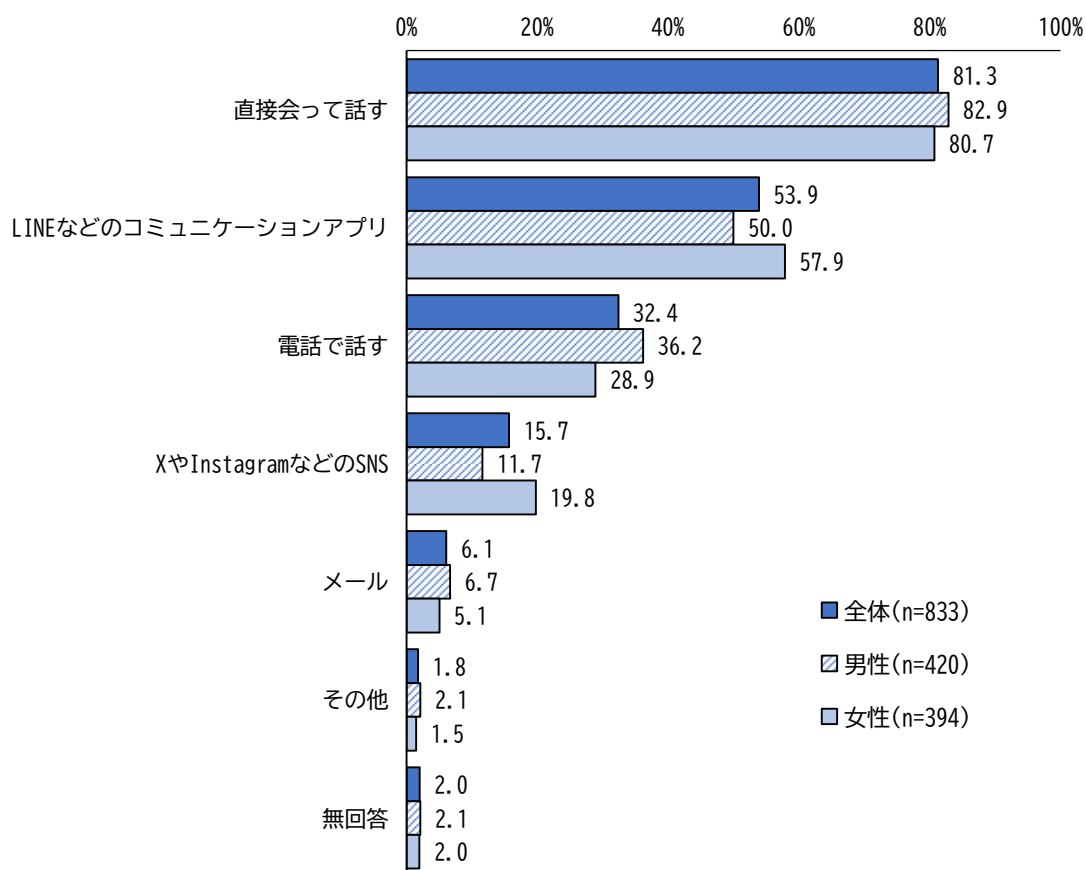


(4) 悩みや不安を相談する方法

問 24 あなたは、自分の悩みや不安を話す方法としてどのような方法を使いますか。話せる人がいない人は、話せる人がいた場合、どのような方法を使いますか。(〇はいくつでも)

「直接会って話す」が81.3%で最も高く、次いで「LINEなどのコミュニケーションアプリ」が53.9%、「電話で話す」が32.4%、「XやInstagramなどのSNS」が15.7%、「メール」が6.1%となっています。

性別で比較すると、「電話で話す」は男性が女性を上回り(7.3ポイント差)、「XやInstagramなどのSNS」や「LINEなどのコミュニケーションアプリ」は女性が男性を上回ります(各8.1/7.9ポイント差)。



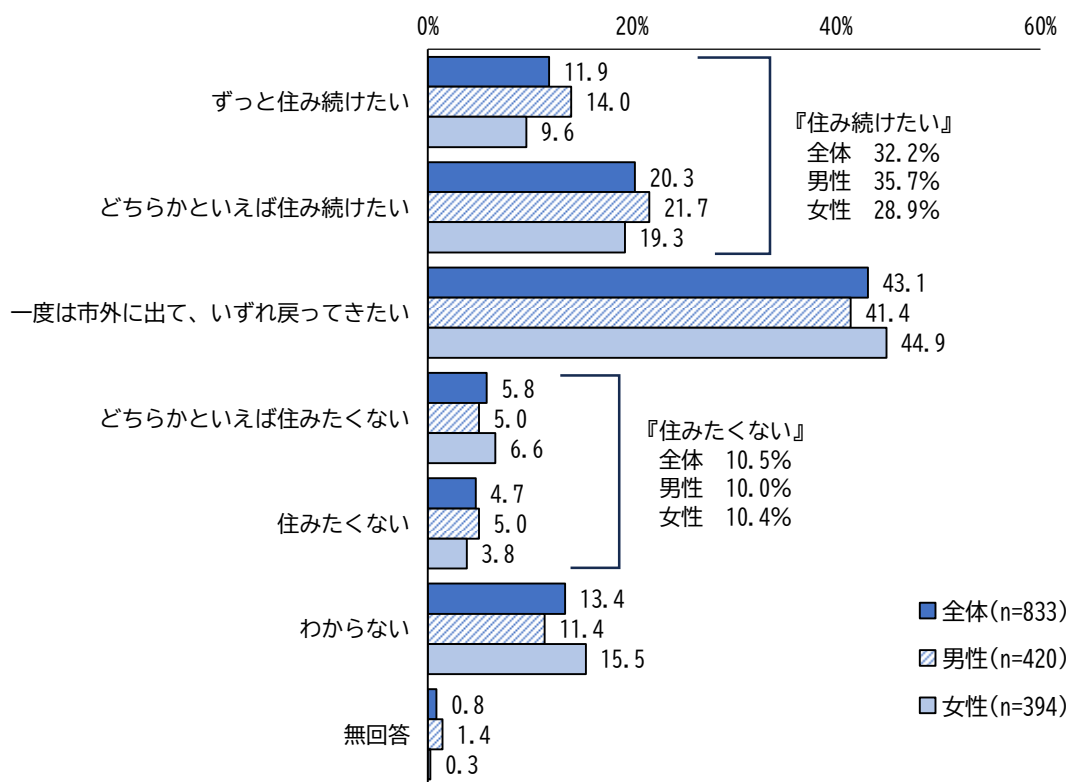
10. 将来のことについて

（１）富士宮市への定住意向

問 25 あなたは、これからも富士宮市に住みたいと思いますか。（○は１つ）

「ずっと住みたい」11.9%と「どちらかといえば住みたい」20.3%を合計した『住みたい』は32.2%、「一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい」が43.1%、「どちらかといえば住みたくない」5.8%と「住みたくない」4.7%を合計した『住みたくない』は10.5%、「わからない」が13.4%となっています。

性別で比較すると、男女ともに「一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい」が最も高くなっていますが、『住みたい』は男性が女性を上回ります（6.8ポイント差）。



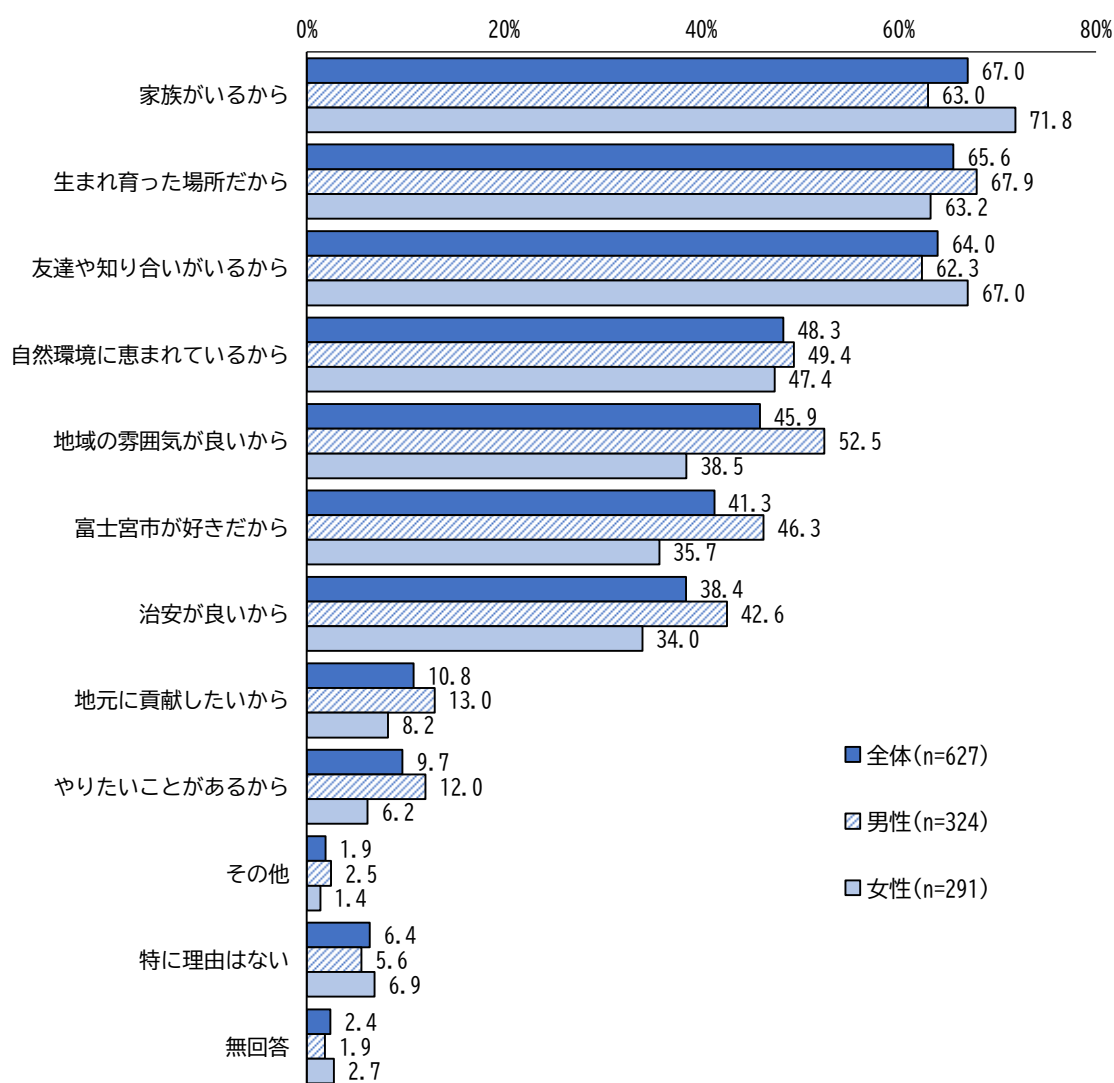
(2) 市に住み続けたい・戻ってきたい理由

問 25-1 は、問 25 で「1」から「3」までに○をつけた方にうかがいます。

問 25-1 「住み続けたい」または「戻ってきたい」と思う理由をお聞かせください。(○はいくつでも)

「家族がいるから」が67.0%で最も高く、次いで「生まれ育った場所だから」が65.6%、「友達や知り合いがいるから」が64.0%、「自然環境に恵まれているから」が48.3%、「地域の雰囲気が良いから」が45.9%、「富士宮市が好きだから」が41.3%となっています。

性別で比較すると、「地域の雰囲気が良いから」や「富士宮市が好きだから」は男性が女性を上回り（各 14.0/10.6 ポイント差）、「家族がいるから」は女性が男性を上回ります（8.8 ポイント差）。



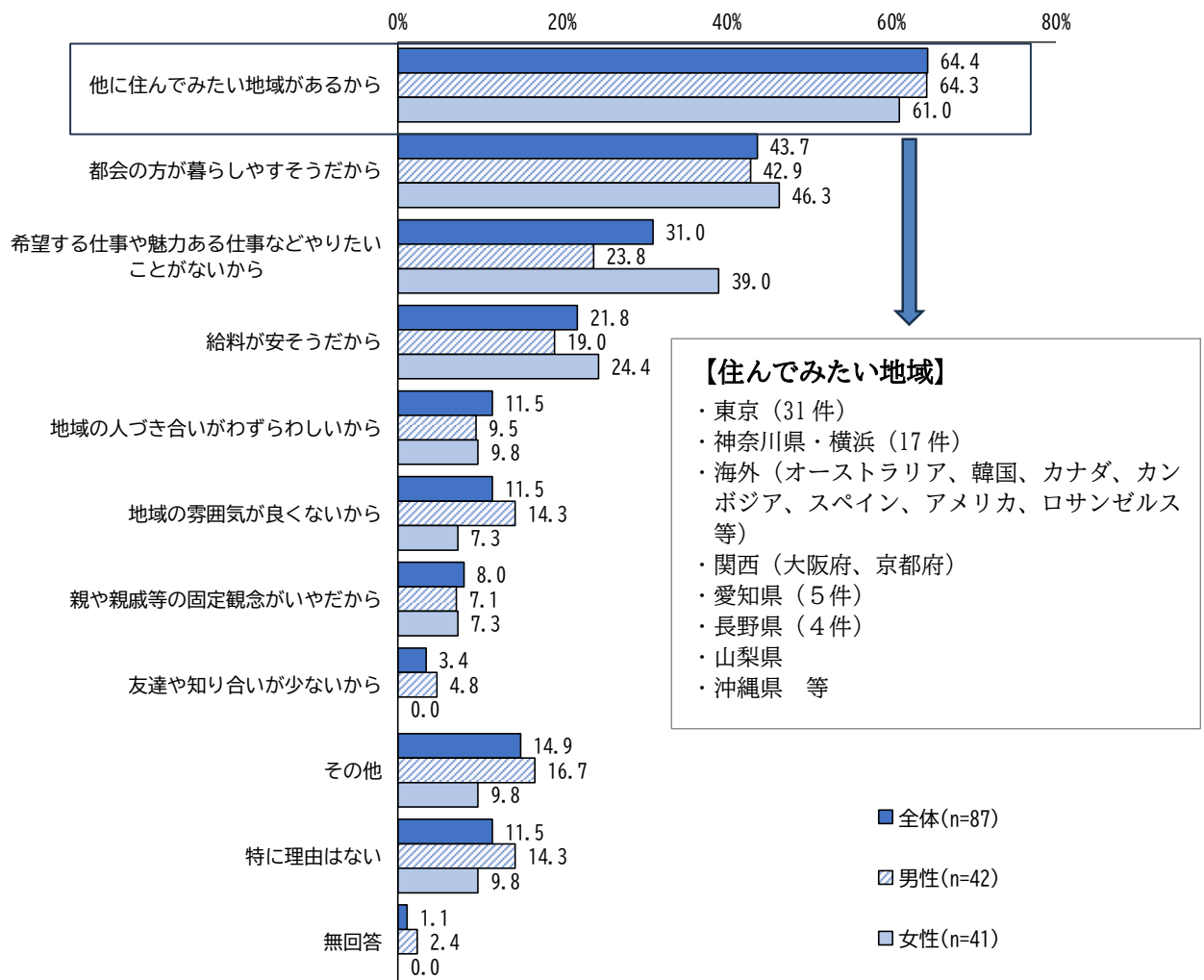
（３）市に住みたくない理由

問 25-2 は、問 25 で「４」または「５」に○をつけた方にうかがいます。

問 25-2 住みたくないと思う理由をお聞かせください。（○はいくつでも）

「他に住んでみたい地域があるから」が 64.4% で最も高く、次いで「都会の方が暮らしやすそうだから」が 43.7%、「希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから」が 31.0%、「給料が安そうだから」が 21.8%、「地域の人づき合いがわずらわしいから」と「地域の雰囲気が良くないから」がともに 11.5% となっています。

性別で比較すると、「希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから」は女性が男性を大きく上回ります（15.2 ポイント差）。

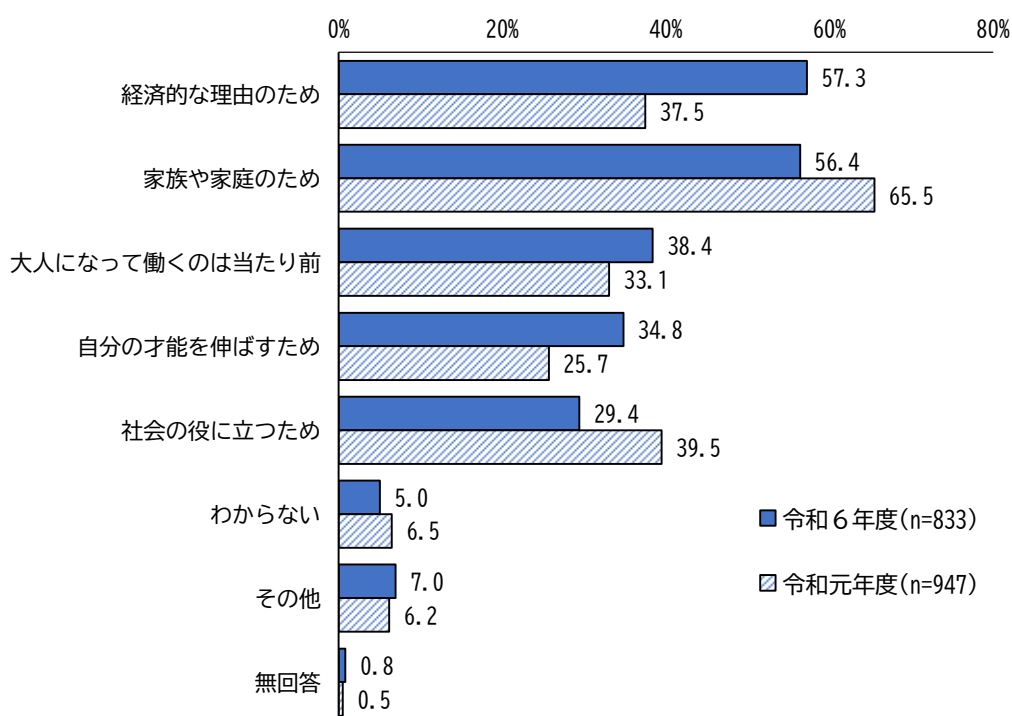


(4) 将来働く理由の考え方

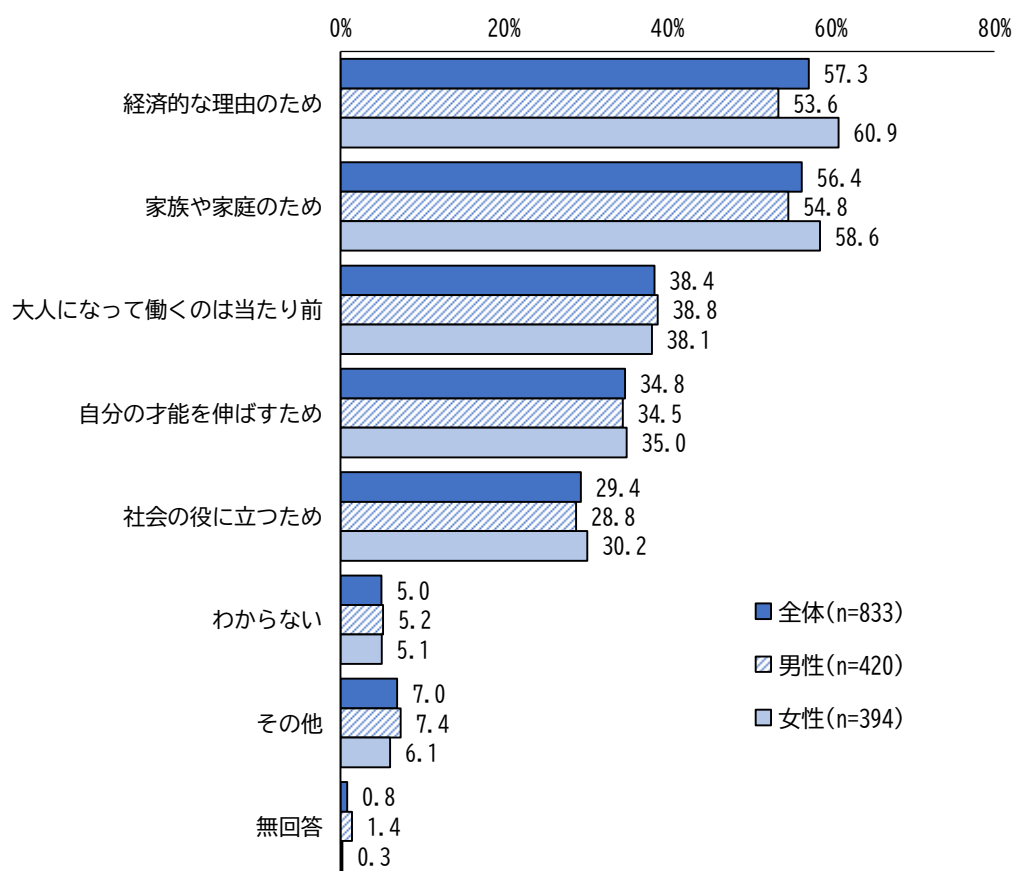
問 26 あなたは、将来働く理由についてどのように考えますか。(〇はいくつでも)

「経済的な理由のため」が57.3%で最も高く、次いで「家族や家庭のため」が56.4%、「大人になって働くのは当たり前」が38.4%、「自分の才能を伸ばすため」が34.8%、「社会の役に立つため」が29.4%、「わからない」が5.0%となっています。

経年比較でみると、「経済的な理由のため」は大きく上昇、「社会の役に立つため」は低下しています。



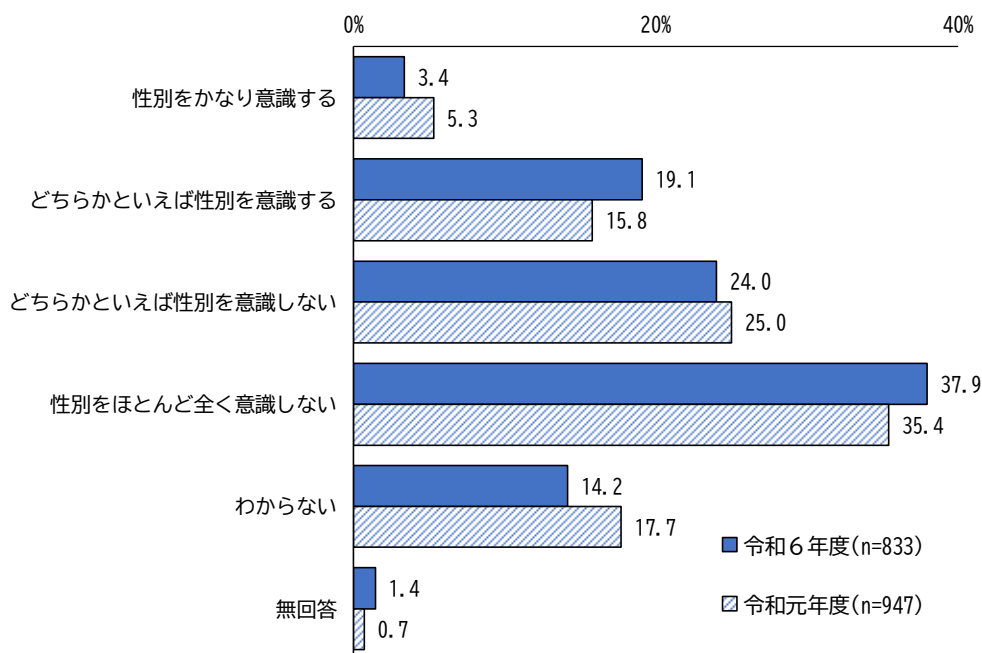
性別で比較すると、「経済的な理由のため」「家族や家庭のため」はともに女性が男性を上回ります（各 7.3/3.8 ポイント差）。



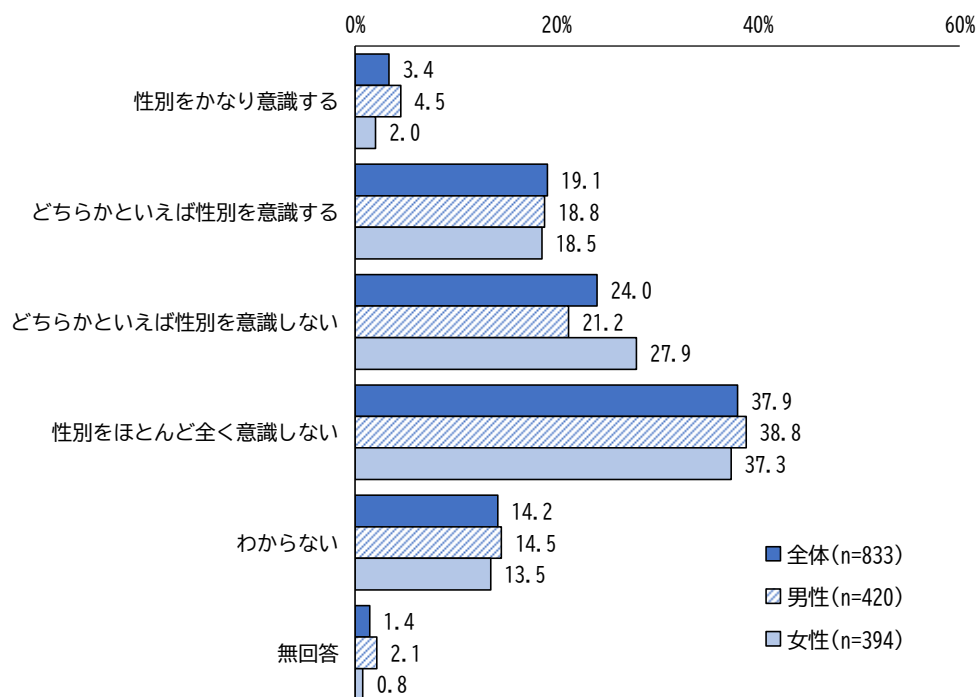
(5) 進路や職業の選択の性別の意識

問 27 あなたは、進路や職業の選択に性別を意識すると思いますか。(1つに○)

「性別をかなり意識する」3.4%と「どちらかといえば性別を意識する」19.1%を合計した『意識する』は、22.5%、「どちらかといえば性別を意識しない」24.0%と「性別をほとんど全く意識しない」37.9%を合計した『意識しない』は61.9%、「わからない」が14.2%となっています。経年比較でみると、「どちらかといえば性別を意識する」、「性別をほとんど全く意識しない」とともに上昇しています。



性別でみると、男女ともに「性別をほとんど全く意識しない」が最も高く、次いで、「どちらかといえば性別を意識する」、「どちらかといえば性別を意識する」の順となっています。「どちらかといえば性別を意識しない」は女性が男性を6.7ポイント上回ります。

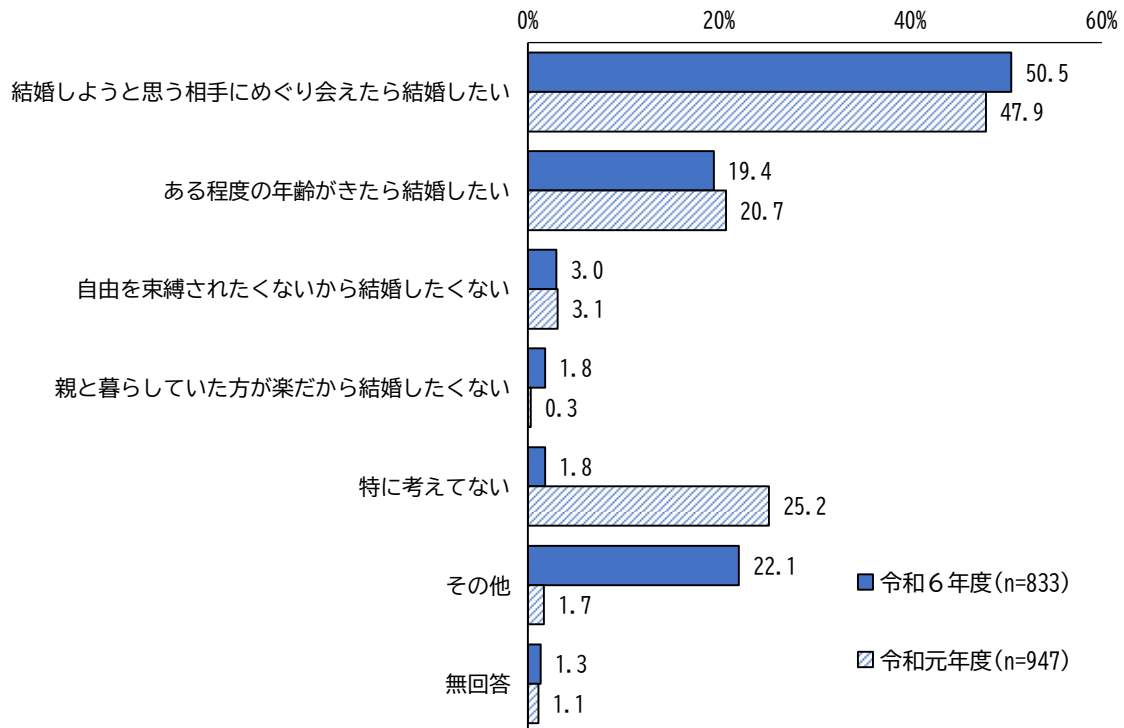


（６）結婚の考え方

問 28 あなたは、結婚についてどのように考えますか。（もっとも近い考え１つに○）

「結婚しようと思う相手にめぐり会えたら結婚したい」が 50.5%で最も高く、次いで「ある程度の年齢がきたら結婚したい」が 19.4%、「自由を束縛されたくないから結婚したくない」が 3.0%となっています。

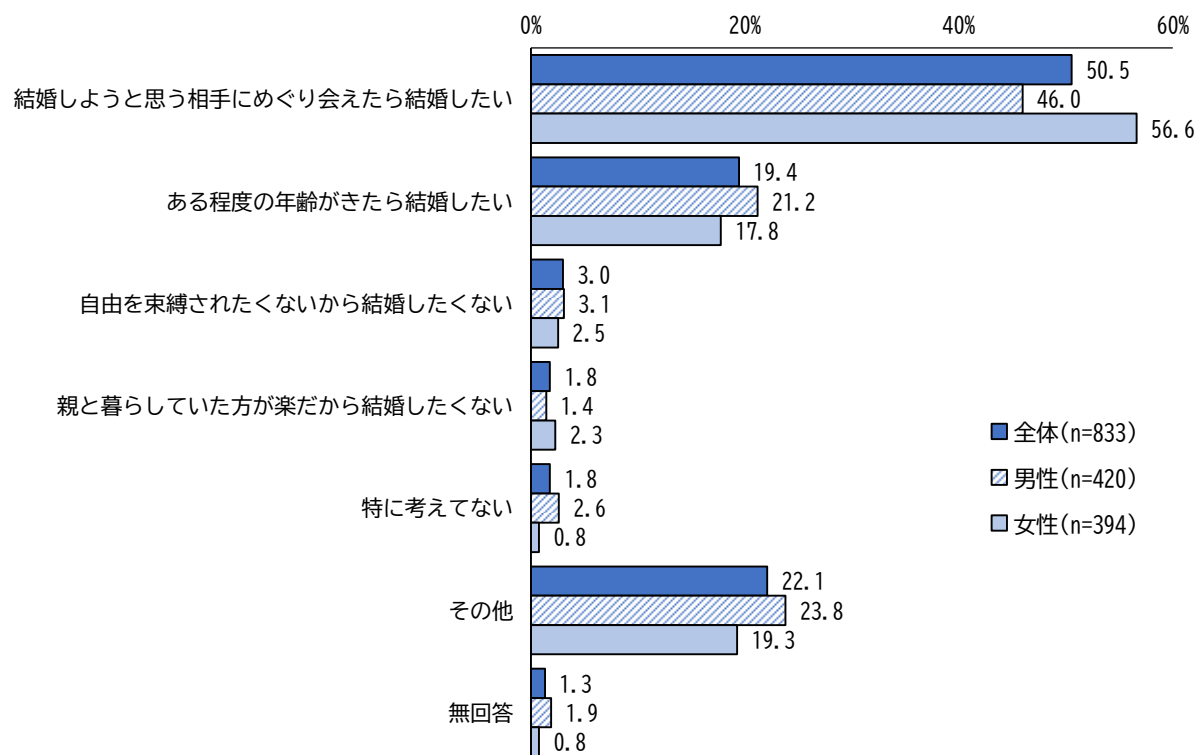
経年比較でみると、「特に考えてない」は大きく低下、「結婚しようと思う相手にめぐり会えたら結婚したい」はわずかに上昇しています。



【その他回答】

- ・自由に生きたい、自由にできるなら結婚してもよい（２件）
- ・そう思える人がいたら、運命を感じたら結婚したい（２件）
- ・めんどうだからしたくない（２件）
- ・お金ができれば結婚したい
- ・お金がかかるから無理
- ・趣味に使えるお金がなくなってしまうのでしない
- ・独身でよい
- ・同性婚ができないから結婚したくない
- ・性的マイノリティ的にわからない
- ・結婚しろと言われている

性別で比較すると、男女ともに「結婚しようと思う相手にめぐり会えたら結婚したい」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を 10.6 ポイント上回ります。

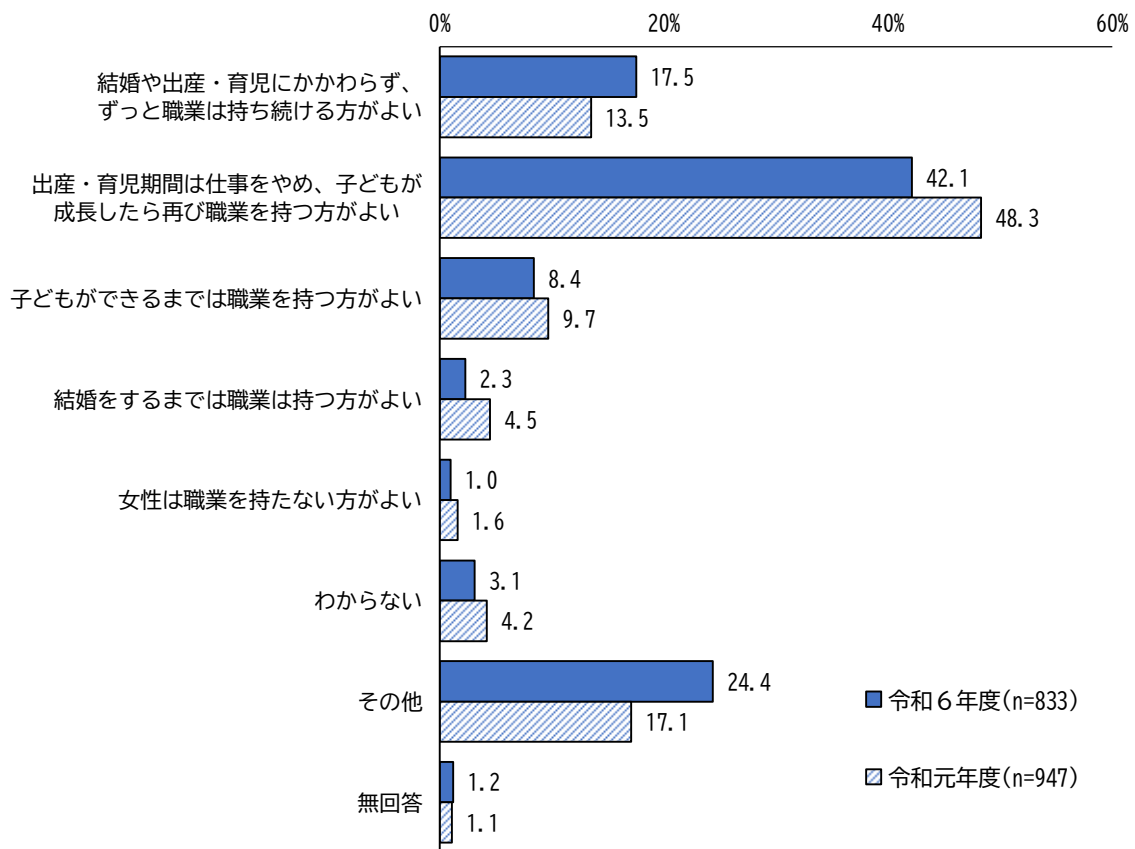


(7) 女性が働くことへの考え方

問 29 女性が働くことについて、次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。（1つに○）

「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が42.1%で最も高く、次いで「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業は持ち続ける方がよい」が17.5%、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」が8.4%となっています。

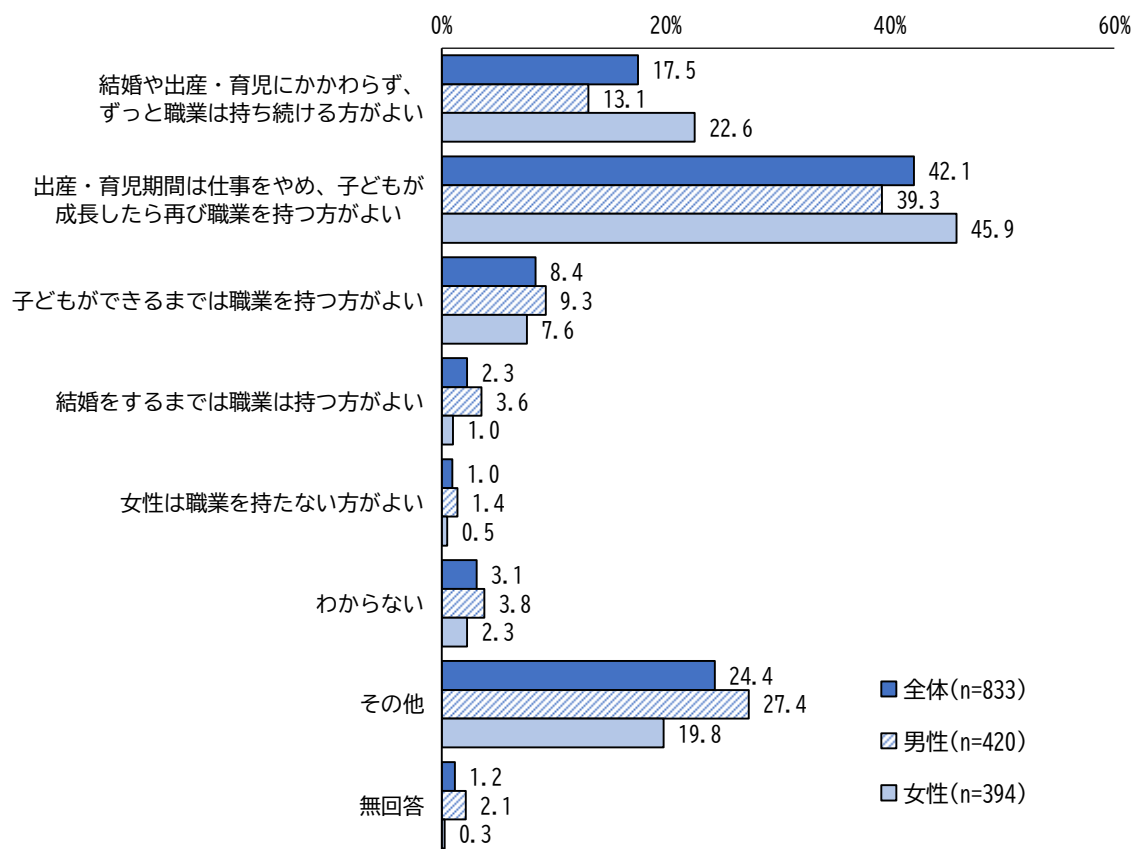
経年比較でみると、「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」の割合が低下、「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業は持ち続ける方がよい」が上昇しています。



【その他回答】

- ・男女関係なくその人の自由（20件）
- ・中学生に聞くことではない（2件）
- ・育休を取って無理のないように
- ・夫と相談して決めるべき
- ・子どもができたら仕事をやめて育児に専念してもらったほうが良い
- ・その質問が時代遅れ

性別で比較すると、男女ともに「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を 6.6 ポイント上回ります。また、「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業は持ち続ける方がよい」についても、女性が男性を 9.5 ポイント上回ります。



11. 自由回答

◆男女共同参画についてのあなたのご意見を聞かせてください。

男女共同参画に関して自由に記入していただいたところ、552 人の方より回答がありました。以下には、内容ごとに分類した結果と、内容別に主な意見を抜粋して掲載しています。

No.	項目	件数
1	いいこと・大事なことだと思う・賛成	207
2	性別に関係なく、互いを尊重することが重要	127
3	わからない・興味がない・今のままでよい	90
4	大事だが難しい・行き過ぎに注意	35
5	実現するとよい・進めてほしい	25
6	これからの社会にとって必要・今後に期待	17
7	知らなかった・勉強になった・関心をもった	12
8	性的マイノリティ・LGBTQ+について	11
9	もっと知りたい・わかりやすい情報発信	10
10	その他感想	18
		552

いいこと・大事なことだと思う・賛成（207 件）

- SDGs の目標でもあるジェンダー平等の実現に繋がると思うので良いと思います。
- いいことだと思うし、自分もこういった事が進んだ社会で生活したいと思います。
- それぞれが、ちゃんと役目を果たして協力できることが一番いいと思います。女性も男性も差別なく働けることがいいと思います。
- 今の男女差別がある「男だから〇〇」とか「女だから〇〇」のような考え方を消すべきだと思う。とにかく男女共に暮らしやすい社会を作っていくべきだと思う。
- 女らしさ、男らしさの境が少しずつ変わってきているのでよいことだと思う。
- 多種多様な人がたくさんいる中で、男女共同参画はとても大切なことだと思う。
- 男や女関係なく、人にはそれぞれ得意不得意があるので、性別ではなく技術や能力で人を判断できると良いと思うので、男女共同参画は良いと思います。
- 男性と女性が共同で参加し企画することはとてもいいことだと思う。特に男性だけではなく女性の意見も取り入れられるから。

性別に関係なく、互いを尊重することが重要（127 件）

- お互いがお互いの立場をわかり合うことが大切だと思う。
- いいことだと思うし、自分もこういった事が進んだ社会で生活したいと思います。だいたい性別は関係ないと思う。女らしいとか男らしくとか言われるのはすごく嫌。
- 性別にかかわらず、一人ひとりの個性を認める社会づくりを行うことが必要と思う。
- 性別を問わず、みんなが自分の個性を活かせるような社会にしていきたい。

- 男だから、女だからと決めつけず、他人の目を気にせず、自分のしたいこと、好きなこと、やりたいことができるような社会になってほしいです。
- 男女がお互い尊重しあい、男・女関係なくそれぞれ自分が持っている個性などで社会に出られるようになれば日本での生活が楽になり、それぞれが生きやすい人生になると思う。
- 男女共同参画社会については、やらなければいけないと思う。ただ、どちらかの性別の保護や社会的な地位を高めすぎてしまったら、価値観は残り続けると思う。偏った価値観を取り除くのには、互いのことを知る必要があると思う。
- 男性も女性もそれぞれ個性があり、「男だから」「女だから」といった差別はその人だけの「意見」であり、やめろとは言わないが、だからといってその人の個性を潰すのは良くないと思う。それはおとなになっても同じであり、男女関係なくみんなが個性を発揮し、いつでも笑顔でいれるような社会でありたいと思う。

わからない・興味がない・今のままでよい（90 件）

- よくわからない／わからない
- 人によっては感じ方が違うためどうでも良いと思ってしまう。
- 言葉自体知らないからなんとも言えない。

大事だが難しい・行き過ぎに注意（35 件）

- この参画は、富士宮市にとっても富士宮市民にとっても良いものになると思う。しかし、男女共同参画社会の実現は難しいと思う。
- そういったものがあることは大切だと思うが意識しすぎることで良くない状況になることは避けるようにすべき。
- 差別は良くないけど、ある程度の区別は必要だと思う。
- 男は○○だから女の方もやれなど行き過ぎた男女平等はやめたほうがいい。
- 男女差別はないのが一番。けど、相手をけなしたり、性別について否定しなかったとしても、心のどこかでは「あの人なんだろう」と思って、注目してしまうことがある。それも男女差別なのだろうと思うが、これを無くすのは相当難しい。これについては、必然的に「常識」を作ってしまう人間にとっては不可能に近い気がする。なので、声に出しての男女差別を無くすようにしたい。

実現するとよい・進めてほしい（25 件）

- みんなが性別を気にすることなく自由に暮らしてほしい。
- もっと積極的に広めて、みんなの理解を深めて欲しい。
- 今の富士宮市は男女共同参画に力を入れ始めていると思うので、このまま継続してほしいです。
- 女性も活躍できる世の中になってほしい。

これからの社会にとって必要・今後に期待（17 件）

- これからの時代には必要だと思う。
- これからどうなっていくのか気になる。
- 男女共同参画への理解が深まる人がもっと増えれば女性も男性も子供を持つことに抵抗感がなくなって少子化への対策にもつながっていくからいいと思う。

知らなかった・勉強になった・関心をもった（12 件）
○今まで聞いたことがなかったから、みんなに知ってほしいと思う。 ○今後の日本社会に関わるから考えていきたい。 ○男女共同参画って言う言葉を初めて聞きました。男女共同参画を実現したいと思いました。男女がお互いを尊敬し合うことを大事にしたいと思いました。
性的マイノリティ・LGBTQ+について（11 件）
○LGBTQなどについて、無理やり理解してほしいわけではないが、否定せず、過ごしやすい世界になってほしい。 ○私は小学校の頃にLGBTQ+のことについて調べて、その大変さなどを知ってもらう発表をやっていましたが、小学生には理解が難しかったりして、大変でした。でも、中学生からは理解が出来ると思うので、そういったイベントを増やすことが必要だと思う。 ○男性も女性も、性的マイノリティの人も、みんなが等しく社会に貢献できる社会を作るとは、とても大切だと思います。性別で悩む事がない、自由な社会が実現したら良いなと思っています。
もっと知りたい・わかりやすい情報発信（10 件）
○まだあまり詳しいことは知らないのを知りたい。 ○もっといろんな人に知ってもらうべき。子どもでも大人でもパッと見た時に意味がわかりにくい。 ○言葉の意味が市民に浸透していない。全体的に、市内の政治内容が伝わっていないということだと思うので、広報だけでなく、SNSなどを活用して、市民全員がわかるように、情報発信を強化していったほうが良いと思う。

V 調査票

1. 市民意識調査 調査票

令和6年度（市民意識調査）

富士宮市 男女共同参画に関するアンケート

【調査への協力をお願いします】

日ごろから、市政にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

富士宮市では、男女が互いにその人権を尊重し、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて「富士宮市男女共同参画プラン」を策定し、様々な取り組みを行っています。

このたび、男女共同参画プランの見直しをするにあたり、市民の皆様からの男女共同参画に関する意識や考えをお聞きし、今後の計画や施策に反映させるため、調査を行うことといたしました。

このアンケートは無記名であり、回答いただいた皆様の情報やご意見は、調査の目的以外で使用されることはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは、市内にお住いの18歳以上の中から2,500人の方を無作為に選ばせていただいています。

令和6年7月

富士宮市長 須藤 秀忠

◆ご記入についてお願い◆

○ 宛名のご本人によるご回答をお願いします。

○ 回答は、「郵送」または「インターネット」で行うことができます。どちらかの方法をお選びください。（インターネット回答を選択した場合は、調査表の返送は不要です。）

郵 送 回 答

調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

回答にあたっては、選択肢の番号を〇で囲むように記入し、「その他」の番号を選択した場合は（ ）内に具体的に記入してください。

（回答例） ① 2 3

インターネット回答

下記のQRコードまたはURLよりアクセスの上、インターネットに接続したパソコン、スマートフォン等から回答してください。

※QRコードは株式会社デンソーウェアの登録商標です。

URL <https://enquete.cc/q/R6fujinomiya-danjo>



○ 返信用封筒や調査票、入力フォームなどのご回答にお名前やご住所などの個人情報を書かなくてください。

○ 回答は、**令和6年8月23日（金）**までに投函または送信してください。

● 問い合わせ先

富士宮市 市民部 市民交流課 女性力輝くまちづくり推進室

電 話 0544-22-1307

メール koryu@city.fujinomiya.lg.jp

◆ 最初に、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたのお住まいの中学校区はどこですか。（1つに○）

1 富士宮第一中学校	2 富士宮第二中学校
3 富士宮第三中学校	4 富士宮第四中学校
5 富士根南中学校	6 富士根北中学校
7 北山中学校	8 西富士中学校
9 井之頭中学校	10 上野中学校
11 大富士中学校	12 芝川中学校
13 柚野中学校	14 中学校区がわからない

問2 あなたの性別（自認する性別）をお答えください。（1つに○）

1 男性	2 女性	3 わからない・答えたくない
------	------	----------------

問3 あなたの年齢（令和6年7月1日現在）はどれにあてはまりますか。（1つに○）

1 18～19歳	2 20～29歳
3 30～39歳	4 40～49歳
5 50～59歳	6 60～69歳
7 70～79歳	8 80歳以上

問4 あなたの職業はどれにあてはまりますか。（1つに○）

1 勤め人（フルタイム）
2 勤め人（パートタイム）
3 自営業（農林水産業）
4 自営業（農林水産業以外）
5 家事専業
6 無職
7 その他（ ）

問5 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか。（1つに○）

1 一人世帯
2 夫婦（又はパートナー同士）のみの世帯
3 両親と子の二世帯世帯
4 親・子・孫の三世帯世帯
5 母子・父子のみの二世帯世帯
6 その他（ ）

197

問6 あなたは結婚されていますか。(1つに○)

1 既婚 (配偶者あり)

2 結婚していないが、パートナーと暮らしている

3 結婚していたが、離別、死別した

4 未婚

問6で「1 既婚 (配偶者あり)」に○をつけた方にうかがいます。

問7 あなたの家庭は夫婦とも職業をお持ちの家庭ですか。それとも、どちらか一方が働いている家庭ですか。(1つに○)

1 共働き (パートタイム・内職などを含む)

2 夫のみ就業

3 妻のみ就業

4 ともに無職

5 その他 ()

全員にうかがいます。

問8 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(別居を含む) (1つに○)

1 子どもはいる

2 子どもはいない

問9 あなたは今までに、仕事を辞めたり、中断したり、転職したことがありますか。(定年退職は含まない) (1つに○)

1 ある

2 ない

問9で「1 ある」に○をつけた方にうかがいます。

問10 仕事を辞めたり、中断したり、転職した理由を選んでください。(3つまでに○)

1 自分の健康上の問題のため

2 結婚・出産・育児のため

3 病気等の家族の世話のため

4 配偶者 (又はパートナー) の転勤のため

5 配偶者 (又はパートナー) の収入で生活できるため

6 仕事がおもしろくなかったため

7 労働条件がよくなかったため

8 勤務先の都合で

9 家族の反対で

10 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で

11 その他 ()

12 特に理由はない

2

◆ 社会における制度・慣行について

問11 「男女共同参画」という言葉と意味について知っていますか。(1つに○)

1 知っているし、意味もわかっている

2 言葉だけは知っている

3 知らない

問12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

1 反対

2 どちらかといえば反対

3 どちらかといえば賛成

4 賛成

問13 あなたは、高齢者の介護に対する家庭内での分担についてどのように考えですか。(1つに○)

1 主として女性が受け持つ方がよい

2 男女が共同して分担する方がよい

3 主として男性が受け持つ方がよい

4 その他 ()

問14 あなたは、次の分野で男女が平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)

	男性の方が非常に優越されている	男性の方が優越している	男女平等	どちらかといえば男性の方が優越している	女性の方が非常に優越している
① 家庭生活で	1	2	3	4	5
② 職場で	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
④ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
⑦ 社会通念や慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5

3

◆ 男女共同参画に関する教育・学習について

問15 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。(1つに○)

- 1 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい
- 2 ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい
- 3 男の子も女の子も同じように育てる方がよい
- 4 男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい
- 5 その他 ()

問16 あなたは、子どもの進路や職業の選択に性別を意識しましたか。また、該当する子どもがいない方は性別を意識すると思いますか。(1つに○)

- 1 性別をかなり意識した (意識する)
- 2 どちらかといえば性別を意識した (意識する)
- 3 どちらかといえば性別を意識しなかった (意識しない)
- 4 性別をほとんど意識しなかった (意識しない)

◆ 意思決定過程への女性の参画について

問17 あなたは、地域活動において女性が代表や運営に携わる立場になることについてどのように考えますか。(1つに○)

	増える方がよい 女性が男性を上回るまで	増える方々になるまで	女性が今より増える方がよい 男女半々まではいかなくても、 男女半々	今のままでよい
①自治会・町内会	1	2	3	4
②子ども会	1	2	3	4
③PTA	1	2	3	4
④消防団	1	2	3	4
⑤避難訓練等の防災活動	1	2	3	4

◆ 防災対策における男女参画について

問18 災害時の緊急避難所において、男女共同参画の視点から望ましいと思われる民間及び行政の支援は何ですか。(3つまでに○)

- 1 男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置
- 2 粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮
- 3 女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り
- 4 性差やそれに基づくニーズに配慮した相談支援窓口の設置 (こころのケアも含む)
- 5 性別を問わずに参加できる、生きがいとなる活動や雇用体制の整備
- 6 避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること
- 7 性別に関係なく集まることのできる、交流の場の設置
- 8 同性同士で気軽に集まることのできる、交流の場の設置
- 9 防犯カメラの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策
- 10 その他 ()

問19 男女共同参画の視点から防災に関するまちづくりを地域で行う場合、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。(最も重要だと思うこと1つに○)

- 1 集団の意思決定の場合への女性の参加を促進する
- 2 災害時に性差に応じた配慮ができるよう、地域で交流会などを開き、意見交換を行う
- 3 地域の避難訓練などの際に、性差へ配慮することを意識的に行う
- 4 性差に対応した避難所などの情報について、住民の連絡網などで予め共有しておく
- 5 子育て世帯や母子世帯など、避難時に要支援となる世帯の把握を地域で行う
- 6 その他 ()

◆ 地域社会とのつながりについて

問20 あなたが、次にあげる地域での活動の中で（１）現在取り組んでいる活動、（２）今後取り組みたい活動をお答えください。（○はいくつでも）

（１）現在取り組んでいる活動

- 1 自治会・子ども会・ＰＴＡなどの地域団体活動

2 子育てや介護などでの団体活動

3 自主防災・消防団などの防災団体活動

4 環境保護に関する団体活動

5 スポーツに関する団体活動

6 文化・教養・学習に関する団体活動

7 その他の団体活動

8 いずれもない

（２）今後取り組みたい活動

- 1 自治会・子ども会・ＰＴＡなどの地域団体活動

2 子育てや介護などでの団体活動

3 自主防災・消防団などの防災団体活動

4 環境保護に関する団体活動

5 スポーツに関する団体活動

6 文化・教養・学習に関する団体活動

7 その他の団体活動

8 いずれもない

問20（２）で「8 いずれもない」に○をつけた方にうかがいます。

問21 今後取り組みたい活動がない理由をお答えください。（○はいくつでも）

- 1 仕事に忙しい、時間がない

2 家事・育児に忙しい、時間がない

3 子どもの世話を頼めるところがない

4 親や病人の介護を頼めるところがない

5 自分の健康や体力に自信がない

6 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない

7 身近なところに活動する場所がない

8 経済的な余裕がない

9 家族の理解が得られない

10 職場の上司や同僚の理解が得られない

11 その他（ ）

12 特に理由はない

◆ 用語などについて

問22 あなたは、次にあげる用語や市の実施する事業について知っていますか。（それぞれ1つに○）

	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない
① ジェンダー (文化的社会的につくられた性別固定的役割意識)	1	2	3
② フロコンシヤス・バイアス (無意識の思い込み)	1	2	3
③ ドメスティック・バイオレンス (DV) (配偶者やパートナーなどからの暴力)	1	2	3
④ テートDV (交際相手からの暴力)	1	2	3
⑤ ラーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和・仕事と家庭生活・地域活動の両立)	1	2	3
⑥ ホジテイアブ・アクシヨン (積極的改善措置)	1	2	3
⑦ リアロクアテイアブ・ヘルツ／ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3
⑧ 富士宮市男女共同参画プラン	1	2	3
⑨ 富士宮市男女共同参画センター	1	2	3

◆ 男女がともに働きやすい就業環境について

問23 女性が働くことについてどのように考えますか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。（1つに○）

- 1 結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい
- 2 出産・育児期間中は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 4 結婚をするまでは職業を持つ方がよい
- 5 女性は職業を持たない方がよい
- 6 その他（ ）

問24 あなたは、女性が継続して働く上での課題は何だと思いますか。（○はいくつでも）

- 1 採用、昇進などにおける男女の格差
- 2 仕事内容における男女の格差
- 3 賃金・能力を高めるための資格取得機会の不備
- 4 賃金の男女格差
- 5 長時間労働
- 6 育児・介護休業の制度が整っていない
- 7 育児・介護施設の不足
- 8 育児・介護休業が取得しにくい環境
- 9 結婚・出産退職等の慣行
- 10 女性が働き続けることに反対する職場の雰囲気
- 11 家族に反対されたり、協力が得られない
- 12 女性自身の就業意欲が低い
- 13 男性が育児・介護休業をとることへの無理解
- 14 その他（ ）
- 15 障害は特にない

問25 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業をとることについて、あなたはどのように考えますか。（それぞれ1つに○）

	積極的に取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい
① 育児休業	1	2	3	4
② 介護休業	1	2	3	4

問26 今後、男性が家事・育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- 1 男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすること
- 2 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
- 6 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 7 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方などの普及を進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
- 9 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りを進めること
- 10 その他（ ）
- 11 特に必要なことはない

◆ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問27 次にあげる事柄は、主にどなたがしていますか。（それぞれ1つに○）

	主として妻	主として妻だが、夫も分担	夫と妻が同じくらい	主として夫だが、妻も分担	主として夫	その他の人	単身等で自分が行う	該当しない
① 掃除、洗濯、食事の支度など	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
② ゴミ出しなどの簡単な家事	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
③ 日々の家計の管理	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
④ 高額の商品の購入を決める	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤ 生活費を稼ぐ	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥ 育児、子どものしつけ	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦ 親の世話（介護）	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧ 自治会などの地域活動	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
⑨ 近所とのつきあい	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8
⑩ 子どもの行事への参加	現状 1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8

問28 あなたが、もし介護が必要になった時、誰に介護してほしいですか。（1つに○）

- 1 配偶者（又はパートナー）に介護してもらう
- 2 子どもに介護してもらう
- 3 子どもの家族に介護してもらう
- 4 その他の親族に介護してもらう
- 5 友人・知人に介護してもらう
- 6 ホームヘルパー（家事援助者）に介護してもらう
- 7 介護施設に入り介護してもらう
- 8 その他（ ）

問29 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を表現するために、職場・家庭・地域で必要だと思う取り組みは何ですか。（○はい<つても）

- 1 仕事のやり方が変わること
- 2 仕事の量が少なくなること
- 3 職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさ、休みの取りやすさなど）
- 4 配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること
- 5 育児休業や短時間勤務など、仕事と家事・育児・介護を両立するための制度が整備されていること
- 6 育児休業や短時間勤務といった制度の利用が、キャリアにおけるハンデとならないこと
- 7 保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されていること
- 8 その他（ ）
- 9 特にない

問30 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。学生においては、仕事を学業とおきかえてお答えください。（1つに○）

1 「仕事」を優先したい

2 「家庭生活」を優先したい

3 「地域・個人の生活」を優先したい

4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい

5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

8 その他（ ）

問31 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

1 「仕事」を優先している

2 「家庭生活」を優先している

3 「地域・個人の生活」を優先している

4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している

5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している

6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

8 その他（ ）

12

◆性的マイノリティについて

問32 あなたは次の事柄について知っていますか。（1つに○）

	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない
① 性的マイノリティ（LGBTQ+）※1	1	2	3
② SOGI（性的指向と性自認）※2	1	2	3
③ 静岡県パートナーシップ宣誓制度 ※3	1	2	3

※1）性的マイノリティとは、同性に対して、あるいは男女両方に恋愛感情をもつ人や、自分に割り当てられた性別に違和感がある人などのことをいいます。「セクシュアルマイノリティ」「性的少数者」ともいいます。

※2）SOGIとは、「性的指向（Sexual Orientation）」と「性自認（Gender Identity）」の頭文字をとったもので、それぞれ恋愛・性愛の対象がどのような性別に向いているか、自分の性別をどのような認識しているかなどを表す言葉です。

※3）令和5年3月に静岡県が、誰もが理解し合える共生社会の実現のための具体的な取組の一つとして開始した制度です。婚姻が認められない同性カップルをはじめ、様々な事情により婚姻の届出をしない、あるいはできないカップルに対し、お互いを人生のパートナーとして認め合った二人が協力して共同生活を行うことを宣誓し、県がその宣誓書を受領したことを証明するものです。

問33 現在の状況は、性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

1 思う

2 どちらかといえば思う

3 どちらかといえば思わない

4 思わない

問34へお進みください。

13

問33で「1 思う」または「2 どちらかといえば思う」に○をつけた方にうかがいます。

問34 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1	行政が市民等へ周知啓発を行う
2	相談窓口を充実させ、その存在を周知する
3	生徒や市民への対応を想定し、小中学校などの学校教員や行政職員への研修等を行う
4	法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する
5	当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
6	働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
7	その他 ()

全員にうかがいます。

問35 男女共同参画社会の実現をめざして、市では、今後どのようなことに重点を置いて取り組んだらよいと思いますか。(○はいくつでも)

1	男女共同参画についての理解を深める広報・啓発
2	性別にかかわらず多様な選択を可能にする教育・学習の推進
3	SDGsにおけるジェンダー平等など国際理解の推進
4	市の審議会や管理職への女性の積極的登用の推進
5	事業所等における女性の登用促進や女性の人材育成の推進
6	地域活動における男女共同参画の推進
7	男女共同参画の視点を取り入れた防災活動の推進
8	働き方の見直しや男女の雇用機会の均等の推進
9	誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援
10	女性の就労・再就職・起業への支援
11	子育てや介護への支援の充実
12	互いの性・多様な性に関する理解の促進
13	性差やライフステージを通じた健康支援の充実
14	あらゆる暴力・ハラスメントの根絶に向けた啓発
15	DV被害者の相談・保護・自立支援の充実
16	障害者・外国人市民・ひとり親世帯など生活に困難を抱える人が安心して暮らすための支援
17	その他 ()
18	特になし

◆男女共同参画についてのあなたのご意見をご自由にお書きください。◆

お忙しいところ調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に入れて8月23日（金）までにご返願願います。

2. 事業所調査 調査票

令和6年度 事業所調査

富士宮市 男女共同参画に関するアンケート

【調査へのご協力をお願いします】

日ごろから、市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
富士宮市では、男女が互いにその人権を尊重し、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて「富士宮市男女共同参画プラン」を策定し、様々な取り組みを行っています。
このたび、男女共同参画プランの見直しにあたり、市内事業所の男女共同参画に関する取組状況について調査を行うこととなりました。
お答えいただいた内容は、統計的に処理しますので、事業所の名前が公表されることはありません。
お忙しいところ、誠に恐縮ですが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
なお、本調査は、市内に所在の事業所から無作為に抽出した350の事業所様にご協力をお願いしております。

令和6年7月

富士宮市長 須藤 秀忠

◆ご記入についてお願い◆

○ ご記入は、事業所の総務・人事等のご担当者様または代表者様をお願いします。
○ 回答は、「郵送」または「インターネット」で行うことができます。どちらの方法をお選びください。（インターネット回答を選択した場合は、調査票の返送は不要です。）

郵 送 回 答

調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。
回答にあたっては、選択肢の番号を○で囲むように記入し、「その他」の番号を選択した場合は（ ）内に具体的に記入してください。
(回答例) ① 2 3

インターネット回答

下記のQRコード※またはURLよりアクセスの上、インターネットに接続したパソコン、スマートフォン等から回答してください。

URL

<https://enquete.cc/q/R6fujinomiya-jiyou>



○ 回答は、令和6年8月23日（金）までに投函または送信してください。
※QRコードは株式会社デンソーの登録商標です。

● 問い合わせ先 富士宮市 市民部 市民交流課 女性が働くまちづくり推進室
電 話 0544-22-1307 メール koryu@city.fujinomiya.lg.jp

◆事業所の状況についておたずねします

問1 事業分類 (○は1つ)	1 建設業 3 電気・ガス・熱供給・水道業 5 卸売業・小売業 7 サービス業	2 製造業 4 運輸・郵便業 6 金融・保険業 8 その他 ()																					
※「7 サービス業」には、「情報通信業」「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療、福祉」「複合サービス事業」「サービス業（他に分類されないもの）」を含みます。																							
問2 雇用者数 (令和6年 6月30日現在)	<table><tr><td></td><td>正社員</td><td>パートタイム 労働者</td><td>その他の 労働者</td><td>派遣社員</td></tr><tr><td>男性</td><td>()人</td><td>()人</td><td>()人</td><td>()人</td></tr><tr><td>女性</td><td>()人</td><td>()人</td><td>()人</td><td>()人</td></tr></table>		正社員	パートタイム 労働者	その他の 労働者	派遣社員	男性	()人	()人	()人	()人	女性	()人	()人	()人	()人	※本社・支社等を問わず、この調査書が届いた事業所に所属する者を対象とします。 ※派遣社員は、派遣会社との契約に基づく派遣社員がいる場合にご記入ください。						
	正社員	パートタイム 労働者	その他の 労働者	派遣社員																			
男性	()人	()人	()人	()人																			
女性	()人	()人	()人	()人																			
問3 労働組合の有無 (○は1つ)	1 有	2 無																					
問4 平均勤続年数 ※四捨五入して、小数点 第1位まで	<table><tr><td></td><td>正社員</td><td>パートタイム 労働者</td><td>その他の 労働者</td><td>派遣社員</td></tr><tr><td>男性</td><td>()年</td><td>()年</td><td>()年</td><td>()年</td></tr><tr><td>女性</td><td>()年</td><td>()年</td><td>()年</td><td>()年</td></tr><tr><td>全体</td><td>()年</td><td>()年</td><td>()年</td><td>()年</td></tr></table>		正社員	パートタイム 労働者	その他の 労働者	派遣社員	男性	()年	()年	()年	()年	女性	()年	()年	()年	()年	全体	()年	()年	()年	()年		
	正社員	パートタイム 労働者	その他の 労働者	派遣社員																			
男性	()年	()年	()年	()年																			
女性	()年	()年	()年	()年																			
全体	()年	()年	()年	()年																			
問5 雇用者数の推移 (5年前と比較) (それぞれ1つに○)	<table><tr><td></td><td>増加した</td><td>減少した</td><td>変わらない</td></tr><tr><td>正社員</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>パートタイム労働者</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>その他(契約社員等)</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>派遣社員</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr></table>		増加した	減少した	変わらない	正社員	1	2	3	パートタイム労働者	1	2	3	その他(契約社員等)	1	2	3	派遣社員	1	2	3		
	増加した	減少した	変わらない																				
正社員	1	2	3																				
パートタイム労働者	1	2	3																				
その他(契約社員等)	1	2	3																				
派遣社員	1	2	3																				

◆女性の活躍推進・管理職登用について

問6 管理職及び女性管理職の人数をご記入ください。(該当者がいない場合は0と記入)

管理職区分	管理職 の数	うち女性の数
役員	()人	()人
部長相当職	()人	()人
課長相当職	()人	()人
係長相当職	()人	()人

※管理職について
・企業の組織系列の各部署において、配下の係員等を指揮監督する役職のほか、専任職、スタッフ管理職等と呼ばれる役職を含みます。
・部長・課長等の役職名を採用していない場合など、貴事業所の実態によりどの区分に該当するか適宜判断してください。
・係長相当職には主任クラスを含みます。

問7 女性を管理職に登用することについてどのようにお考えですか。

(貴事業所の見解に近い考え1つに○)

1 女性の管理職への登用は必要であり、積極的な方策を取る必要がある
2 女性の管理職への登用は必要だが、自然増に任せるべきである
3 現状以上に管理職への登用を増やす必要はない
4 女性を管理職にする必要はない
5 その他 ()

問8 貴事業所で女性の管理職への登用を増やすことについて、どのような課題がありますか。
(○はい<つても)

1 必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない
2 将来就く可能性がある者はいるが、現在、役職に就くための在職年数等を満たしている者がいない
3 勤続年数が短く、役職になるまでに退職してしまう者が多い
4 時間外労働が多い、または深夜業務があるため敬遠する
5 出張、転勤等に対応できない
6 顧客が女性管理職をいやがる
7 家庭があるので責任ある仕事に就けられない
8 仕事ハードで女性には体力的・精神的にきつい
9 女性が希望しない
10 上司・同僚・部下となる者が女性管理職を希望しない
11 その他 ()
12 特にない

問9 女性を活用するための取り組みとして貴事業所で実施しているものはありますか。
(それぞれ1つに○)

取組事項	取組状況	実施している	実施予定なし	今後の実施を検討
①性別により評価することがないよう人事評価基準を明確に定める		1	2	3
②仕事と家庭の両立のための制度を整えて活用を促進する		1	2	3
③女性の活用に関する担当者や責任者を選任するなどの体制を整える		1	2	3
④女性がいらない又は少ない役職に女性が従事するための教育訓練を行って女性の登用を推進する		1	2	3
⑤女性の体力面での差を補う設備・器具を導入する		1	2	3
⑥女性の活用状況や活用にあたっての問題点の調査分析を行う		1	2	3
⑦管理職や同僚の男性に女性活用の重要性についての啓発を行う		1	2	3
⑧女性従業員の活躍をホームページや社内報で紹介する		1	2	3
⑨短縮勤務・フレックスタイムなど、柔軟な勤務制度を導入する		1	2	3
⑩企業内託児所や学童保育所などの設置		1	2	3
⑪その他の取り組み（				）

◆各種ハラスメント対策について

問10 職場におけるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等の各種ハラスメント対策について、あてはまるものを選んでください。（それぞれ1つに○）

取組事項	取組状況	
	行っている	行っていない 取り組む予定あり
①会社の姿勢や防止のための対策等を社内規定等で従業員に明示している	1	2 3
②従業員が留意すべき事項に関して、研修等により啓発している	1	2 3
③苦情・相談体制を整備し、従業員に周知している	1	2 3
④従業員からの苦情・相談があった場合には、真摯かつ迅速に対応している	1	2 3
⑤その他の取り組み（ ）		

◆育児・介護休業制度について

問11 育児休業制度の状況についておたずねします。

①育児休業制度の規定 （令和6年6月30日現在）	1 規定がある →設問②～⑤へ	2 規定がない →設問④～⑤へ
-----------------------------	--------------------	--------------------

育児休業制度の内容（②～⑤）

②育児休業の期間		1 法定期間	2 法定を超える期間	
		令和3～5年度の 取得者数	1人あたりの 平均取得期間	令和3～5年度の 利用後の退職者数
③育児休業の 取得状況	女性	() 人	() 年() 月	() 人
	男性	() 人	() 年() 月	() 人
④育児のための短時間 勤務制度		1 ある(子が()歳まで)	2 ない	
⑤所定外労働の免除		1 ある(子が()歳まで)	2 ない	

問12 介護休業制度の状況についておたずねします。

①介護休業制度の規定 （令和6年6月30日現在）	1 規定がある →設問②～④へ	2 規定がない →設問③～④へ
-----------------------------	--------------------	--------------------

介護休業制度の内容（②～④）

②介護休業の期間		1 法定期間	2 法定を超える期間	
		令和3～5年度の 取得者数	1人あたりの 平均取得期間	令和3～5年度の 利用後の退職者数
③介護休業の 取得状況	女性	() 人	() 年() 月	() 人
	男性	() 人	() 年() 月	() 人
④介護のための短時間 勤務制度		1 ある	2 ない	

問13 従業員に対して育児休業や介護休業制度を定着させる上で、特に課題となっていることは何ですか。（○は2つまで）

1 休業中の代替要員の確保
2 復帰後の代替要員の処遇
3 休業中の賃金保証
4 復帰後のポストなどの受け入れ体制
5 人事ローテーション等でカバーするときの業務分担
6 育児・介護休業取得に対する理解の促進
7 その他（ ）
8 特になし

◆仕事と家庭の両立支援について

問14 仕事と家庭の両立支援として実施しているものはありますか。(それぞれ1つに○)

①育児・介護休業法や支援制度のアドビール	1 している	2 していない
②在宅勤務やフレックスタイムなど柔軟な勤務制度	1 ある	2 ない
③男性の育児休業取得の推進	1 している	2 していない
④出産や育児、介護等に要する経費の援助	1 ある	2 ない
⑤休業中の職業能力向上のための講習等の実施	1 している	2 していない
⑥休業後の職場復帰にあたり研修等の実施	1 している	2 していない
⑦出産や育児、介護等で退職した人のための再雇用制度	1 ある	2 ない
⑧男性従業員の家事・育児への参加の促進	1 している	2 していない
⑨性別や年齢、国籍などにかかわらず、多様性を認め合う意識を浸透させるための研修等の実施	1 している	2 していない
⑩静岡県の「男女共同参画社会づくり宣言」事業所・団体についての活用	1 している	2 していない
⑪このどちらかパニー認証制度の活用	1 している	2 していない
⑫その他 ()		

※フレックスタイム制：労働時間の協定により労働者が一週間、一か月などを単位にして一定の時間帯の中で勤務の開始と終了を自由に選択できる制度です。
※男女共同参画社会：男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。
※静岡県「男女共同参画社会づくり宣言」事業：従業員の個性と能力の発掘や育児・介護と仕事の両立支援などに積極的に取り組むことを宣言した企業等を県に登録し、広くPRしていきます。
※このどちらかパニー認証制度：男女がともに能力を発揮できる男女共同参画社会づくりに積極的に取り組んでいる企業を、静岡県知事が認証する制度です。この認証を受けた企業は「このどちらかパニー」と称され、入札参加資格による優遇や制度融資が受けられるなど、県の優遇措置が設けられています。

問15 あなたは、問14の⑩に記載されている、静岡県の「男女共同参画社会づくり宣言」をご存じでしたか。(○は1つ)

1 知っていた	2 知らなかった
---------	----------



ワーク・ライフ・バランスで
仕事に活気 生活にゆとり

男女共同参画社会づくり宣言

問16 性別にかかわらず、誰もが働きやすい職場環境をつくるためには、どのようなことが必要だと考えですか。(○はいくつでも)

1 時間外労働の制限や勤務時間の短縮
2 在宅勤務やフレックスタイムなど柔軟な勤務制度の採用
3 自己啓発やスキルアップのための休暇制度の採用
4 育児休業や介護休業制度が性別にかかわらず活用されるような環境の整備
5 仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備
6 出産や育児、介護等で退職した人の再雇用
7 定年延長あるいは定年制の廃止
8 パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件の向上
9 職業上必要な知識や技術等の取得のための機会の充実
10 男性従業員の家事・育児への参加の促進
11 性別や年齢などにかかわらず、多様性を認め合う意識の啓発のための研修等の実施
12 その他 ()
13 特になし

◆性的マイノリティーについて

問17 現在、性的マイノリティー（またはLGBTQ+）の方々にとって、働きやすい環境づくりに取り組んでいますか。(○は1つ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問18 性的マイノリティー（またはLGBTQ+）の方々にとって、働きやすい職場にするために市や県に支援してほしいことは何ですか。(○はいくつでも)

1 従業員の相談支援	2 企業の人事担当を対象とした相談支援
3 トイレ等の施設整備等に係る支援	4 従業員の教育や啓発活動の支援
5 交流会や居場所づくりの支援	6 その他 ()
7 特になし	

◆市へのご意見・ご要望等をお聞かせください

問19 市へのご意見・ご要望等がありましたら、お聞かせください。

お忙しいところ調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手不要）に入れて8月23日（金）までにご投函願います。

3. 市民意識調査（中学生） 調査票

※実際はWEB回答フォームで実施しています。

令和6年度（市民意識調査）

富士宮市 男女共同参画に関するアンケート
(中学生用)

【調査へのご協力をお願い】

富士宮市では、男女が互いにその人権を尊重し、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指しています。
この調査は、富士宮市内の中学校に通学している2年生の皆さんの男女共同参画に関わる意識を知り、これからの男女共同参画社会づくりに役立てることを目的としています。
回答は無記名であり、統計的に処理されるため、個人の名前が出ることはありませんので、あなたの思っていることをそのまま答えてください。
ご協力をお願いします。

令和6年7月

富士宮市長 須藤 秀忠

回答方法等について

1 回答方法：下記QRコード※の読み込み又は下記URLから回答してください。

2 回答期限：令和6年7月22日（月）まで

3 所要時間：10分程度

4 お 願 い：
(1) この調査は、あなた自身の考えで回答してください。
(2) 質問には、「1つだけ」選択する場合や「いくつでも」選択する場合があります。
答え方をよく確認してください。
(3) 「その他」を回答したときは、詳しい内容を入力してください。

QRコード※

URL

<https://forms.gle/1jPgS7zkirDpXUDCA>

※QRコードは株式会社デンソーウェアの登録商標です。

<問い合わせ先>
富士宮市 市民部 市民交流課 女性が輝くまちづくり推進室
電話 0544-22-1307 メール korvuu@city.fujinomiya.lg.jp

◆ あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別はどちらですか。（1つに○）
1 女性 2 男性 3 答えたくない・わからない

問2 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか。（1つに○）
1 親と子の二世帯世帯 2 祖父母・親・子の三世帯世帯
3 その他（ ）

問3 あなたの家で働いている人は誰ですか。（○はいくつでも）
1 母 2 父 3 祖母
4 祖父 5 姉 6 兄
7 その他（ ） 8 誰も働いていない

◆ 学校生活での平等感についておたずねします。

問4 あなたの学校、または、クラスで、次の項目についてどのようなですか。（それぞれ1つに○）

	よくある	時々ある	あまりない	まったくない	わからない
①男子が女子をからかう	1	2	3	4	5
②女子が男子をからかう	1	2	3	4	5
③異性の子と話にくい雰囲気がある	1	2	3	4	5
④女子は「さん」、男子は「くん」だけで先生が話す	1	2	3	4	5
⑤細かい整理整頓は女子、力仕事は男子がする	1	2	3	4	5
⑥異性の先生と話にくい	1	2	3	4	5
⑦悩みなどは同性の先生に相談する	1	2	3	4	5

1

問5 次のことは、男女のどちらに適していると思いますか。(それぞれ1つに○)

	女子	男子	どちらとも いえない
①生徒会の会長	1	2	3
②生徒会の副会長	1	2	3
③生徒会の書記(総務)	1	2	3
④応援団長	1	2	3
⑤合唱の指揮者	1	2	3
⑥合唱の伴奏者	1	2	3

問6 技術・家庭科の授業について、次の中からあてはまるものを選んでください。
(それぞれ1つに○)

	そう思う	少し そう思う	そう 思わない	わからない
①技術・家庭科を学習して、自分の生活や社会 に対しての問題意識を持つようになった	1	2	3	4
②技術・家庭科を学習することによって、今後、 家事に取り組む男性が増えるようになる	1	2	3	4

◆ 友達との関係についておたずねします。

問7 次の項目で、あなたに対して、好きな異性に、とってほしいと思う行動を選んでください。
(それぞれ1つに○)

	そう思う	少し そう思う	そう 思わない	わからない
①メール・SNS には、すぐ返信する	1	2	3	4
②異性の友達とは話さない	1	2	3	4
③異性の友達のアドレス・フレンドは消す	1	2	3	4
④自分の言ったとおりにする	1	2	3	4

問8 次の項目で、自分がなりたいたいタイプを選んでください。(○はいくつでも)

1 素直な人	2 みんなをまとめることができる人
3 優しい人	4 自分らしさを持っている人
5 頼りになる人	6 明るい人
7 たくまいしい人	8 楽しい人
9 他の人への気配りができる人	10 その他 ()

問9 次の項目で、好きな異性の友達のタイプを選んでください。(○はいくつでも)

1 素直な人	2 みんなをまとめることができる人
3 優しい人	4 自分らしさを持っている人
5 頼りになる人	6 明るい人
7 たくまいしい人	8 楽しい人
9 他の人への気配りができる人	10 その他 ()

◆ 親との関係についておたずねします。

問10 次の項目で、いちばんあてはまると思う人を選んでください。(それぞれ1つに○)

	母	父	その他の人	だれともない
①友達のことについて話をする	1	2	3	4
②社会の出来事について話をする	1	2	3	4
③異性のことについて話をする	1	2	3	4
④勉強を教えてくれる	1	2	3	4
⑤手伝いをする	1	2	3	4
⑥一緒にテレビや動画などを見る	1	2	3	4
⑦一緒に買い物に出かける	1	2	3	4
⑧休日に一緒に遊ぶ	1	2	3	4
⑨ほめられる	1	2	3	4
⑩しかられる	1	2	3	4

◆ 家庭生活についておたずねします。

問11 身の回りのことについて、あてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに○)

	いつも	時々	あまりない	全然ない
①朝一人で起きる	1	2	3	4
②自分の身の回りの整理や部屋を片付ける	1	2	3	4
③自分の靴を洗う	1	2	3	4
④食事の支度や片付けをする	1	2	3	4
⑤掃除や洗濯をする	1	2	3	4
⑥自分の小遣いを計画的に管理する	1	2	3	4
⑦家の人のお使いや世話をする	1	2	3	4
⑧ボランティア活動等に参加する	1	2	3	4

問12 次の①～⑩は主に誰がしていますか。主にしている人の番号を選んでください。
(それぞれ1つに○)

	あなた自身	母	父	祖母	祖父	姉妹	兄弟	みんなで協力して	その他	誰もしていません
①掃除、洗濯、食事の支度など	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
②ゴミ出しなどの簡単な家事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
③日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
④高額の商品の購入を決める	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑤生活費を稼 ^{かせ} ぐ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑥育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑦親の世話(介 ^{かいご} 護)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑧自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑨近所とのつきあい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑩子どもの行事への参加	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

◆ 「女らしさ」「男らしさ」などについておたずねします。

問13 あなたは、女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたことがありますか。
(1つに○)

1 あり	2 ない	3 わからない
------	------	---------

問13-1～問13-3は、問13で「1 あり」に○をつけた方にうかがいます。

問13-1 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われた時の感じ方について、あてはまるものを選んでください。(1つに○)

1 いやだと思った	2 仕方がないと思った
3 何とも思わなかった	4 わからない

問13-2 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言う人は誰ですか。(○はいくつでも)

1 母	2 父	3 祖母
4 祖父	5 姉妹	6 兄弟
7 女の友達や上級生	8 男の友達や上級生	9 女の先生
10 男の先生	11 近所の人	12 親戚の人
13 その他()		

問13-3 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたのはどんな時ですか。
(○はいくつでも)

1 ことばづかい	2 服装・身だしなみ	3 整理・整頓
4 手伝い	5 食事の仕方	6 すわり方
7 歩き方	8 勉強	9 テレビ番組
10 友達関係	11 家に帰る時刻	12 スポーツ
13 お金の使い方	14 泣いたとき	15 その他()

問14 あなたは、ふだんの生活の中で「女らしく」「男らしく」を意識することはあると思いますか。(1つに○)

1 思う	2 少し思う	3 思わない	4 わからない
------	--------	--------	---------

問15 次のことについてどのように思いますか。あてはまるものを選んでください。
(それぞれ1つに○)

	女子の方が あてはまる	男子の方が あてはまる	どちらも 差がない	わからない
①スポーツが得意	1	2	3	4
②やさしい	1	2	3	4
③たよりになる	1	2	3	4
④すなお	1	2	3	4
⑤ねばり強い	1	2	3	4
⑥皆をまとめるのがうまい	1	2	3	4
⑦創造性がある	1	2	3	4
⑧視野が広い	1	2	3	4

問16 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(1つに○)

1 知っているし、意味もわかっている	2 言葉だけは知っている	3 知らない
--------------------	--------------	--------

◆ 性的マイノリティーについておたずねします。

問17 あなたは性的マイノリティー※（またはLGBTQ+）という言葉を知っていますか。
(1つに○)

1 知っているし、意味もわかっている	2 言葉だけは知っている	3 知らない
--------------------	--------------	--------

※性的マイノリティーとは、同性に対して、あるいは男女両方に恋愛感情をもつ人や、自分に割り当てられた性別に違和感がある人などのことをいいます。「セクシュアルマイノリティー」「性的少数者」ともいいます。

問18 あなたは好きになる相手の性別（性的指向）や自分自身が認識している性別（性自認）について悩んだことがありますか。(1つに○)

1 ある	2 ない
------	------

問19 性的マイノリティー（またはLGBTQ+）の方々にとって、暮らしやすい社会の実現が必要だと思いますか。(1つに○)

1 思う	2 どちらかといえば思う	3 どちらかといえば思わない	4 思わない	5 わからない
------	--------------	----------------	--------	---------

◆ DV・デートDVについておたずねします。

問20 あなたは「DV※（ドメスティックバイオレンス）」という言葉を知っていますか。
(1つに○)

1 言葉も内容も知っている	2 言葉は知っているが、内容は知らない	3 言葉も内容も知らない
---------------	---------------------	--------------

※DVとは、「domestic violence(ドメスティックバイオレンス)」の略で、「配偶者や恋人など、親密な関係にある、または関係にあったものから与えられるあらゆる形の暴力」のことを言います。身体的暴力だけでなく、精神的、性的、経済的、社会的な暴力などがあります。

問21 あなたは「デートDV※」という言葉を知っていますか。(1つに○)

1 言葉も内容も知っている	2 言葉は知っているが、内容は知らない	3 言葉も内容も知らない
---------------	---------------------	--------------

※デートDVとは、交際中の恋人間で起こる暴力のことです。愛しているなら、相手が自分の思いどおりになるのが当然と考え、コントロールしようとする態度や行動のことです。

問22 あなたは、恋人との間で次のようなことをされた場合どう思いますか。(それぞれ1つに○)

	デートDV だと思う	デートDV ではない と思う	わからない
①自分を常に優先してほしいと言う	1	2	3
②しよっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く	1	2	3
③言うどおりにしないとすぐに機嫌が悪くなる	1	2	3
④スマホを勝手に見たり、友達番号やアドレスを消せと言う（または、消す）	1	2	3
⑤常に「こういう服を着て」と服装などのチェックや指示をする	1	2	3
⑥常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり、決めたりする	1	2	3
⑦デート代をいつもすべて払わせる	1	2	3
⑧家族や友達との付き合いや連絡を監視したり、制限する	1	2	3
⑨大声でどなる	1	2	3
⑩殴るふりをしたり、刃物を突きつけておどす	1	2	3
⑪殴る、ける、突き飛ばす	1	2	3
⑫「別れるなら死ぬ」などと言っておどす	1	2	3

◆ 悩みや不安についておたずねします。

問23 あなたは、悩みや不安があったとき、気軽に話せる人がいますか。(1つに○)

1	いる	2	いない
3	人には話さない		

→問23-1は、問23で「1 いる」に○をつけた方にうかがいます。

問23-1 悩みや不安を気軽に話せる人はどなたですか。(○はいくつでも)

1	家族	2	友人
3	付き合っている人	4	所属しているクラブ・団体等の仲間
5	学校の先生	6	スクールカウンセラー
7	塾・習い事の先生	8	地域の人
9	児童館の職員	10	インターネットの相談サイト
11	SNS・インターネット上の友人	12	その他 ()

問23-2は、問23で「2 いない」に○をつけた方にうかがいます。

問23-2 悩みや不安を話したいと思う人はどなたですか。(○はいくつでも)

1	家族	2	友人
3	付き合っている人	4	所属しているクラブ・団体等の仲間
5	学校の先生	6	スクールカウンセラー
7	塾・習い事の先生	8	地域の人
9	児童館の職員	10	インターネットの相談サイト
11	SNS・インターネット上の友人	12	その他 ()
13	誰も聞いてくれないと思う		

問24 あなたは、自分の悩みや不安を話す方法としてどのような方法を使いますか。話せる人がいない人は、話せる人がいた場合、どのような方法を使いますか。(○はいくつでも)

1	直接会って話す	2	電話で話す
3	XやInstagramなどのSNS	4	LINEなどのコミュニケーションアプリ
5	メール	6	その他 ()

◆ 将来のことについておたずねします。

問25 あなたは、これから富士宮市に住みたいと思いますか。(○は1つ)

1	ずっと住み続けたい	2	どちらかといえば住み続けたい
3	一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい	4	どちらかといえば住みたくない
5	住みたくない	6	わからない

問25-1は、問25で「1」から「3」までに○をつけた方にうかがいます。

問25-1 「住み続けたい」または「戻ってきたい」と思う理由をお聞かせください。(○はいくつでも)

1	生まれ育った場所だから	2	家族がいるから
3	友達や知り合いがいるから	4	地域の雰囲気が良いから
5	自然環境に恵まれているから	6	治安が良いから
7	やりたいことがあるから	8	地元に貢献したいから
9	富士宮市が好きだから	10	その他 ()
11	特に理由はない		

問25-2は、問25で「4」または「5」に○をつけた方にうかがいます。

問25-2 住みたくないと思う理由をお聞かせください。(○はいくつでも)

1	他に住んでみたい地域があるから (具体的に:)		
2	親や親戚等の固定観念がいやだから (男性は家を継ぐ、女性は結婚して子どもを産み育てる など)		
3	友達や知り合いが少ないから	4	地域の人づき合いがわずらわしいから
5	地域の雰囲気が良いから	6	都会の方が暮らしやすそうだから
7	給料が安そうだから		
8	希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから		
9	その他 ()	10	特に理由はない

問26 あなたは、将来働く理由についてどのように考えますか。(○はいくつでも)

1	経済的な理由のため	2	家族や家庭のため
3	社会の役に立つため	4	自分の才能を伸ばすため
5	大人になって働くのは当たり前	6	その他 ()
7	わからない		

問27 あなたは、進路や職業の選択に性別を意識すると思いますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 性別をかなり意識する | 2 どちらかといえば性別を意識する |
| 3 どちらかといえば性別を意識しない | 4 性別をほとんど全く意識しない |
| 5 わからない | |

問28 あなたは、結婚についてどのように考えますか。(もっとも近い考え1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1 ある程度の年齢がきたら結婚したい |
| 2 結婚しようと思う相手にめぐり会えたら結婚したい |
| 3 自由を束縛されたくないから結婚したくない |
| 4 親と暮らしていた方が楽だから結婚したくない |
| 5 その他 () |
| 6 特に考えてない |

問29 女性が働くことについて、次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。
(もっとも近い考え1つに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業は持ち続ける方がよい |
| 2 出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい |
| 3 子どもができるまでは職業を持つ方がよい |
| 4 結婚をするまでは職業は持つ方がよい |
| 5 女性は職業を持たない方がよい |
| 6 その他 () |
| 7 わからない |

男女共同参画についてのあなたのご意見を聞かせてください。

長時間 調査にご協力いただきまして大変ありがとうございました。
この調査結果は、今後、富士宮市の男女共同参画を推進する
基礎データとして有効に活用させていただきます。

富士宮市 男女共同参画に関するアンケート

調査結果報告書

発 行 日：令和6年12月

編集・発行：富士宮市 市民交流課 女性が輝くまちづくり推進課

〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地

TEL 0544-22-1307